

JP1 Version 12

JP1/Navigation Platform ナビゲーション プラット
フォーム コンテンツ作成ガイド

3021-3-D12-20

前書き

■ 対象製品

P-292C-4PCL JP1/Navigation Platform 12-50 (適用 OS : Windows Server 2012 R2, Windows Server 2016, Windows Server 2019)

P-292C-4VCL JP1/Navigation Platform for Developers 12-50 (適用 OS : Windows 8.1 x64, Windows 10 x64)

■ 輸出時の注意

本製品を輸出される場合には、外国為替及び外国貿易法の規制並びに米国輸出管理規則など外国の輸出関連法規をご確認の上、必要な手続きをお取りください。

なお、不明な場合は、弊社担当営業にお問い合わせください。

■ 商標類

HITACHI, Cosminexus, JP1, uCosminexus は、株式会社 日立製作所の商標または登録商標です。

Internet Explorer は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

Microsoft は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

Oracle と Java は、Oracle Corporation 及びその子会社、関連会社の米国及びその他の国における登録商標です。

RSA BSAFE は、米国 EMC コーポレーションの米国およびその他の国における商標または登録商標です。

Windows は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

Windows Server は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

その他記載の会社名、製品名などは、それぞれの会社の商標もしくは登録商標です。

Portions of this software were developed at the National Center for Supercomputing Applications (NCSA) at the University of Illinois at Urbana-Champaign.

Regular expression support is provided by the PCRE library package, which is open source software, written by Philip Hazel, and copyright by the University of Cambridge, England. The original software is available from <ftp://ftp.csx.cam.ac.uk/pub/software/programming/pcre/>

This product includes software developed by Andy Clark.

This product includes software developed by Ben Laurie for use in the Apache-SSL HTTP server project.

This product includes software developed by Daisuke Okajima and Kohsuke Kawaguchi (<http://relaxngcc.sf.net/>).

This product includes software developed by IAIK of Graz University of Technology.

This product includes software developed by Ralf S. Engelschall <rse@engelschall.com> for use in the mod_ssl project (<http://www.modssl.org/>).

This product includes software developed by the Apache Software Foundation (<http://www.apache.org/>).

This product includes software developed by the Java Apache Project for use in the Apache JServ servlet engine project (<http://java.apache.org/>).

This product includes software developed by the University of California, Berkeley and its contributors.

This software contains code derived from the RSA Data Security Inc. MD5 Message-Digest Algorithm, including various modifications by Spyglass Inc., Carnegie Mellon University, and Bell Communications Research, Inc (Bellcore).

HITACHI
Inspire the Next

株式会社 日立製作所



本製品は、米国 EMC コーポレーションの RSA BSAFE(R)ソフトウェアを搭載しています。



■ マイクロソフト製品の表記について

このマニュアルでは、マイクロソフト製品の名称を次のように表記しています。

表記			製品名
Internet Explorer	Internet Explorer 11		Windows(R) Internet Explorer(R) 11
Windows	Windows 8.1	Windows 8.1 x64	Windows(R) 8.1 Enterprise(64 ビット版)
			Windows(R) 8.1 Pro(64 ビット版)
	Windows 10	Windows 10 x64	Windows(R) 10 Enterprise(64 ビット版)
			Windows(R) 10 Pro(64 ビット版)
	Windows Server 2012 R2		Microsoft(R) Windows Server(R) 2012 R2 Datacenter

表記		製品名
Windows	Windows Server 2012 R2	Microsoft(R) Windows Server(R) 2012 R2 Standard
	Windows Server 2016	Microsoft(R) Windows Server(R) 2016 Datacenter
		Microsoft(R) Windows Server(R) 2016 Standard
	Windows Server 2019	Microsoft(R) Windows Server(R) 2019 Datacenter
		Microsoft(R) Windows Server(R) 2019 Standard

■ 発行

2021 年 1 月 3021-3-D12-20

■ 著作権

All Rights Reserved. Copyright (C) 2019, 2021, Hitachi, Ltd.

変更内容

変更内容 (3021-3-D12-20) JP1/Navigation Platform 12-50, JP1/Navigation Platform for Developers 12-50

追加・変更内容	変更箇所
業務実行画面および業務編集画面で、業務コンテンツが所属するグループを階層化できるようにしました。また、業務編集画面で、複数の業務コンテンツのグループ名を同じグループに一括変更（グループ統合）できるようにしました。 これに伴い、次の説明を追加または変更しました。 ・ [業務コンテンツの追加] 画面および [業務コンテンツの複製] 画面の [所属するグループ名称] テキストボックスで指定するグループ名に「¥¥」が含まれる場合の扱い ・ 業務実行画面および業務編集画面のメニュー領域の [一覧表示] タブでのグループ階層の表示方法 ・ 業務編集画面のメニュー領域の [グループ変更] メニューおよび [グループ統合] メニュー ・ [業務コンテンツの設定] 画面の [実行方式の設定] タブ	1.7, 2.3.1, 2.3.4(2), 2.3.5(2), 2.5.1(2), 2.5.2(2)(a), 2.5.2(2)(b), 2.5.2(3), 2.8, 6.5.1, 6.5.2, 6.5.3
JP1/Base によるユーザ認証を使用する場合に、業務コンテンツに対して作成者のアクセス権を持つユーザとして、コンテンツ作成者 (JP1 権限レベルが HNP_Creator のユーザ) を追加しました。 これに伴い、次の説明を追加または変更しました。 ・ 業務コンテンツ作成から公開までの流れで実施するコンテンツ作成者の作業 ・ コンテンツ作成者としてログインしている場合に、[業務コンテンツの追加] 画面および [業務コンテンツの複製] 画面で表示される JP1 資源グループ ・ コンテンツ作成者としてログインしている場合に、[資源の設定] 画面のチェックボックスで選択できる JP1 資源グループ	2.1, 2.2.1, 2.3.4(4), 2.3.5(4), 2.4.3, 2.4.3(1), 6.8, 6.13
チェックボックスパーツとラジオボタンパーツの [属性の設定] 画面に、表示文字列と値を改行コード (¥r¥n) で連結してキャッシュ値として格納するかどうかを指定するための [ラベル情報も格納] チェックボックスを追加しました。	4.8.4(5), 4.9.5(5)
オフライン対応の業務コンテンツを作成し、オフライン環境で実行できるようにしました。また、JavaScript プラグインパーツにクライアントサイド JavaScript を記述できるようにしました。 これに伴い、次の説明を追加しました。 ・ JavaScript プラグインパーツにクライアントサイド JavaScript を記述する場合の注意事項 ・ [属性の設定] 画面 (JavaScript プラグインパーツ) の [ブラウザで実行] チェックボックス ・ [属性の設定] 画面 (JavaScript プラグインパーツ) の入力パラメタのデフォルト値の設定 ・ JavaScript プラグインパーツでナビゲーション プラットフォームが提供する JavaScript API を使用する場合は、[属性の設定] 画面 (JavaScript プラグイ	5.2, 5.2.2, 5.11.1, 5.11.4, 5.11.5(4), 5.11.5(7), 5.12, 5.12.1, 5.12.1(2)(c), 5.12.2

追加・変更内容	変更箇所
ンパーツ) の [ブラウザで実行] チェックボックスのチェックの有無に関する注意事項 - JavaScriptPluginManager (JavaScript プラグインマネージャクラス) の各メソッドに対する Web ブラウザ (クライアント側) で実行する JavaScript での使用可否 - getParam メソッドの戻り値の注意事項 - RestClient (REST 呼び出しクラス) のメソッドの注意事項	5.2, 5.2.2, 5.11.1, 5.11.4, 5.11.5(4), 5.11.5(7), 5.12, 5.12.1, 5.12.1(2)(c), 5.12.2
JP1/AO サービス実行プラグインパーツで指定するプロパティ値に, 改行 (¥n) とタブ (¥t) を使用できるようになりました。 これに伴い, 次の説明を変更しました。 [属性の設定] 画面の [プロパティ値] テキストボックスで使用できない文字 また, データ型が composite 形式のプロパティの使用不可に関する記載を削除しました。	5.6.2, 5.6.3(5)
ダッシュボード画面にアクセスするマシンで利用できる Web ブラウザに, Google Chrome を追加しました。 また, Internet Explorer 11 のサポートに関する注意事項を追加しました。	6.10.1
ダッシュボード画面のデザインやレイアウトを変更しました。また, 次に示す仕様の変更を行いました。 - ダッシュボード選択画面の左上に, ダッシュボード画面を構成する各画面に遷移するメニューを表示するメニューアイコンを追加しました。 - グラフ上でマウスをクリックしたときに, 横軸と縦軸 (色分けされているとき) の値でフィルタを設定するように変更しました。	6.10.1, 6.10.2, 6.10.3, 6.10.4, 6.10.5, 6.10.6, 6.10.7, 6.10.8(1), 6.10.8(2), 6.10.8(2)(a), 6.10.8(2)(b), 6.10.8(2)(c), 6.10.8(3)(a), 6.10.9

単なる誤字・脱字などはお断りなく訂正しました。

はじめに

このマニュアルは、次に示すプログラムプロダクトの画面の操作方法を説明したものです。

- JP1/Navigation Platform
- JP1/Navigation Platform for Developers

なお、JP1/Navigation Platform 12-00 から次の製品を廃止しました。

- Hitachi Navigation Platform
- Hitachi Navigation Platform for Developers

これに伴い、マニュアル名を変更しました。

旧名称：Hitachi Navigation Platform ナビゲーション プラットフォーム コンテンツ作成ガイド

新名称：JP1/Navigation Platform ナビゲーション プラットフォーム コンテンツ作成ガイド

■ 表記について

このマニュアルでは、上記プログラムプロダクトの名称を次のように表記しています。

表記		プログラムプロダクト名
ナビゲーション プラットフォーム	Navigation Platform	JP1/Navigation Platform
	Navigation Platform for Developers	JP1/Navigation Platform for Developers

■ 対象読者

このマニュアルは、ナビゲーション プラットフォームの画面を作成するユーザを対象としています。ナビゲーション プラットフォームの画面を作成するユーザは、次に示す知識を持っていることを前提としています。

- Windows の基本的な操作方法
- 使用する Web ブラウザの基本的な操作方法

■ このマニュアルの画面や操作の説明で使用している記号

このマニュアルでは、次に示す記号を使用して画面や操作を説明しています。

記号	説明
< >	キーボードのキーを表します。
[]	ダイアログ名，メニュー項目名，ボタン名，および画面に表示されている項目名を表します。
[] - []	ーの前に示したメニューから，ーの後ろのメニューを選択することを表します。
文字列	文字列が斜体になっている項目は，可変の文字列を表します。
...	直前の値を繰り返すことを表します。

目次

前書き	2
変更内容	5
はじめに	7

1	ナビゲーション プラットフォームの概要	18
1.1	ナビゲーション プラットフォームとは	19
1.2	ナビゲーション プラットフォームの使用イメージ	20
1.3	ナビゲーション プラットフォームでできること	21
1.4	ナビゲーション プラットフォームで利用できる Web ブラウザ	22
1.5	使用する Web ブラウザに関する注意事項	23
1.5.1	OS の設定に関する注意事項	23
1.5.2	Internet Explorer の設定に関する注意事項	23
1.5.3	Internet Explorer の操作に関する注意事項	24
1.5.4	Google Chrome または Mobile Safari を使用する場合の機能制限	25
1.5.5	Google Chrome の設定に関する注意事項	26
1.5.6	Google Chrome の操作に関する注意事項	26
1.5.7	Mobile Safari の設定に関する注意事項	27
1.5.8	Mobile Safari の操作に関する注意事項	27
1.6	ナビゲーション プラットフォームの画面にアクセスするための URL	29
1.6.1	基本 URL	29
1.6.2	基本 URL に指定できるパラメタ	32
1.6.3	パラメタを指定した URL の例	34
1.7	業務コンテンツを作成するときの基本操作	36
1.7.1	ナビゲーション プラットフォームにログインする	39
1.7.2	業務コンテンツの編集を開始する	40
1.7.3	ノードまたはパーツを配置する	41
1.7.4	ノードまたはパーツの大きさを変更する	42
1.7.5	ノードまたはパーツの位置を変更する	42
1.7.6	【属性の設定】 画面を表示してノードまたはパーツの設定を変更する	43
1.7.7	ガイド領域の操作モードを切り替える	43
1.7.8	業務コンテンツの編集を完了する	44
1.7.9	ナビゲーション プラットフォームからログアウトする	45
2	業務コンテンツの作成	46
2.1	業務コンテンツ作成から公開までの流れ	47

2.1.1	サンプルの業務コンテンツ	48
2.2	業務コンテンツを作成する前に確認すること	53
2.2.1	業務コンテンツを作成する前に必ず確認すること	53
2.2.2	業務コンテンツ参照時の Web ブラウザと実行環境の設定内容	53
2.2.3	テキストの入力規則の設定可否	54
2.2.4	フローの構成	54
2.2.5	画面に表示できる文字に関する注意事項	55
2.2.6	iPad 向け業務コンテンツを作成する場合の注意事項	55
2.3	業務コンテンツの作成方法	58
2.3.1	業務コンテンツを新規に作成（追加）する	58
2.3.2	業務コンテンツを複製する	59
2.3.3	業務コンテンツを保存する	59
2.3.4	〔業務コンテンツの追加〕画面の項目	60
2.3.5	〔業務コンテンツの複製〕画面の項目	62
2.4	アクセス権グループまたは JP1 資源グループの設定方法	64
2.4.1	業務コンテンツにアクセス権グループまたは JP1 資源グループを設定する	64
2.4.2	〔権限の設定〕画面の項目	65
2.4.3	〔資源の設定〕画面の項目	66
2.5	業務コンテンツの作成に使用する画面	69
2.5.1	業務実行画面の項目	69
2.5.2	業務編集画面の項目	74
2.5.3	〔コメントの入力〕画面の項目	82
2.6	業務コンテンツに外部の Web サイトへの関連リンクを設定する	83
2.6.1	関連リンクとは	83
2.6.2	関連リンクの使い方	83
2.6.3	関連リンクを設定する	83
2.6.4	〔業務コンテンツの設定〕画面（〔関連リンクの設定〕タブ）の項目	84
2.6.5	関連リンクを設定する場合の注意事項	85
2.7	業務コンテンツで使用する文字とボタンのサイズをまとめて設定する	87
2.7.1	業務コンテンツごとに文字のフォントと文字サイズとボタンサイズを設定する	87
2.7.2	〔業務コンテンツの設定〕画面（〔サイズの設定〕タブ）の項目	88
2.8	業務コンテンツのオフラインでの実行可否を設定する	90
2.8.1	業務コンテンツごとにオフラインでの実行可否を設定する	91
2.8.2	〔業務コンテンツの設定〕画面（〔実行方式の設定〕タブ）の項目	92
2.9	業務コンテンツで使用する静的ファイル	93
2.9.1	業務コンテンツで使用する静的ファイルとは	93
2.9.2	静的ファイルの格納方法	93
2.9.3	静的ファイルを格納するフォルダを作成する	93
2.9.4	静的ファイルを格納するフォルダを削除する	94

2.9.5	静的ファイルを格納するフォルダを移動する	94
2.9.6	[ファイル管理／登録] 画面を使用して静的ファイルを格納する	94
2.9.7	[ファイル管理／登録] 画面を使用して静的ファイルを削除する	95
2.9.8	[ファイル管理／登録] 画面の項目	95
2.10	業務コンテンツの見た目と動作を確認する方法	98
2.10.1	業務コンテンツをプレビューする	98
2.10.2	業務実行画面を表示する	99
2.11	業務コンテンツの内容を検索する	100
2.11.1	検索できる業務コンテンツ	100
2.11.2	検索できる文字列	101
2.11.3	業務実行画面のメニュー領域（[検索] タブ）の項目	101

3 業務フロー領域の作成 103

3.1	業務フロー領域を作成する流れ	104
3.2	業務フロー領域の作成例	105
3.3	業務フロー領域の作成に使用するボタン（[Flow] パレット）	106
3.4	業務フロー領域を作成するときの注意事項	107
3.5	ターミナルノード	108
3.5.1	ターミナルノードとは	108
3.5.2	ターミナルノードの使い方	108
3.5.3	ターミナルノードを配置する	109
3.5.4	[属性の設定] 画面（ターミナルノード）の項目	110
3.6	プロセスノード	112
3.6.1	プロセスノードとは	112
3.6.2	プロセスノードの使い方	112
3.6.3	文字列のプロセスノードを配置する	112
3.6.4	画像のプロセスノードを配置する	113
3.6.5	画像を表示したプロセスノードに文字列を表示する	114
3.6.6	[属性の設定] 画面（プロセスノード）の項目	116
3.7	分岐合流ノード	121
3.7.1	分岐合流ノードとは	121
3.7.2	分岐合流ノードの使い方	121
3.7.3	分岐合流ノードを配置する	122
3.7.4	[属性の設定] 画面（分岐合流ノード）の項目	123
3.8	関連線	125
3.8.1	関連線とは	125
3.8.2	関連線を引く（ノード同士をつなぐ）	125
3.8.3	関連線を引く場合の条件	125
3.8.4	関連線の例	127

3.9	固定テキストパーツ（業務フロー領域）	129
3.9.1	固定テキストパーツとは（業務フロー領域）	129
3.9.2	固定テキストパーツの使い方（業務フロー領域）	129
3.9.3	固定テキストパーツを配置する（業務フロー領域）	129
3.9.4	【属性の設定】画面（業務フロー領域の固定テキストパーツ）の項目	130
3.10	画像パーツ（業務フロー領域）	133
3.10.1	画像パーツとは（業務フロー領域）	133
3.10.2	画像パーツの使い方（業務フロー領域）	133
3.10.3	画像パーツを配置する（業務フロー領域）	133
3.10.4	【属性の設定】画面（業務フロー領域の画像パーツ）の項目	135

4 ガイド領域の作成 138

4.1	ガイドを作成する流れ	139
4.2	ガイド領域の作成例	140
4.3	ガイド領域の作成に使用するボタン（[Guide] パレット）	142
4.4	固定テキストパーツ（ガイド領域）	143
4.4.1	固定テキストパーツとは（ガイド領域）	143
4.4.2	固定テキストパーツの使い方（ガイド領域）	143
4.4.3	固定テキストパーツを配置する（ガイド領域）	143
4.4.4	【属性の設定】画面（ガイド領域の固定テキストパーツ）の項目	144
4.5	画像パーツ（ガイド領域）	147
4.5.1	画像パーツとは（ガイド領域）	147
4.5.2	画像パーツの使い方（ガイド領域）	147
4.5.3	画像パーツを配置する（ガイド領域）	147
4.5.4	【属性の設定】画面（ガイド領域の画像パーツ）の項目	148
4.6	テキストボックスパーツ（ガイド領域）	151
4.6.1	テキストボックスパーツとは（ガイド領域）	151
4.6.2	テキストボックスパーツの使い方（ガイド領域）	151
4.6.3	テキストボックスパーツを配置する	151
4.6.4	テキストボックスに入力規則を設定する場合の注意事項	152
4.6.5	【属性の設定】画面（ガイド領域のテキストボックスパーツ）の項目	153
4.7	テキストエリアパーツ（ガイド領域）	156
4.7.1	テキストエリアパーツとは（ガイド領域）	156
4.7.2	テキストエリアパーツの使い方（ガイド領域）	156
4.7.3	テキストエリアを配置する（ガイド領域）	156
4.7.4	テキストエリアに入力規則を設定する場合の注意事項	157
4.7.5	【属性の設定】画面（ガイド領域のテキストエリアパーツ）の項目	158
4.8	チェックボックスパーツ（ガイド領域）	160
4.8.1	チェックボックスパーツとは（ガイド領域）	160

4.8.2	チェックボックスパーツの使い方（ガイド領域）	160
4.8.3	チェックボックスを配置する（ガイド領域）	160
4.8.4	【属性の設定】画面（ガイド領域のチェックボックスパーツ）の項目	161
4.9	ラジオボタンパーツ（ガイド領域）	163
4.9.1	ラジオボタンパーツとは（ガイド領域）	163
4.9.2	ラジオボタンパーツの使い方（ガイド領域）	163
4.9.3	ラジオボタンパーツを配置する（ガイド領域）	163
4.9.4	ラジオボタンをグループ化する場合の注意事項	164
4.9.5	【属性の設定】画面（ガイド領域のラジオボタンパーツ）の項目	164
4.10	ドロップダウンパーツ（ガイド領域）	167
4.10.1	ドロップダウンパーツとは（ガイド領域）	167
4.10.2	ドロップダウンパーツの使い方（ガイド領域）	167
4.10.3	ドロップダウンの親子関係とは	167
4.10.4	ドロップダウンパーツを配置する（ガイド領域）（ドロップダウンに親子関係がない場合、または親ドロップダウンの場合）	168
4.10.5	ドロップダウンパーツを配置する（ガイド領域）（子ドロップダウンの場合）	169
4.10.6	【属性の設定】画面（ガイド領域のドロップダウンパーツ）の項目	170
4.11	ハイパーリンクパーツ（ガイド領域）	173
4.11.1	ハイパーリンクパーツとは（ガイド領域）	173
4.11.2	ハイパーリンクパーツの使い方（ガイド領域）	173
4.11.3	ハイパーリンクを配置する（ガイド領域）	173
4.11.4	【属性の設定】画面（ガイド領域のハイパーリンクパーツ）の項目	174
4.12	インラインフレームパーツ（ガイド領域）	177
4.12.1	インラインフレームパーツとは（ガイド領域）	177
4.12.2	インラインフレームパーツの使い方（ガイド領域）	177
4.12.3	インラインフレームパーツを配置する（ガイド領域）	177
4.12.4	インラインフレームを配置した場合の動作と表示に関する注意事項	178
4.12.5	【属性の設定】画面（ガイド領域のインラインフレームパーツ）の項目	179
4.13	HTML パーツ（ガイド領域）	181
4.13.1	HTML パーツとは（ガイド領域）	181
4.13.2	HTML パーツの使い方（ガイド領域）	181
4.13.3	HTML パーツを使用するときの注意事項	181
4.13.4	HTML パーツを配置する（ガイド領域）	181
4.13.5	HTML パーツで使用できるタグ一覧	182
4.13.6	HTML パーツで CSS を使用する方法	183
4.13.7	ナビゲーション プラットフォームが HTML パーツ用に提供する CSS のクラス一覧	184
4.13.8	HTML パーツで使用できる CSS プロパティ一覧	184
4.13.9	HTML パーツで外部 CSS を使用する	186
4.13.10	HTML パーツでパラメタを使用する方法	187

4.13.11	HTML パーツの記述例	190
4.13.12	【属性の設定】画面（ガイド領域の HTML パーツ）の項目	193
5	ガイドパーツ間または外部プログラムとの連携	196
5.1	ガイドパーツ間の連携とは	197
5.2	外部プログラムとの連携とは	198
5.2.1	JP1 連携プラグイン	198
5.2.2	JavaScript プラグイン	198
5.3	プラグインパーツ	199
5.3.1	プラグインパーツとは	199
5.3.2	プラグインの設定に使用するボタン（[Plugins] パレット）	199
5.3.3	プラグインパーツを配置する（ガイド領域）	200
5.3.4	マッピング線を引く（ガイドパーツとプラグインパーツをつなぐ）	201
5.4	データストアプラグインパーツ	203
5.4.1	データストアプラグインパーツとは	203
5.4.2	データストアプラグインパーツの使い方	203
5.4.3	データストアプラグインの使用例	205
5.4.4	【属性の設定】画面（データストアプラグインパーツ）の項目	207
5.5	JP1/AO プロパティ出力プラグインパーツ	209
5.5.1	JP1/AO プロパティ出力プラグインパーツとは	209
5.5.2	JP1/AO プロパティ出力プラグインパーツの使い方	209
5.5.3	【属性の設定】画面（JP1/AO プロパティ出力プラグインパーツ）の項目	210
5.6	JP1/AO サービス実行プラグインパーツ	211
5.6.1	JP1/AO サービス実行プラグインパーツとは	211
5.6.2	JP1/AO サービス実行プラグインパーツの使い方	211
5.6.3	【属性の設定】画面（JP1/AO サービス実行プラグインパーツ）の項目	212
5.7	JP1/AO URL 出力プラグインパーツ	214
5.7.1	JP1/AO URL 出力プラグインパーツとは	214
5.7.2	JP1/AO URL 出力プラグインパーツの使い方	214
5.7.3	【属性の設定】画面（JP1/AO URL 出力プラグインパーツ）の項目	216
5.8	JP1 イベント対処状況変更プラグインパーツ	220
5.8.1	JP1 イベント対処状況変更プラグインパーツとは	220
5.8.2	JP1 イベント対処状況変更プラグインパーツの使い方	220
5.8.3	JP1 イベント対処状況変更プラグインパーツを使用するときの注意事項	220
5.8.4	【属性の設定】画面（JP1 イベント対処状況変更プラグインパーツ）の項目	221
5.9	JP1 イベント情報出力プラグインパーツ	222
5.9.1	JP1 イベント情報出力プラグインパーツとは	222
5.9.2	JP1 イベント情報出力プラグインパーツの使い方	222
5.9.3	JP1 イベント情報出力プラグインパーツで出力できるイベント情報	222

5.10	JP1/IM-SS URL 出力プラグインパーツ	224
5.10.1	JP1/IM-SS URL 出力プラグインパーツとは	224
5.10.2	JP1/IM-SS URL 出力プラグインパーツの使い方	224
5.10.3	【属性の設定】画面（JP1/IM-SS URL 出力プラグインパーツ）の項目	224
5.11	JavaScript プラグインパーツ	226
5.11.1	JavaScript プラグインパーツとは	226
5.11.2	JavaScript プラグインパーツの使い方	226
5.11.3	JavaScript プラグインパーツの使用例	227
5.11.4	JavaScript プラグインパーツを使用するときの注意事項	235
5.11.5	【属性の設定】画面（JavaScript プラグインパーツ）の項目	236
5.12	JavaScript プラグインパーツで利用できる API	240
5.12.1	JavaScriptPluginManager（JavaScript プラグインマネージャクラス）	241
5.12.2	RestClient（REST 呼び出しクラス）	247
5.13	プラグインを使用している業務コンテンツの設定情報を取得する	255
5.13.1	マッピング一覧ファイルの形式	255
5.13.2	マッピング一覧ファイルの出力項目	256
5.13.3	マッピング一覧ファイルの出力例	257
6	業務コンテンツの運用	258
6.1	業務コンテンツを公開する方法について	259
6.1.1	業務コンテンツを公開する	259
6.1.2	【公開する業務コンテンツの確認】画面の項目	260
6.2	業務コンテンツを非公開にする方法について	262
6.2.1	業務コンテンツを非公開にする	262
6.2.2	【非公開にする業務コンテンツの確認】画面の項目	263
6.2.3	公開済みの業務コンテンツを削除する前に確認すること	264
6.2.4	業務コンテンツを削除する	264
6.3	業務コンテンツの公開を予約する方法について	265
6.3.1	業務コンテンツの公開を予約する	265
6.3.2	【公開する業務コンテンツの確認】画面の項目	265
6.4	業務コンテンツの公開予約一覧を確認する方法について	268
6.4.1	業務コンテンツの公開予約一覧を確認する	268
6.4.2	業務コンテンツの公開予約を削除する	268
6.4.3	【公開予約一覧】画面の項目	268
6.5	業務コンテンツのグループを変更する方法について	270
6.5.1	業務コンテンツのグループを変更する	270
6.5.2	業務コンテンツのグループを統合する	271
6.5.3	業務コンテンツのグループを変更または統合する場合のポイント	271
6.5.4	業務コンテンツに設定されているアクセス権グループまたは JP1 資源グループを確認する	272

6.5.5	[アクセス権グループの確認] 画面の項目	273
6.6	業務コンテンツの印刷	275
6.6.1	印刷できる業務コンテンツの内容	275
6.6.2	業務コンテンツを印刷する	277
6.6.3	印刷画面の項目	277
6.6.4	印刷に関する注意事項	278
6.7	業務コンテンツに直接アクセスする URL を取得する	280
6.8	公開済みの業務コンテンツを更新する方法について	281
6.8.1	業務コンテンツの内容を更新する	281
6.8.2	業務コンテンツの名称を変更する	282
6.8.3	ノード、パーツ、関連線、マッピング線を削除する	282
6.9	業務コンテンツの利用状況を解析する方法について	284
6.9.1	業務コンテンツの利用状況を解析する	285
6.9.2	レポート画面（解析項目の選択）の項目	285
6.9.3	レポート画面（業務コンテンツごとの解析結果）の項目	286
6.9.4	レポート画面（ノードごとの解析結果）の項目	287
6.9.5	レポート画面（ユーザごとのノードの解析結果）の項目	289
6.9.6	業務コンテンツの利用状況を解析する例	290
6.10	業務コンテンツの操作ログをダッシュボード機能で解析する方法について	293
6.10.1	ダッシュボード画面へアクセスする	293
6.10.2	ダッシュボード選択画面の項目	294
6.10.3	OKNG 分析画面	295
6.10.4	コンテンツ利用回数分析画面	297
6.10.5	利用時間分析（平均）画面	298
6.10.6	利用時間分析（累計）画面	300
6.10.7	操作ログ閲覧画面	301
6.10.8	ダッシュボード画面で共通する操作	302
6.10.9	ダッシュボード画面にエラーが表示されたときの対処	308
6.10.10	ダッシュボード画面を操作してもしばらく応答がないときの対処	309
6.10.11	ダッシュボード画面を表示できないときの HTTP ステータスコードと対処	309
6.11	過去に公開した業務コンテンツを表示する	311
6.12	業務コンテンツのコメントおよび公開日時を確認する	312
6.12.1	[版の詳細] 画面の項目	312
6.13	業務コンテンツを比較して変更点を表示する方法について	314
6.13.1	業務コンテンツを比較して変更点を表示する	315
6.13.2	差分表示画面の項目	315
7	業務コンテンツ作成時に知っておくと便利な操作や設定	318
7.1	複数選択	319

7.1.1	複数選択について	319
7.1.2	複数の業務コンテンツを選択する	319
7.1.3	複数のノード、パーツ、関連線、マッピング線を選択する	319
7.1.4	一括処理ができる操作	319
7.1.5	一括処理ができない操作	320
7.2	ノード、パーツ、関連線の表示順序の変更	321
7.2.1	ノード、パーツを最前面に表示する	321
7.2.2	ノード、パーツを最背面に表示する	321
7.2.3	関連線を最前面に表示する	321
7.2.4	最前面に表示できないパーツ	322
7.3	業務コンテンツ ID、ノード ID、ガイドパーツ ID の確認	323
7.3.1	業務コンテンツ ID、ノード ID、ガイドパーツ ID とは	323
7.3.2	業務コンテンツ ID を確認する	323
7.3.3	ノード ID、パーツ ID を確認する	323
7.4	メニュー領域の表示と非表示を切り替える	324
7.5	業務フロー領域とガイド領域の幅を変更する	325
7.6	マッピング線の表示と非表示を切り替える	326
7.7	コピーしたノード、パーツをペーストする	327
7.8	業務コンテンツ内の文字列を一括置換する	328
7.9	操作を取り消す	329
7.10	取り消した操作をやり直す	330

付録 331

付録 A	各バージョンの変更内容	332
付録 A.1	12-50 の変更内容	332
付録 A.2	12-10 の変更内容	333
付録 A.3	12-00 の変更内容	334
付録 A.4	11-50 の変更内容	335
付録 B	このマニュアルの参考情報	336
付録 B.1	関連マニュアル	336
付録 B.2	このマニュアルでの表記	337
付録 B.3	英略語	338
付録 B.4	KB (キロバイト) などの単位表記について	338
付録 C	用語解説	339

索引 345

1

ナビゲーション プラットフォームの概要

この章では、ナビゲーション プラットフォームの製品、および基本操作について説明します。ナビゲーション プラットフォームは Web ブラウザで操作するため、サポートしている Web ブラウザの種類や、Web ブラウザに入力する URL についても説明します。

1.1 ナビゲーション プラットフォームとは

ナビゲーション プラットフォームとは、業務の流れと操作手順を可視化するための製品です。

ナビゲーション プラットフォームでは、ある業務の実行に必要な手順を業務コンテンツとして作成しておきます。

業務の実行者は、ナビゲーション プラットフォームで業務コンテンツを選択し、業務の流れと詳細手順を参照しながら業務を実行します。表示される手順に従って業務を進めればよいため、初めてその業務を担当する場合でも、正確かつ効率良く業務を実行できます。

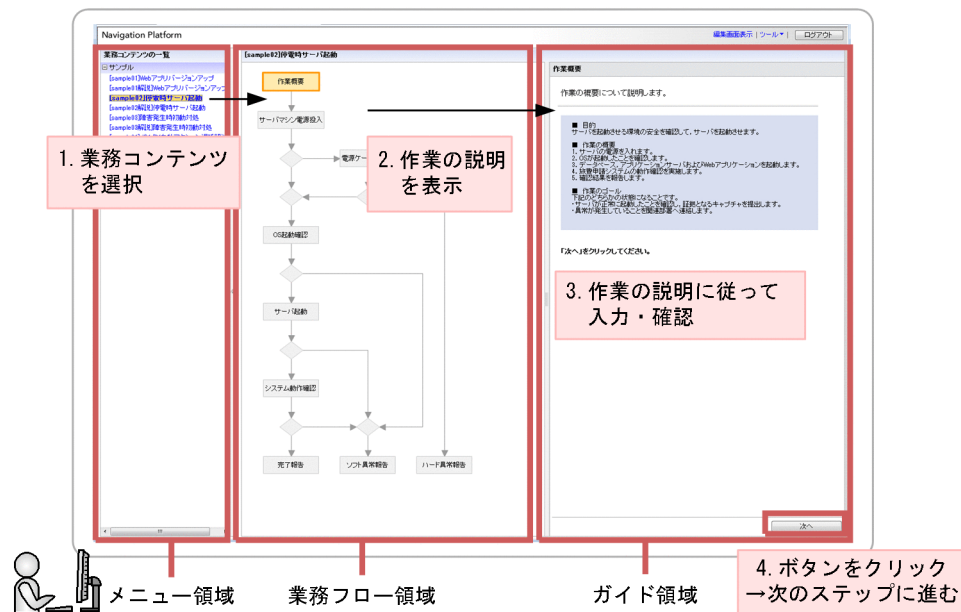
ナビゲーション プラットフォームでは、業務の流れがフローチャート形式で表示されます。また、同じ画面に、フローチャートで選択したステップに対応する説明が表示されます。

1.2 ナビゲーション プラットフォームの使用イメージ

ナビゲーション プラットフォームの業務実行画面と呼ばれる画面上で手順を参照して、業務を実行していきます。

ナビゲーション プラットフォームを使用した業務の流れを次に示します。

図 1-1 ナビゲーション プラットフォームを使用した業務の流れ



注
環境によって、メニュー領域や業務フロー領域が非表示になる場合があります。

業務の流れ

1. メニュー領域から該当する業務コンテンツを選択します。
2. 業務フロー領域に表示された業務の全体的な流れや作業工程を確認します。
実施する作業の説明が、ガイド領域に表示されます。
3. ガイド領域に表示された各作業工程の手順の説明に従って、入力・確認作業を実施します。
4. 作業が完了したら、該当するボタンをクリックして、次のステップに進みます。次のステップがない場合、業務は完了です。

1.3 ナビゲーション プラットフォームでできること

ナビゲーション プラットフォームでは、次のことができます。

- 業務コンテンツを作成，編集する
業務を実行するために必要な情報（業務コンテンツ）を Web ブラウザ上の画面で作成，編集できます。
- 業務を実行する
ナビゲーション プラットフォームを利用すると，業務を実行するために必要な情報が Web ブラウザ上に順番に表示されます。利用者は表示した情報を確認しながら業務を進められます。

1.4 ナビゲーション プラットフォームで利用できる Web ブラウザ

ナビゲーション プラットフォームの画面にアクセスするクライアントマシンで利用できる Web ブラウザと OS の組み合わせを次に示します。なお、Web ブラウザには、必ず最新の更新プログラムを適用してください。

表 1-1 利用できる Web ブラウザと OS

Web ブラウザ名	OS
- Internet Explorer 11 - Google Chrome	Windows 8.1, Windows 10
モバイル用の Safari（以降、Mobile Safari と呼ぶ）	iPadOS

注 Internet Explorer の開発者ツールで操作した場合の動作は保証しません。また、Internet Explorer の Modern インタフェースには対応していません。

1.5 使用する Web ブラウザに関する注意事項

OS と Web ブラウザの設定、操作に関する注意事項を示します。

1.5.1 OS の設定に関する注意事項

ナビゲーション プラットフォームは、次に示す Unicode の補助文字には対応していません。

- 基本多言語面 (BMP) 以外の文字
- Unicode のコードポイント U+10000~U+10FFFF の文字
- UTF-16 エンコーディングのサロゲート・ペアで表される文字

1.5.2 Internet Explorer の設定に関する注意事項

- 更新プログラムは、最新のものを適用してください。
- ナビゲーション プラットフォームを使用するときは、Web ブラウザの文字サイズを「中」以下に設定することを推奨します。文字サイズを「中」より大きくすると、Web ブラウザに表示される文字が欠けるおそれがあります。
- Web ブラウザのインターネット一時ファイルの設定は「自動的に確認する」を推奨します。「自動的に確認する」以外に設定すると、画像が正常に表示されないおそれがあります。
- Web ブラウザの「互換表示」ボタンは無効にしてください。有効にすると、画面の表示が崩れることがあります。
- 一部のスクリプトが動作しない場合があります。この場合は、必要に応じて Web ブラウザの「インターネットオプション」の「セキュリティ」の設定を確認し、ナビゲーション プラットフォームの URL を「信頼済みサイト」に追加してください。ただし、この設定によってセキュリティレベルが下がるため、注意してください。
- Web ブラウザの「インターネットオプション」の「セキュリティ」の次の項目は、「有効にする」に設定してください。これらの設定を有効にしておかないと、ナビゲーション プラットフォームの画面の表示や機能が一部不正になります。
 - 「バイナリビヘイビアとスクリプトビヘイビア」
 - 「アクティブスクリプト」
 - 「スクリプトによる貼り付け処理の許可」
- インラインフレームパーツで指定した外部の Web サイトが表示されない場合があります。表示されるかどうかは、指定した外部の Web サイトの設定によって異なります。

1.5.3 Internet Explorer の操作に関する注意事項

- 同じ PC から複数のアカウントでナビゲーション プラットフォームにログインしないでください。
- 同じ PC で複数の業務編集画面（Web ブラウザまたはタブ）を操作しないでください。
- ナビゲーション プラットフォームの操作では、Web ブラウザの [戻る] ボタンを使用しないでください。最新の情報が表示されない場合があります。
- 業務実行中に < F5 > キーや Web ブラウザの [更新] ボタンを使用して画面を更新しないでください。入力途中のデータが破棄されます。また、ログイン状態のままになったり、有効期限切れのエラーが発生したりするなど、正常に動作しないおそれがあります。
- テキストボックスに 1,025 文字以上の文字列を入力した場合、入力した文字列が部分的に表示されない場合があります。テキストボックスの最大入力文字数は、1,024 文字以下に設定することを推奨します。
- Web ブラウザを操作中に次のメッセージが表示された場合、[キャンセル] ボタンをクリックして実行を続けてください。[OK] ボタンをクリックして中断した場合、正常に動作しないことがあります。
「このページのスクリプトが、Internet Explorer の実行速度を遅くしています。スクリプトを実行し続けると、コンピュータが反応しなくなる可能性があります。スクリプトを中断しますか？」
- Web ブラウザを操作中に次のメッセージが表示された場合、[Web ページの回復] ボタンをクリックしないで、処理が終了するまで待ってください。[Web ページの回復] ボタンをクリックして処理を中断した場合、正常に動作しないことがあります。
「ホスト名は応答していません。」
- メッセージダイアログに表示されるメッセージが画面の下をはみ出して、[OK] ボタンをクリックできない状態になった場合、次のどちらかの操作でメッセージダイアログを閉じてください。
 - メッセージダイアログの [×] ボタンをクリックする。
 - メッセージダイアログにフォーカスされていることを確認して、< Enter > キーまたは < Esc > キーを押す。
- Web ブラウザを閉じる場合は、[×] ボタンではなく [閉じる] ボタンや [キャンセル] ボタンなど、ナビゲーション プラットフォームのボタンを使用してください。ただし、Web ブラウザの印刷プレビューを表示したあとで [閉じる] ボタンをクリックすると、画面に何も表示されなくなり、Web ブラウザが閉じなくなることがあります。この場合は、[×] ボタンで Web ブラウザを閉じてください。
- Web ブラウザの印刷プレビュー画面を [×] ボタンで閉じた場合は、印刷しようとした画面が閉じなくなることがあります。この場合は、印刷しようとした画面を [×] ボタンで閉じてください。
- 業務編集画面または業務実行画面を閉じる場合は、[×] ボタンではなく [閉じる] ボタンまたは [ログアウト] ボタンを使用してください。ただし、Web ブラウザの印刷プレビューを表示したあとで [閉じる] ボタンをクリックすると、画面に何も表示されなくなり、Web ブラウザが閉じなくなることがあります。この場合は、[×] ボタンで Web ブラウザを閉じてください。
- 同じ Web ブラウザから繰り返しナビゲーション プラットフォームを操作した場合、Windows から次の警告メッセージが表示されることがあります。

「仮想メモリ不足 システムの仮想メモリが少なくなっています。Windows が正しく動作するために、仮想メモリ ページ ファイルのサイズを増やしてください。詳細はヘルプを参照してください。」
メッセージが表示された場合は、Web ブラウザを閉じて、再度起動してください。

- Web ブラウザのエラーメッセージが表示された場合、またはボタンをクリックしても応答がない場合は、操作中の画面を閉じて、再ログインしてから操作をやり直してください。再ログイン後も問題が解決しない場合は、保守員に連絡してください。
- 矩形選択でパーツやコネクタを選択して、< Delete >キーを押したとき、パーツ・コネクタを削除できない場合があります。その場合、ツールバー上の[削除] ボタンをクリックして、パーツやコネクタを削除してください。
- ナビゲーション プラットフォームの画面で連続した記号を含む文字列を表示する場合、文字列が折り返されないことがあります。その場合は、画面をリサイズしてください。
- Web ブラウザから繰り返しダッシュボード選択画面の各項目を操作し続けた場合、画面が正しく表示されなかったり、Web ブラウザが終了したりすることがあります。その場合は、Web ブラウザを再起動してください。

1.5.4 Google Chrome または Mobile Safari を使用する場合は機能制限

Google Chrome または Mobile Safari からナビゲーション プラットフォームの画面にアクセスする場合、使用できる機能が制限されます。制限される機能について次に示します。

- 業務編集画面は使用できません。
- プラットフォームの画面にアクセスする URL に、次のパラメタは指定できません。
 - start_editor パラメタ
 - open_editor パラメタ
- 業務実行画面で、次の項目は制限付きで使えます。
 - テキストボックス（非推奨）
 - テキストエリア（非推奨）
 - インラインフレームパーツ（非推奨）
 - リサイズバー
 - 業務フロー領域の自動スクロール（制限事項：スクロール過程は表示しません）
- 業務実行画面で、次の機能は使用できません。
 - HTML パーツ※¹
 - 業務コンテンツの編集開始
 - 画面の遷移または画面を閉じるときに確認ダイアログを表示する機能
(ucnp.base.client.confirm.page.unload.enable プロパティ) ※¹

- ・ 印刷機能 (ucnp.base.server.print.link.display プロパティ) ※2
- ・ 操作ログのレポート画面※3
- ・ 操作ログのダッシュボード画面
- ・ ヘッダ領域に [閉じる] ボタンを表示する機能 (ucnp.base.server.close.button.setting プロパティ) ※4

注※1

Mobile Safari を使用する場合だけの機能制限です。

注※2

印刷機能が使用できないため、実行環境のユーザプロパティファイル (ucnp_user.properties) の ucnp.base.server.print.link.display プロパティに「editor」または「none」を設定してください。また、ucnp.base.server.print.link.display プロパティ以外のユーザプロパティにデフォルト値以外を指定している場合は、それらの設定も合わせて見直してください。

注※3

操作ログのレポート画面を開くリンクは、次の条件を満たす場合だけ表示されます。

- ・ ログインユーザが、コンテンツ管理者以上の権限を持つ。
- ・ 実行環境のユーザプロパティファイル (ucnp_user.properties) の ucnp.base.client.operationlog.enable プロパティに「true」が指定されている。
- ・ 実行環境のユーザプロパティファイル (ucnp_user.properties) の ucnp.base.client.directjump.enable プロパティに「all」以外が指定されている。

操作ログのレポート画面を開くリンク自体を非表示にしたい場合は、上記の表示条件を基に、Google Chrome でアクセスするユーザを制限してください。

注※4

ヘッダ領域に [閉じる] ボタンを表示する機能が使用できないため、実行環境のユーザプロパティファイル (ucnp_user.properties) の ucnp.base.server.close.button.setting プロパティに「none」を設定してください。

1.5.5 Google Chrome の設定に関する注意事項

- ・ [JavaScript] の項目を「オン」に設定してください。「オフ」の場合、ナビゲーション プラットフォームが動作しません。
- ・ [サイトに Cookie データの保存と読み取りを許可する] の項目を「オン」に設定して Cookie が有効になるようにしてください。「オフ」の場合、ナビゲーション プラットフォームにログインできません。

1.5.6 Google Chrome の操作に関する注意事項

- ・ 操作中に 10 秒以上応答がない場合は、ページをリロードして操作をやり直してください。

1.5.7 Mobile Safari の設定に関する注意事項

- [JavaScript] は [オン] に設定してください。
- プライベートブラウズをオフに設定してください。
- [Cookie をブロック] は [訪問した Web サイトを許可] または [常に許可] に設定してください。なお、[常に許可] を設定するとセキュリティレベルが下がります。

1.5.8 Mobile Safari の操作に関する注意事項

- Mobile Safari で参照している業務実行画面に [印刷] メニューが表示されていたとしても、[印刷] メニューをクリックしたときの動作は保証されません。
 - 操作中に 10 秒以上応答がない場合は、ページをリロードして操作をやり直してください。
 - 通信中にエラーが発生したというメッセージやセッションが無効であるというメッセージが表示された場合は、メッセージに従って操作をやり直してください。操作をやり直しても問題が解決しないときは、ネットワークの接続状態を確認してください。Wi-Fi をいったんオフにしてから再度オンにすると、ネットワークの接続状態が正常に回復することもあります。
 - Mobile Safari をバックグラウンドで実行している場合、または業務コンテンツを操作中に iPad がスリープモードになった場合などは、セッションが切れることがあります。セッションが切れると操作途中のデータは失われます。また、業務コンテンツを操作中に、ほかの業務コンテンツを参照したり、ナビゲーション プラットフォーム以外のページを表示したりした場合も、操作途中のデータは失われます。なお、システム構築時の設定によっては、業務実行画面に [一時中断] ボタンが表示されています。[一時中断] ボタンをクリックしてログアウトしておけば、セッションが切れたり、ほかのページを表示したりしても、ボタンをクリックした時点までの操作のデータは保存されています。
 - テキストボックスおよびテキストエリアに表示されている文字列を、カット & ペーストまたはコピー & ペーストすることはできません。
 - ソフトウェアキーボードが表示された状態では、次の操作をしないでください。
 - テキストボックスまたはテキストエリアを長押しする。
 - ソフトウェアキーボード以外の領域をスクロールさせる。
 - ソフトウェアキーボード以外の領域をタップする。
- ソフトウェアキーボードが表示された状態でこれらの操作を実行すると、その後テキスト入力ができなくなります。再度テキスト入力をするには、ソフトウェアキーボードをいったん閉じてから再表示してください。
- テキストボックスおよびテキストエリアに半角英数字を入力する場合、先頭の文字は自動的に大文字になります。先頭の文字を小文字にしたい場合は、< Shift > キーを解除してください。
 - テキストボックスおよびテキストエリアに絵文字を入力すると、文字化けするおそれがあります。

- オートコレクト機能によって表示される修正候補の単語は、選択しないでください。修正候補の単語をタップすると、その後テキスト入力ができなくなります。再度テキスト入力をするには、ソフトウェアキーボードをいったん閉じてから再表示してください。
- ソフトウェアキーボード以外の領域をタップしても、ソフトウェアキーボードが非表示にならない場合は、ソフトウェアキーボード右下の端にあるボタンをタップしてください。
- 業務実行画面全体を下方向にスクロールすると、ヘッダ領域（ツールリンク、ログアウトボタンなど）が隠れることがあります。再度ヘッダ領域を表示するには、上方向にスクロールしてください。
- ブラウザのタブが2つある状態からタブを1つ削除すると、業務実行画面の下に空白領域が表示されます。空白領域を消すには、画面をリサイズ（回転する、ブックマークバーを表示するなど）してください。
- Web ブラウザのエラーメッセージが表示された場合、またはボタンをクリックしても応答がない場合は、操作中の画面を閉じて、再ログインしてから操作をやり直してください。再ログイン後も問題が解決しない場合は、保守員に連絡してください。

1.6 ナビゲーション プラットフォームの画面にアクセスするための URL

業務コンテンツを操作するために、Web ブラウザからナビゲーション プラットフォームの画面にアクセスするときに必要な URL について説明します。

ナビゲーション プラットフォームの画面にアクセスするための URL は、基本 URL とパラメタから構成されています。パラメタの指定は任意です。基本 URL にパラメタを指定すると、特定の業務コンテンツに直接アクセスしたり、ナビゲーション プラットフォームを終了するときのボタンの種別を選択したりできます。

ディレクトリサーバを使用しないシステム構成の場合、基本 URL 中にあるシングルサインオンのパスワードのパラメタを指定する必要はありません。

1.6.1 基本 URL

(1) 業務実行画面にアクセスするための基本 URL

次に示す URL を使用すると、[編集画面表示] メニューが表示されないため、利用者は業務コンテンツを変更できません。編集操作を実行する必要がない利用者に対しては、この URL を知らせてください。

ナビゲーション プラットフォームのログイン画面からアクセスする場合

パラメタを指定するかどうかで、基本 URL が異なります。パラメタの指定については、「[1.6.2 基本 URL に指定できるパラメタ](#)」を参照してください。

- パラメタを指定しないとき

```
http://ホスト名:ポート番号/ucnpBase/
```

- パラメタを指定するとき

```
http://ホスト名:ポート番号/ucnpBase/portal/screen/TitlePortlet/portlet/ucnp/pane/-440b4408440g55S76Z2i/layout_id/default/tab_id/-440b4408440g55S76Z2i
```

Cosminexus の統合ユーザ管理フレームワークを利用してシングルサインオンする場合

```
http://ホスト名:ポート番号/ucnpBase/portal/screen/Home/action/PLoginUser?com.cosminexus.admin.auth.name=ユーザID&com.cosminexus.admin.auth.password=パスワード
```

注意事項

この URL で業務実行画面にアクセスする場合、POST メソッドを指定することを推奨します。GET メソッドを指定した場合、ユーザ ID およびパスワードがクエリとして URL の一部になるため、Web サーバのログなどに痕跡が残ってしまいます。

可変値について説明します。

- ホスト名

編集環境, または実行環境にある, J2EE サーバマシンのホスト名または IP アドレスです。

- **ポート番号**

編集環境, または実行環境の Web サーバのポート番号です。

ポート番号が不明な場合は, システム管理者に問い合わせてください。

- **ユーザ ID**

シングルサインオンに使用するユーザ ID です。HTTP リクエストの `com.cosminexus.admin.auth.name` パラメタに設定しておく必要があります。

- **パスワード**

シングルサインオンに使用するユーザ ID に対応するパスワードです。HTTP リクエストの `com.cosminexus.admin.auth.password` パラメタに設定しておく必要があります。

(2) 業務編集画面にアクセスするための基本 URL

次に示す URL を使用すると, ログイン後に業務編集画面が表示されます。

ナビゲーション プラットフォームのログイン画面からアクセスする場合

```
http://ホスト名:ポート番号/ucnpBase/portal/screen/TitlePortlet/portlet/ucnp/pane/-440b4408440g55S76Z2i/layout_id/default/tab_id/-440b4408440g55S76Z2i?start_editor=true&open_editor=true
```

Cosminexus の統合ユーザ管理フレームワークを利用してシングルサインオンする場合

```
http://ホスト名:ポート番号/ucnpBase/portal/screen/Home/action/PLoginUser?com.cosminexus.admin.auth.name=ユーザID&com.cosminexus.admin.auth.password=パスワード&start_editor=true&open_editor=true
```

注意事項

この URL で業務編集画面にアクセスする場合, POST メソッドを指定することを推奨します。GET メソッドを指定した場合, ユーザ ID およびパスワードがクエリとして URL の一部になるため, Web サーバのログなどに痕跡が残ってしまいます。

可変値について説明します。

- **ホスト名**

開発環境, または編集環境にある, J2EE サーバマシンのホスト名または IP アドレスです。

- **ポート番号**

開発環境, または編集環境の Web サーバのポート番号です。

ポート番号が不明な場合は, システム管理者に問い合わせてください。

- **ユーザ ID**

シングルサインオンに使用するユーザ ID です。HTTP リクエストの `com.cosminexus.admin.auth.name` パラメタに設定しておく必要があります。

- **パスワード**

シングルサインオンに使用するユーザ ID に対応するパスワードです。HTTP リクエストの `com.cosminexus.admin.auth.password` パラメタに設定しておく必要があります。

(3) カスタム画面（新規画面）にアクセスするための基本 URL

次に示す URL を使用すると、ログイン後にカスタム画面（新規画面）が表示されます。

ナビゲーション プラットフォームのログイン画面からアクセスする場合

```
http://ホスト名:ポート番号/ucnpBase/portal/action/Plain/portlet/ucnp/pane/-440b4408440g44Kw440r4408440X/layout_id/default/url/L2FkcG9ydGxldHMvdWNucC9qc3Avdmlldy9Sb290SWZyYW1lLmpzcA--?ucnpUserId=カスタム画面プラグイン名
```

Cosminexus の統合ユーザ管理フレームワークを利用してシングルサインオンする場合

```
http://ホスト名:ポート番号/ucnpBase/portal/screen/Home/action/PLoginUser?com.cosminexus.admin.auth.name=ユーザID&com.cosminexus.admin.auth.password=パスワード&ucnpUserId=カスタム画面プラグイン名
```

注意事項

- シングルサインオンでカスタム画面にアクセスする場合、POST メソッドを指定することを推奨します。GET メソッドを指定した場合、ユーザ ID およびパスワードがクエリとして URL の一部になるため、Web サーバのログなどに痕跡が残ってしまいます。
- カスタム画面にアクセスするための URL には、必ず `ucnpUserData` パラメタを使ってデータを受け渡すようにしてください。`ucnpUserData` パラメタ以外でデータを受け渡すことはできません。

可変値について説明します。

- ホスト名

編集環境、または実行環境にある、J2EE サーバマシンのホスト名または IP アドレスです。

- ポート番号

編集環境、または実行環境の Web サーバのポート番号です。

ポート番号が不明な場合は、システム管理者に問い合わせてください。

- カスタム画面プラグイン名

カスタム画面プラグインのひな形生成時に、プラグイン情報プロパティファイルの `userplugin.name` キーに指定した値です。

編集環境および実行環境の場合は、`userplugin.name` キーの指定値についてカスタム画面を開発したユーザに確認してください。

- ユーザ ID

シングルサインオンに使用するユーザ ID です。HTTP リクエストの `com.cosminexus.admin.auth.name` パラメタに設定しておく必要があります。

- パスワード

シングルサインオンに使用するユーザ ID に対応するパスワードです。HTTP リクエストの com.cosminexus.admin.auth.password パラメタに設定しておく必要があります。

1.6.2 基本 URL に指定できるパラメタ

基本 URL にパラメタを指定する場合の形式，および指定できるパラメタの種類について説明します。

(1) 基本 URL に指定できるパラメタの形式

基本 URL に指定するときの形式

基本 URL ?パラメタ名 1=パラメタの値 [&パラメタ名 2=パラメタの値] …]

基本 URL とパラメタは「?」で，パラメタとパラメタは「&」で連結します。「&」で連結することで，複数のパラメタを指定できます。

基本 URL の末尾にパラメタを追加すると，ログイン後に最初に表示する画面を変更できます。また，プラグインやカスタム画面と連携できるようになります。

なお，次の場合は基本 URL にすでにパラメタが含まれているため，基本 URL とパラメタの接続には「?」でなく「&」を指定してください。

- ・ 業務編集画面にアクセスする場合
- ・ カスタム画面にアクセスする場合
- ・ Cosminexus の統合ユーザ管理フレームワークを利用してシングルサインオンする場合

(2) 基本 URL に指定できるパラメタの一覧

基本 URL に指定できるパラメタを次に示します。指定できるパラメタの種類は画面ごとに異なります。

表 1-2 基本 URL に指定できるパラメタ

パラメタ名	パラメタの値	説明	使用可否		
			業務実行画面	業務編集画面	カスタム画面（新規画面）
contentId	業務コンテンツ ID	指定した ID を持つ業務コンテンツを直接開きます。編集可能または読み取り専用のどちらの状態が開くかは，指定した業務コンテンツの状態によって異なります。 業務コンテンツ ID の大文字と小文字は区別されます。業務コンテンツ ID は業務編集画面のメニューから取得します。	○	○	×

パラメタ名	パラメタの値	説明	使用可否		
			業務実行画面	業務編集画面	カスタム画面（新規画面）
contentId	業務コンテンツ ID	また、業務実行画面に [URL 取得] メニューが表示されている場合、メニューを選択すると、contentId に業務コンテンツ ID が指定された URL を取得できます。	○	○	×
open_editor	true	ログイン後に業務編集画面を直接開きます。 このパラメタを省略すると、ログイン後に業務実行画面が表示されます。[編集画面表示] メニューをクリックすることで業務編集画面へ遷移します。	×	○	×
start_editor	true	[編集画面表示] メニュー／[実行画面表示] メニューを表示します。 このパラメタを指定すると、業務実行画面と業務編集画面を切り替えられるようになります。 このパラメタは、実行環境では使用できません。	○	○	×
ucnpCloseBtn	close_only	画面を閉じるボタンの種別を指定します。 「close_only」を指定すると、クリックしてもログアウトをしないで画面を閉じる、[閉じる] ボタンが表示されます。	○	○	×
	logout_close	画面を閉じるボタンの種別を指定します。 「logout_close」を指定すると、クリックしたときにログアウトをしてから画面を閉じる、[閉じる] ボタンが表示されます。	○	○	×
	logout	画面を閉じるボタンの種別を指定します。 「logout」を指定すると、クリックしたときにログアウトをしてからログイン画面に遷移する、[ログアウト] ボタンが表示されます。	○	○	×
ucnpOptions	ユーザプラグイン（入出力プラグインまたは中断再開プラグイン）で利用する値	パラメタの値をプラグインの処理で利用します。URI で使用できない文字をパラメタの値として使用する場合は、必要に応じて URL エンコー	○	×	×

パラメタ名	パラメタの値	説明	使用可否		
			業務実行画面	業務編集画面	カスタム画面（新規画面）
ucnpOptions	ユーザプラグイン（入出力プラグインまたは中断再開プラグイン）で利用する値	ドした値を指定してください。プラグインで利用する値は、プラグインを開発したユーザに問い合わせてください。 また、このパラメタの値をプラグインで利用する方法の詳細は、マニュアル「ナビゲーション プラットフォーム 開発ガイド」を参照してください。 このパラメタに指定できる文字および長さは次のとおりです。 指定できる文字 ASCII 文字。ただし、ASCII コード 0x00～0x1F および 0x7F の文字は除きます。 指定できる値の長さ 文字列長（URL エンコードした文字列長）が 1,024 文字以内の文字列。1,024 文字を超えた場合、トレースファイルに KDCZ10306-W メッセージが出力され、1,024 文字を超えた文字列が無効となります。	○	×	×
ucnpUserData	カスタム画面（新規画面）で利用する値	パラメタの値をカスタム画面（新規画面）の処理で利用します。 利用する値は、新規画面を開発したユーザに問い合わせてください。また、このパラメタの値を新規画面で利用する方法の詳細は、マニュアル「ナビゲーション プラットフォーム 開発ガイド」を参照してください。	×	×	○
ucnpUserPageId	カスタム画面プラグイン名	ログイン後にカスタム画面（新規画面）を表示します。	×	×	○

（凡例）

- ：使用できます。
- ×

1.6.3 パラメタを指定した URL の例

URL に指定するパラメタの組み合わせ例を次に示します。

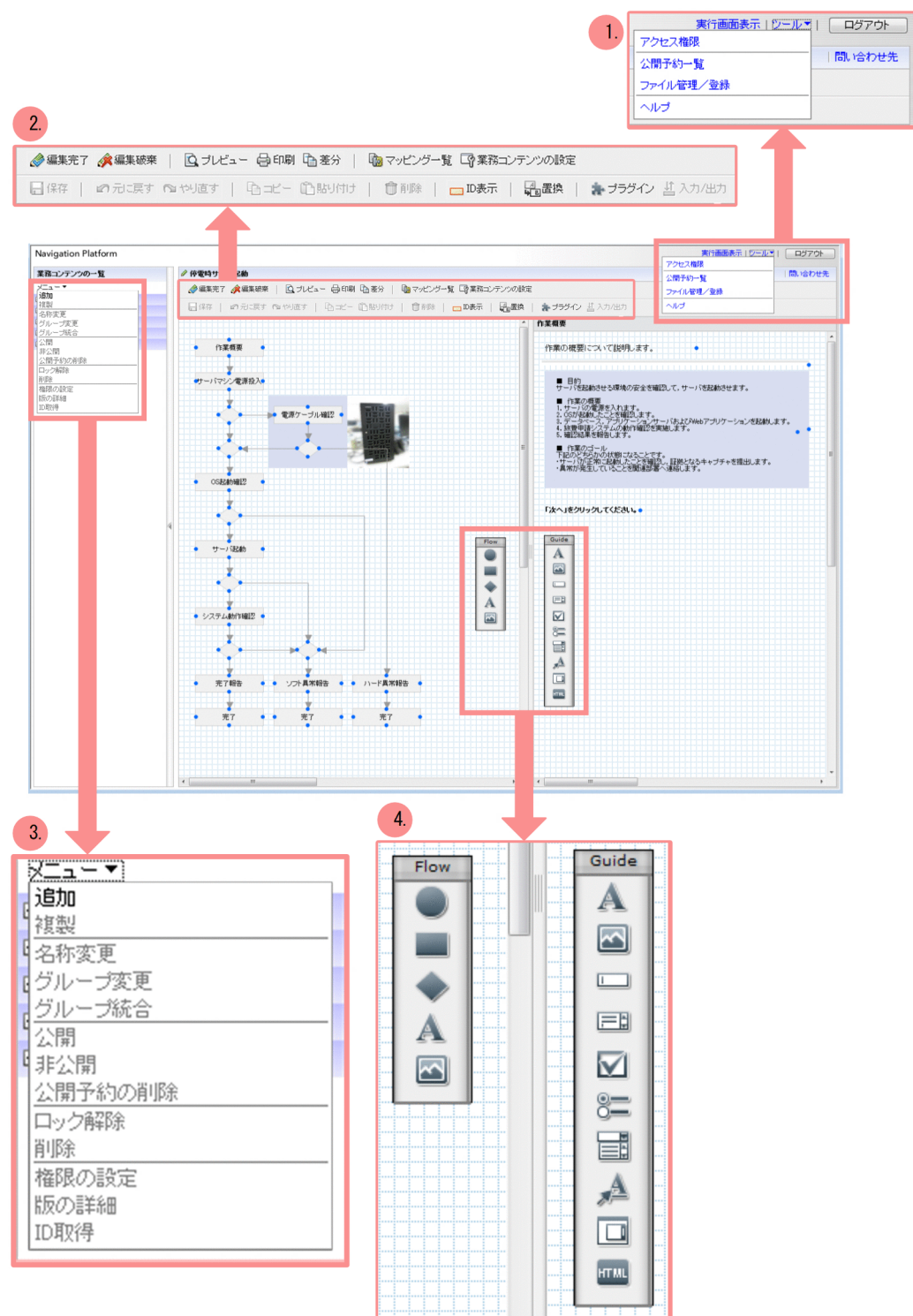
http://ホスト名:ポート番号/ucnpBase/portal/screen/TitlePortlet/portlet/ucnp/
pane/-440b4408440g55S76Z2i/layout_id/default?
open_editor=true&ucnpCloseBtn=logout_close&contentId=業務コンテンツのID

1.7 業務コンテンツを作成するときの基本操作

業務コンテンツを作成するには、まずナビゲーション プラットフォームにログインして、業務編集画面を表示する必要があります。業務編集画面では、業務フロー領域とガイド領域に構成要素（ノードとパーツ）を配置・編集していくことで、業務コンテンツを作成します。

業務編集画面のどの部分を使うと、どのようなことができるのかを、次の図表に示します。

図 1-2 業務編集画面の使用イメージ



図中の 番号	できること	手順の詳細の参照先
1.	業務実行画面への切り替え	2.10.2 業務実行画面を表示する
	画像ファイルなどのアップロード，削除	2.9.6 [ファイル管理/登録] 画面を使用して静的ファイルを格納する

図中の 番号	できること	手順の詳細の参照先
1.	画像ファイルなどのアップロード，削除	2.9.7 [ファイル管理／登録] 画面を使用して静的ファイルを削除する
	公開予約の確認	6.4 業務コンテンツの公開予約一覧を確認する方法について
	ログアウト	1.7.9 ナビゲーションプラットフォームからログアウトする
2.	編集の開始，破棄，完了	1.7.2 業務コンテンツの編集を開始する 1.7.8 業務コンテンツの編集を完了する
	編集操作（保存，コピー，貼り付け，文字列の一括置換，操作の取り消しなど）	2.3.3 業務コンテンツを保存する 7.7 コピーしたノード，パーツをペーストする 7.8 業務コンテンツ内の文字列を一括置換する 7.9 操作を取り消す 7.10 取り消した操作をやり直す
	業務コンテンツの文字サイズの指定	2.7.1 業務コンテンツごとに文字のフォントと文字サイズとボタンサイズを設定する
	業務コンテンツ全体で使えるリンクの設定	2.6.3 関連リンクを設定する
	作成途中の業務コンテンツのプレビュー	2.10.1 業務コンテンツをプレビューする
	業務コンテンツの印刷	6.6.2 業務コンテンツを印刷する
	古い版の業務コンテンツとの差分表示	6.13.1 業務コンテンツを比較して変更点を表示する
	プラグインを使用しているノードの確認	5.13 プラグインを使用している業務コンテンツの設定情報を取得する
	操作モードの切り替え	1.7.7 ガイド領域の操作モードを切り替える
	ノード ID・パーツ ID 表示の切り替え	7.3.3 ノード ID，パーツ ID を確認する
3.	業務コンテンツの追加，複製，削除	2.3.1 業務コンテンツを新規に作成（追加）する 2.3.2 業務コンテンツを複製する 6.2.4 業務コンテンツを削除する
	グループ名の変更	6.5.1 業務コンテンツのグループを変更する 6.5.2 業務コンテンツのグループを統合する
	業務コンテンツの公開，非公開，公開予約	6.1.1 業務コンテンツを公開する 6.2.1 業務コンテンツを非公開にする 6.3.1 業務コンテンツの公開を予約する
	公開予約の確認	6.4 業務コンテンツの公開予約一覧を確認する方法について
	公開予約の削除	6.4.2 業務コンテンツの公開予約を削除する

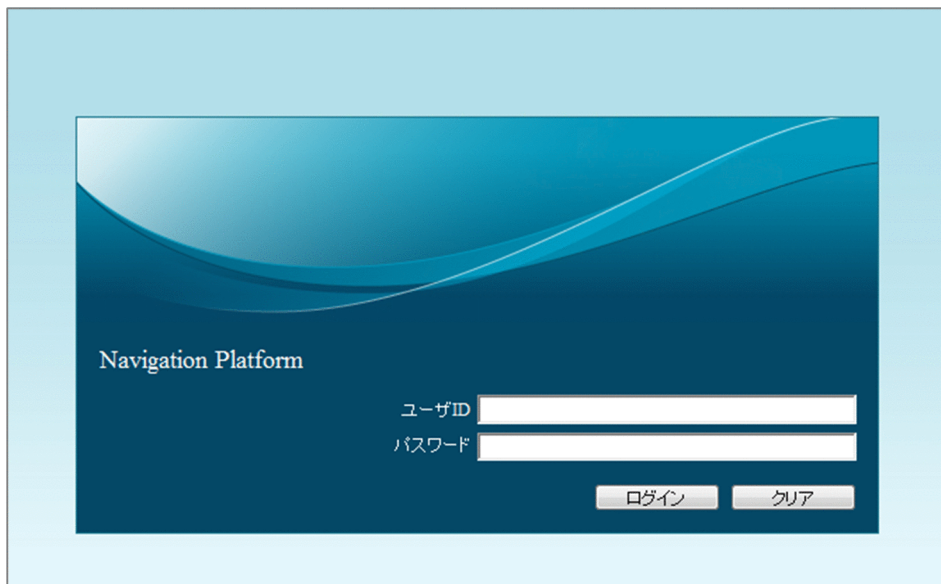
図中の 番号	できること	手順の詳細の参照先
3.	アクセス権の設定, 確認	2.4.1 業務コンテンツにアクセス権グループまたは JP1 資源グループを設定する 6.5.4 業務コンテンツに設定されているアクセス権グループまたは JP1 資源グループを確認する
	業務コンテンツのコメントや, 各版の公開日時の確認	6.12 業務コンテンツのコメントおよび公開日時を確認する
	業務コンテンツ ID の確認	7.3.2 業務コンテンツ ID を確認する
4.	[Flow] パレットの利用	3.5.3 ターミナルノードを配置する 3.6.3 文字列のプロセスノードを配置する 3.7.3 分岐合流ノードを配置する 3.9.3 固定テキストパーツを配置する (業務フロー領域) 3.10.3 画像パーツを配置する (業務フロー領域)
	[Guide] パレットの利用	4.4.3 固定テキストパーツを配置する (ガイド領域) 4.5.3 画像パーツを配置する (ガイド領域) 4.6.3 テキストボックスパーツを配置する 4.7.3 テキストエリアを配置する (ガイド領域) 4.8.3 チェックボックスを配置する (ガイド領域) 4.9.3 ラジオボタンパーツを配置する (ガイド領域) 4.10.4 ドロップダウンパーツを配置する (ガイド領域) (ドロップダウンに親子関係がない場合, または親ドロップダウンの場合) 4.11.3 ハイパーリンクを配置する (ガイド領域) 4.12.3 インラインフレームパーツを配置する (ガイド領域) 4.13.4 HTML パーツを配置する (ガイド領域)

1.7.1 ナビゲーション プラットフォームにログインする

1. Web ブラウザ上でナビゲーション プラットフォームにアクセスするための URL を指定して, ログイン画面を呼び出します。

URL については, 「1.6 ナビゲーション プラットフォームの画面にアクセスするための URL」を参照してください。

2. ユーザ ID とパスワードを入力して, [ログイン] ボタンをクリックします。

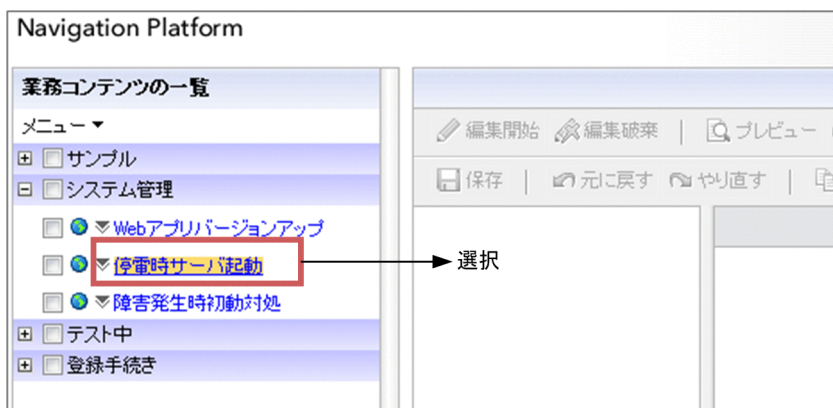


1.7.2 業務コンテンツの編集を開始する

1. 業務実行画面が表示されている場合は、ヘッダ領域の【編集画面表示】メニューをクリックします。



2. 業務編集画面のメニュー領域で、編集したい業務コンテンツをクリックして表示します。



3. ツールバーの【編集開始】ボタンをクリックします。



[Flow] パレットが表示され、業務コンテンツを編集できる状態になります。



メモ

[編集開始] ボタンをクリックしていない場合、[属性の設定] 画面では、各項目がグレースアウトされて入力できません。

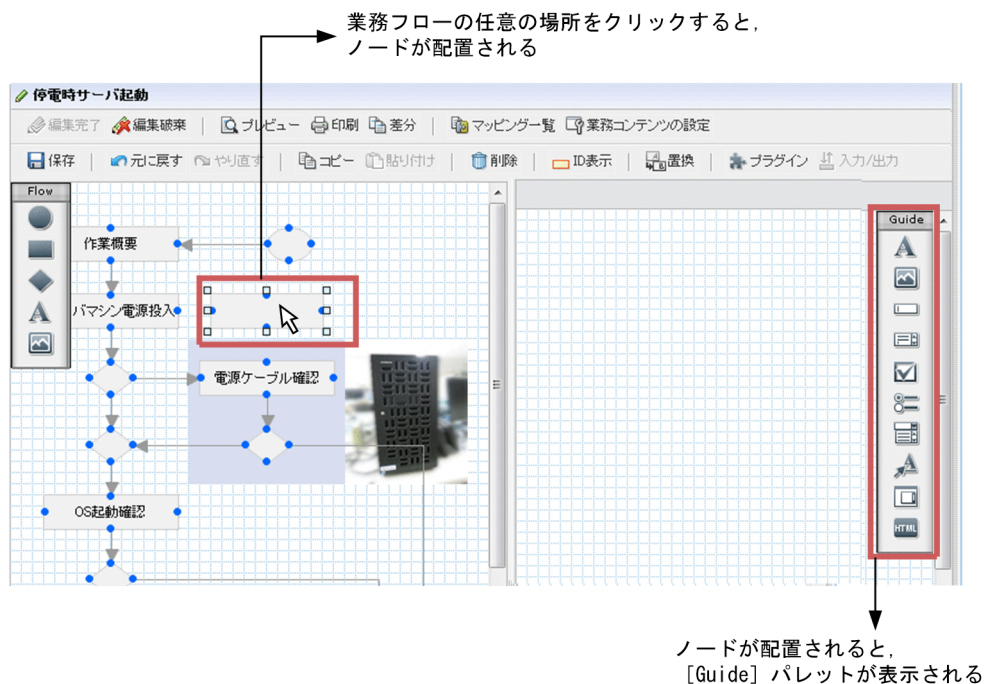
1.7.3 ノードまたはパーツを配置する

1. 業務フロー領域で、[Flow] パレットのボタンをクリックします。

[Flow] パレット



2. 業務フロー領域の任意の場所をクリックします。
クリックした場所にノードまたはパーツが配置されます。

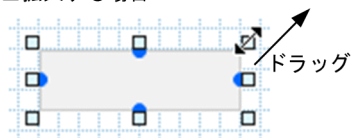


なお、プロセスノードを配置したときは、ガイド領域に [Guide] パレットが表示され、ガイドパーツが配置できるようになります。ガイド領域でのガイドパーツの配置方法も、業務フロー領域でのノードまたはパーツの配置と同じです。

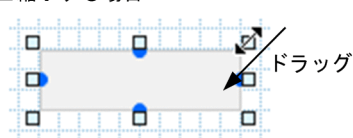
1.7.4 ノードまたはパーツの大きさを変更する

1. 業務フロー領域の場合は大きさを変更するノードまたはフローパーツを、ガイド領域の場合は大きさを変更するガイドパーツをクリックして選択します。
2. ノードまたはパーツの四隅・上下左右にあるハンドル（□）をドラッグします。
ノードまたはパーツが拡大、または縮小されます。

■ 拡大する場合



■ 縮小する場合



1.7.5 ノードまたはパーツの位置を変更する

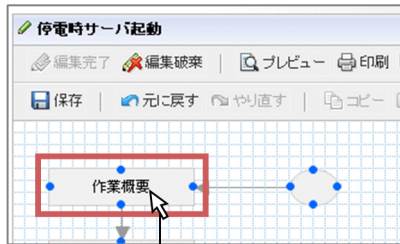
ノードまたはパーツをドラッグして、任意の場所でドロップします。

なお、キーボードを使って位置を変更することはできません。

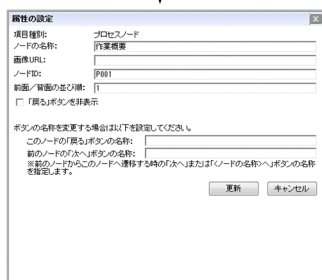
1.7.6 【属性の設定】画面を表示してノードまたはパーツの設定を変更する

1. 属性を変更したいノードまたはパーツをダブルクリックします。

【属性の設定】画面が表示されます。



ノードをダブルクリックすると、
【属性の設定】画面が表示される



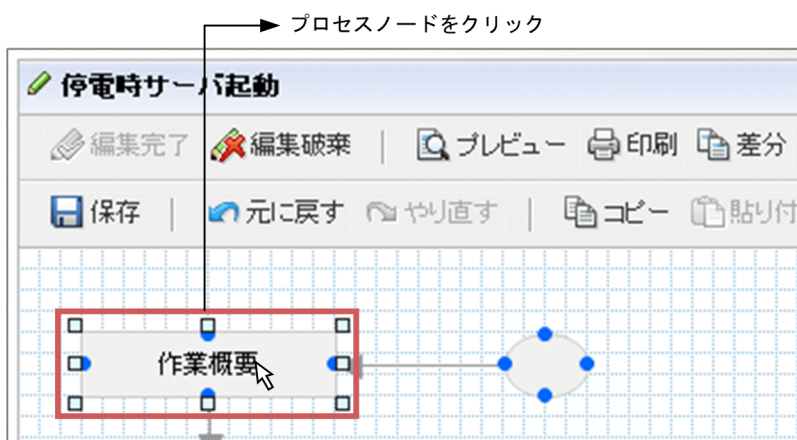
2. ノードまたはフローパーツの属性を入力して、【更新】 ボタンをクリックします。

入力した属性が更新されます。

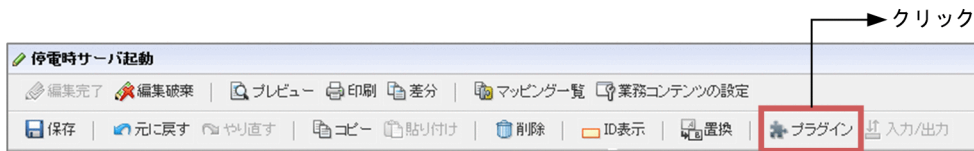
1.7.7 ガイド領域の操作モードを切り替える

ガイド領域には、業務フローに対応するガイドを作成するガイド編集モードと、プラグインの入力元と出力先を設定するマッピングモードがあります。操作モードを切り替える手順を次に説明します。

1. 業務フロー領域で、プロセスノードをクリックします。



2. ツールバーの「プラグイン」ボタンをクリックします。

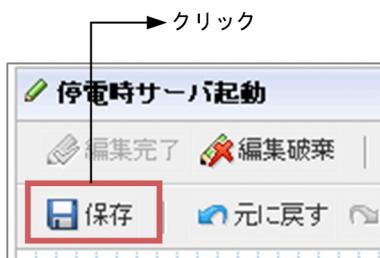


プラグインパーツが表示され、マッピングモードに切り替わります。

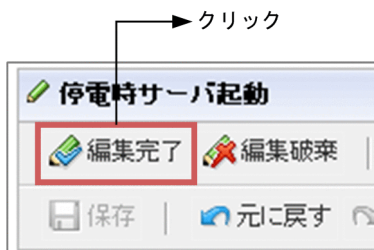
ガイド編集モードに再度切り換える場合は、もう一度「プラグイン」ボタンをクリックします。

1.7.8 業務コンテンツの編集を完了する

1. 業務コンテンツを保存していない場合は、ツールバーの「保存」ボタンをクリックします。



2. ツールバーの「編集完了」ボタンをクリックします。



「コメントの入力」画面が表示されます。

コメントの入力

業務コンテンツの名称: [sample02]停電サーバ起動

コメント:

編集完了 キャンセル

3. 「コメント」テキストボックスに、業務コンテンツの編集内容の概要や、担当者へのコメントなどを入力します。

4. 「コメントの入力」画面の「編集完了」ボタンをクリックします。

編集した内容で業務コンテンツが更新されます。

編集した内容を業務コンテンツに反映したくない場合

「編集破棄」ボタンをクリックすると、これまで編集した内容は破棄され、編集開始前の状態に戻ります。

1.7.9 ナビゲーション プラットフォームからログアウトする

1. 業務編集画面のヘッダ領域にある「ログアウト」ボタンまたは「閉じる」ボタンをクリックします。
業務編集画面が閉じます。「ログアウト」ボタンをクリックした場合は、ログイン画面に戻ります。

注意事項

システム構築時の設定によっては、作業中に「ログアウト」ボタンをクリックすると、作業を中止しても問題ないかどうかを確認するダイアログが表示されます。作業を中止してログアウトする場合は、ダイアログの「OK」ボタンをクリックしてください。

2

業務コンテンツの作成

この章では、業務コンテンツの作成を始める前に確認が必要なポイントや業務編集画面を操作して業務コンテンツを作成する方法について説明します。

2.1 業務コンテンツ作成から公開までの流れ

業務コンテンツは、編集環境で作成し、実行環境で公開します。作成から公開までの流れは次のとおりです。

図 2-1 業務コンテンツを作成して公開するまでの流れ



図中に示した 1.~8.の作業の詳細については、このマニュアルの次の個所で説明しています。

- 1.「1.7.2 業務コンテンツの編集を開始する」
- 2.「2.3.1 業務コンテンツを新規に作成（追加）する」
「2.3.2 業務コンテンツを複製する」
- 3.「2.4 アクセス権グループまたは JP1 資源グループの設定方法」
- 4.「3. 業務フロー領域の作成」

- 5.「4. ガイド領域の作成」
- 6.「5. ガイドパーツ間または外部プログラムとの連携」
- 7.「2.10 業務コンテンツの見た目と動作を確認する方法」
- 8.「6.1 業務コンテンツを公開する方法について」

システム管理者の作業

- 業務コンテンツのエクスポート（図中の 9.）
- 業務コンテンツのインポート（図中の 10.）

また、次の操作もシステム管理者だけに実行権限があります。

- アクセス権グループの新規作成，内容変更

コンテンツ管理者またはコンテンツ作成者（JP1/Base によるユーザ認証を使用する場合）の作業

- 業務コンテンツの追加，複製（図中の 2.）
- 業務コンテンツのアクセス権の変更（図中の 3.）

また、次の操作もコンテンツ管理者またはコンテンツ作成者が実施します。

- 業務コンテンツの削除

ヒント

編集環境と実行環境が同一の場合は、業務コンテンツのエクスポートとインポートは不要です。
業務コンテンツを公開するだけで、利用者が業務コンテンツにアクセスできるようになります。

業務コンテンツ作成の前に、完成した業務コンテンツのイメージをつかむため、サンプルの業務コンテンツを確認することをお勧めします。**サンプルの業務コンテンツ**とは、あらかじめインストールされている作成済みの業務コンテンツのことです。もしサンプルの業務コンテンツのうち、これから作成する業務コンテンツに似ているものがあれば、複製して流用することもできます。

2.1.1 サンプルの業務コンテンツ

ここでは、サンプルの業務コンテンツについて次の内容を説明します。

- サンプルの業務コンテンツの概要
- サンプルの業務コンテンツのインポート手順
- サンプルの静的ファイル
- サンプルの業務コンテンツの注意事項

なお、サンプルの業務コンテンツの見映えは、次の環境を想定して最適化しています。

- Web ブラウザ：Internet Explorer

- ディスプレイのサイズ：17 インチ以上
- 解像度：1,280×1,024 ピクセル

(1) サンプルの業務コンテンツの概要

サンプルの業務コンテンツの概要を次の表に示します。

表 2-1 サンプルの業務コンテンツの概要

項番	名称	概要
1	Web アプリバージョンアップ	Web アプリケーションのシステムをバージョンアップする場合に実施する手順です。
2	停電時サーバ起動	停電によって停止したサーバを起動する手順です。
3	障害発生時初動対処	システムの停止を JP1/IM で検知した時、現状の把握と担当者への情報の引き継ぎを行う場合に実施する手順です。JP1/IM が障害によるシステムの停止を検知した場合に実施します。
4	JP1/IM 自動アクション遅延解消	JP1/IM の自動アクションで実行されるコマンドの遅延について対処し、その対処の結果を管理者へ報告する手順です。JP1/IM がコマンドの遅延を示すエラーを検知した場合に実施します。
5	手動セキュリティパッチ適用	セキュリティパッチの自動更新を設定していないサーバに対し、セキュリティパッチをサーバに手動で適用する場合の手順です。
6	データベース再編成時期判定	データベースの再編成が必要かどうかの判断に使う情報の取得、および判断に応じた対処を実施する手順です。ログファイルにデータベースのページ利用効率の悪化を知らせるメッセージが出力された場合に実施します。

(2) サンプルの業務コンテンツのインポート手順

サンプルの業務コンテンツは、ZIP ファイルでも提供しています。サンプルの業務コンテンツを誤って削除してしまった場合や編集後に元の状態に戻したい場合などに、次のパスの ZIP ファイルをインポートしてください。インポートの作業はシステム管理者に依頼してください。

サンプルの業務コンテンツのパス

ナビゲーション プラットフォームインストールディレクトリ¥sample¥contents¥sample_contents.zip

(3) サンプルの静的ファイル

サンプルの業務コンテンツで使用している装飾用の画像（静的ファイル）は、ほかの業務コンテンツでもそのまま利用できます。サンプルの静的ファイルを利用したい場合は、[属性の設定] 画面で、次のように画像の URL を指定してください。

/ucnp/sample/contents_item/00_common/ファイル名

サンプルの静的ファイルを次に示します。括弧内がファイル名です。

(a) 区切り線 (line.png)

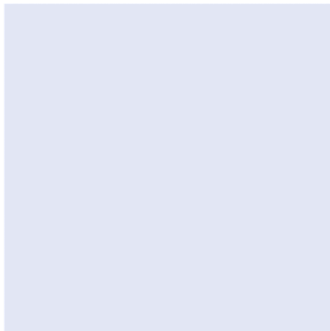
サンプルの業務コンテンツでの利用例

概要と詳細を区切り，説明文を見やすくしています。

応用例

見出しや重要個所を強調するためのアンダーラインとしても利用できます。

(b) 背景 (background.png)



サンプルの業務コンテンツでの利用例

説明文の背景に色を付けることで，文字を読みやすくしています。

(c) 三角のアイコン (icon_branch.png)



サンプルの業務コンテンツでの利用例

分岐条件を示しています。

応用例

箇条書きのアイコンとしても利用できます。

(d) 吹き出しのアイコン (icon_talk.gif)



サンプルの業務コンテンツでの利用例

連絡先を示しています。

(e) 強調のアイコン (icon_point.gif)



サンプルの業務コンテンツでの利用例

確認事項を示しています。

(f) ファイルのアイコン (icon_doc.gif)



サンプルの業務コンテンツでの利用例

システムや資料を示しています。

(g) 見出しのアイコン (icon_button.png)



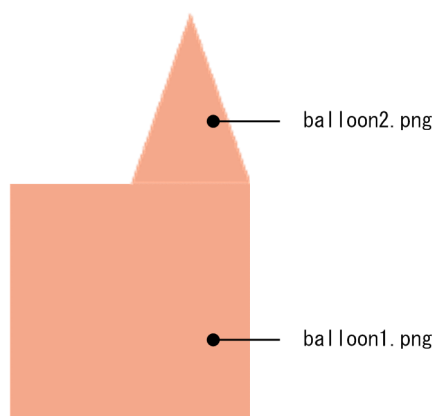
サンプルの業務コンテンツでの利用例

連絡先や確認事項以外の項目を示しています。

応用例

個条書きのアイコンとしても利用できます。

(h) 吹き出し (balloon1.png, balloon2.png)



サンプルの業務コンテンツでの利用例

2種類の画像を組み合わせることで吹き出しを作成し、業務コンテンツ作成のTIPSの説明を目立たせています。

応用例

balloon1.png 単独で背景画像として利用することもできます。

(4) サンプルの業務コンテンツの注意事項

サンプルの業務コンテンツについての注意事項を次に示します。

- 利用者が誤って業務コンテンツを操作することを防ぐため、ナビゲーションプラットフォームの運用を開始する際には、サンプルの業務コンテンツは削除するか、非公開に設定することをお勧めします。

- サンプルの業務コンテンツに記載されている内容は、特定の条件のシステムを想定しており、汎用的な運用手順を保証するものではありません。サンプルの業務コンテンツを流用する場合、実際の運用を十分考慮して編集してください。
- デフォルトの設定で構築された環境の場合、業務実行画面ではターミナルノードは表示されません。一部のサンプルの業務コンテンツでは、ターミナルノードが表示されていないと、業務フローの完了位置がわかりにくいことがあります。業務実行画面でターミナルノードを表示させたい場合は、システム管理者に依頼してください。

2.2 業務コンテンツを作成する前に確認すること

必ず確認する項目

- システムの稼働状況
- 与えられているアクセス権の種別（役割または JP1 権限レベル）

システム管理者に確認が必要な項目

- 業務コンテンツ参照時に使用される Web ブラウザと実行環境の設定内容
- テキストの入力規則の設定可否

事前に確認した方がよい項目

- フローの構成
- 画面に表示できる文字
- iPad 向け業務コンテンツを作成するかどうか

2.2.1 業務コンテンツを作成する前に必ず確認すること

業務コンテンツを作成する前に、必ず次のことを確認してください。

- 編集環境が起動していること
- コンテンツ管理者、コンテンツ作成者（JP1/Base によるユーザ認証を使用する場合）、またはコンテンツ編集者の権限が付与されていること

編集環境のシステムが停止していると、正しい URL を入力してもナビゲーション プラットフォームの画面にアクセスできません。また、あらかじめ適切なアクセス権が付与されていないと、ログインしても業務コンテンツを作成または編集できない場合があります。

システムの起動状態およびアクセス権の設定については、システム管理者にお問い合わせください。

2.2.2 業務コンテンツ参照時の Web ブラウザと実行環境の設定内容

業務コンテンツ作成用の Web ブラウザと、公開された業務コンテンツ参照用の Web ブラウザの種類が異なる場合、参照用の Web ブラウザで業務コンテンツの見た目と動作を確認することを推奨します。参照時の Web ブラウザが Mobile Safari の場合は、[「2.2.6 iPad 向け業務コンテンツを作成する場合の注意事項」](#)も参照してください。

さらに、実行環境の設定によっては、次に示す動作や表示が編集環境と異なる可能性があります。業務コンテンツを作成する前に、システム管理者に実行環境での設定内容を確認することを推奨します。

- ノードの色

- ・ ノード間の直接遷移の可否
- ・ 業務コンテンツが完了するときのメッセージの有無，内容
- ・ メニュー領域の表示有無，見た目，業務コンテンツ表示順序
- ・ グループ名の使用可否
- ・ ボタンの幅

2.2.3 テキストの入力規則の設定可否

業務コンテンツで使用するテキストボックスまたはテキストエリアに，画面操作で正規表現を使った入力規則を設定してよいかどうかは，実行環境のシステムの設定と運用によって異なるため，システム管理者に確認が必要です。

システム管理者に問い合わせて，実行環境が次の条件に当てはまる場合は，画面から入力規則を設定しないでください。

- ・ 業務フローのすべてのノードに対して直接遷移できる設定になっている場合
画面から設定する入力規則は，一度遷移したことがあるノードにだけ直接遷移できる，または直接遷移をしない環境だけで有効です。

2.2.4 フローの構成

ナビゲーション プラットフォームでは，一度の分岐で最大3パターンの分岐先を持つフローを作成できます。分岐合流ノードを使用する場合は，次の点に注意が必要です。

初回表示時の入力・選択結果が維持される

プロセスノードに対応するガイドパーツで表示される値は，ガイドパーツごとに一つの値が共有されます。このため，合流ノードを含むフローの場合，一度表示したプロセスノードを別のルートを通して再度表示させると，以前に表示されたときの値がそのまま表示されます。

条件に応じて表示する値を変更するには，入出力プラグインが必要です。条件に応じて表示する値を変更する入出力プラグインの作成は，開発者に依頼してください。

ループする構成に関する注意

分岐合流ノードを使用してループする業務フローを作成すると，次のような問題が発生するおそれがあります。ループしないフローを作成することを推奨します。

- ・ 業務実行画面で，一度遷移したプロセスノードにクリック操作で戻ろうとすると，利用者は遷移した経路（実行した工程）がわからなくなる。
- ・ 無限にループする可能性があるフローを作成すると，ナビゲーション プラットフォームの動作が遅くなる。

順序どおりにフローを印刷するための設定

印刷時、フローはプロセスノード ID の昇順に印刷されます。フローを順序どおりに印刷するためには、ID が昇順になるようにプロセスノードを並べる必要があります。

最初からプロセスノード ID を意識してフローを作成するか、フローの構成が確定したあとに、まとめてプロセスノード ID を見直すようにしてください。

2.2.5 画面に表示できる文字に関する注意事項

ナビゲーション プラットフォームが表示できる文字のフォントは、Internet Explorer と iPad で異なります。Internet Explorer では MS P ゴシックが、iPad の場合はヒラギノ角ゴが表示できます。また、MS P ゴシック、ヒラギノ角ゴのどちらもプロポーショナルフォントのため、文字によって幅が異なります。

MS P ゴシックまたはヒラギノ角ゴ以外のフォントを表示したい場合は、画像で代用する必要があります。ただし、固定テキストパーツは、属性を変更することによって表示する文字のサイズ、色、および太字の文字装飾を変えられます。

固定テキストパーツ以外のパーツが表示する文字（ハイパーリンクの文字列やドロップダウンの選択項目など）は、フォント、サイズ、色、文字装飾をデフォルトから変更することはできません。テキストボックスおよびテキストエリアで利用者が入力する文字も、デフォルト値から変更はできません。

2.2.6 iPad 向け業務コンテンツを作成する場合の注意事項

iPad では業務編集画面を利用できないため、iPad 向けの業務コンテンツも Internet Explorer を利用できる環境で作成します。作成時と公開時とで利用する Web ブラウザが異なるため、見た目や動作に差異があることを考慮する必要があります。また、iPad 向けの業務コンテンツでは使用できないパーツや機能もあります。

iPad 向けの業務コンテンツを作成するときに注意が必要なことについて、詳細を次に示します。

(1) iPad 向け業務コンテンツでは使用できないパーツ

次に示すパーツは、iPad 向け業務コンテンツでは使用しないでください。使用した場合の動作は保証されません。

- HTML パーツ
- JP1/AO URL 出力プラグインパーツ
ただし、タスクの状態を確認する画面については、iPad 向け業務コンテンツで使用できます。
- JP1 イベント対処状況変更プラグインパーツ
- JP1 イベント情報出力プラグインパーツ
- JP1/IM-SS URL 出力プラグインパーツ

(2) iPad 向け業務コンテンツで使わない方がいいパーツ

次に示すパーツは、設定や動作に制限があるため、iPad 上で正常に表示されるかどうかを特に注意して確認する必要があります。ほかのパーツで代用できる場合は、使わないことを推奨します。

- テキストボックスパーツ

- テキストエリアパーツ

テキストボックスおよびテキストエリアでは、表示されていない部分へカーソルを移動できません。そのため、入力文字数に対して十分なサイズのテキストボックスまたはテキストエリアが必要になります。場合によっては、入力できる最大文字数を制限する設定をしておくなどの工夫をしてください。

- インラインフレームパーツ

インラインフレームの中に表示されるボタンやリンクをタップしても、動作しません。また、インラインフレーム内はスクロールできないため、スクロールなしで全体が表示されるサイズのインラインフレームが必要になります。なお、Web サイト側の設定によっては、インラインフレームに指定した Web サイトが表示されないこともあります。

(3) iPad で参照したときに見た目が異なるパーツ

次に示すパーツは、Internet Explorer と Mobile Safari とでは大きさやデザインなどの見た目が異なります。

- 画像パーツ（プロセスノードに画像を表示する場合を含む）

- Mobile Safari で参照すると画質が低下することがあります。その場合は、画像サイズを変更しない設定にするか、2 倍のサイズの画像を指定してください。
- 指定した URL にアクセスできないときに、Internet Explorer では「×」印のアイコンが表示されますが、Mobile Safari では枠だけが表示されます。

- テキストボックスパーツ

- テキストエリアパーツ

- ラジオボタンパーツ

- チェックボックスパーツ

- ドロップダウンパーツ

ドロップダウンパーツは、Internet Explorer で表示したときよりも Mobile Safari で表示したときの方が、サイズが大きくなります。そのため、ほかのパーツとの間隔を広めに確保するなど、特に注意が必要です。

- インラインフレームパーツ

- フレーム枠を表示する設定にしても、Mobile Safari では右と下のフレーム枠は表示されません。また、インラインフレーム内は、右と下が 3px ずつ非表示になります。
- 指定した URL にアクセスできないとき、Internet Explorer ではページが見つからないことを示すページが表示されますが、Mobile Safari では何も表示されません。

フレーム枠を表示しない設定（[属性の設定] 画面で [フレーム枠あり] チェックボックスをチェックしない）にした場合、インラインフレームパーツの部分は何も表示されない状態になるため、注意が必要です。

(4) iPad で参照したときに無効になるパーツの設定

画像パーツおよびハイパーリンクパーツには、ツールチップを設定できますが、iPad で参照するとツールチップは表示されません。

画像は、ツールチップがなくても問題のないものを使用するようにしてください。ハイパーリンクは、リンクの文字列だけでリンク先が判断できるような工夫が必要です。

(5) iPad で参照したときの文字

文字のフォントは、Internet Explorer で MS P ゴシックだったものが、Mobile Safari ではヒラギノ角ゴになります。ヒラギノ角ゴフォントの方が、文字の幅や行間が広がる傾向があります。そのため、文字を表示するパーツは、文字よりもパーツのサイズを大きめに作成してください。Internet Explorer の場合と比較して、幅と高さが 2 倍になるように作成するのが目安です。

(6) ノードの直接遷移ができる環境で iPad 向け業務コンテンツを作成するときの設定

ノードの直接遷移ができる環境で iPad 向け業務コンテンツを作成するときは、プロセスノードの前面／背面の並び順の設定値に「70」未満の値を設定する必要があります。「70」以上の値を設定すると、iPad で参照したときにプロセスノードをクリックできないおそれがあります。

2.3 業務コンテンツの作成方法

業務コンテンツの作成は、コンテンツ管理者またはコンテンツ作成者（JP1/Base によるユーザ認証を使用する場合）の権限を持つユーザが行います。業務コンテンツを作成して保存する方法は、次の 2 種類です。

- 新規に追加する
- 作成済みの業務コンテンツを複製して流用する

メモ

ほかの環境で作成した業務コンテンツをインポートして流用することもできます。インポート作業は、システム管理者に依頼してください。

2.3.1 業務コンテンツを新規に作成（追加）する

1. 業務編集画面のメニュー領域で、[追加] メニューを選択します。

[業務コンテンツの追加] 画面が表示されます。

2. 新規に追加する業務コンテンツの名称を入力します。

次のことはできません。

- ほかの業務コンテンツと同じ名称を入力すること
- 128 バイトを超える文字列を入力すること（全角の場合は 42 文字以内で入力してください）
- 制御文字（ASCII コードの 0x00～0x1F と 0x7F）を含む文字列を入力すること

ここで入力した名称を変更したい場合は、「[6.8.2 業務コンテンツの名称を変更する](#)」を参照してください。

3. 新規に追加する業務コンテンツのグループ名称を入力します。

ここで入力したグループ名称を変更したい場合は、「[6.5.1 業務コンテンツのグループを変更する](#)」および「[6.5.2 業務コンテンツのグループを統合する](#)」を参照してください。

4. 新規に追加する業務コンテンツに設定するアクセス権グループまたは JP1 資源グループを変更します。

アクセス権グループ名をクリックすると [アクセス権グループの確認] 画面が表示されて、アクセス権グループの定義内容を確認できます。

5. [OK] ボタンをクリックします。

新規に追加された業務コンテンツがメニュー領域に表示されます。

なお、新規に追加された業務コンテンツには、内容がありません。「[3. 業務フロー領域の作成](#)」および「[4. ガイド領域の作成](#)」を参照して、業務の内容を作成する必要があります。

2.3.2 業務コンテンツを複製する

1. 複製元となる業務コンテンツが保存済みであることを確認します。
2. 業務編集画面のメニュー領域で、複製したい業務コンテンツのチェックボックスをチェックします。
複数の業務コンテンツを一度に複製したい場合は、複製したい業務コンテンツのチェックボックスをすべてチェックしてください
3. [複製] メニューを選択します。
[業務コンテンツの複製] 画面が表示されます。
4. 複製後の業務コンテンツの名称を入力します。
次のことはできません。
 - ほかの業務フローと同じ名称を入力すること
 - 128 バイトを超える文字列を入力すること（全角の場合は 42 文字以内で入力してください）
 - 制御文字（ASCII コードの 0x00～0x1F と 0x7F）を含む文字列を入力すること
5. 必要に応じて、複製後の業務コンテンツのグループ名称を変更します。
6. 必要に応じて、複製後の業務コンテンツに設定するアクセス権グループまたは JP1 資源グループを変更します。
アクセス権グループ名をクリックすると [アクセス権グループの確認] 画面が表示されて、アクセス権グループの定義内容を確認できます。
7. [OK] ボタンをクリックします。
複製された業務コンテンツがメニュー領域に表示されます。
複数の業務コンテンツを選択した場合は、複製された業務コンテンツの名称は「複製元の業務コンテンツの名称のコピー n 」（ n は 1 以上の整数）となります。ただし、複製後の業務コンテンツの名称が上限値の 128 バイトを超えた場合、128 バイト以下になるよう自動的に名称が短縮されます。
なお、複製された業務コンテンツの内容は、複製元の内容と同じです。「[3. 業務フロー領域の作成](#)」および「[4. ガイド領域の作成](#)」を参照して、業務の内容を編集する必要があります。

2.3.3 業務コンテンツを保存する

業務コンテンツは、次のタイミングで保存する必要があります。

- 業務コンテンツの編集を完了する前
- 業務コンテンツを複製する前
- 業務コンテンツをプレビューする前
- 業務コンテンツを印刷する前

- 業務コンテンツの差分を確認する前
- プラグインパーツのマッピングに関する情報を出力する前
- 業務コンテンツの設定を変更する前
- ほかの業務コンテンツを参照する前

業務コンテンツを保存する手順を示します。

1. 業務編集画面のツールバーで、  保存 （[保存] ボタン） をクリックします。

業務コンテンツが保存されたというメッセージが表示されます。

2. [OK] ボタンをクリックします。

業務コンテンツに対する変更が保存されます。

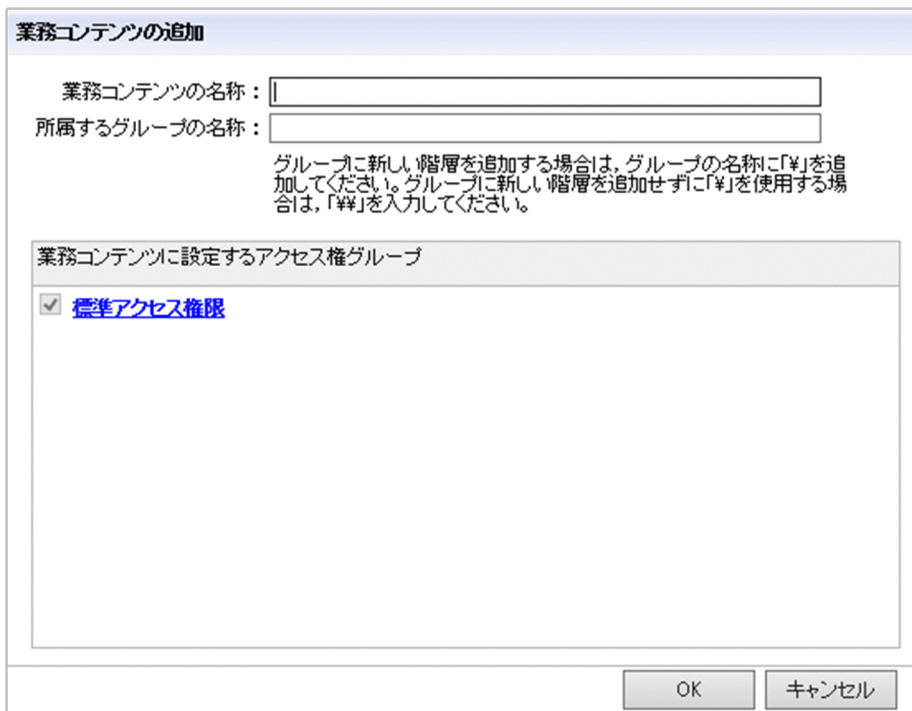
ヒント

業務コンテンツは、保存するだけでは編集内容が反映されません。保存後、編集完了の操作が必要です。詳細は「[1.7.8 業務コンテンツの編集を完了する](#)」を参照してください。

2.3.4 [業務コンテンツの追加] 画面の項目

[業務コンテンツの追加] 画面を次に示します。

図 2-2 [業務コンテンツの追加] 画面



業務コンテンツの追加

業務コンテンツの名称:

所属するグループの名称:

グループに新しい階層を追加する場合は、グループの名称に「¥」を追加してください。グループに新しい階層を追加せずに「¥」を使用する場合は、「¥¥」を入力してください。

業務コンテンツに設定するアクセス権グループ

☒ 標準アクセス権限

OK キャンセル

[業務コンテンツの追加] 画面の各項目について説明します。

(1) [業務コンテンツの名称] テキストボックス

追加する業務コンテンツの名称を、128 文字以内の文字列で入力します。

(2) [所属するグループの名称] テキストボックス

追加する業務コンテンツのグループ名※を、128 文字以内の文字列で入力します。

注※

グループ名に「¥」が含まれる場合、1 文字の「¥」としてカウントされます。

システム構築時の設定によっては、ほかのグループ名または複製元の業務コンテンツのグループ名がデフォルトで表示されることもあります。

(3) 業務コンテンツに設定するアクセス権グループ

追加する業務コンテンツに設定するアクセス権グループのチェックボックスを一つ以上選択します。システム管理者としてログインしている場合は、すべてのアクセス権グループが表示されます。コンテンツ管理者としてログインしている場合は、割り当てられた役割が「コンテンツ管理者」になっているアクセス権グループが表示されます。

アクセス権グループの名称をクリックすると、[アクセス権グループの確認] 画面が表示されて、アクセス権グループの定義内容を参照できます。

なお、JP1/Base によるユーザ認証を利用している場合は、この項目の代わりに [業務コンテンツに設定する JP1 資源グループ] が表示されます。

(4) 業務コンテンツに設定する JP1 資源グループ

追加する業務コンテンツに設定する JP1 資源グループのチェックボックスを一つ以上選択します。コンテンツ管理者またはコンテンツ作成者としてログインしている場合は、割り当てられた JP1 権限レベルが「HNP_Admin」または「HNP_Creator」になっている JP1 資源グループが表示されます。

システム管理者、または、システム全体に対して権限を持つコンテンツ作成者としてログインしている場合は、追加する業務コンテンツに設定する JP1 資源グループの名称をテキストボックスに入力して、[追加] ボタンをクリックします。

なお、この項目は JP1/Base によるユーザ認証で構築されている環境の場合だけ表示されます。

(5) [OK] ボタン

クリックすると、設定した内容の業務コンテンツが追加されて、[業務コンテンツの追加] 画面が閉じます。

(6) 【キャンセル】 ボタン

クリックすると、【業務コンテンツの追加】画面が閉じます。業務コンテンツは追加されません。

2.3.5 【業務コンテンツの複製】 画面の項目

【業務コンテンツの複製】画面を次に示します。

図 2-3 【業務コンテンツの複製】画面（複製元の業務コンテンツが一つの場合）

業務コンテンツの複製

業務コンテンツの名称：

所属するグループの名称：

グループに新しい階層を追加する場合は、グループの名称に「¥」を追加してください。グループに新しい階層を追加せずに「¥」を使用する場合は、「¥¥」を入力してください。

業務コンテンツに設定するアクセス権グループ

☒ 標準アクセス権限

OK キャンセル

【業務コンテンツの複製】画面の各項目について説明します。

(1) 【業務コンテンツの名称】 テキストボックス

複製後の業務コンテンツの名称を、128 文字以内の文字列で入力します。デフォルトの名称として「複製元の業務コンテンツの名称のコピー」が表示されます。ただし、「複製元の業務コンテンツの名称のコピー」が上限値の 128 文字を超えた場合は、128 文字以下になるよう自動的に名称が短縮されます。

なお、複数の業務コンテンツをまとめて複製する場合は、自動的に名称が決まるため、入力できません。この場合、システム構築時の設定によっては、業務コンテンツの名称を一意にするために、複製後の業務コンテンツの名称の末尾に自動的に数字が追加されます。

(2) 〔所属するグループの名称〕 テキストボックス

複製後の業務コンテンツのグループ名※を、128 文字以内の文字列で入力します。ただし、複数の業務コンテンツをまとめて複製する場合は、複製元と同じグループまたはデフォルトのグループが自動的に設定されるため、入力はできません。

注※

グループ名に「¥」が含まれる場合、1 文字の「¥」としてカウントされます。

システム構築時の設定によっては、ほかのグループ名または複製元の業務コンテンツのグループ名がデフォルトで表示されることもあります。

(3) 業務コンテンツに設定するアクセス権グループ

複製後の業務コンテンツに設定するアクセス権グループのチェックボックスを一つ以上選択します。システム管理者としてログインしている場合は、すべてのアクセス権グループが表示されます。コンテンツ管理者としてログインしている場合は、割り当てられた役割が「コンテンツ管理者」になっているアクセス権グループが表示されます。

アクセス権グループの名称をクリックすると、〔アクセス権グループの確認〕画面が表示されて、アクセス権グループの定義内容を参照できます。

なお、JP1/Base によるユーザ認証を利用している場合は、この項目の代わりに〔業務コンテンツに設定する JP1 資源グループ〕が表示されます。

(4) 業務コンテンツに設定する JP1 資源グループ

複製後の業務コンテンツに設定する JP1 資源グループのチェックボックスを一つ以上選択します。コンテンツ管理者またはコンテンツ作成者としてログインしている場合は、割り当てられた JP1 権限レベルが「HNP_Admin」または「HNP_Creator」になっている JP1 資源グループが表示されます。

システム管理者、または、システム全体に対して権限を持つコンテンツ作成者としてログインしている場合は、複製後の業務コンテンツに設定する JP1 資源グループの名称をテキストボックスに入力して、〔追加〕ボタンをクリックします。

なお、この項目は JP1/Base によるユーザ認証で構築されている環境の場合だけ表示されます。

(5) 〔OK〕 ボタン

クリックすると、設定した内容が業務コンテンツに設定されて、〔業務コンテンツの複製〕画面が閉じます。

(6) 〔キャンセル〕 ボタン

クリックすると、設定した内容が業務コンテンツに設定されないで、〔業務コンテンツの複製〕画面が閉じます。

2.4 アクセス権グループまたは JP1 資源グループの設定方法

業務コンテンツにアクセス権グループまたは JP1 資源グループを設定する手順および使用する画面について説明します。

2.4.1 業務コンテンツにアクセス権グループまたは JP1 資源グループを設定する

コンテンツ管理者として定義されているアクセス権グループまたは JP1 資源グループは、業務コンテンツに設定することができます。アクセス権グループまたは JP1 資源グループの定義内容に従って、業務コンテンツを編集または参照できるユーザが決まります。アクセス権グループまたは JP1 資源グループを設定するタイミングは、次のどちらかです。

1. 業務コンテンツを作成（追加または複製）するタイミングで設定する
2. すでにメニュー領域に表示されている作成済みの業務コンテンツに対して、任意のタイミングで設定を変更する

手順 1.については、「[2.3.1 業務コンテンツを新規に作成（追加）する](#)」および「[2.3.2 業務コンテンツを複製する](#)」を参照してください。ここでは、手順 2.を説明します。

1. 業務編集画面のメニュー領域で、アクセス権グループまたは JP1 資源グループを設定したい業務コンテンツのチェックボックスをチェックします。

業務コンテンツが選択されます。

注意事項

業務コンテンツは一つだけ選択してください。チェックボックスを複数チェックした場合、チェックボックスをチェックした業務コンテンツのいちばん上のものだけが対象になります。

2. メニュー領域で「権限の設定」メニューまたは「資源の設定」メニューを選択します。

「権限の設定」画面または「資源の設定」画面が表示されます。

3. 画面に表示されているチェックボックスを 1 個以上選択します。

JP1/Base によるユーザ認証を利用している場合で、システム管理者としてログインしているときは、JP1 資源グループの名称を入力して「追加」ボタンをクリックしてください。

なお、アクセス権グループの場合は、定義内容の詳細を確認できます。必要に応じてアクセス権グループの名称をクリックしてください。

4. [OK] ボタンをクリックします。

選択したアクセス権グループまたは JP1 資源グループが業務コンテンツに設定されて、「権限の設定」画面または「資源の設定」画面が閉じます。

2.4.2 【権限の設定】画面の項目

【権限の設定】画面を次に示します。

図 2-4 【権限の設定】画面

権限の設定

業務コンテンツの名称: [sample02]停電時サーバ起動

業務コンテンツに設定するアクセス権グループ

☒ 標準アクセス権限

☐ システム管理部

OK キャンセル

【権限の設定】画面の各項目について説明します。

(1) アクセス権グループの名称

業務コンテンツに設定できるアクセス権グループの名称です。名称をクリックすると、【アクセス権グループの確認】画面が表示されて、アクセス権グループの定義内容を参照できます。チェックボックスを選択すると、選択したアクセス権グループが業務コンテンツに設定されます。

業務コンテンツに設定されているアクセス権グループがすべて表示されますが、ユーザの役割によって選択できるアクセス権グループが異なります。ただし、設定できるアクセス権グループが一つしかない場合は、選択された状態で非活性になっています。

システム管理者の場合

表示されているすべてのアクセス権グループを選択できます。

コンテンツ管理者の場合

コンテンツ管理者として登録されているアクセス権グループだけを選択できます。

コンテンツ編集者の場合

業務コンテンツに設定されているアクセス権グループすべてが選択された状態で、非活性になっています。

(2) [OK] ボタン

クリックすると、チェックボックスを選択したアクセス権グループが業務コンテンツに設定されて、[権限の設定] 画面が閉じます。

(3) [キャンセル] ボタン

クリックすると、アクセス権グループが業務コンテンツに設定されないで、[権限の設定] 画面が閉じます。

2.4.3 [資源の設定] 画面の項目

[資源の設定] 画面を次に示します。

図 2-5 [資源の設定] 画面（システム全体に対して HNP_Admin 権限および HNP_Creator 権限の両方を持たないユーザが表示した場合）

資源の設定

業務コンテンツの名称: 停電時サーバ起動

業務コンテンツに設定されているJP1資源グループ

- ☒ HNP
- ☒ TEST

閉じる

図 2-6 「資源の設定」画面（システム全体に対して HNP_Admin 権限または HNP_Creator 権限のどちらかを持つユーザが表示した場合）

資源の設定

業務コンテンツの名称: 停電時サーバ起動

業務コンテンツに設定するJP1資源グループ

追加

JP1資源グループ	
HNP	削除
TEST	削除

OK キャンセル

「資源の設定」画面の各項目について説明します。

(1) チェックボックス

業務コンテンツに設定したい JP1 資源グループのチェックボックスを選択します。業務コンテンツに設定されている JP1 資源グループがすべて表示されますが、ユーザの JP1 権限レベルによって選択できる JP1 資源グループが異なります。

コンテンツ管理者またはコンテンツ作成者の場合

コンテンツ管理者またはコンテンツ作成者として登録されている JP1 資源グループだけを選択できます。

コンテンツ編集者の場合

業務コンテンツに設定されている JP1 資源グループすべてが選択された状態で、非活性になっています。

(2) テキストボックスと「JP1 資源グループ」一覧

業務コンテンツに設定したい JP1 資源グループの名称をテキストボックスに入力して、「追加」ボタンをクリックします。一覧に表示されている JP1 資源グループのうち、不要なものがあれば、対応する「削除」ボタンをクリックすると、その JP1 資源グループの業務コンテンツに対する設定を解除できます。

(3) 「OK」ボタン

クリックすると、チェックボックスを選択した JP1 資源グループ、または一覧に表示されている JP1 資源グループだけが業務コンテンツに設定されて、「資源の設定」画面が閉じます。

(4) 【キャンセル】 ボタン

クリックすると、[資源の設定] 画面が閉じます。業務コンテンツに JP1 資源グループは設定されません。

2.5 業務コンテンツの作成に使用する画面

完成した業務コンテンツを確認するための業務実行画面、および業務コンテンツを作成するための業務編集画面、業務コンテンツの編集完了後に表示される［コメント入力］画面について説明します。

業務実行画面および業務編集画面は、ヘッダ領域、メニュー領域、業務フロー領域、およびガイド領域から構成されています。

2.5.1 業務実行画面の項目

業務実行画面の項目について、領域ごとに説明します。

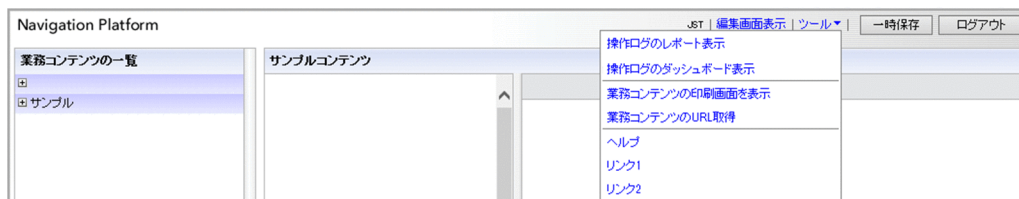
メモ

システム構築時の設定によっては、メニュー領域および業務フロー領域は表示されません。

(1) 業務実行画面のヘッダ領域

業務実行画面のヘッダ領域の表示例を次の図に示します。

図 2-7 ヘッダ領域の表示例（業務実行画面）



各項目の詳細を説明します。

タイムゾーン

ナビゲーション プラットフォームが適用しているタイムゾーンが表示されます。

ただし、システム構築時の設定によっては、このメニューは表示されません。

［ツール］メニュー

選択すると、［操作ログのレポート表示］メニューなどが表示されます。

また、システム構築時の設定によって、メニューをカスタマイズできます。例えば、連携先システムのヘルプ画面を開くメニューを表示させると便利です。

ただし、システム構築時の設定やログインユーザによっては、［ツール］メニューは表示されません。

［操作ログのレポート表示］メニュー

選択すると、業務の実行状況についてまとめたレポートを表示するための画面が、別ウィンドウで表示されます。

ただし、システム構築時の設定によっては、このメニューは表示されません。

[操作ログのダッシュボード表示] メニュー

選択すると、操作ログの解析結果を表示するためのダッシュボード画面が、別ウィンドウで表示されます。

ただし、システム構築時の設定によっては、このメニューは表示されません。

また、ダッシュボード画面へのアクセスが許可されていないユーザの場合、このメニューは表示されません。

[業務コンテンツの印刷画面を表示] メニュー

選択すると、現在表示中のメニュー領域で選択した業務コンテンツの業務フロー領域とガイド領域を印刷するための画面が、別ウィンドウで表示されます。

ただし、システム構築時の設定によっては、このメニューは表示されません。

[業務コンテンツの URL 取得] メニュー

選択した業務コンテンツを表示する URL が取得できます。例えば、このメニューで取得した URL をブックマークすると、特定の業務コンテンツをブックマークから直接参照できるようになり便利です。

なお、システムの設定によっては、このメニューは表示されません。

[ヘルプ] メニュー

選択すると、ヘルプが表示されます。システム構築時の設定によっては、このメニューは表示されません。

リンク 1~9 メニュー

選択すると、システム構築時に設定したリンクが表示されます。また、表示するリンクの数およびリンクの表示文字列はシステム構築時の設定によって変更できます。なお、表示するリンクの数は最大で 9 個です。

[編集画面表示] メニュー

選択すると、業務編集画面に切り替わります。編集の権限がない場合、または編集用の URL でアクセスしていない場合は、このメニューは表示されません。

また、システムの設定によっては、このメニューは表示されません。

[一時保存] ボタン

クリックすると、実行中の業務の状態を保存します。[一時保存] ボタンで保存すると、次に同じ業務を開始するときに、保存した状態から開始できます。なお、システムの設定によっては、このボタンは表示されません。

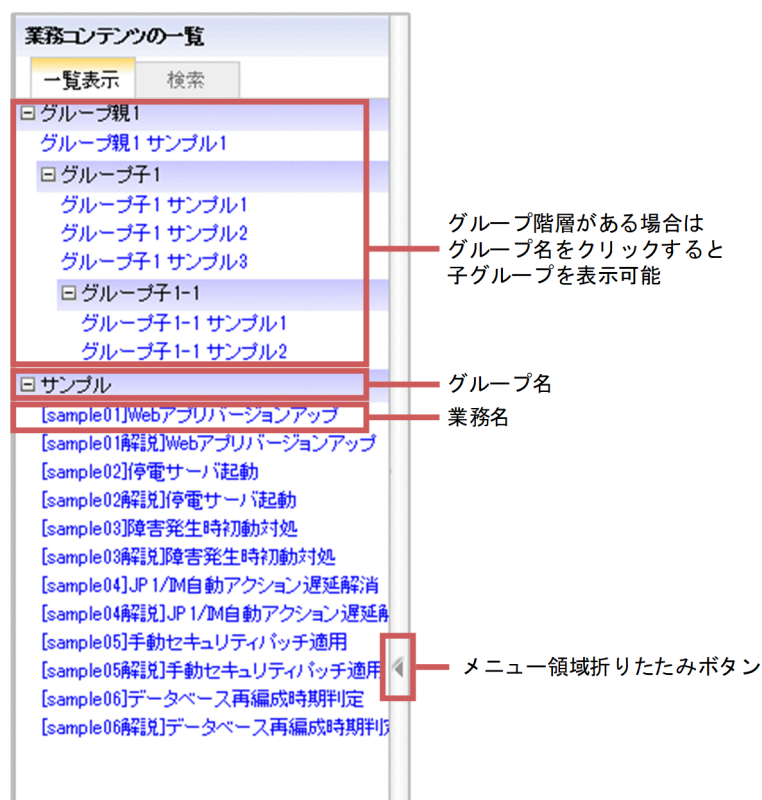
[ログアウト] ボタン

クリックすると、ナビゲーション プラットフォームからログアウトし、ログイン画面が表示されます。システムの設定によっては、代わりに [閉じる] ボタンが表示されることや、ボタンが表示されないこともあります。

(2) 業務実行画面のメニュー領域（[一覧表示] タブ）

業務実行画面のメニュー領域（[一覧表示] タブ）の表示例を次の図に示します。

図 2-8 業務実行画面のメニュー領域（[一覧表示] タブ）の表示例



各項目の詳細を説明します。

グループ名

実行する業務コンテンツが所属するグループの名称です。グループに階層がある場合は、グループ名をクリックすると、子グループを表示できます。

業務コンテンツ作成時にグループを設定していない場合は、グループ名は表示されません。

業務名

実行する業務コンテンツの名称です。クリックすると、業務フロー領域に業務フローが表示されます。

メニュー領域折りたたみボタン

クリックすると、メニュー領域の表示／非表示が切り替わります。

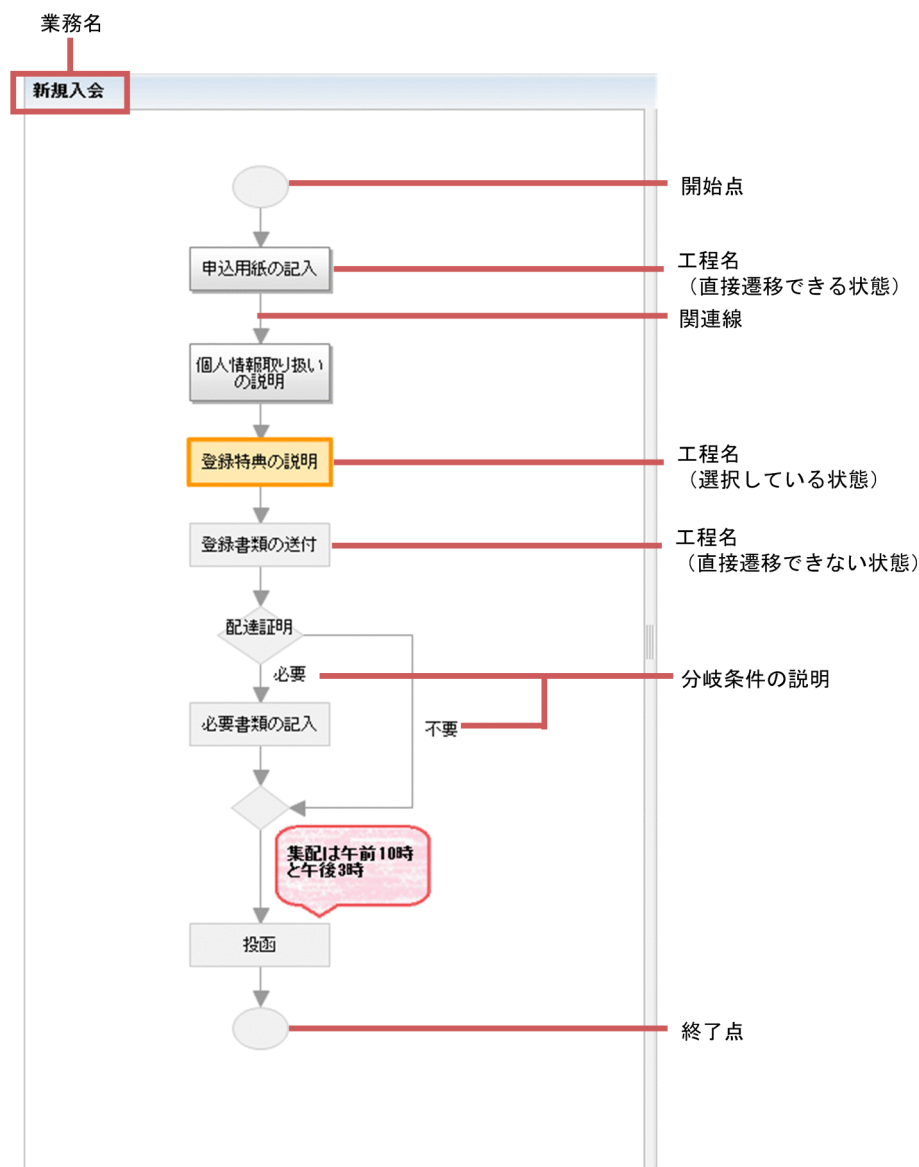
(3) 業務実行画面のメニュー領域（[検索] タブ）

[検索] タブについては、「2.11.3 業務実行画面のメニュー領域（[検索] タブ）の項目」を参照してください。

(4) 業務実行画面の業務フロー領域

業務実行画面の業務フロー領域の表示例を次の図に示します。

図 2-9 業務フロー領域の表示例（業務実行画面）



業務名

メニュー領域で選択した業務コンテンツの名称です。

開始点

作業の開始位置を示す記号（ターミナルノード）です。省略することもできます。

工程数が多く、複雑な業務フローの場合は、作業の開始点を明示しておくで、利用者がスムーズに作業に着手できるという効果が期待できます。

工程名

実行中の作業工程（プロセスノード）の名称です。この名称は、作業の概要が端的に理解できるものに、し、詳細は対応するガイド領域に記載すると、わかりやすい業務コンテンツになります。

プロセスノードの色やデザインは、選択状態または直接遷移の可否などによって異なります。色やデザインを変更したい場合は、システム管理者に問い合わせてください。

関連線

工程の順序を示す矢印です。原則として利用者は矢印の順序のとおり工程を参照して作業を進めます。システムの設定によっては、一度参照した工程または未参照の工程を、順序に関係なく参照できます。

分岐条件の説明

条件によって次の作業工程が分かれる場合の、分岐条件（分岐合流ノード）の名称です。分岐条件には、ガイド領域はありません。また、分岐条件は作業ステップではないため、利用者が選択することはありません。

したがって、条件が複雑な場合は、分岐合流ノードの名称だけではなく、関連線の矢印の部分にも説明を表示させるなどの工夫が必要になります。

終了点

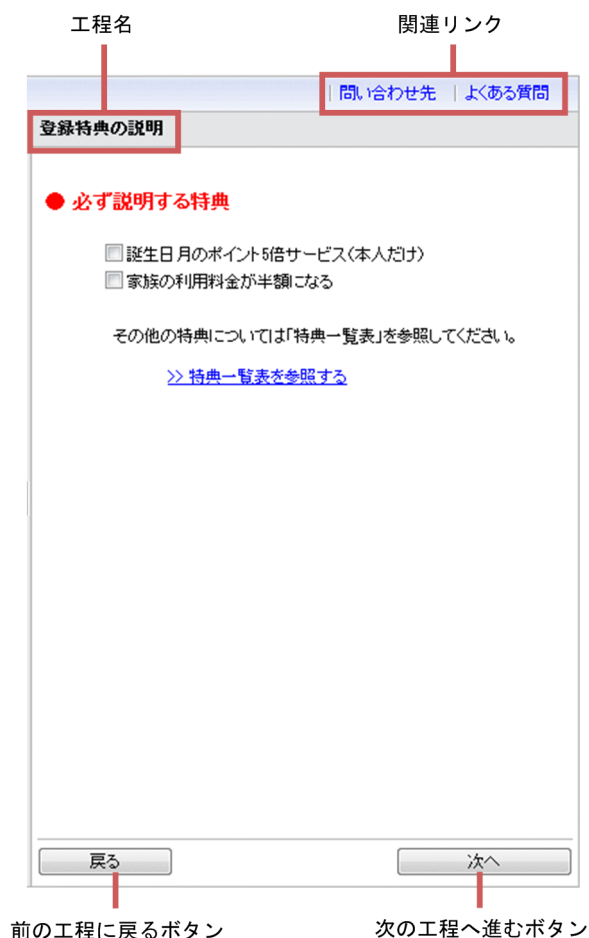
作業が終了したことを示す記号（ターミナルノード）です。省略することもできます。

各ノードの配置や名称の入力手順など、業務フロー領域の作成方法の詳細は、「3. 業務フロー領域の作成」を参照してください。

(5) 業務実行画面のガイド領域

業務実行画面のガイド領域の表示例を次の図に示します。

図 2-10 ガイド領域の表示例（業務実行画面）



関連リンク

業務コンテンツ実行時に参照する外部の Web サイトへのリンクです。

工程名

業務フロー領域で選択した作業工程（プロセスノード）の名称です。

次の工程へ進むボタン

次の工程に進むためのボタンです。クリックすると、業務フロー領域で次の作業工程（プロセスノード）が選択されます。分岐条件がある場合は、条件に応じて次の工程を選択するボタンが 2 個表示されます。

前の工程に戻るボタン

前の工程に戻るためのボタンです。クリックすると、業務フロー領域で前の作業工程（プロセスノード）が選択されます。

● ヒント

工程数が多い業務コンテンツの場合、次の工程または前の工程が業務フロー領域に表示されていないことがあります。このとき、システム構築時の設定によっては、該当する工程のプロセスノードが表示されるように、業務フロー領域が自動的にスクロールします。

配置できるパーツなど、ガイド領域の作成方法の詳細は、「[4. ガイド領域の作成](#)」を参照してください。

2.5.2 業務編集画面の項目

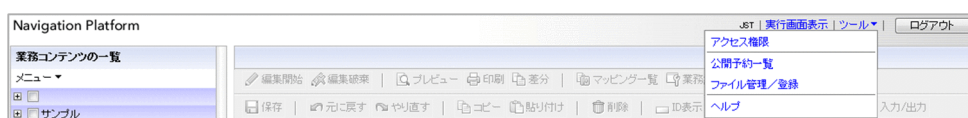
業務編集画面の項目について、領域ごとに説明します。業務編集画面では、業務フロー領域とガイド領域の上部にツールバーが表示されるため、ツールバーについても説明します。

ただし、業務フロー領域およびガイド領域の表示項目については、「[3.2 業務フロー領域の作成例](#)」および「[4.2 ガイド領域の作成例](#)」を参照してください。

(1) 業務編集画面のヘッダ領域

業務編集画面のヘッダ領域の表示例を次の図に示します。

図 2-11 ヘッダ領域の表示例（業務編集画面）



各項目の詳細を説明します。

タイムゾーン

ナビゲーション プラットフォームが適用しているタイムゾーンが表示されます。

ただし、システム構築時の設定によっては、このメニューは表示されません。

【実行画面表示】メニュー

選択すると、業務実行画面に切り替わります。

【ツール】メニュー

選択すると、[ファイル管理／登録] 画面を開くメニューなどが表示されます。

ただし、システム構築時の設定やログインユーザによっては、[ツール] メニューは表示されません。

【公開予約一覧】メニュー

選択すると、[公開予約一覧の確認] 画面が表示されます。[公開予約一覧の確認] 画面では、公開予約されている業務コンテンツの一覧を確認したり、予約を削除したりできます。

【ファイル管理／登録】メニュー

選択すると、[ファイル管理／登録] 画面が表示されます。[ファイル管理／登録] 画面では、業務コンテンツで使用する静的ファイルを登録したり、登録済みの静的ファイルの URL を確認したりできます。

ただし、システム構築時の設定によっては、このメニューは表示されません。

【ヘルプ】メニュー

選択すると、ヘルプが表示されます。システム構築時の設定によっては、このメニューは表示されません。

【ログアウト】ボタン

クリックすると、ナビゲーション プラットフォームからログアウトし、ログイン画面が表示されます。システム構築時の設定によっては、代わりに[閉じる] ボタンが表示されることや、ボタンが表示されないこともあります。

メモ

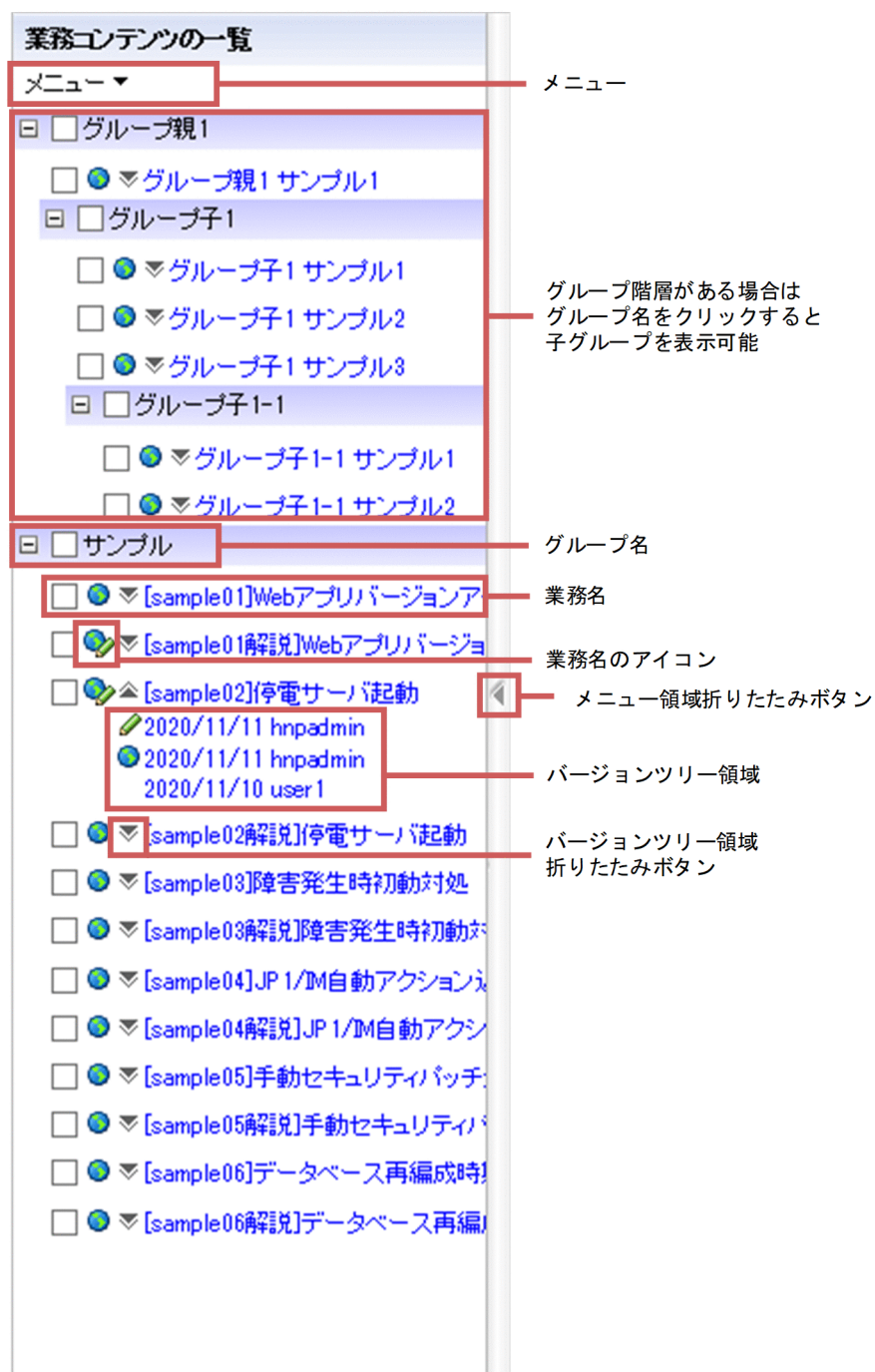
システム管理者の ID でログインした場合は、[アクセス権限] メニューも表示されます。[アクセス権限] メニューの使い方についてはマニュアル「ナビゲーション プラットフォーム 導入から運用まで」を参照してください。

なお、システム構築時の設定によっては、[アクセス権限] メニューは表示されません。

(2) 業務編集画面のメニュー領域

業務編集画面のメニュー領域の表示例を次の図に示します。

図 2-12 メニュー領域の表示例（業務編集画面）



各項目について説明します。メニューはドロップダウンで表示されます。

(a) メニュー

[追加] メニュー

選択すると、新しい業務コンテンツを追加するための画面が表示されます。

[複製] メニュー

選択すると、チェックボックスをチェックしたすべての業務コンテンツを複製するための画面が表示されます。

【名称変更】メニュー

選択すると、名称を入力するためのダイアログが表示されて、チェックボックスをチェックした業務コンテンツの名称を変更できます。

【グループ変更】メニュー

チェックボックスでチェックした業務コンテンツのグループ名が同一または共通部分を持つ場合に活性になります。

選択すると、グループ名を変更するためのダイアログが表示されて、チェックボックスをチェックしたすべての業務コンテンツのグループ名の共通部分を、一括で変更できます。

【グループ統合】メニュー

選択すると、グループ名を変更するためのダイアログが表示されて、チェックボックスをチェックしたすべての業務コンテンツのグループ名を、同じグループ名に一括で変更できます。

【公開】メニュー

業務コンテンツを公開するためのメニューです。選択すると、[公開する業務コンテンツの確認] 画面が表示されて、チェックボックスをチェックしたすべての業務コンテンツを公開できます。

【非公開】メニュー

業務コンテンツを非公開にするためのメニューです。選択すると、[非公開にする業務コンテンツの確認] 画面が表示されて、チェックボックスをチェックしたすべての業務コンテンツを非公開にできます。

【公開予約の削除】メニュー

業務コンテンツの公開予約を削除するためのメニューです。選択すると、[公開予約されている業務コンテンツの確認] 画面が表示されます。

【ロック解除】メニュー

選択すると、チェックボックスをチェックした業務コンテンツのロックを解除します。

【削除】メニュー

選択すると、チェックボックスをチェックしたすべての業務コンテンツが削除されます。

【権限の設定】メニュー

業務コンテンツに対してアクセス権グループを設定するためのメニューです。選択すると、[権限の設定] 画面が表示されて、チェックボックスをチェックした業務コンテンツにアクセス権グループを設定できます。

JP1/Base によるユーザ認証を使用している場合は、このメニューは表示されません。

【資源の設定】メニュー

業務コンテンツに対して JP1 資源グループを設定するためのメニューです。選択すると、[資源の設定] 画面が表示されて、チェックボックスをチェックした業務コンテンツに JP1 資源グループを設定できます。

ディレクトリサーバによるユーザ認証を使用している場合は、このメニューは表示されません。

【版の詳細】メニュー

選択すると、[版の詳細] 画面が表示され、チェックボックスをチェックした業務コンテンツの版の詳細が確認できます。

【ID 取得】メニュー

選択すると、チェックボックスをチェックしたすべての業務コンテンツの ID がクリップボードにコピーされます。

(b) グループ名

業務コンテンツのグループの名称が表示されます。グループに階層がある場合は、グループ名をクリックすると、子グループを表示できます。

グループ名をクリックすると、所属している業務コンテンツのツリーが開閉します。

グループが 1 階層の場合は、チェックボックスをチェックすると、所属しているすべての業務コンテンツのチェックボックスがチェックされます。チェックを外すと、所属しているすべての業務コンテンツのチェックボックスのチェックが外れます。

グループに階層がある場合は、チェックボックスをチェックすると、所属しているすべての業務コンテンツ、すべての子孫グループ、およびすべての子孫グループに所属しているすべての業務コンテンツのチェックボックスがチェックされます。チェックを外すと、所属しているすべての業務コンテンツ、すべての子孫グループ、およびすべての子孫グループに所属しているすべての業務コンテンツのチェックボックスのチェックが外れます。

(c) 業務名

業務コンテンツの名称が表示されます。

業務名をクリックすると、該当する業務コンテンツが業務フロー領域に表示されます。

チェックボックスをチェックすると、チェックした業務コンテンツに対してメニュー領域に表示されている操作を実行できます。ただし、名称変更、または権限の設定（または資源の設定）を実行する場合は、チェックボックスを一つだけチェックしてください。チェックボックスを複数チェックしてから実行すると、チェックボックスをチェックした業務コンテンツのいちばん上のものだけが操作の対象になります。

(d) 業務名のアイコン

業務名の左横には、業務コンテンツの状態を表すアイコンが表示されます。業務コンテンツのアイコンの意味を次に示します。

（[公開中/予約中] アイコン）

業務コンテンツが公開中で、かつ公開予約中の状態であることを表します。

（[非公開/予約中] アイコン）

業務コンテンツが非公開で、かつ公開予約中の状態であることを表します。

（[公開中/ログインユーザがロック中] アイコン）

業務コンテンツが公開中で、かつ現在操作しているユーザが業務コンテンツを編集集中であることを表します。

([公開中/他ユーザがロック中] アイコン)

業務コンテンツが公開中で、かつほかのユーザが編集集中であることを表します。

([公開中/ロックなし] アイコン)

業務コンテンツが公開中で、かつ編集集中ではないことを表します。

([非公開/ログインユーザがロック中] アイコン)

業務コンテンツが非公開で、かつ現在操作しているユーザが編集集中であることを表します。

([非公開/他ユーザがロック中] アイコン)

業務コンテンツが非公開で、かつほかのユーザが編集集中であることを表します。

アイコンなし

業務コンテンツが非公開で、かつ編集集中ではないことを表します。

(e) バージョンツリー領域

バージョンツリー領域では、業務コンテンツの版が表示されます。版とは、業務コンテンツの公開または更新ごとに作成される、業務コンテンツの内容のことです。

バージョンツリー領域のアイコン

バージョンツリー領域のアイコンは、版の状態を表します。バージョンツリー領域のアイコンの意味を次に示します。

([ログインユーザがロック中] アイコン)

現在操作しているユーザが版を編集集中であることを表します。

([他ユーザがロック中] アイコン)

ほかのユーザが版を編集集中であることを表します。

([公開中] アイコン)

版が公開中であることを表します。

アイコンなし

版が非公開であることを表します。

 と  のアイコンは、版の状態に応じて、業務編集画面のツールバーの上に表示される、業務名の左横にも表示されます。

日付

版の更新日時が表示されます。

編集者名

ユーザ ID またはユーザの名前が表示されます。環境によっては、半角ハイフン (-) が表示される場合もあります。どれが表示されるかは、環境によって異なります。

版が編集集中の場合は、編集しているユーザのユーザ ID または名前が表示されます。版が編集集中でない場合は、その版を更新したユーザのユーザ ID または名前が表示されます。

(f) バージョンツリー領域折りたたみボタン

クリックすると、バージョンツリー領域の表示／非表示が切り替わります。

(g) メニュー領域折りたたみボタン

クリックすると、メニュー領域の表示／非表示が切り替わります。

(3) 業務編集画面のツールバー

業務編集画面のツールバーを次の図に示します。

図 2-13 ツールバー（業務編集画面）

■ツールバー上段



■ツールバー下段



各項目について説明します。

【編集開始】ボタン

クリックすると、現在表示中のメニュー領域で選択した業務コンテンツの編集を開始できます。編集を開始すると、業務コンテンツはロックされ、ほかのユーザが編集できなくなります。

クリックしていない場合、[属性の設定] 画面では、各項目がグレイアウトされて入力できません。

【編集完了】ボタン

クリックすると、[コメントの入力] 画面が表示されます。コメントを入力してから、[編集完了] ボタンをクリックすると、編集した内容が業務コンテンツに反映されます。また、業務コンテンツのロックが解除され、ほかのユーザが編集できるようになります。

【編集破棄】ボタン

クリックすると、編集した内容が業務コンテンツに反映されないで、編集中の画面が閉じます。また、業務コンテンツのロックが解除され、ほかのユーザが編集できるようになります。

【プレビュー】ボタン

クリックすると、現在表示中のメニュー領域で選択した業務コンテンツの業務実行画面が、別ウィンドウで表示されます。

【印刷】ボタン

クリックすると、現在表示中のメニュー領域で選択した業務コンテンツの業務フロー領域とガイド領域を印刷するための画面が、別ウィンドウで表示されます。

ただし、システム構築時の設定によっては、このメニューは表示されません。

【差分】ボタン

クリックすると、現在表示中のメニュー領域で選択した業務コンテンツと、その前の版の業務コンテンツとの差分を示す画面が、別ウィンドウで表示されます。

【マッピング一覧】 ボタン

選択すると、現在表示中のメニュー領域で選択した業務コンテンツに関連づけられているプラグインの設定情報を含んだテキストファイル（マッピング一覧ファイル）を参照または保存できます。

ただし、選択した業務コンテンツにプラグインが関連づけられていない場合は、ファイルは出力できません。マッピング一覧ファイルの内容については、「[5.13.2 マッピング一覧ファイルの出力項目](#)」を参照してください。

【業務コンテンツの設定】 ボタン

クリックすると、【業務コンテンツの設定】画面が表示され、関連リンクの設定や、業務コンテンツで使用する文字サイズ、ノード遷移ボタンの大きさ、オフラインでの実行可否について設定できます。

【保存】 ボタン

クリックすると、編集中の業務コンテンツが保存されます。

【元に戻す】 ボタン

クリックすると、直前に実行した操作が元に戻ります。

【やり直す】 ボタン

クリックすると、直前に実行した操作がやり直されます。

【コピー】 ボタン

クリックすると、選択したノード、関連線、およびガイドパーツがコピーされます。関連線だけを選択して、コピーする操作および貼り付ける操作はできません。

【貼り付け】 ボタン

クリックすると、【コピー】ボタンでコピーしたノード、関連線、およびガイドパーツが貼り付けられます。関連線だけを選択して、コピーする操作および貼り付ける操作はできません。

【削除】 ボタン

クリックすると、選択したノード、関連線、およびガイドパーツが削除されます。

【ID 表示】 ボタン

クリックすると、配置したノードの左上にノード ID が表示されます。また、ID を持つガイドパーツを配置している場合は、ガイドパーツの左上にガイドパーツ ID が表示されます。

【ID 非表示】 ボタン

クリックすると、ノード ID およびガイドパーツ ID が非表示となります。

【置換】 ボタン

クリックすると、【置換】画面が表示され、業務コンテンツ内の文字列の一括置換ができます。

【プラグイン】 ボタン

クリックすると、ガイド領域がマッピングモードに切り替わり、[Plugins] パレットが表示されます。もう一度クリックすると、ガイド領域がガイド編集モードに切り替わり、[Guide] パレットが表示されます。

【入力/出力】 ボタン

クリックすると、入力側のマッピング線だけを表示する、または出力側のマッピング線だけを表示することができます。両方のマッピング線を表示するためには、ボタンに表示されている「入力」と「出力」の文字が両方とも活性になるまでクリックを繰り返してください。

2.5.3 【コメントの入力】 画面の項目

【コメントの入力】 画面の表示例を次の図に示します。

図 2-14 【コメントの入力】 画面



【コメントの入力】 画面の項目について説明します。

(1) 【コメント】 テキストボックス

業務コンテンツのコメントを入力するテキストボックスです。

(2) 【編集完了】 ボタン

クリックすると、編集した内容が業務コンテンツに反映されて、【コメントの入力】画面が閉じます。また、業務コンテンツのロックが解除され、ほかのユーザが編集できるようになります。

(3) 【キャンセル】 ボタン

クリックすると、【コメントの入力】画面が閉じます。編集した内容や入力したコメントは、業務コンテンツに反映されません。

2.6 業務コンテンツに外部の Web サイトへの関連リンクを設定する

業務コンテンツに設定する関連リンクの使い方や設定する手順について説明します。

2.6.1 関連リンクとは

関連リンクとは、業務の実行時によく参照する Web サイトや、ナビゲーション プラットフォームに登録されている静的ファイルへのリンクをまとめたリンク集です。リンク先の内容は、別ウィンドウで表示されます。

2.6.2 関連リンクの使い方

関連リンクは、[業務コンテンツの設定] 画面の [関連リンクの設定] タブで、リンク先の URL を指定して使用します。例えば、次のような場合に関連リンクを使うと効果的です。

- 作業に関連した情報を外部の Web サイトやサーバ上の手順書などで確認する必要があるリンクがあることで、必要な情報を探す時間を短縮できます。また、異なる情報を参照してしまうミスを防止します。

ハイパーリンクパーツとの使い分けについて

ハイパーリンクパーツでもリンクは設定できます。ただし、ハイパーリンクパーツの場合は、各ガイド領域での設定が必要です。そのため、複数のガイド領域に共通で表示したいリンクは、すべてのガイド領域の上部に常に表示できる関連リンクとして設定すると効果的です。

手順ごとに必要な情報はハイパーリンクパーツで、作業全体に必要な情報は関連リンクで設定するといったように、リンクの用途によって使い分けてください。

メモ

Web サーバ（サーバマシン）に格納したファイルの内容を表示したい場合は、[ファイル管理／登録] 画面で URL を取得するか、システム管理者からファイルのパスを教えてもらう必要があります。[ファイル管理／登録] 画面の詳細については、[「2.9.6 \[ファイル管理／登録\] 画面を使用して静的ファイルを格納する」](#)を参照してください。

2.6.3 関連リンクを設定する

- 業務編集画面のメニュー領域で、関連リンクを設定したい業務コンテンツをクリックして表示します。業務コンテンツが表示されます。
- ツールバーの  **業務コンテンツの設定**（[業務コンテンツの設定] ボタン）をクリックします。

[業務コンテンツの設定] 画面が表示されます。

3. [関連リンクの設定] タブで、新規に追加する関連リンクのアンカーの文字列およびリンク先の URL を入力します。

関連リンクは 5 個まで設定できます。[業務コンテンツの設定] 画面の各項目の詳細は、「2.6.4 [業務コンテンツの設定] 画面（[関連リンクの設定] タブ）の項目」を参照してください。

4. [更新] ボタンをクリックします。

業務名の右側に関連リンクが表示されます。

2.6.4 [業務コンテンツの設定] 画面（[関連リンクの設定] タブ）の項目

[業務コンテンツの設定] 画面（[関連リンクの設定] タブ）を次に示します。

図 2-15 [業務コンテンツの設定] 画面（[関連リンクの設定] タブ）

業務コンテンツの設定

業務コンテンツの名称: [sample02]停電サーバー起動

関連リンクの設定 サイズの設定 実行方式の設定

関連リンク一覧

No.	アンカーの文字列	URL	
1			クリア
2			クリア
3			クリア
4			クリア
5			クリア

更新 キャンセル

[業務コンテンツの設定] 画面（[関連リンクの設定] タブ）の各項目について説明します。

(1) [アンカーの文字列] テキストボックス

アンカー表示させる文字列を入力します。アンカーの文字列は必ず入力してください。ここに入力した文字列はツールチップとしても表示されます。[アンカーの文字列] テキストボックスに次に示す文字を指定した場合はエラーになります。

- 1,024 文字を超える文字列を入力した場合
- 空白文字列を入力した場合

なお、アンカーの文字列が関連リンク 1 件当たりの幅を超える場合、超えた部分の文字は省略されて、「...」に置き換えられます。また、省略時に置き換えられる記号は、Web ブラウザごとに異なります。

(2) 【URL】 テキストボックス

リンク先の URL を入力します。[ファイル管理／登録] 画面に表示されている静的ファイルへの関連リンクを設定する場合、[ファイル管理／登録] 画面の【URL 取得】ボタンで静的ファイルへのパスが取得できます。入力できる URL の形式については「[4.11.4 【属性の設定】画面（ガイド領域のハイパーリンクパーツ）の項目](#)」を参照してください。

【URL】テキストボックスに次に示す文字を指定した場合はエラーになります。

- 1,024 文字を超える文字列を入力した場合

また、【URL】テキストボックスの入力を省略した場合、または空白文字列を入力した場合には、空白ページが表示されます。

(3) 【クリア】 ボタン

クリックすると、【クリア】ボタンと同じ行の【アンカーの文字列】テキストボックスおよび【URL】テキストボックスの内容が消去されます。

(4) 【更新】 ボタン

クリックすると、入力した関連リンクの設定が業務コンテンツに反映され、【業務コンテンツの設定】画面が閉じます。

(5) 【キャンセル】 ボタン

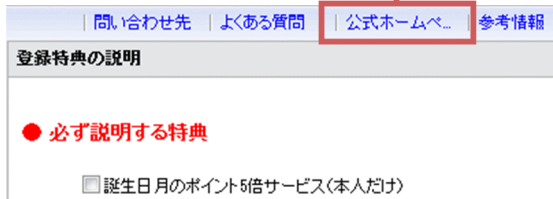
クリックすると、【業務コンテンツの設定】画面が閉じます。入力した関連リンクの設定は反映されません。

2.6.5 関連リンクを設定する場合の注意事項

関連リンクを設定する場合の注意事項について次に示します。

- 関連リンクを設定すると、業務名が表示される領域の幅は半分になります。業務名が表示される領域を超える場合、超えた部分の文字は省略されて、「...」に置き換えられます。なお、省略時に置き換えられる記号は、Web ブラウザごとに異なります。
- 関連リンク 1 件当たりの表示できる文字数は、Web ブラウザの幅および関連リンクの個数によって変わります。表示できる文字数を超えた場合、超えた部分の文字は省略されて、「...」に置き換えられます。

関連リンクに設定した文字列「公式ホームページ」が表示できる文字数を超えている



なお、省略時に置き換えられる記号は、Web ブラウザごとに異なります。

- [アンカーの文字列] テキストボックスに、半角だけで 50 文字以上の文字列を入力している場合、ツールチップの末尾の文字が省略されて「...」に置き換えられることがあります。また、文字列の途中で半角スペースを入力している場合、半角スペースの位置で折り返して表示されます。

ツールチップを省略しないで表示させたいときは、文字列の区切りとして適切な位置に半角スペースを入力して、1 行に表示される文字列の長さを調節してください。

2.7 業務コンテンツで使用する文字とボタンのサイズをまとめて設定する

業務コンテンツで使用する文字とボタンは、[業務コンテンツの設定] 画面の [サイズの設定] タブでまとめて設定できます。例えば、次のような場合に [サイズの設定] タブで設定すると効果的です。

- 業務コンテンツで使用する文字のフォントを変更する
[サイズの設定] タブでは、ラジオボタンやチェックボックスなど、業務コンテンツで使用するすべての文字のフォントを設定できます。
- 業務コンテンツで使用する文字のサイズをすべて大きくする
[サイズの設定] タブでは、ラジオボタンやチェックボックスなど、業務コンテンツで使用するすべての文字のサイズを設定できます。

[属性の設定] 画面との使い分けについて

[属性の設定] 画面でも文字サイズを設定できますが、設定できるのは固定テキストパーツだけです。ラジオボタンやチェックボックスなどの文字サイズを変更したい場合は、この画面でサイズを設定してください。

- 分岐ノードの名称に合わせたボタンの幅にする
分岐ノードの名称が長い場合、ガイド領域に表示されるボタン名の文字が切れてしまうことがあります。[サイズの設定] タブでボタンの幅を広げることで、ボタン名が最後まで表示できるようになります。

2.7.1 業務コンテンツごとに文字のフォントと文字サイズとボタンサイズを設定する

1. 業務編集画面のメニュー領域で、設定したい業務コンテンツをクリックして表示します。
業務コンテンツが表示されます。
2. ツールバーの  **業務コンテンツの設定** ([業務コンテンツの設定] ボタン) をクリックします。
[業務コンテンツの設定] 画面が表示されます。
3. [サイズの設定] タブをクリックします。
[サイズの設定] タブに切り替わります。
4. [サイズの設定] タブで、文字のフォント、文字のサイズ、ノード遷移ボタンの設定を変更します。
項目がグレイアウトして入力できない場合は、[システムの設定に従う] チェックボックスのチェックを外してください。
5. [更新] ボタンをクリックします。
変更した内容が業務コンテンツに反映されます。

2.7.2 【業務コンテンツの設定】画面（【サイズの設定】タブ）の項目

【業務コンテンツの設定】画面（【サイズの設定】タブ）を次に示します。

図 2-16 【業務コンテンツの設定】画面（【サイズの設定】タブ）

業務コンテンツの設定

業務コンテンツの名称: [sample02]停電サーバル起動

関連リンクの設定 **サイズの設定** 実行方式の設定

☒ システムの設定に従う。

文字の設定:

設定内容	設定値[px]
文字のフォント	システムのフォント設定に従う。
文字のサイズ	12

ノード遷移ボタンの設定:

設定内容	設定値[px]
ボタンの高さ	22
戻るボタンの幅	100
次へボタンの幅	130
完了ボタンの幅	130
条件分岐ボタンの幅	130

更新 キャンセル

【業務コンテンツの設定】画面（【サイズの設定】タブ）の各項目について説明します。

(1) 【システムの設定に従う。】チェックボックス

チェックすると、文字やボタンのサイズが、ナビゲーションプラットフォームで設定されたサイズになります。

(2) 【文字のフォント】ドロップダウン

業務コンテンツで使用する文字のフォントを選択します。

(3) 【文字のサイズ】テキストボックス

業務コンテンツで使用する文字のサイズを入力します。

(4) 【ボタンの高さ】テキストボックス

ガイド領域に表示される、ノードを移動するときに使用するボタン（戻るボタン、次へボタン、完了ボタン、および条件分岐ボタン）の高さを入力します。

(5) 【戻るボタンの幅】 テキストボックス

【戻る】 ボタンの幅を入力します。【戻る】 ボタンは、ガイド領域に表示されるボタンで、前のノードに戻るときに使用します。

(6) 【次へボタンの幅】 テキストボックス

【次へ】 ボタンの幅を入力します。【次へ】 ボタンは、ガイド領域に表示されるボタンで、次のノードに進むときに使用します。

(7) 【完了ボタンの幅】 テキストボックス

【完了】 ボタンの幅を入力します。【完了】 ボタンは、ガイド領域に表示されるボタンで、業務を完了するときに使用します。

(8) 【条件分岐ボタンの幅】 テキストボックス

条件分岐ボタンの幅を入力します。条件分岐ボタンは、業務フロー領域で分岐条件がある場合に、ガイド領域に表示されるボタンです。ボタン名には分岐条件や分岐ノードの名称が表示されます。

(9) 【更新】 ボタン

クリックすると、変更したサイズが業務コンテンツに反映されて、【業務コンテンツの設定】画面が閉じます。

(10) 【キャンセル】 ボタン

クリックすると、【業務コンテンツの設定】画面が閉じます。変更したサイズは業務コンテンツに反映されません。

2.8 業務コンテンツのオフラインでの実行可否を設定する

業務コンテンツのオフラインでの実行可否は、業務編集画面の「業務コンテンツの設定」画面の「実行方式の設定」タブで、業務コンテンツ単位で設定できます。

コンテンツ作成者（JP1/Base によるユーザ認証を使用する場合）またはコンテンツ編集者が、業務編集画面でオフライン対応の業務コンテンツを作成し、オフライン実行可に設定したあと、実行者がオンライン環境で業務実行画面から業務コンテンツを開くと、業務コンテンツの実行に必要なデータが Web ブラウザ（クライアント側）にダウンロードや業務フロー中で参照している画像※のプリロードが行われます。以降、実行者はオフライン環境でサーバとの通信をせずに、業務コンテンツを実行できます。

注※

プリロードの対象となる画像データを次に示します。

- 業務フロー領域およびガイド領域の画像パーツの URL に指定された画像
- 業務フロー領域のプロセスノードの画像 URL に指定された画像

なお、Web ブラウザでの画像データのキャッシュの扱いによっては、オフライン環境での動作中に上記の画像が参照できないことがあります。

オフライン環境では、入力データをオフラインプラグイン（データストアプラグインやクライアントサイド JavaScript を記述した JavaScript プラグイン）を使用して処理や格納を行うことができます。

また、オンライン環境に戻ると、オフラインプラグインからの入力データをオンラインプラグイン（サーバサイド JavaScript を記述した JavaScript プラグインやユーザプラグイン）を使用して記録を行うことができます。

オフライン実行可否の設定による業務コンテンツ実行時の動作の差異を、次の表に示します。

表 2-2 オフライン実行可否の設定による業務コンテンツ実行時の動作の差異

項目	オフライン実行可否の設定	
	オフライン実行不可	オフライン実行可
サーバとの通信	• 業務コンテンツ実行時に発生する • ノード遷移時に発生する	■オンライン環境 • 業務コンテンツを開いたときに発生する • サーバとの通信を行うプラグインを使用する場合はノード遷移時に発生する ■オフライン環境 発生しない
操作ログ	取得する	取得しない
監査ログ	監査ログを使用する設定の場合に取得する	取得しない
プラグイン	すべてのプラグイン※ ¹ を利用できる	■オンライン環境 すべてのプラグイン※¹ を利用できる ■オフライン環境

項目	オフライン実行可否の設定	
	オフライン実行不可	オフライン実行可
プラグイン	すべてのプラグイン※ ¹ を利用できる	オフラインプラグイン（データストアプラグイン、クライアントサイド JavaScript を記述した JavaScript プラグイン）だけが利用できる
HTTP セッション	一定時間ごとにリクエストを発行して HTTP セッションを維持する	■オンライン環境 一定時間ごとにリクエストを発行して HTTP セッションを維持する ■オフライン環境 セッションタイムアウトの値※²を経過するまでは HTTP セッションを維持し、経過すると切断するため、HTTP セッションを長時間維持するには、ユーザセットアッププロパティファイルのセッションタイムアウトの値（デフォルトは 30 分）※²を大きくする必要がある

注※1

業務コンテンツにオンラインプラグインが配置されている場合、オフライン実行可否の設定にかかわらず、業務コンテンツ実行時にそのプラグインが実行されます。

注※2

ユーザセットアッププロパティファイル (ucnp_setup_user.properties) の ucnp.setup.server.cosminexus.ejbserver.session.timeout プロパティ（デフォルトのセッションタイムアウト間隔）で、HTTP セッションの保持期間を変更できます。

オフライン状態を一定時間維持したあとで、オンライン処理を行うような運用では、このプロパティに適切な値を指定することで、オフラインの間に HTTP セッションの切断を防止できます。

ユーザセットアッププロパティファイルの ucnp.setup.server.cosminexus.ejbserver.session.timeout プロパティの設定については、マニュアル「ナビゲーション プラットフォーム 導入から運用まで」を参照してください。

2.8.1 業務コンテンツごとにオフラインでの実行可否を設定する

1. 業務編集画面のメニュー領域で、設定したい業務コンテンツをクリックして表示します。

業務コンテンツが表示されます。

2. ツールバーの  **業務コンテンツの設定**（[業務コンテンツの設定] ボタン）をクリックします。

[業務コンテンツの設定] 画面が表示されます。

3. [実行方式の設定] タブをクリックします。

[実行方式の設定] タブに切り替わります。

4. [実行方式の設定] タブで、オフライン実行可否の設定を変更します。

業務コンテンツの実行時の挙動をオフライン対応にする場合は、[オフライン実行可] チェックボックスをチェックしてください。

5. [更新] ボタンをクリックします。
- 変更した内容が業務コンテンツに反映されます。

2.8.2 「業務コンテンツの設定」画面（「実行方式の設定」タブ）の項目

「業務コンテンツの設定」画面（「実行方式の設定」タブ）を次に示します。

図 2-17 「業務コンテンツの設定」画面（「実行方式の設定」タブ）

The screenshot shows a dialog box titled "業務コンテンツの設定" (Business Content Settings). At the top, it says "業務コンテンツの名称: [sample02]停電サーバル起動". Below this are three tabs: "関連リンクの設定", "サイズの設定", and "実行方式の設定" (which is selected and highlighted in yellow). The main area contains a checkbox labeled "オフライン実行可 [help]". At the bottom right, there are two buttons: "更新" (Update) and "キャンセル" (Cancel).

(1) 「オフライン実行可」チェックボックス

チェックすると、業務コンテンツの実行時の挙動がオフライン対応に変更されます。デフォルトではチェックされていません。

また、チェックボックスの右横の [help] リンクをクリックすると、ヘルプが表示されます。

(2) 「更新」ボタン

クリックすると、オフラインでの実行可否の設定変更が業務コンテンツに反映され、「業務コンテンツの設定」画面が閉じます。

(3) 「キャンセル」ボタン

クリックすると、「業務コンテンツの設定」画面が閉じます。オフラインでの実行可否の設定変更は業務コンテンツに反映されません。

2.9 業務コンテンツで使用する静的ファイル

業務コンテンツで使用する静的ファイルの格納方法や手順について説明します。

2.9.1 業務コンテンツで使用する静的ファイルとは

静的ファイルとは、業務コンテンツで使用する画像やドキュメントなどのファイルのことです。静的ファイルは、ナビゲーション プラットフォームまたはその他の Web サーバに格納して使用します。

2.9.2 静的ファイルの格納方法

静的ファイルは次の方法で Web サーバに格納してください。なお、各フォルダに格納できるフォルダおよびファイルの上限は 200 個です。

- [ファイル管理／登録] 画面を使用して静的ファイルを格納する
業務編集画面に [ファイル管理／登録] メニューが表示されている場合、このメニューから表示される [ファイル管理／登録] 画面から、静的ファイルをナビゲーション プラットフォームの Web サーバに格納できます。
また、[ファイル管理／登録] 画面では、静的ファイルを格納するためのフォルダが作成できます。フォルダは、静的ファイルを目的ごとに分類して管理したい場合などに利用できます。
- システム管理者に静的ファイルの格納を依頼する
業務編集画面に [ファイル管理／登録] メニューが表示されていない場合、静的ファイルをナビゲーション プラットフォームまたはその他の Web サーバに格納し、その静的ファイルのパスを連絡するようシステム管理者に依頼します。連絡された静的ファイルのパスを、[属性の設定] 画面の [URL] テキストボックスなどに指定してください。
[ファイル管理／登録] 画面では、1 ファイルずつしか格納できないため、複数のファイルを一度に格納したい場合は、こちらの方法がスムーズです。

2.9.3 静的ファイルを格納するフォルダを作成する

静的ファイルを格納するフォルダを作成する手順について説明します。

1. 業務編集画面のヘッダ領域で、[ファイル管理／登録] メニューを選択します。
[ファイル管理／登録] 画面が表示されます。
2. [ファイル管理／登録] 画面の [フォルダ作成] メニューを選択します。
作成するフォルダの名称を入力するダイアログが表示されます。
3. フォルダの名称を入力し、[OK] ボタンをクリックします。

フォルダが作成されます。

2.9.4 静的ファイルを格納するフォルダを削除する

静的ファイルを格納するフォルダを削除する手順について説明します。

1. 業務編集画面のヘッダ領域で、[ファイル管理／登録] メニューを選択します。
[ファイル管理／登録] 画面が表示されます。
2. 削除したいフォルダのチェックボックスをチェックします。
3. [ファイル管理／登録] 画面の [削除] メニューを選択します。
フォルダを削除してもよいかを確認するダイアログが表示されます。
4. ダイアログで [OK] ボタンをクリックします。
フォルダが削除されます。

2.9.5 静的ファイルを格納するフォルダを移動する

静的ファイルを格納するフォルダを移動する手順について説明します。フォルダの移動は、フォルダのアイコンを選択して移動する方法と、[上のフォルダへ] メニューを選択して移動する方法があります。

フォルダのアイコンを選択して移動する場合の手順について説明します。

1. 業務編集画面のヘッダ領域で、[ファイル管理／登録] メニューを選択します。
[ファイル管理／登録] 画面が表示されます。
2. 移動したいフォルダのアイコンまたはフォルダの名称をクリックします。
クリックしたフォルダが静的ファイルを格納するフォルダになります。

フォルダのアイコンを選択して移動したあとの画面で、フォルダを移動する手順について説明します。

1. [上のフォルダへ] メニューを選択します。
1 階層上のフォルダが静的ファイルを格納するフォルダになります。

2.9.6 [ファイル管理／登録] 画面を使用して静的ファイルを格納する

新規の静的ファイルを [ファイル管理／登録] 画面を使用して格納する手順について説明します。

1. 業務編集画面のヘッダ領域で、[ファイル管理／登録] メニューを選択します。
[ファイル管理／登録] 画面が表示されます。

2. [参照] ボタンをクリックします。

ファイルを選択するためのダイアログが表示されます。

3. Web サーバに格納する静的ファイルを選択して、[開く] ボタンをクリックします。

選択した静的ファイルのパスが、[ファイルアップロード] テキストボックスに入力されます。

4. [アップロード] ボタンをクリックします。

選択した静的ファイルが Web サーバに格納され、[ファイル管理／登録] 画面のファイルの一覧に追加されます。

5. [URL 取得] ボタンをクリックします。

静的ファイルのパスが [属性の設定] 画面の [URL] テキストボックスで使える形式で、クリップボードにコピーされます。コピーされたパスをそのまま [URL] テキストボックスにペーストしてください。

❗ 重要

Web ブラウザによっては、[URL 取得] ボタンをクリックすると、アクセスの許可を確認するダイアログが表示されます。その場合は、アクセスを許可してください。アクセスを拒否するとパスは取得できません。間違ってアクセスを拒否してしまったときは、いったん [ファイル管理／登録] 画面を閉じる必要があります。

2.9.7 [ファイル管理／登録] 画面を使用して静的ファイルを削除する

格納済みの静的ファイルを、[ファイル管理／登録] 画面を使用して削除する手順について説明します。なお、この手順で削除できるのは、[ファイル管理／登録] 画面を使用して格納した静的ファイルだけです。

1. 業務編集画面のヘッダ領域で、[ファイル管理／登録] メニューを選択します。

[ファイル管理／登録] 画面が表示されます。

2. 削除したい静的ファイルのチェックボックスをチェックします。

3. [ファイル管理／登録] 画面の [削除] メニューを選択します。

静的ファイルを削除してもよいかを確認するダイアログが表示されます。

4. ダイアログで [OK] ボタンをクリックします。

静的ファイルが削除されます。

2.9.8 [ファイル管理／登録] 画面の項目

[ファイル管理／登録] 画面を次に示します。

図 2-18 「ファイル管理／登録」画面

ファイル管理／登録

新規フォルダ | 削除 | 上のフォルダへ

ファイルアップロード

参照... アップロード

※1ファイルあたりのサイズ上限は10MBまで

フォルダ名:

☐	名前	更新日時
☐	URL取得 URL設定 blue.jpg	2017/08/01 14:48:08

閉じる

「ファイル管理／登録」画面の各項目について説明します。

(1) 「新規フォルダ」メニュー

選択すると、静的ファイルを格納するフォルダを作成できます。

(2) 「削除」メニュー

選択すると、「ファイル管理／登録」画面でチェックされている静的ファイルが削除されます。

(3) 「上のフォルダへ」メニュー

選択すると、1階層上のフォルダが静的ファイルを格納するフォルダになります。

(4) 「ファイルアップロード」テキストボックス

「参照」ボタンで選択した静的ファイルのパスが表示されます。

(5) 「参照」ボタン

クリックすると、格納する静的ファイルを選択するためのダイアログが表示されます。

(6) 「アップロード」ボタン

クリックすると、「参照」ボタンで選択した静的ファイルが Web サーバに格納されます。

(7) 【URL 取得】 ボタン

クリックすると、静的ファイルのパスが【属性の設定】画面の【画像 URL】または【URL】テキストボックスで利用できる形式で、クリップボードにコピーされます。

(8) 【URL 設定】 ボタン

クリックすると、静的ファイルのパスが【属性の設定】画面の【画像 URL】または【URL】テキストボックスに設定され、【ファイル管理／登録】画面が閉じます。【URL 設定】ボタンが表示されるのは、次に示す画面のどれかが開いている場合だけです。

- 【属性の設定】画面（プロセスノード）
- 【属性の設定】画面（業務フロー領域の画像パーツ）
- 【属性の設定】画面（ガイド領域の画像パーツ）

クリックする前に【属性の設定】画面を閉じた場合は、URL は設定されないで、【ファイル管理／登録】画面が閉じます。

(9) 静的ファイルのサムネイル

静的ファイルが画像ファイルの場合、縮小または拡大された画像が表示されます。画像ファイル以外のファイルの場合、ファイルのアイコンが表示されます。サムネイルをクリックすると、該当の静的ファイルが別ウィンドウで表示されます。

(10) ファイル名

クリックすると、静的ファイルが別ウィンドウで表示されます。

(11) 更新日時

静的ファイルの更新日時が表示されます。

(12) フォルダアイコン

クリックすると、対象の静的ファイル格納フォルダに移動します。

(13) 【閉じる】 ボタン

クリックすると、【ファイル管理／登録】画面が閉じます。

2.10 業務コンテンツの見た目と動作を確認する方法

業務コンテンツの作成が完了したら、業務コンテンツの見た目と動作を確認します。業務コンテンツの見た目と動作は、業務コンテンツをプレビューするか、または業務実行画面を表示して確認できます。

業務実行画面を表示する方法は、編集環境と実行環境が分かれている場合に適した方法です。編集環境が実行環境も兼ねる場合は、テスト中の業務コンテンツが公開されないようにするため、プレビューを利用してください。

！ 重要

JP1 連携プラグインを使用した業務コンテンツは、プレビューではなく業務実行画面を表示して動作を確認してください。プレビューの場合、JP1 連携プラグインは動作しません。また、業務実行画面の「戻る」ボタンをクリックした場合も、JP1 連携プラグインは動作しません。

ユーザプラグインを使用した業務コンテンツの場合は、プレビュー時および「戻る」ボタンクリック時にプラグインが動作するかどうか、システム管理者またはプラグインの開発者に確認してください。

2.10.1 業務コンテンツをプレビューする

業務コンテンツをプレビューして、業務コンテンツの見た目と動作を確認する方法を説明します。

1. ツールバーの  保存 （[保存] ボタン）をクリックして、業務コンテンツを保存します。

2. ツールバーの  プレビュー （[プレビュー] ボタン）をクリックします。

編集時の業務コンテンツの業務実行画面（プレビュー）が表示されます。

業務実行画面（プレビュー）の表示項目は、次の点以外は、通常の業務実行画面と同じです。

- ヘッダ領域の「編集画面表示」メニュー、および「一時保存」ボタンが常に非表示である。
- 常に「閉じる」ボタンが表示される。
- メニュー領域は常に折りたたまれた状態で表示される。

3. 業務実行画面（プレビュー）で、業務コンテンツが正しく作成できているか、意図したとおりの操作ができるか、などのテストを実施します。

テストの結果、必要に応じて業務フロー領域とガイド領域を修正してください。

注意事項

業務実行画面（プレビュー）のメニュー領域から、ほかの業務コンテンツを参照しないでください。その場合の動作は保証されません。

また、業務コンテンツの見た目と動作の確認以外の操作（業務コンテンツの印刷画面を表示、業務コンテンツの URL 取得など）はしないでください。

2.10.2 業務実行画面を表示する

業務実行画面を表示して、業務コンテンツの見た目と動作を確認する方法を説明します。

1. 業務コンテンツの編集を完了します。

詳細な手順は、「[1.7.8 業務コンテンツの編集を完了する](#)」を参照してください。

2. 業務コンテンツを公開します。

詳細な手順は、「[6.1.1 業務コンテンツを公開する](#)」を参照してください。

3. 業務編集画面のヘッダ領域の【実行画面表示】メニューを選択します。

業務コンテンツの業務実行画面が表示されます。

4. 業務実行画面で、業務コンテンツが正しく作成できているか、意図したとおりの操作ができるか、などのテストを実施します。

テストの結果、必要に応じて業務フロー領域とガイド領域を修正してください。

2.11 業務コンテンツの内容を検索する

業務実行画面の「検索」タブでは、任意のキーワードで業務コンテンツの内容を検索できます。

例えば、次のような場合に検索を使用すると便利です。

- 実行したい業務コンテンツをすばやく探す
業務コンテンツを業務に関連するキーワードで検索すると、キーワードを含んだ業務コンテンツが一覧で表示されます。メニュー領域から業務コンテンツを探す時間が省けます。
- 複数の業務コンテンツに含まれる文字列を修正したときに、文字列が正しく修正されているかどうかを確認する
修正前と修正後の文字列でそれぞれ検索し、修正前の文字列がヒットしないことと、修正後の文字列が修正前と同じ数だけヒットすることを確認することで、正しく修正されているかが確認できます。

業務コンテンツを検索する手順を次に示します。

1. 業務実行画面のメニュー領域の「検索」タブを選択します。

2. 検索ワードテキストボックスに、検索ワードを入力します。

複数の検索ワードを入力したい場合は、検索ワードの間を半角スペースまたは全角スペースで区切ってください。検索ワードは10個まで入力できます。

3. 必要に応じて、検索の種類や検索結果のソート順序を選択します。

次のラジオボタンで選択できます。

- 「AND/OR 検索」ラジオボタン
- 「ソート順序」ラジオボタン

4. 「検索」ボタンをクリックします。

検索結果が「検索」タブの下部に表示されます。

注意事項

ヒットする検索ワード数が多く、検索結果の表示領域にたくさんの情報が表示される場合、Webブラウザの動作が遅くなる場合があります。

2.11.1 検索できる業務コンテンツ

検索の対象は、次の条件を両方とも満たす業務コンテンツです。

- 公開中の業務コンテンツの公開版
- アクセス権が参照以上の業務コンテンツ

検索データはシステム管理者が管理しています。検索結果の内容が古いなど、検索データが最新でないことに気が付いた場合は、システム管理者に問い合わせてください。

2.11.2 検索できる文字列

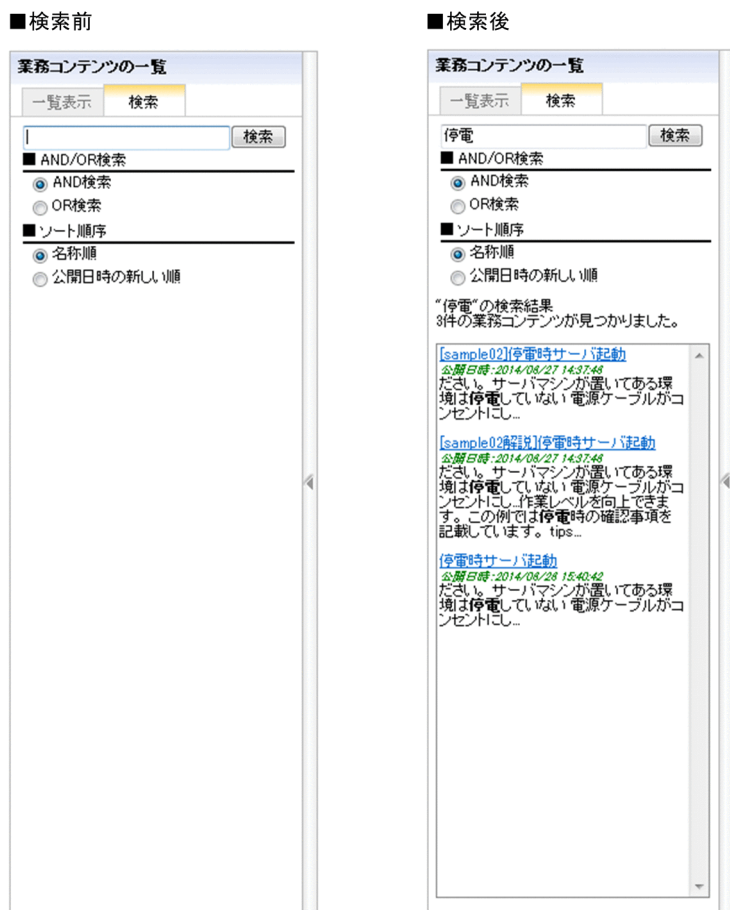
業務実行画面の「検索」タブで検索できる文字列について、次に示します。

- 次の検索ワードの違いは区別されません。
 - 英字の大文字・小文字
 - 英数字およびカタカナ (JIS X 0201 0xA1~0xDF) の全角・半角
- 指定した検索ワードは、部分一致で検索されます。例えば、「京都」という検索ワードを指定すると、「東京都」「京都市」などもヒットします。前方一致または後方一致の指定はできません。
- 検索ワードテキストボックスに入力できる文字数は最大 500 文字です。500 文字を超えた場合、エラーになります。
- 制御文字 (ASCII コードの 0x00~0x1F と 0x7F) は検索ワードとして指定できません。制御文字を指定した場合、エラーになります。
- スペースを含む検索ワードを指定する場合は、検索ワードを半角の引用符 (") で囲んでください。ただし、半角の引用符 (") を検索ワードとして指定することはできません。検索ワードとして半角の引用符 (") を指定した場合、エラーになります。半角の引用符 (") を使った入力例を次に示します。
 - エラーにならない例: [" "], ["Navigation" "Platform"]
 - エラーになる例: ["], [""], ["Navigation], ["Navigation"], ["Navi" gation], ["Navi"" gation"], ["Na"vigati"on"]
- 同じパターンの繰り返しが含まれる文字列を検索し、かつパーツにも同じパターンを繰り返す文字列が含まれる場合、一度ヒットした文字も重複して検索の対象となります。
例えば、検索ワードに「市川市」(いちかわし) を指定して「市川市川市町」(いちかわし かわいちちょう) という固定テキストパーツを検索した場合、ヒット数は 2 です (1~3 文字目の「市川市」、3~5 文字目の「市川市」でヒット数が 2 となる)。
- 検索ワードに、同じ単語を大文字と小文字で一つずつ指定した場合、大文字と小文字それぞれで検索した結果を表示します。

2.11.3 業務実行画面のメニュー領域（「検索」タブ）の項目

業務実行画面のメニュー領域（「検索」タブ）の表示例を次の図に示します。

図 2-19 業務実行画面のメニュー領域（[検索] タブ）の表示例



各項目の詳細を説明します。

(1) 検索ワードテキストボックス

業務コンテンツの内容で検索したいキーワードを入力するテキストボックスです。

(2) [検索] ボタン

クリックすると、入力したキーワードで業務コンテンツの内容を検索します。

(3) [AND/OR 検索] ラジオボタン

検索テキストボックスに複数のキーワードを入力した場合、AND 検索または OR 検索のどちらで検索するかを選択するラジオボタンです。検索の種類を選択したい場合は、検索を実行する前に指定してください。

(4) [ソート順序] ラジオボタン

検索結果のソート順序を選択するラジオボタンです。ソート順序を選択したい場合は、検索を実行する前に指定してください。

3

業務フロー領域の作成

この章では、業務フロー領域の作成に必要なパーツと操作について説明します。

業務フロー領域では、配置したパーツを関連線でつなぎながら業務フローを作成していきます。

3.1 業務フロー領域を作成する流れ

業務フローを作成する流れを次に示します。

1. 業務フロー領域でノードを配置します。

ノードとは、業務フローを構成する部品のことです。工程や分岐を表します。

[Flow] パレットから配置したいノードを選択します。

2. ノードとノードの間に関連線を引きます。

関連線とは、ノードからノードへの遷移を示す矢印のことです。

3. 必要に応じて固定テキストや画像（フローパーツ）を配置します。

[Flow] パレットから配置したいフローパーツを選択します。

4. ノードやフローパーツの属性を設定します。

[属性の設定] 画面で、ノードやフローパーツの名称や見映えなどを設定します。[属性の設定] 画面は、ノードやフローパーツをダブルクリックすると表示されます。

設定後、[更新] ボタンをクリックすると設定した内容が反映されます。設定した内容を反映しない場合は、[キャンセル] ボタンをクリックしてください。

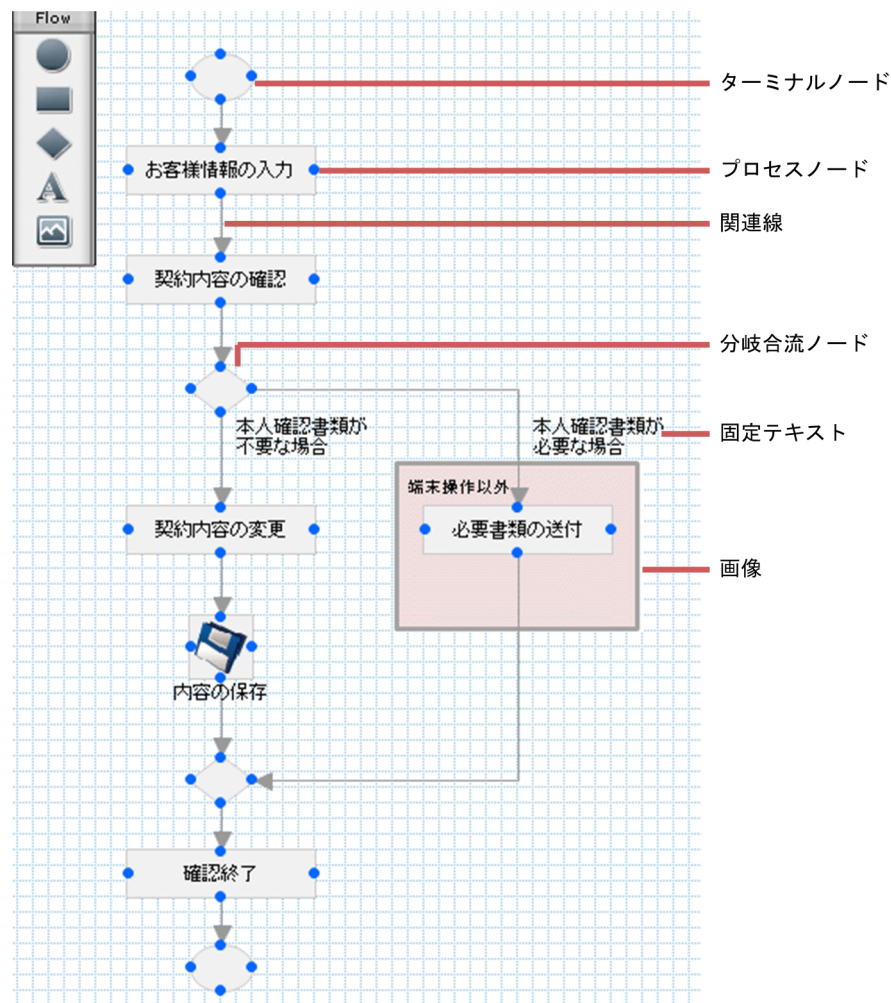
5. ツールバーの  保存 （[保存] ボタン）をクリックします。

業務コンテンツが保存されます。

3.2 業務フロー領域の作成例

業務フロー領域で作成した業務フローの例を次に示します。

図 3-1 業務フローの例



業務フローは、業務の工程を表すプロセスノードと、工程の順序を表す関連線から構成されています。工程の遷移先が条件に応じて分岐する場合は、分岐合流ノードを配置します。また、プロセスノードや関連線を強調したり説明を追加したりする場合は、固定テキストと画像を使用すると効果的です。

3.3 業務フロー領域の作成に使用するボタン（[Flow] パレット）

業務フローの作成は、[Flow] パレットを利用します。[Flow] パレットのボタンの意味について次の表に示します。

表 3-1 [Flow] パレットのボタンの意味

項番	ボタン	このマニュアルでの表記	説明
1		[ターミナル] ボタン	ターミナルノードを配置します。
2		[プロセス] ボタン	プロセスノードを配置します。
3		[分岐合流] ボタン	分岐合流ノードを配置します。
4		[固定テキスト] ボタン	固定テキストを配置します。
5		[画像] ボタン	画像を配置します。

3.4 業務フロー領域を作成するときの注意事項

業務フロー領域にターミナルノードまたは「戻る」ボタンが非表示のプロセスノードを配置する場合は、機能の差異に注意してください。ターミナルノードと「戻る」ボタンが非表示のプロセスノードの機能差異を次の表に示します。

表 3-2 ターミナルノードと「戻る」ボタンが非表示のプロセスノードの機能差異

項番	差異がある機能	ターミナルノード	「戻る」ボタンが非表示のプロセスノード
1	中断再開機能が有効かどうか	有効です。※1	無効です。
2	入力情報の破棄確認ダイアログが表示されるかどうか	表示されません。	表示されます。※2
3	完了時に Web ブラウザを閉じるかどうか	Web ブラウザが閉じます。	Web ブラウザは閉じません。

注※1

システム構築時の設定によっては無効です。

注※2

システム構築時の設定によっては表示されません。

3.5 ターミナルノード

ターミナルノードの使い方や配置する手順について説明します。

3.5.1 ターミナルノードとは

業務フロー領域で、フローの開始と終了を示すためのノードを、ターミナルノードと呼びます。業務実行画面でターミナルノードが表示されるかどうかは、環境によって異なります。実行環境でのターミナルノードの表示有無については、システム管理者に確認してください。

なお、開始ターミナルノードの配置は任意です。プラグインを利用しない環境では、システム構築時の設定によっては終了のターミナルノードの配置も任意に設定されていることがあります。

3.5.2 ターミナルノードの使い方

ターミナルノードを使用する場合は、フローの始点と終点、またはどちらか一方に配置してください。

フローの始点に配置するときの使い方

開始のターミナルノードの直後に分岐合流ノードを配置することで、途中で最初のプロセスノードに戻るような業務フローも作成できます。

フローの終点に配置するときの使い方

業務フローの終点にターミナルノードを配置すると、ガイド領域に[完了]ボタンが表示されます。[完了]ボタンをクリックすると、ガイド領域にメッセージが表示され、業務フローが終了したと見なされます。システム構築時の設定によっては、入力情報を破棄してよいかどうかを確認するダイアログは表示されません。

分岐合流ノードを使用すると、フローの終点が複数になることがありますが、その場合は各終点にターミナルノードを配置できます。

メモ

- [完了] ボタンを表示しないためには、業務フローの終点をターミナルノードではなくプロセスノードにします。ただし、監査ログを取得して業務コンテンツの完了を監査する運用の場合は、業務フローの終点にはターミナルノードを配置する必要があります。監査ログの運用については、システム管理者に確認してください。
- プロセスノードを直接遷移できる設定になっている場合、業務コンテンツ表示時に選択されているプロセスノード（初期ノード）を明示的に指定したいときは、開始ターミナルノードとつなげる必要があります。直接遷移の設定を変更したい場合は、システム管理者に問い合わせてください。

ヒント

レポート画面で利用状況の解析内容を確認したい場合、業務フローの最後には、必ず完了のターミナルノードを配置してください。レポート画面の詳細については「[6.9 業務コンテンツの利用状況を解析する方法について](#)」を参照してください。

3.5.3 ターミナルノードを配置する

1. [Flow] パレットの （[ターミナル] ボタン）をクリックします。

（[ターミナル] ボタン）が選択されます。

2. 業務フロー領域の任意の場所をクリックします。

ターミナルノードが配置されます。



ターミナルノードに属性を設定する場合は、以降の手順に進んでください。

3. ターミナルノードの任意の場所をダブルクリックします。

[属性の設定] 画面が表示されます。

4. ターミナルノードに関する属性を指定します。

必要に応じて、次の属性を指定します。

- ノードの名称
- ノード ID
- 前面／背面の並び順
- ガイド領域に表示される、前のノードからこのノードへ遷移するためのボタンの名称

5. [更新] ボタンをクリックします。

指定した内容が反映されます。

3.5.4 【属性の設定】画面（ターミナルノード）の項目

図 3-2 【属性の設定】画面（ターミナルノードから表示させた場合）

属性の設定

項目種別: ターミナルノード

ノードの名称:

ノードID: T001

前面／背面の並び順: 1

ボタンの名称を変更する場合は以下を設定してください。

前のノードの「完了」ボタンの名称:

※前のノードからこのノードへ遷移する時の「完了」または「<ノードの名称>へ」ボタンの名称を指定します。

更新 キャンセル

【属性の設定】画面の各項目について説明します。

(1) 【ノードの名称】テキストボックス

ノードの名称を入力します。次の場合はエラーになります。

- 128 バイトを超える文字列を入力した場合（全角の場合は 42 文字以内で入力してください）
- ASCII コードの 0x00～0x1F と 0x7F を含む文字列を入力した場合

(2) 【ノード ID】テキストボックス

ノードを一意に識別するためのノード ID を半角 20 文字以内で入力します。【ノード ID】テキストボックスは、自動設定されたノード ID を変更する場合に入力します。

次の場合はエラーになります。

- 半角英数字、半角ハイフン (-)、および半角アンダースコア (_) 以外の文字を使用した場合
- ほかのノードで使用されているノード ID と同じ値を入力した場合

注意事項

ノード ID に空文字を指定した場合、ノード ID が無効になります。

(3) 【前面／背面の並び順】 テキストボックス

このノードを前面または背面に表示したい場合に、最前面からの並び順を 1～100 の半角数字で入力します。1 を入力すると最前面に、100 を入力すると最背面に表示されます。71 以上を入力すると、このノードと重なる関連線よりも背面に表示されます。

デフォルトは「1」です。新規に追加したノードは最前面に表示されます。

注意事項

画像パーツは、ほかのノードやパーツよりも常に背面に表示されます。【前面／背面の並び順】 テキストボックスを指定しても、このノードを画像パーツよりも背面へ移動することはできません。

(4) 【前のノードの「完了」 ボタンの名称】 テキストボックス

前のノードからこのノードへ遷移するためのボタンの名称を全角 40 文字以内で入力します。制御文字（ASCII コードの 0x00～0x1F と 0x7F）を含む文字列は入力できません。

また、空文字を指定した場合、ボタンの名称には次の文字列が表示されます。

- このノードが前のノードからの唯一の遷移先である場合
「完了」と表示されます。
- このノードが前のノードからの複数ある遷移先のうちの一つである場合
このノードの【ノードの名称】テキストボックスに入力した文字列に「へ」を組み合わせた文字列が表示されます。

注意事項

- 遷移元のノード（このノードに遷移するノード）が複数ある場合、遷移元ごとに「完了」ボタンの名称を変えることはできません。
- 【前のノードの「完了」ボタンの名称】テキストボックスで指定した名称、またはノードの名称が長いと、ボタンの名称が表示しきれない場合があります。その場合は、テキストボックスで指定した名称、またはノードの名称を見直してください。
ボタンの幅以上の文字列を指定したい場合は、システム管理者にボタン幅の変更を問い合わせてください。

3.6 プロセスノード

プロセスノードの使い方や配置する手順について説明します。

3.6.1 プロセスノードとは

プロセスノードとは、業務フロー領域で各作業工程を表すためのパーツです。プロセスノードには、作業の詳細を説明するためのガイド領域があります。

3.6.2 プロセスノードの使い方

プロセスノードを作業順に並べて関連線でつなぐことで、業務フローが作成できます。プロセスノードには、通常は文字列を表示しますが、画像を表示することもできます。

- 文字列を表示する場合

「登録内容の確認」「トレースファイルの取得」などのように、作業の内容を端的に説明すると見やすいフローになります。

- 画像を表示する場合

デフォルトのプロセスノードは、シンプルな白地の四角形です。そのため、色付きの四角形にしたり、イラストを表示したりしたい場合は、画像を使用してください。重要な作業やイレギュラーな作業などをほかの作業と区別するためには、プロセスノードに画像を表示すると効果的です。

ヒント

- 画像を表示する場合で、文字列も表示させたいときは、文字列入りの画像を配置するか、または固定テキストパーツと組み合わせて配置してください。
- レポート画面で利用状況の解析内容を確認したい場合、プロセスノードを最前面に配置してください。レポート画面では、解析結果の文字が、プロセスノードと同じレイヤーに表示されます。もしプロセスノードの前面にパーツがあると、解析結果が前面にあるパーツの後ろに表示され、文字が読みにくくなることがあります。レポート画面の詳細については「[6.9 業務コンテンツの利用状況を解析する方法について](#)」を参照してください。

3.6.3 文字列のプロセスノードを配置する

1. [Flow] パレットの （[プロセス] ボタン）をクリックします。

（[プロセス] ボタン）が選択されます。

2. 業務フロー領域の任意の場所をクリックします。

プロセスノードが配置されます。また、ガイド領域に [Guide] パレットが表示されます。



ガイドの作成方法については、「[4. ガイド領域の作成](#)」を参照してください。

3. プロセスノードの任意の場所をダブルクリックします。

[属性の設定] 画面が表示されます。

4. プロセスノードに関する属性を指定します。

次の属性を指定できます。ノードの名称の指定は必須です。ほかの項目は、必要に応じて指定してください。

- ノードの名称
- 画像 URL
- ノード ID
- 前面／背面の並び順
- ガイド領域に表示される、前のノードに戻るためのボタンの名称
- ガイド領域に表示される、前のノードからこのノードへ遷移するためのボタンの名称

[属性の設定] 画面の各項目の詳細は、「[3.6.6 \[属性の設定\] 画面（プロセスノード）の項目](#)」を参照してください。

5. [更新] ボタンをクリックします。

指定した内容が反映されます。

メモ

プロセスノードを直接遷移する設定にしている場合、業務コンテンツ表示時に選択されているプロセスノード（初期ノード）を明示的に指定できます。詳細は、「[3.5.2 ターミナルノードの使い方](#)」を参照してください。

3.6.4 画像のプロセスノードを配置する

1. [Flow] パレットの （[プロセス] ボタン）をクリックします。

（[プロセス] ボタン）が選択されます。

2. 業務フロー領域の任意の場所をクリックします。

プロセスノードが配置されます。また、ガイド領域に [Guide] パレットが表示されます。



ガイドの作成方法については、「[4. ガイド領域の作成](#)」を参照してください。

3. プロセスノードの任意の場所をダブルクリックします。

「属性の設定」画面が表示されます。

4. プロセスノードに関する属性を指定します。

次の属性を指定できます。画像 URL の指定は必須です。ほかの項目は、必要に応じて指定してください。

- ノードの名称
- 画像 URL
- ノード ID
- 前面／背面の並び順
- ガイド領域に表示される、前のノードに戻るためのボタンの名称
- ガイド領域に表示される、前のノードからこのノードへ遷移するためのボタンの名称

なお、プロセスノードに画像を表示する場合、ノードの名称は業務フローには表示されません。ただし、ガイド領域のタイトルとして表示されるため、入力しておくことをお勧めします。

「属性の設定」画面の各項目の詳細は、「[3.6.6 「属性の設定」画面（プロセスノード）の項目](#)」を参照してください。

5. 「更新」 ボタンをクリックします。

指定した内容が反映されます。

3.6.5 画像を表示したプロセスノードに文字列を表示する

1. 「Flow」パレットの （「プロセス」ボタン）をクリックします。

（「プロセス」ボタン）が選択されます。

2. 業務フロー領域の任意の場所をクリックします。

プロセスノードが配置されます。また、ガイド領域に「Guide」パレットが表示されます。



ガイドの作成方法については、「[4. ガイド領域の作成](#)」を参照してください。

3. プロセスノードの任意の場所をダブルクリックします。

[属性の設定] 画面が表示されます。

4. プロセスノードに関する属性を指定します。

次の属性を指定できます。画像 URL の指定は必須です。ほかの項目は、必要に応じて指定してください。

- ノードの名称
- 画像 URL
- ノード ID
- 前面／背面の並び順
- ガイド領域に表示される、前のノードに戻るためのボタンの名称
- ガイド領域に表示される、前のノードからこのノードへ遷移するためのボタンの名称

なお、プロセスノードに画像を表示する場合、ノードの名称は業務フローには表示されません。ただし、ガイド領域のタイトルとして表示されるため、入力しておくことをお勧めします。

[属性の設定] 画面の各項目の詳細は、「[3.6.6 \[属性の設定\] 画面（プロセスノード）の項目](#)」を参照してください。

5. [Flow] パレットの （[固定テキスト] ボタン）をクリックします。

（[固定テキスト] ボタン）が選択されます。

6. 業務フロー領域の任意の場所をクリックします。

固定テキストパーツが配置されます。



7. 固定テキストパーツの任意の場所をダブルクリックします。

[属性の設定] 画面が表示されます。

8. 固定テキストの表示文字列を入力します。

必要に応じて文字列の属性および前面／背面の並び順を指定します。

[属性の設定] 画面の各項目の詳細は、「[3.9.4 \[属性の設定\] 画面（業務フロー領域の固定テキストパーツ）の項目](#)」を参照してください。

9. [更新] ボタンをクリックします。

業務フロー領域に、入力した文字列が表示されます。

10. 固定テキストパーツがプロセスノードの上に表示されるように、位置を移動します。

固定テキストパーツがプロセスノードの下になってしまう場合は、プロセスノードの前面／背面の並び順の指定値が、固定テキストパーツの指定値と同じか、または大きくなるように修正してください。

3.6.6 【属性の設定】画面（プロセスノード）の項目

図 3-3 【属性の設定】画面（プロセスノードから表示させた場合）

属性の設定

項目種別: プロセスノード

ノードの名称:

画像URL:

ノードID: P001

前面／背面の並び順: 1

☐ 「戻る」ボタンを非表示

ボタンの名称を変更する場合は以下を設定してください。

このノードの「戻る」ボタンの名称:

前のノードの「次へ」ボタンの名称:

※ 前のノードからこのノードへ遷移する時の「次へ」または「<ノードの名称>へ」ボタンの名称を指定します。

更新 キャンセル

【属性の設定】画面の各項目について説明します。

(1) 【ノードの名称】テキストボックス

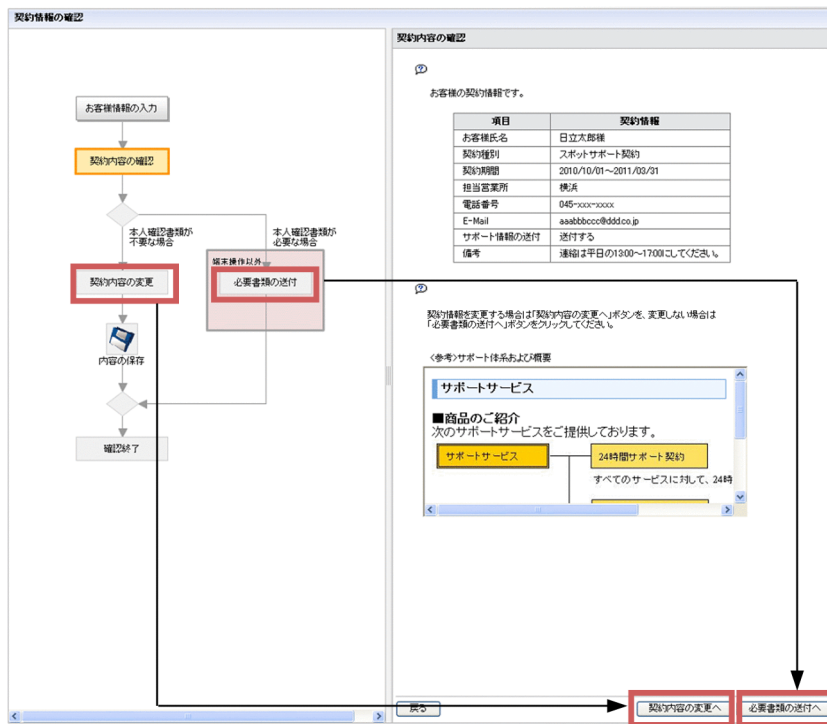
ノードの名称を入力します。次の場合はエラーになります。

- ・ 128 バイトを超える文字列を入力した場合（全角の場合は 42 文字以内で入力してください）
- ・ ASCII コードの 0x00～0x1F と 0x7F を含む文字列を入力した場合

注意事項

- ・ 分岐ノードの次に配置されるプロセスノードのノード名称は、業務実行画面のガイド領域の右下に、遷移用のボタンのラベル（ボタン名）として表示されます。そのため、ノード名称が長いと、ボタンのラベルが途中までしか表示されないの、注意してください。

プロセスノードの名称がボタン名として表示されている例を次に示します。



プロセスノードの名称がボタン名に反映される

(2) [画像 URL] テキストボックス

プロセスノードに表示したい画像ファイルのパスを入力します。Web ブラウザで表示できる形式のファイルを指定してください。

メモ

[ファイル管理／登録] 画面に表示されている画像ファイルを使用する場合、[URL 設定] ボタンをクリックすると、プロセスノードに表示したい画像ファイルのパスが [画像 URL] テキストボックスに自動的に入力されます。

画像はプロセスノードの大きさに合わせて拡大・縮小表示されますが、縦横の比率は保持されません。したがって、あらかじめ画像の大きさとプロセスノードの大きさを合わせておくことをお勧めします。このとき、プロセスノードのサイズから縦横 6 ピクセルずつ引いたサイズになるようにしてください。また、画像を配置したあとにプロセスノードの大きさを変更する場合、拡大・縮小による画質の劣化を考慮してください。

入力できる URL の形式を次に示します。使用するファイルの格納先が、ナビゲーション プラットフォームの Web サーバか、それ以外の Web サーバかによって、指定するパスの形式が異なります。

ナビゲーション プラットフォームの Web サーバに格納したファイルを指定する場合

Web サーバのコンテンツ格納ディレクトリ (ナビゲーション プラットフォームインストールディレクトリ¥PP¥uCPSB¥httpsd¥htdocs) からの相対パスを指定します。

Web サーバのコンテンツ格納ディレクトリ下に images ディレクトリを作成し、images ディレクトリに格納した ucnp.gif という画像ファイルを指定する場合の例を次に示します。

/images/ucnp.gif

ナビゲーション プラットフォーム以外の Web サーバに格納したファイルを指定する場合

「プロトコル://ホスト名:ポート番号/ファイルパス」の形式で指定します。

- プロトコル：http または https
- ホスト名：Web サーバのホスト名または IP アドレス
- ポート番号：Web サーバのポート番号
- ファイルパス：Web サーバに格納されたファイルのパス

プロトコルが http、ホスト名が host1、ポート番号が 55555 の Web サーバの images ディレクトリにある、image1.gif という画像ファイルを指定する場合の例を次に示します。

http://host1:55555/images/image1.gif

画像ファイル名のパスに次に示す文字を指定した場合はエラーになります。

- 1,024 バイトを超える文字列を入力した場合
- ASCII コードの 0x00~0x1F と 0x7F を含む文字列を入力した場合

メモ

プロセスノードの背景色は、システムの設定を変更することで、状態ごとに変更できます。配置した画像の色とプロセスノードの枠の色とが同化してしまう場合などは、プロセスノードの背景色の変更をシステム管理者に問い合わせてください。

背景色を変更できるプロセスノード

選択状態のプロセスノードの色

非選択状態／直接遷移可能状態のプロセスノードの色

直接遷移できるプロセスノードのデザイン

(3) [ファイル管理／登録] ボタン

クリックすると、[ファイル管理／登録] 画面が別ウィンドウで表示されます。

(4) [ノード ID] テキストボックス

ノードを一意に識別するためのノード ID を半角 20 文字以内で入力します。[ノード ID] テキストボックスは、自動設定されたノード ID を変更する場合に入力します。

次の場合はエラーになります。

- 半角英数字、半角ハイフン (-)、および半角アンダースコア (_) 以外の文字を使用した場合

- ほかのノードで使用されているノード ID と同じ値を入力した場合

注意事項

ノード ID に空文字を指定した場合、ノード ID が無効になります。

(5) 【前面／背面の並び順】 テキストボックス

このノードを前面または背面に表示したい場合に、最前面からの並び順を 1～100 の半角数字で入力します。1 を入力すると最前面に、100 を入力すると最背面に表示されます。71 以上を入力すると、このノードと重なる関連線よりも背面に表示されます。

デフォルトは「1」です。新規に追加したノードは最前面に表示されます。

注意事項

画像パーツは、ほかのノードやパーツよりも常に背面に表示されます。【前面／背面の並び順】 テキストボックスを指定しても、このノードを画像パーツよりも背面へ移動することはできません。

(6) 【「戻る」 ボタンを非表示】 チェックボックス

チェックすると、ガイドに【戻る】 ボタンが表示されなくなります。デフォルトではチェックされていません。

ヒント

- 業務フローの終点に配置するプロセスノードでこのチェックボックスをチェックしておくと、業務完了後に前のノードに戻る操作ができません。そのため、操作ログには、業務が完了した正確な日時が出力されます。操作ログを利用して、業務が完了したタイミングを分析したいときに便利です。操作ログの取得有無については、システム管理者に問い合わせてください。
- 【戻る】 ボタンを非表示にすることで、ノードのガイド領域に配置したプラグインが再実行されることを防げます。例えば、ノード A にメールの送信やデータの更新など一度しか実行させたくないプラグインを配置する場合は、ノード B の【戻る】 ボタンを非表示にしてください。

注意事項

- システム構築時の設定によっては、【戻る】 ボタンが常に表示されないため、このチェックボックスでの設定は無効です。
- 【戻る】 ボタンが非表示のプロセスノードを配置する場合、ターミナルノードとの機能の差異に注意してください。ターミナルノードとの機能の差異については「[3.4 業務フロー領域を作成するときの注意事項](#)」を参照してください。

(7) [このノードの「戻る」ボタンの名称] テキストボックス

このノードから前のノードに遷移するためのボタンの名称を全角 40 文字以内で入力します。制御文字 (ASCII コードの 0x00~0x1F と 0x7F) を含む文字列は入力できません。

また、空文字を指定した場合、ボタンの名称には「戻る」と表示されます。

なお、[[戻る] ボタンを非表示] チェックボックスをチェックした場合、このテキストボックスに入力した値は無効となります。

注意事項

- ・ 遷移元のノード (このノードに遷移するノード) が複数ある場合、遷移元ごとに [戻る] ボタンの名称を変えることはできません。
- ・ [このノードの「戻る」ボタンの名称] テキストボックスで指定した名称、またはノードの名称が長いと、ボタンの名称が表示しきれない場合があります。その場合は、テキストボックスで指定した名称、またはノードの名称を見直してください。
ボタンの幅以上の文字列を指定したい場合は、システム管理者にボタン幅の変更を問い合わせてください。
- ・ システム構築時の設定によっては、[戻る] ボタンが常に表示されないため、このテキストボックスでの設定は無効です。

(8) [前のノードの「次へ」ボタンの名称] テキストボックス

前のノードからこのノードへ遷移するためのボタンの名称を全角 40 文字以内で入力します。制御文字 (ASCII コードの 0x00~0x1F と 0x7F) を含む文字列は入力できません。

また、空文字を指定した場合、ボタンの名称には次の文字列が表示されます。

- ・ このノードが前のノードからの唯一の遷移先である場合
「次へ」と表示されます。
- ・ このノードが前のノードからの複数ある遷移先のうちの一つである場合
このノードの [ノードの名称] テキストボックスに入力した文字列に「へ」を組み合わせた文字列が表示されます。

注意事項

- ・ 遷移元のノード (このノードに遷移するノード) が複数ある場合、遷移元ごとに [次へ] ボタンの名称を変えることはできません。
- ・ [前のノードの「次へ」ボタンの名称] テキストボックスで指定した名称、またはノードの名称が長いと、ボタンの名称が表示しきれない場合があります。その場合は、テキストボックスで指定した名称、またはノードの名称を見直してください。
ボタンの幅以上の文字列を指定したい場合は、システム管理者にボタン幅の変更を問い合わせてください。

3.7 分岐合流ノード

分岐合流ノードの使い方や配置する手順について説明します。

3.7.1 分岐合流ノードとは

分岐合流ノードは、手順に分岐があるフローを作成するために必要なノードです。一度の分岐で最大3パターンの分岐先を持つフローを作成できます。また、一度分岐したあとに、途中から再度同じ手順に統合する場合にも、分岐合流ノードが必要になります。

なお、分岐ポイントで使用する分岐合流ノードを特に分岐ノード、合流ポイントで使用する分岐合流ノードを特に合流ノードと呼ぶことがあります。

3.7.2 分岐合流ノードの使い方

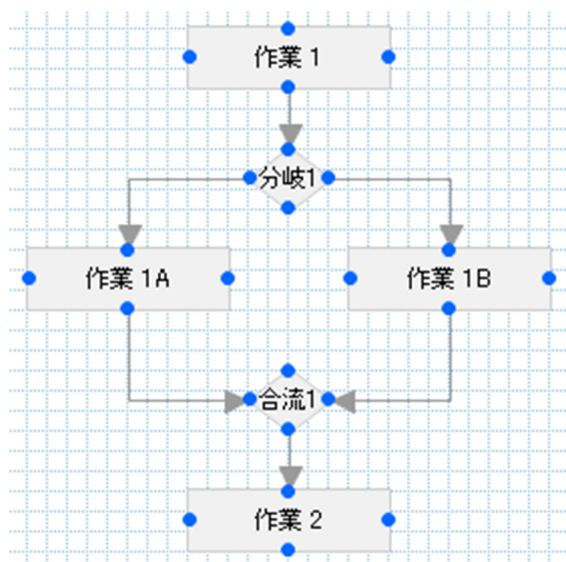
分岐合流ノードを使用する場合は、プロセスノード間またはプロセスノードとターミナルノードの間に配置してください。

プロセスノード間に配置するときの使い方

条件によって実施する作業が異なる場合は、条件が発生する作業のプロセスノードの直後に、分岐ポイントとして分岐合流ノードを配置します。異なる作業の次に共通の作業がある場合は、共通の作業のプロセスノードの直前に、合流ポイントとして分岐合流ノードを配置します。

使用例を次の図に示します。

図 3-4 分岐合流ノードの使用例



図の例では、「作業 1」で条件が発生し、条件によって次の作業が「作業 1A」または「作業 1B」に分かれているため、「作業 1」の直後に分岐合流ノードを配置しています。「作業 1A」と「作業 1B」の次

の作業は、どちらも「作業 2」であり、共通です。そのため、「作業 2」の直前にも分岐合流ノードを配置しています。

プロセスノードとターミナルノードの間に配置するときの使い方

フローの途中で最初の作業に戻る構成のフローを作成するには、開始のターミナルノードと最初のプロセスノードの間に、合流ポイントとして分岐合流ノードを配置します。

ただし、フローの途中で最初の作業に戻ると、業務コンテンツ実行時に作業が無限にループして、いつまでもフローが完了しない可能性があります。ループする構成のフローがあると、ナビゲーションプラットフォームの動作が遅くなることがあるため、注意してください。

わかりやすい分岐条件の示し方

- 業務フロー領域に分岐条件を明示する

業務フローの分岐を工夫すると、分岐条件がユーザに伝わりやすくなり、操作に迷いにくくなります。例えば、作業が無事完了したことを報告するプロセスノードは「完了報告」、エラーが発生し作業が完了しなかったことを報告するプロセスノードは「異常報告」という名称にするなど、分岐条件を簡潔に記載するとわかりやすくなります。また、分岐条件が複雑な場合は、固定テキストを使って分岐の判断を補助する情報を補足すると、ノードの名称を簡潔にできます。

- 分岐条件の詳細はガイド領域で説明する

分岐条件が複雑で業務フロー領域に書ききれない場合は、ガイド領域で詳細を説明すると、業務フローが見やすくなります。

3.7.3 分岐合流ノードを配置する

1. [Flow] パレットの （[分岐合流] ボタン）をクリックします。

（[分岐合流] ボタン）が選択されます。

2. 業務フロー領域の任意の場所をクリックします。

分岐合流ノードが配置されます。



分岐合流ノードに属性を設定する場合は、以降の手順に進んでください。

3. 分岐合流ノードの任意の場所をダブルクリックします。

[属性の設定] 画面が表示されます。

4. 分岐合流ノードに関する属性を指定します。

必要に応じて、ノードの名称、ノード ID、および前面／背面の並び順を指定します。

[属性の設定] 画面の各項目の詳細は、「[3.7.4 \[属性の設定\] 画面（分岐合流ノード）の項目](#)」を参照してください。

5. [更新] ボタンをクリックします。
指定した内容が反映されます。

3.7.4 【属性の設定】画面（分岐合流ノード）の項目

図 3-5 【属性の設定】画面（分岐合流ノードから表示させた場合）



属性の設定

項目種別: 分岐合流ノード

ノードの名称:

ノードID: C001

前面/背面の並び順: 1

更新 キャンセル

【属性の設定】画面の各項目について説明します。

(1) 【ノードの名称】テキストボックス

ノードの名称を入力します。次の場合はエラーになります。

- 128 バイトを超える文字列を入力した場合（全角の場合は 42 文字以内で入力してください）
- ASCII コードの 0x00~0x1F と 0x7F を含む文字列を入力した場合

(2) 【ノード ID】テキストボックス

ノードを一意に識別するためのノード ID を半角 20 文字以内で入力します。【ノード ID】テキストボックスは、自動設定されたノード ID を変更する場合に入力します。

次の場合はエラーになります。

- 半角英数字、半角ハイフン (-)、および半角アンダースコア (_) 以外の文字を使用した場合
- ほかのノードで使用されているノード ID と同じ値を入力した場合

注意事項

ノード ID に空文字を指定した場合、ノード ID が無効になります。

(3) 【前面／背面の並び順】 テキストボックス

このノードを前面または背面に表示したい場合に、最前面からの並び順を 1～100 の半角数字で入力します。1 を入力すると最前面に、100 を入力すると最背面に表示されます。71 以上を入力すると、このノードと重なる関連線よりも背面に表示されます。

デフォルトは「1」です。新規に追加したノードは最前面に表示されます。

注意事項

画像パーツは、ほかのノードやパーツよりも常に背面に表示されます。【前面／背面の並び順】 テキストボックスを指定しても、このノードを画像パーツよりも背面へ移動することはできません。

3.8 関連線

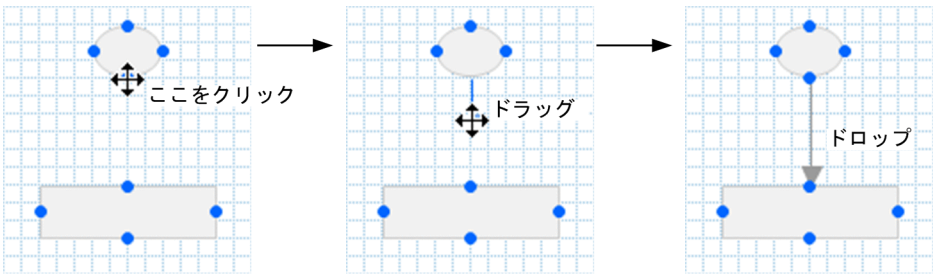
関連線の引き方や関連線を引く場合の条件について説明します。

3.8.1 関連線とは

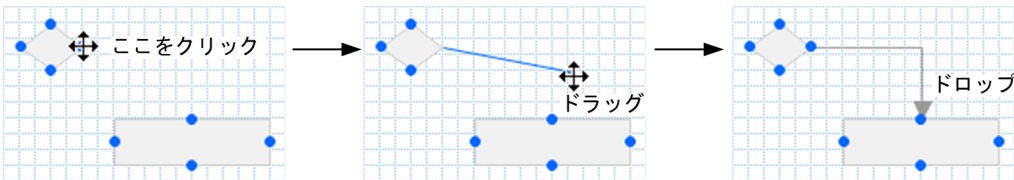
関連線とは、ノードからノードへの遷移を示す矢印のことです。関連線の矢印の方向へフローは進みます。

3.8.2 関連線を引く（ノード同士をつなぐ）

1. 遷移元のノードのポート（●）を遷移先のノードのポート（●）にドラッグ&ドロップします。
ノードとノードの間に関連線が引かれます。



なお、関連線は斜めに引けません。例えば、右下のノードに向かって関連線を引くと、次の図に示すように途中で直角に折れ曲がって表示されます。



3.8.3 関連線を引く場合の条件

ノードとノードの間に関連線を引く場合の条件について説明します。接続元ノードおよび接続先ノードの種類と、関連線によるノード間の接続可否の対応を次に示します。

表 3-3 関連線の接続可否

項番	接続元ノード	接続先ノード	接続可否	補足説明
1	ターミナルノード	ターミナルノード	×	—
2		プロセスノード	○	—
3		分岐ノード	×	—

項番	接続元ノード	接続先ノード	接続可否	補足説明
4	ターミナルノード	合流ノード	△	合流ノードに対して、すでにほかのターミナルノードとの間に関連線が引かれている場合は接続できません。
5		未確定※1の分岐合流ノード	△	すでにほかのターミナルノードとの間に関連線が引かれている場合は接続できません。
6	プロセスノード	ターミナルノード	○	－
7		プロセスノード	○	－
8		分岐ノード	○	－
9		合流ノード	○	－
10		未確定※1の分岐合流ノード	○	－
11	分岐ノード※2	ターミナルノード	○	－
12		プロセスノード	○	－
13		分岐ノード	×	－
14		合流ノード	△	すでに同じ遷移が存在する場合は接続できません。
15		未確定※1の分岐合流ノード	○	－
16	合流ノード※2	ターミナルノード	△	すでに合流ノードの接続元として、ターミナルノードがある場合は接続できません。
17		プロセスノード	○	－
18		分岐ノード	×	－
19		合流ノード	×	－
20		未確定※1の分岐合流ノード	×	－
21	未確定※1の分岐合流ノード※2	ターミナルノード	○	－
22		分岐ノード	×	－
23		合流ノード	○	－
24		未確定※1の分岐合流ノード	○	－

(凡例)

- ：接続できます。
- ×
- △：条件付きで接続できます。
- －：補足説明はありません。

注※1 分岐も合流もしていない状態を指します。

3. 業務フロー領域の作成

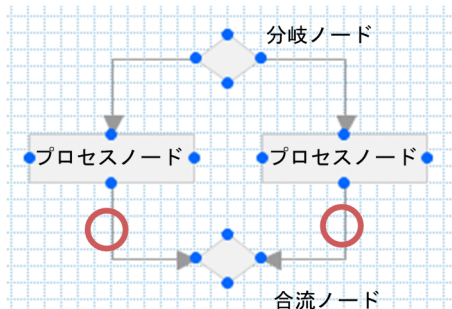
注※2 分岐合流ノードから、分岐および合流するために引ける関連線は3本までです。

3.8.4 関連線の例

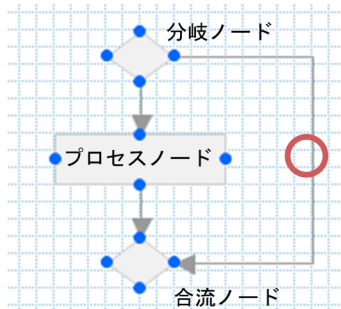
関連線を引いてノードとノードを接続できる場合の例を次の図に示します。

図 3-6 接続できる場合の例

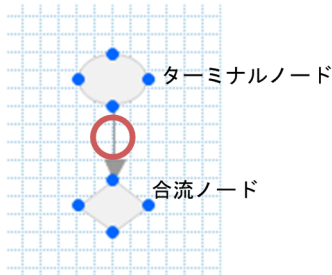
●複数のプロセスノードを接続する



●分岐ノードから合流ノードに接続する



●ターミナルノードから合流ノードに接続する



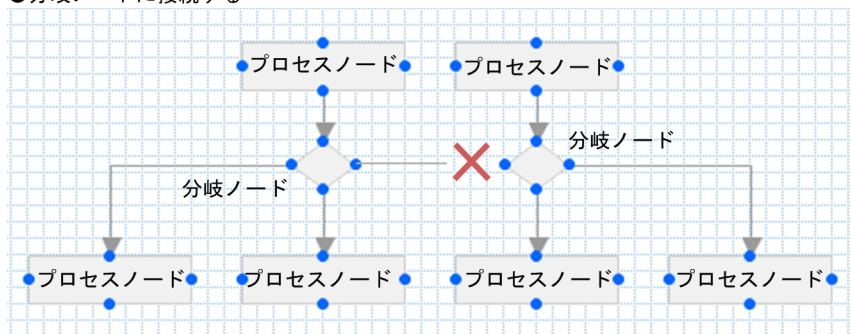
(凡例)

○ : 接続できることを表します。

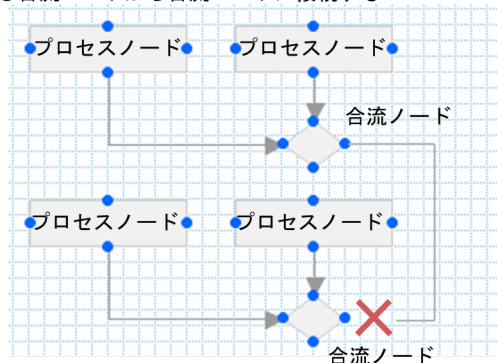
接続できない場合の例を次の図に示します。

図 3-7 接続できない場合の例

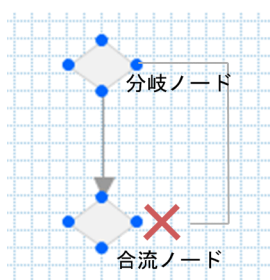
●分岐ノードに接続する



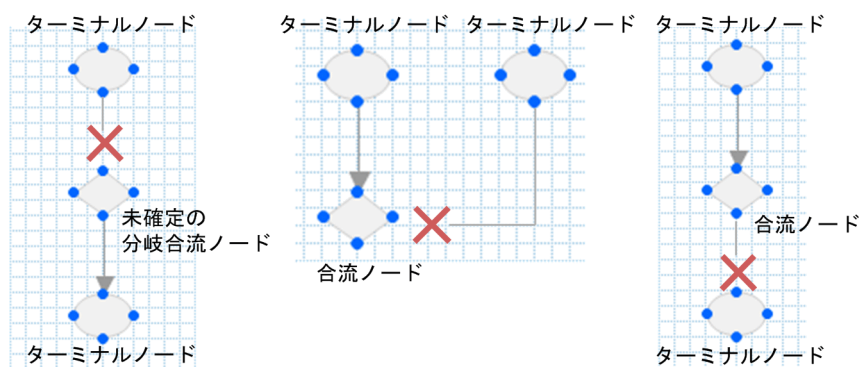
●合流ノードから合流ノードに接続する



●すでに同じ遷移が存在する



●すでにほかのターミナルノードとの間に関連線が引かれている



(凡例)

✕ : 接続できないことを表します。

3.9 固定テキストパーツ（業務フロー領域）

業務フロー領域の固定テキストパーツの使い方や配置する手順について説明します。

3.9.1 固定テキストパーツとは（業務フロー領域）

固定テキストパーツとは、業務コンテンツ実行時に利用者が編集する必要のない、決まった文字列を表示するためのパーツです。

3.9.2 固定テキストパーツの使い方（業務フロー領域）

業務フロー領域の固定テキストパーツは、業務フロー領域だけを参照した場合にも作業の流れと概要を理解しやすくするために活用できます。例えば、次のような場合に使用すると効果的です。

- ノードの作業内容を補足する説明
- ノード同士の関係（関連線）を補足する説明
- 画像を補足する説明

分岐合流ノードを使用したフローは、特に複雑になりがちです。分岐条件はガイド領域で説明できますが、固定テキストパーツを使用して業務フロー領域でも分岐条件を明示しておく、利用者が誤った分岐の作業へ進むリスクを低減できます。

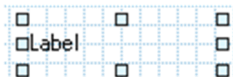
3.9.3 固定テキストパーツを配置する（業務フロー領域）

1. [Flow] パレットの （[固定テキスト] ボタン）をクリックします。

2. （[固定テキスト] ボタン）が選択されます。

3. 業務フロー領域の任意の場所をクリックします。

固定テキストパーツが配置されます。



4. 固定テキストパーツの任意の場所をダブルクリックします。

[属性の設定] 画面が表示されます。

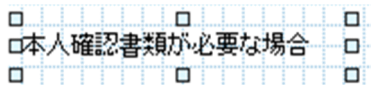
5. 固定テキストの表示文字列を入力します。

必要に応じて文字列の属性および前面／背面の並び順を指定します。

「属性の設定」画面の各項目の詳細は、「3.9.4 「属性の設定」画面（業務フロー領域の固定テキストパーツ）の項目」を参照してください。

6. [更新] ボタンをクリックします。

業務フロー領域に、入力した文字列が表示されます。



3.9.4 「属性の設定」画面（業務フロー領域の固定テキストパーツ）の項目

図 3-8 「属性の設定」画面（固定テキストパーツから表示させた場合）（業務フロー領域）

属性の設定

項目種別: 固定テキスト

表示文字列: Label

文字列の色:

☐ 太字で表示

前面／背面の並び順: 1

☒ 業務コンテンツの設定に従う。

文字のサイズ(px): 12

更新 キャンセル

「属性の設定」画面の各項目について説明します。

(1) 「表示文字列」テキストボックス

作業工程や、画面に表示させる項目の説明を入力します。デフォルトでは「Label」と表示されます。

次の場合はエラーになります。

- 65,535 文字を超える文字列を入力した場合
- ASCII コードの 0x00～0x09, 0x0B, 0x0C, 0x0E～0x1F, および 0x7F を含む文字列を入力した場合

(2) 【文字列の色】 テキストボックス

[表示文字列] テキストボックスに入力した文字列の色を 16 進数のカラーコード、または英語のカラーネームで指定します。カラーコードおよびカラーネームは HTML の仕様に従って入力してください。

次の場合は黒色となります。

- 空文字を指定した場合
- スタイルシートで無効となる値を指定した場合

次の場合はエラーになります。

- 128 文字を超える文字列を入力した場合
- 半角英数字以外の文字、または「#」以外の記号を入力した場合
- 制御文字（ASCII コードの 0x00～0x1F と 0x7F）を含む文字列を入力した場合

(3) 【太字で表示】 チェックボックス

チェックすると、[表示文字列] テキストボックスに入力した文字が太字で表示されます。デフォルトではチェックされていません。

(4) 【前面／背面の並び順】 テキストボックス

このパーツを前面または背面に表示したい場合に、最前面からの並び順を 1～100 の半角数字で入力します。1 を入力すると最前面に、100 を入力すると最背面に表示されます。71 以上を入力すると、このパーツと重なる関連線よりも背面に表示されます。

デフォルトは「1」です。新規に追加したパーツは最前面に表示されます。

注意事項

画像パーツは、ほかのノードやパーツよりも常に背面に表示されます。[前面／背面の並び順] テキストボックスを指定しても、このパーツを画像パーツよりも背面へ移動することはできません。

(5) 【業務コンテンツの設定に従う。】 チェックボックス

チェックすると、[業務コンテンツの設定] 画面で指定した文字のサイズと同じ大きさになります。

(6) 【文字のサイズ (px)】 テキストボックス

[表示文字列] テキストボックスに入力した文字列のサイズ（単位：ピクセル）を 10 進数で指定します。デフォルトでは 12 です。[文字のサイズ (px)] テキストボックスには、1～128 の半角数字（整数）を入力できます。

次の場合はエラーになります。

- 空文字を指定した場合
- 1～128 以外の値を入力した場合

3.10 画像パーツ（業務フロー領域）

業務フロー領域の画像パーツの使い方や配置する手順について説明します。

3.10.1 画像パーツとは（業務フロー領域）

画像パーツとは、業務コンテンツに写真やイラスト、アイコンなどの画像を表示するためのパーツです。背景のような大きな画像も表示できます。

3.10.2 画像パーツの使い方（業務フロー領域）

業務フロー領域の画像パーツは、ノード、関連線、または固定テキストパーツよりも常に背面に表示されます。そのため、例えば次のような場合に使用すると効果的です。

- フローの一部の流れを差別化して見せるための背景や枠
- 固定テキストを強調するための背景や枠
- 装飾を目的とした写真やイラスト

メモ

画像パーツ同士であれば、前面・背面の表示順序を指定できます。

3.10.3 画像パーツを配置する（業務フロー領域）

Web サーバ（サーバマシン）に格納されているファイルのうち、配置したい画像の URL を指定します。Web サーバへの画像の格納については、「[2.9.2 静的ファイルの格納方法](#)」を参照してください。

画像を配置する手順を次に示します。

1. [Flow] パレットの （[画像] ボタン）をクリックします。

（[画像] ボタン）が選択されます。

2. 業務フロー領域の任意の場所をクリックします。

画像パーツが配置されます。



3. 画像パーツの任意の場所をダブルクリックします。

「属性の設定」画面が表示されます。

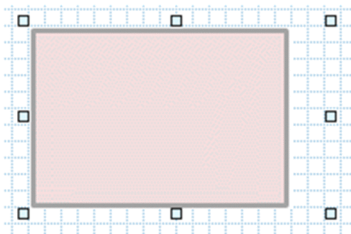
4. 画像の URL を指定します。

必要に応じて、画像の説明（ツールチップ）や画像のリサイズ、前面／背面の並び順を指定します。

「属性の設定」画面の各項目の詳細は、「[3.10.4 「属性の設定」画面（業務フロー領域の画像パーツ）の項目](#)」を参照してください。

5. 「更新」 ボタンをクリックします。

業務フロー領域に、指定した画像が表示されます。



3.10.4 [属性の設定] 画面（業務フロー領域の画像パーツ）の項目

図 3-9 [属性の設定] 画面（画像パーツから表示させた場合）（業務フロー領域）

属性の設定

項目種別: 画像

URL:

ファイル管理/登録

ツールチップ:

リサイズ選択

☒ 画像サイズを変更しない。

☐ 画像サイズを表示エリアに合わせる。

前面/背面の並び順:

更新 キャンセル

[属性の設定] 画面の各項目について説明します。

(1) [URL] テキストボックス

ガイド領域に表示させたい画像ファイルのパスを入力します。Web ブラウザで表示できる形式のファイルを指定してください。

メモ

[ファイル管理/登録] 画面に表示されている画像ファイルを使用する場合、[URL 設定] ボタンをクリックすると、ガイド領域に表示させたい画像ファイルのパスが [URL] テキストボックスに自動的に入力されます。

入力できる URL の形式を次に示します。使用するファイルの格納先が、ナビゲーション プラットフォームの Web サーバか、それ以外の Web サーバかによって、指定するパスの形式が異なります。

ナビゲーション プラットフォームの Web サーバに格納したファイルを指定する場合

Web サーバのコンテンツ格納ディレクトリ（ナビゲーション プラットフォームインストールディレクトリ¥PP¥uCPSB¥httpsd¥htdocs）からの相対パスを指定します。

Web サーバのコンテンツ格納ディレクトリ下に images ディレクトリを作成し、images ディレクトリに格納した ucnp.gif という画像ファイルを指定する場合の例を次に示します。

/images/ucnp.gif

ナビゲーション プラットフォーム以外の Web サーバに格納したファイルを指定する場合

「プロトコル://ホスト名:ポート番号/ファイルパス」の形式で指定します。

- プロトコル：http または https
- ホスト名：Web サーバのホスト名または IP アドレス
- ポート番号：Web サーバのポート番号
- ファイルパス：Web サーバに格納されたファイルのパス

プロトコルが http、ホスト名が host1、ポート番号が 55555 の Web サーバの images ディレクトリにある、image1.gif という画像ファイルを指定する場合の例を次に示します。

http://host1:55555/images/image1.gif

画像ファイル名のパスに次に示す文字を指定した場合はエラーになります。

- 1,024 バイトを超える文字列を入力した場合
- ASCII コードの 0x00~0x1F と 0x7F を含む文字列を入力した場合

(2) 【ファイル管理／登録】 ボタン

クリックすると、【ファイル管理／登録】画面が別ウィンドウで表示されます。

(3) 【ツールチップ】 テキストボックス

画像の説明を入力します。次の場合はエラーになります。

- 128 バイトを超える文字列を入力した場合（全角の場合は 42 文字以内で入力してください）
- ASCII コードの 0x00~0x1F と 0x7F を含む文字列を入力した場合

空文字を指定した場合はツールチップが表示されません。

(4) 【リサイズ選択】 ラジオボタン

画像パーツの幅と高さに合わせて画像をリサイズするかどうかを設定します。次のどちらかを選択してください。

- 【画像サイズを変更しない。】
選択すると、画像がそのままのサイズで表示されます。画像パーツよりもサイズの大きい画像の場合、画像パーツのサイズからはみ出す部分は表示されません。
- 【画像サイズを表示エリアに合わせる。】
選択すると、画像パーツの幅と高さに合わせてリサイズされた画像が表示されます。

(5) 【前面／背面の並び順】 テキストボックス

このパーツをほかの画像パーツよりも前面または背面に表示したい場合に、最前面からの並び順を 1～100 の半角数字で入力します。1 を入力すると最前面に、100 を入力すると最背面に表示されます。

デフォルトは「1」です。新規に追加したパーツは最前面に表示されます。

注意事項

ここで設定できるのは、画像パーツ同士の並び順だけです。【前面／背面の並び順】 テキストボックスを指定しても、このパーツを画像パーツ以外のパーツやノードよりも前面へ移動することはできません。

4

ガイド領域の作成

この章では、ガイド領域の作成に必要なパーツと操作について説明します。

ガイド領域では、テキストやラジオボタンなどさまざまなパーツを配置して、プロセスノードの詳細を説明するためのガイドを作成していきます。

4.1 ガイドを作成する流れ

ガイドは、業務フロー領域のプロセスノードに対して作成できます。ターミナルノード、および分岐合流ノードに対しては作成できません。

ガイドを作成する流れを次に示します。

1. 業務フロー領域で配置したプロセスノードを選択します。

ガイド領域に [Guide] パレットが表示され、ガイドパーツが配置できるようになります。

2. ガイドパーツを配置します。

3. 配置したガイドパーツの属性を設定します。

[属性の設定] 画面で、ガイドパーツの見映えなどを設定します。[属性の設定] 画面は、ガイドパーツをダブルクリックすると表示されます。

設定後、[更新] ボタンをクリックすると設定した内容が反映されます。設定した内容を反映しない場合は、[キャンセル] ボタンをクリックしてください。

4. ツールバーの 保存 ([保存] ボタン) をクリックします。

業務コンテンツが保存されます。

4.2 ガイド領域の作成例

ガイド領域にガイドパーツを配置した例を次に示します。

図 4-1 ガイドの例（お客様情報の入力）

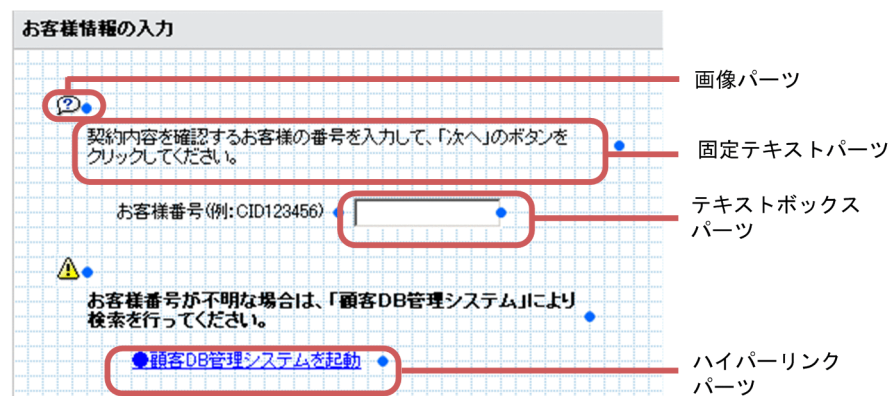


図 4-2 ガイドの例（契約内容の確認）

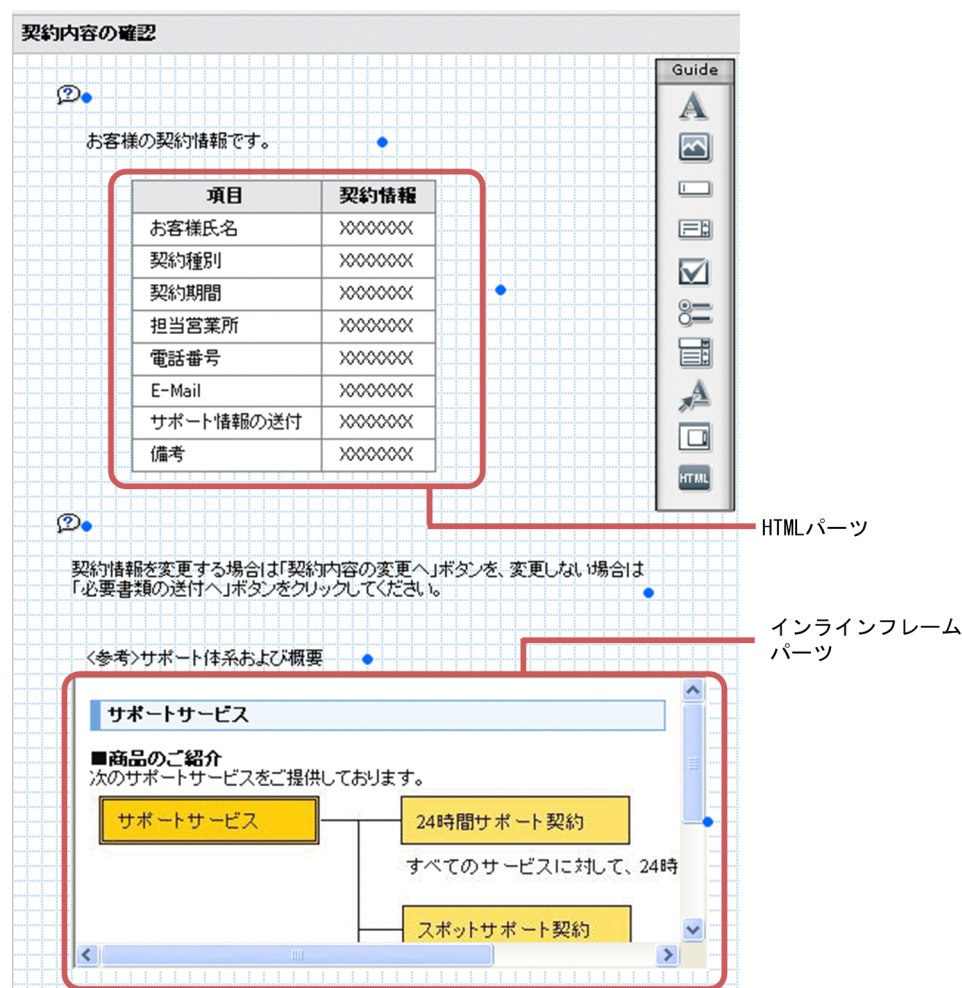


図 4-3 ガイドの例（契約内容の変更）

契約内容の変更

②

お客様の契約情報を更新してください。
「次へ」ボタンをクリックすると、内容の保存へ遷移します。

契約種別 ☐ 24時間サポート契約 ☐ スポットサポート契約 ☐ 障害サポート契約 ☐ 契約なし

契約期間 ~

都道府県

市区町村

担当営業所

電話番号

E-Mail

☒ サポート情報を上記アドレスに送付する

備考

⚠ 「契約期間」は「YYYY/MM/DD」の形式で入力してください。

ラジオボタン
パーツ

ドロップダウン
パーツ

チェックボックス
パーツ

テキストエリア
パーツ

4.3 ガイド領域の作成に使用するボタン（[Guide] パレット）

ガイドの作成は、[Guide] パレットを利用します。[Guide] パレットのボタンの意味について次の表に示します。

表 4-1 [Guide] パレットのボタンの意味

項番	ボタン	このマニュアルでの表記	説明
1		〔固定テキスト〕 ボタン	固定テキストを配置します。
2		〔画像〕 ボタン	画像を配置します。
3		〔テキストボックス〕 ボタン	1 行分のテキスト入力領域（テキストボックス）を配置します。
4		〔テキストエリア〕 ボタン	複数行のテキスト入力領域（テキストエリア）を配置します。
5		〔チェックボックス〕 ボタン	チェックボックスを配置します。
6		〔ラジオボタン〕 ボタン	ラジオボタンを配置します。
7		〔ドロップダウン〕 ボタン	ドロップダウンを配置します。
8		〔ハイパーリンク〕 ボタン	ハイパーリンクを配置します。
9		〔インラインフレーム〕 ボタン	外部の Web サイトのコンテンツを表示するインラインフレームを配置します。
10		〔HTML〕 ボタン	ユーザが入力したソースコードを HTML コンテンツとして配置します。

4.4 固定テキストパーツ（ガイド領域）

ガイド領域の固定テキストパーツの使い方や配置する手順について説明します。

4.4.1 固定テキストパーツとは（ガイド領域）

固定テキストパーツとは、業務コンテンツ実行時に利用者が編集する必要のない、決まった文字列を表示するためのパーツです。

4.4.2 固定テキストパーツの使い方（ガイド領域）

ガイド領域の固定テキストパーツは、例えば次のように使うと効果的です。

- 作業や操作を説明する文章または見出し
- 画像を補足する説明文
- ドロップダウンの説明文
- フォントのサイズ、色、太字装飾ができない、チェックボックスパーツおよびラジオボタンパーツの表示文字列の代用

メモ

フォントのサイズ、色、太字装飾ができないパーツには、ほかにもハイパーリンクパーツがあります。ただし、固定テキストパーツにはハイパーリンクを設定できないため、ハイパーリンクパーツの表示文字列の代わりに固定テキストパーツを使用することはできません。

4.4.3 固定テキストパーツを配置する（ガイド領域）

1. [Guide] パレットの （[固定テキスト] ボタン）をクリックします。

（[固定テキスト] ボタン）が選択されます。

2. ガイド領域の任意の場所をクリックします。

固定テキストパーツが配置されます。



3. 固定テキストパーツの任意の場所をダブルクリックします。

「属性の設定」画面が表示されます。

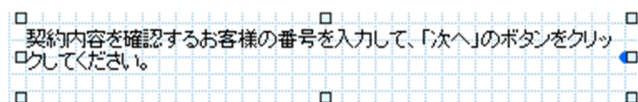
4. 固定テキストの表示文字列を入力します。

必要に応じて文字列の属性を指定します。

「属性の設定」画面の各項目の詳細は、「[4.4.4 「属性の設定」画面（ガイド領域の固定テキストパーツ）の項目](#)」を参照してください。

5. 「更新」 ボタンをクリックします。

ガイド領域に、入力した文字列が表示されます。



4.4.4 「属性の設定」画面（ガイド領域の固定テキストパーツ）の項目

図 4-4 「属性の設定」画面（固定テキストパーツから表示させた場合）（ガイド領域）

「属性の設定」画面の各項目について説明します。

(1) 「表示文字列」 テキストボックス

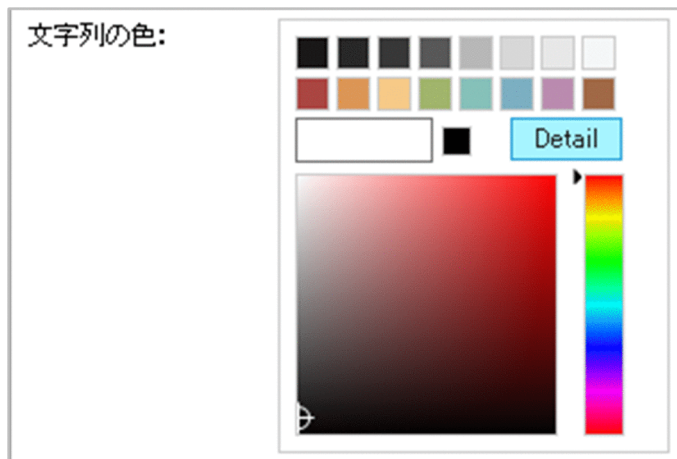
作業工程や、画面に表示させる項目の説明を入力します。デフォルトでは「Label」と表示されます。なお、このテキストボックスで入力した文字列は、「業務実行画面で表示」チェックボックスがチェックされている場合だけ、業務実行画面（業務実行画面から起動する印刷画面についても同様）に表示されます。

次の場合はエラーになります。

- 65,535 文字を超える文字列を入力した場合
- ASCII コードの 0x00～0x09, 0x0B, 0x0C, 0x0E～0x1F, および 0x7F を含む文字列を入力した場合

(2) 【文字列の色】 設定領域

図 4-5 【文字列の色】 設定領域



【表示文字列】テキストボックスに入力した文字列の色を、カラーパレットまたはカラーテキストで指定します。指定色はカラーイメージに表示されます。

カラーパレットでは、16 種類の基本色から色を指定できます。【Detail】ボタンをクリックすると、カラーフィールドとカラースライダーで任意の色を指定できます。また、指定した色のカラーコードがカラーテキストに設定されます。

カラーテキストでは、16 進数のカラーコードまたは英語のカラーネームで色を指定できます。また、カラーコードおよびカラーネームは、HTML の仕様に従って入力してください。

なお、初期表示、およびカラーテキストに半角英数字以外の文字、または「#」以外の記号を入力した場合は、指定色が黒色となります。

また、カラーテキストに次の値を入力した場合は、エラーになります。

- 128 文字を超える文字列を入力した場合
- 半角英数字以外の文字、または「#」以外の記号を入力した場合
- 制御文字（ASCII コードの 0x00～0x1F と 0x7F）を含む文字列を入力した場合

(3) 【ガイドパーツ ID】 テキストボックス

ガイドパーツを一意に識別するためのガイドパーツ ID を半角 20 文字以内で入力します。【ガイドパーツ ID】テキストボックスは、自動設定されたガイドパーツ ID を変更する場合に入力します。

使用できる文字は、半角英数字、半角ハイフン (-) および半角アンダースコア (_) です。空文字も設定できます。空文字以外を指定する場合は、同じガイド領域内で、それぞれ一意となる値を指定してください。

(4) 【太字で表示】 チェックボックス

チェックすると、[表示文字列] テキストボックスに入力した文字が太字で表示されます。デフォルトではチェックされていません。

(5) 【業務実行画面で表示】 チェックボックス

チェックすると、[表示文字列] テキストボックスに入力した文字列が、業務実行画面（業務実行画面から起動する印刷画面についても同様）に表示されます。デフォルトではチェックされています。なお、チェックしない場合、業務編集画面（業務編集画面から起動する印刷画面および差分表示画面についても同様）では、背景色がダークグレーになります。

(6) 【業務コンテンツの設定に従う。】 チェックボックス

チェックすると、[業務コンテンツの設定] 画面で指定した文字のサイズと同じ大きさになります。

(7) 【文字のサイズ (px)】 テキストボックス

[表示文字列] テキストボックスに入力した文字列のサイズ（単位：ピクセル）を 10 進数で指定します。デフォルトでは 12 です。[文字のサイズ (px)] テキストボックスには、1～128 の半角数字（整数）を入力できます。なお、[業務コンテンツの設定に従う。] チェックボックスがチェックされている場合は、文字列のサイズを指定できません。[業務コンテンツの設定] 画面で設定した文字のサイズの値と同じになります。

次の場合はエラーになります。

- 空文字を指定した場合
- 1～128 以外の値を入力した場合

4.5 画像パーツ（ガイド領域）

ガイド領域の画像パーツの使い方や配置する手順について説明します。

4.5.1 画像パーツとは（ガイド領域）

画像パーツとは、業務コンテンツに写真やイラスト、アイコンなどの画像を表示するためのパーツです。背景のような大きな画像も表示できます。

4.5.2 画像パーツの使い方（ガイド領域）

ガイド領域の画像パーツは、ほかのガイドパーツよりも常に背面に表示されます。そのため、ほかのガイドパーツを隠すような使い方はできません。ほかのガイドパーツの背面に表示して、次のような場合に使用すると効果的です。

- 文字列を表示するガイドパーツを強調するための背景や枠
- 作業の内容を説明するための写真やイラスト

アプリケーションや Web システムなどの操作手順を説明する場合、画面のスクリーンショットを載せると、操作する個所がユーザにわかりやすくなります。

また、マシンの電源を切ったり、ケーブルが差し込まれているか確認したりする手順を説明する場合は、実際のマシンの写真を載せると、操作や確認個所がユーザにわかりやすくなります。

- 装飾を目的とした写真やイラスト

4.5.3 画像パーツを配置する（ガイド領域）

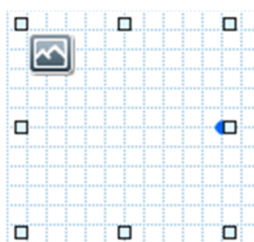
画像を配置する手順を次に示します。

1. [Guide] パレットの （[画像] ボタン）をクリックします。

（[画像] ボタン）が選択されます。

2. ガイド領域の任意の場所をクリックします。

画像パーツが配置されます。



3. 画像パーツの任意の場所をダブルクリックします。

「属性の設定」画面が表示されます。

4. 画像の URL を指定します。

必要に応じて、画像の説明（ツールチップ）や画像のリサイズについて指定します。

Web サーバ（サーバマシン）に格納されているファイルのうち、配置したい画像の URL を指定します。Web サーバへの画像の格納については、「[2.9.2 静的ファイルの格納方法](#)」を参照してください。

「属性の設定」画面の各項目の詳細は、「[4.5.4 「属性の設定」画面（ガイド領域の画像パーツ）の項目](#)」を参照してください。

5. 「更新」 ボタンをクリックします。

ガイド領域に、指定した画像が表示されます。



4.5.4 「属性の設定」画面（ガイド領域の画像パーツ）の項目

図 4-6 「属性の設定」画面（画像パーツから表示させた場合）（ガイド領域）

属性の設定

項目種別: 画像

URL: ファイル管理/登録

ツールチップ:

ガイドパーツID:

リサイズ選択

☒ 画像サイズを変更しない。

☐ 画像サイズを表示エリアに合わせる。

更新 キャンセル

「属性の設定」画面の各項目について説明します。

(1) [URL] テキストボックス

ガイド領域に表示させたい画像ファイルのパスを入力します。Web ブラウザで表示できる形式のファイルを指定してください。

メモ

[ファイル管理／登録] 画面に表示されている画像ファイルを使用する場合、[URL 設定] ボタンをクリックすると、ガイド領域に表示させたい画像ファイルのパスが [URL] テキストボックスに自動的に入力されます。

入力できる URL の形式を次に示します。使用するファイルの格納先が、ナビゲーション プラットフォームの Web サーバか、それ以外の Web サーバかによって、指定するパスの形式が異なります。

ナビゲーション プラットフォームの Web サーバに格納したファイルを指定する場合

Web サーバのコンテンツ格納ディレクトリ（ナビゲーション プラットフォームインストールディレクトリ¥PP¥uCPSB¥httpsd¥htdocs）からの相対パスを指定します。

Web サーバのコンテンツ格納ディレクトリ下に images ディレクトリを作成し、images ディレクトリに格納した ucnp.gif という画像ファイルを指定する場合の例を次に示します。

/images/ucnp.gif

ナビゲーション プラットフォーム以外の Web サーバに格納したファイルを指定する場合

「プロトコル://ホスト名:ポート番号/ファイルパス」の形式で指定します。

- プロトコル：http または https
- ホスト名：Web サーバのホスト名または IP アドレス
- ポート番号：Web サーバのポート番号
- ファイルパス：Web サーバに格納されたファイルのパス

プロトコルが http、ホスト名が host1、ポート番号が 55555 の Web サーバの images ディレクトリにある、image1.gif という画像ファイルを指定する場合の例を次に示します。

http://host1:55555/images/image1.gif

画像ファイル名のパスに次に示す文字を指定した場合はエラーになります。

- 1,024 バイトを超える文字列を入力した場合
- ASCII コードの 0x00~0x1F と 0x7F を含む文字列を入力した場合

(2) [ファイル管理／登録] ボタン

クリックすると、[ファイル管理／登録] 画面が別ウィンドウで表示されます。

(3) 【ツールチップ】 テキストボックス

画像の説明を入力します。次の場合はエラーになります。

- 128 バイトを超える文字列を入力した場合（全角の場合は 42 文字以内で入力してください）
- ASCII コードの 0x00~0x1F と 0x7F を含む文字列を入力した場合

空文字を指定した場合はツールチップが表示されません。

(4) 【ガイドパーツ ID】 テキストボックス

ガイドパーツを一意に識別するためのガイドパーツ ID を半角 20 文字以内で入力します。[ガイドパーツ ID] テキストボックスは、自動設定されたガイドパーツ ID を変更する場合に入力します。

使用できる文字は、半角英数字、半角ハイフン (-) および半角アンダースコア (_) です。空文字も設定できます。空文字以外を指定する場合は、同じガイド領域内で、それぞれ一意となる値を指定してください。

(5) 【リサイズ選択】 ラジオボタン

画像を画像パーツの幅と高さに合わせてリサイズするかどうかを設定します。次のどちらかを選択してください。

- [画像サイズを変更しない。]
選択すると、画像がそのままのサイズで表示されます。画像パーツよりもサイズの大きい画像の場合、画像パーツのサイズからはみ出す部分は表示されません。
- [画像サイズを表示エリアに合わせる。]
選択すると、画像パーツの幅と高さに合わせてリサイズされた画像が表示されます。

4.6 テキストボックスパーツ（ガイド領域）

ガイド領域のテキストボックスパーツの使い方や配置する手順について説明します。

4.6.1 テキストボックスパーツとは（ガイド領域）

テキストボックスパーツとは、業務コンテンツに読み取り専用または入力可能なテキストボックスを表示するためのパーツです。

テキストエリアパーツとの違いは、改行が有効かどうかです。テキストボックスパーツでは改行は無効ですが、テキストエリアパーツでは有効になります。

4.6.2 テキストボックスパーツの使い方（ガイド領域）

テキストボックスパーツは、例えば次のような場合に使用すると効果的です。

- 利用者が、任意の数字や文字を入力する必要がある
フリーコメント以外にも、住所や氏名などの入力に使用できます。
- 利用者が、特定の規則に従った数字や文字を入力する必要がある
電話番号やカード番号など、桁数が決まっているものの入力用に適しています。また、全角や半角英数字など、入力できる文字の種類を限定したいときにも有効です。規則に反する入力があったときに、エラーメッセージが表示されるように指定すれば、利用者の入力ミスを防止できます。
- 利用者が入力したデータを、ほかのガイドパーツ、外部プログラム、またはJavaScript プラグインで利用する
入力データを、ほかのガイドパーツ、JP1/AO などの外部プログラム、またはJavaScript プラグインで利用するためには、プラグインパーツも必要です。プラグインパーツについては、「[5.3 プラグインパーツ](#)」を参照してください。

4.6.3 テキストボックスパーツを配置する

1. [Guide] パレットの （[テキストボックス] ボタン）をクリックします。

（[テキストボックス] ボタン）が選択されます。

2. ガイド領域の任意の場所をクリックします。

テキストボックスパーツが配置されます。



テキストボックスに属性を設定する場合は、以降の手順に進んでください。

3. テキストボックスパーツの任意の場所をダブルクリックします。

「属性の設定」画面が表示されます。

4. テキストボックスに関する属性を指定します。

必要に応じてテキストボックスの属性を指定します。

「属性の設定」画面の各項目の詳細は、「[4.6.5 「属性の設定」画面（ガイド領域のテキストボックスパーツ）の項目](#)」を参照してください。

5. 「更新」ボタンをクリックします。

指定した内容が反映されます。

4.6.4 テキストボックスに入力規則を設定する場合の注意事項

- 「入力規則」テキストボックスで入力値をチェックするためには、一度遷移したことがあるノードにだけ直接遷移できる設定、または直接遷移しない設定である必要があります。業務フローのすべてのノードに対して直接遷移できる設定になっている場合は、「入力規則」テキストボックスの設定は無効になります。
ノードの直接遷移に関する設定は、システム管理者に問い合わせてください。
- 操作ログを使用する場合は、「入力規則」テキストボックスではなく、入出力プラグインを使って入力値をチェックする必要があります。操作ログの使用有無については、システム管理者に問い合わせてください。
- 「入力規則」テキストボックスで最大入力文字数を指定する場合は、「最大入力文字数」テキストボックスで指定した値と同じか、またはそれよりも小さい値を指定することを推奨します。「最大入力文字数」テキストボックスの指定値より大きい値を指定しても、無効になります。
- プラグインによる入力値のチェックは、「属性の設定」画面で設定した入力規則による入力値のチェックのあとに実行されます。
- 複数のガイドパーツで同時に入力値エラーが発生した場合は、最初に配置したガイドパーツを含めて10個までのガイドパーツが強調表示され、対応するエラーメッセージが表示されます。エラーメッセージは、配置された順序が先のガイドパーツから表示されます。ガイドパーツの配置位置は、エラーメッセージの表示順序とは関係ありません。
- 入力規則を指定できるガイドパーツを、複数同時にコピーして作成した場合、コピー時に選択した順序で入力値がチェックされます。また、エラーメッセージも、コピー時の選択順序に従って表示されます。
- 入力規則を指定できるガイドパーツをいったん削除し、「元に戻す」ボタンで削除を取り消した場合、入力値をチェックする順序が入れ替わることがあります。

4.6.5 【属性の設定】画面（ガイド領域のテキストボックスパーツ）の項目

図 4-7 【属性の設定】画面（テキストボックスパーツから表示させた場合）

The screenshot shows a dialog box titled '属性の設定' (Attribute Settings). It contains the following fields and options:

- 項目種別: テキストボックス
- 最大入力文字数: 1024
- 初期値: (empty text box)
- ガイドパーツID: B001
- ☐ 読み取り専用
- ☐ パスワードボックス
- 入力値チェック:
入力値チェックを行う場合は、許可する入力値の入力規則(正規表現で設定)と入力値チェックエラー時に表示するエラーメッセージを設定してください。 [正規表現の設定例](#)
- 入力規則: (empty text box)
- エラーメッセージ: (empty text box)
- Buttons: 更新 (Update), キャンセル (Cancel)

【属性の設定】画面の各項目について説明します。

(1) 【最大入力文字数】 テキストボックス

テキストボックスの最大入力文字数を指定します。デフォルトでは 1024 です。【最大入力文字数】 テキストボックスには、1～65535 の半角数字（整数）を入力できます。

次の場合はエラーになります。

- 空文字を指定した場合
- 1～65535 以外の値を入力した場合

(2) 【初期値】 テキストボックス

テキストボックスに初期表示する文字列を指定します。次の場合はエラーになります。

- 入力した文字数が【最大入力文字数】 テキストボックスで入力した値より大きい場合
- ASCII コードの 0x00～0x1F と 0x7F を含む文字列を入力した場合

(3) 【ガイドパーツ ID】 テキストボックス

ガイドパーツを一意に識別するためのガイドパーツ ID を半角 20 文字以内で入力します。【ガイドパーツ ID】 テキストボックスは、自動設定されたガイドパーツ ID を変更する場合に入力します。

使用できる文字は、半角英数字、半角ハイフン (-) および半角アンダースコア (_) です。空文字も設定できます。空文字以外を指定する場合は、同じガイド領域内で、それぞれ一意となる値を指定してください。

(4) 【読み取り専用】 チェックボックス

チェックすると、テキストボックスに文字を入力できないようにします。デフォルトではチェックされていません。

(5) 【パスワードボックス】 チェックボックス

パスワードボックスとして使用する場合にチェックします。チェックすると、入力した文字列を「●」で表示します。デフォルトではチェックされていません。

(6) 【入力規則】 テキストボックス

テキストボックスに入力する文字列の規則を 1,024 文字以内の正規表現で指定できます。指定すると、業務実行画面で次の工程に遷移するときに、入力されている文字列をチェックします。規則に反する文字列が入力されると、[エラーメッセージ] テキストボックスで指定したメッセージが出力されます。また、環境によってはエラーとなった個所が強調表示されます。

正規表現については、[正規表現の設定例] をクリックして表示される画面を参照してください。この画面にない入力規則を指定する場合は、JavaScript の RegExp コンストラクタの第 1 引数に指定する文字列と同じ形式で指定してください。空文字を指定した場合は、入力規則はないものと見なされます。

次のことはできません。

- JavaScript の RegExp コンストラクタの第 1 引数として不正な文字列を指定すること
- ASCII コードの 0x00~0x1F と 0x7F を含む文字列を入力すること

[入力規則] テキストボックスが使えない例

次の場合はプラグインを利用する必要があります。プラグインの詳細は、マニュアル「ナビゲーションプラットフォーム 開発ガイド」を参照してください。

- 正規表現で定義できない入力規則を利用したい場合
- ほかのガイドパーツの入力値やユーザ IDなどを参照する必要がある入力規則の場合
- 利用者が入力した値を表示するなど、エラーメッセージを動的に変化させたい場合
- 入力値エラー発生時、11 個以上のガイドパーツを同時に強調表示させたい場合

(7) 【エラーメッセージ】 テキストボックス

[入力規則] テキストボックスで指定した入力規則に反する文字列が入力された場合に表示するエラーメッセージを、全角 200 文字以内で指定します。制御文字 (ASCII コードの 0x00~0x1F と 0x7F) を含む文字列は入力できません。

なお、[入力規則] テキストボックスで入力規則を指定した場合は、このテキストボックスの指定は必須です。

4.7 テキストエリアパーツ（ガイド領域）

ガイド領域のテキストエリアパーツの使い方や配置する手順について説明します。

4.7.1 テキストエリアパーツとは（ガイド領域）

テキストエリアパーツとは、業務コンテンツに読み取り専用または入力可能なテキストエリアを表示するためのパーツです。

テキストボックスパーツとの違いは、改行が有効かどうかです。テキストボックスパーツでは改行は無効ですが、テキストエリアパーツでは有効になります。

4.7.2 テキストエリアパーツの使い方（ガイド領域）

テキストエリアパーツは、例えば次のような場合に使用すると効果的です。

- 利用者が、任意の数字や文字を入力する必要がある
フリーコメント以外にも、住所や氏名などの入力に使用できます。
- 利用者が、特定の規則に従った数字や文字を入力する必要がある
電話番号やカード番号など、桁数が決まっているものの入力用に適しています。また、全角や半角英数字など、入力できる文字の種類を限定したいときにも有効です。規則に反する入力があったときに、エラーメッセージが表示されるように指定すれば、利用者の入力ミスを防止できます。
入力データをほかのガイドパーツや外部プログラムで利用するためには、プラグインパーツも必要です。プラグインパーツについては、「[5.3 プラグインパーツ](#)」を参照してください。

4.7.3 テキストエリアを配置する（ガイド領域）

1. [Guide] パレットの （[テキストエリア] ボタン）をクリックします。

（[テキストエリア] ボタン）が選択されます。

2. ガイド領域の任意の場所をクリックします。

テキストエリアパーツが配置されます。



テキストエリアに属性を設定する場合は、以降の手順に進んでください。

3. テキストエリアパーツの任意の場所をダブルクリックします。

「属性の設定」画面が表示されます。

4. テキストエリアに関する属性を指定します。

必要に応じてテキストエリアの属性を指定します。

「属性の設定」画面の各項目の詳細は、「[4.7.5 「属性の設定」画面（ガイド領域のテキストエリアパーツ）の項目](#)」を参照してください。

5. 「更新」ボタンをクリックします。

指定した内容が反映されます。

4.7.4 テキストエリアに入力規則を設定する場合の注意事項

- 「入力規則」テキストボックスで入力値をチェックするためには、一度遷移したことがあるノードにだけ直接遷移できる設定、または直接遷移しない設定である必要があります。業務フローのすべてのノードに対して直接遷移できる設定になっている場合は、「入力規則」テキストボックスの設定は無効になります。
ノードの直接遷移に関する設定は、システム管理者に問い合わせてください。
- 操作ログを使用する場合は、「入力規則」テキストボックスではなく、入出力プラグインを使って入力値をチェックする必要があります。操作ログの使用有無については、システム管理者に問い合わせてください。
- プラグインによる入力値のチェックは、「属性の設定」画面で設定した入力規則による入力値のチェックのあとに実行されます。
- 複数のガイドパーツで同時に入力値エラーが発生した場合は、最初に配置したガイドパーツを含めて10個までのガイドパーツが強調表示され、対応するエラーメッセージが表示されます。エラーメッセージは、配置された順序が先のガイドパーツから表示されます。ガイドパーツの配置位置は、エラーメッセージの表示順序とは関係ありません。
- 入力規則を指定できるガイドパーツを、複数同時にコピーして作成した場合、コピー時に選択した順序で入力値がチェックされます。また、エラーメッセージも、コピー時の選択順序に従って表示されます。
- 入力規則を指定できるガイドパーツをいったん削除し、「元に戻す」ボタンで削除を取り消した場合、入力値をチェックする順序が入れ替わることがあります。
- 改行の入力を許可する場合、必要に応じて、最大入力文字数を多めに設定することを推奨します。一つの改行が2文字と数えられます。

4.7.5 【属性の設定】画面（ガイド領域のテキストエリアパーツ）の項目

図 4-8 【属性の設定】画面（テキストエリアパーツから表示させた場合）

The screenshot shows a dialog box titled '属性の設定' (Attribute Settings). It contains the following fields and controls:

- 項目種別:** A dropdown menu showing 'テキストエリア' (Text Area).
- 初期値:** A large text input field for the initial value.
- ガイドパーツID:** A text input field containing 'A001'.
- 読み取り専用:** An unchecked checkbox.
- 入力値チェック:** A section with explanatory text: '入力値チェックを行う場合は、許可する入力値の入力規則(正規表現で設定)と入力値チェックエラー時に表示するエラーメッセージを設定してください。 [正規表現の設定例](#)'.
- 入力規則:** A text input field for the input rule.
- エラーメッセージ:** A text input field for the error message.
- Buttons:** '更新' (Update) and 'キャンセル' (Cancel) buttons at the bottom right.

【属性の設定】画面の各項目について説明します。

(1) 【初期値】 テキストボックス

テキストエリアに初期表示する文字列を指定します。次の場合はエラーになります。

- 65,535 文字を超える文字列を入力した場合
- ASCII コードの 0x00~0x09, 0x0B, 0x0C, 0x0E~0x1F, および 0x7F を含む文字列を入力した場合

(2) 【ガイドパーツ ID】 テキストボックス

ガイドパーツを一意に識別するためのガイドパーツ ID を半角 20 文字以内で入力します。【ガイドパーツ ID】テキストボックスは、自動設定されたガイドパーツ ID を変更する場合に入力します。

使用できる文字は、半角英数字、半角ハイフン (-) および半角アンダースコア (_) です。空文字も設定できます。空文字以外を指定する場合は、同じガイド領域内で、それぞれ一意となる値を指定してください。

(3) 【読み取り専用】 チェックボックス

チェックすると、テキストエリアに文字を入力できないようにします。デフォルトではチェックされていません。

(4) 【入力規則】 テキストボックス

テキストエリアに入力する文字列の規則を 1,024 文字以内の正規表現で指定できます。指定すると、業務実行画面で次の工程に遷移するときに、入力されている文字列をチェックします。規則に反する文字列が入力されると、[エラーメッセージ] テキストボックスで指定したメッセージが出力されます。また、環境によってはエラーとなった個所が強調表示されます。

正規表現については、[正規表現の設定例] をクリックして表示される画面を参照してください。この画面にない入力規則を指定する場合は、JavaScript の RegExp コンストラクタの第 1 引数に指定する文字列と同じ形式で指定してください。空文字を指定した場合は、入力規則はないものと見なされます。

次のことはできません。

- JavaScript の RegExp コンストラクタの第 1 引数として不正な文字列を指定すること
- ASCII コードの 0x00~0x1F と 0x7F を含む文字列を入力すること

[入力規則] テキストボックスが使えない例

次の場合はプラグインを利用する必要があります。プラグインの詳細は、マニュアル「ナビゲーションプラットフォーム 開発ガイド」を参照してください。

- 正規表現で定義できない入力規則を利用したい場合
- ほかのガイドパーツの入力値やユーザ IDなどを参照する必要がある入力規則の場合
- 利用者が入力した値を表示するなど、エラーメッセージを動的に変化させたい場合
- 入力値エラー発生時、11 個以上のガイドパーツを同時に強調表示させたい場合

(5) 【エラーメッセージ】 テキストボックス

[入力規則] テキストボックスで指定した入力規則に反する文字列が入力された場合に表示するエラーメッセージを、全角 200 文字以内で指定します。制御文字（ASCII コードの 0x00~0x1F と 0x7F）を含む文字列は入力できません。

なお、[入力規則] テキストボックスで入力規則を指定した場合は、このテキストボックスの指定は必須です。

4.8 チェックボックスパーツ（ガイド領域）

ガイド領域のチェックボックスパーツの使い方や配置する手順について説明します。

4.8.1 チェックボックスパーツとは（ガイド領域）

チェックボックスパーツとは、業務コンテンツに初期チェックありまたはなしのチェックボックスを表示するためのパーツです。

4.8.2 チェックボックスパーツの使い方（ガイド領域）

チェックボックスパーツは、例えば次のような場合に使用すると効果的です。

- 選択肢が決まっている（複数を同時に選択してもよい場合）
- 入力内容が決まっている、または利用者に入力の手間を掛けたくない
- 必須の作業や確認事項がある

チェックボックスを選択しないとエラーメッセージが表示されるように指定すれば、利用者の作業ミスや確認漏れを防止できます。

4.8.3 チェックボックスを配置する（ガイド領域）

1. [Guide] パレットの （[チェックボックス] ボタン）をクリックします。

（[チェックボックス] ボタン）が選択されます。

2. ガイド領域の任意の場所をクリックします。

チェックボックスパーツが配置されます。



3. チェックボックスパーツの任意の場所をダブルクリックします。

「属性の設定」画面が表示されます。

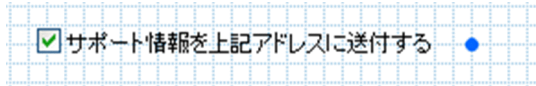
4. チェックボックスのラベル（表示文字列）を入力します。

必要に応じて、チェックボックスの初期値、およびチェックを必須とするかどうかを指定します。

「属性の設定」画面の各項目の詳細は、「[4.8.4 「属性の設定」画面（ガイド領域のチェックボックスパーツ）の項目](#)」を参照してください。

5. [更新] ボタンをクリックします。

チェックボックスのラベルが入力した文字列に変更されます。



4.8.4 【属性の設定】画面（ガイド領域のチェックボックスパーツ）の項目

図 4-9 【属性の設定】画面（チェックボックスパーツから表示させた場合）

【属性の設定】画面の各項目について説明します。

(1) 【表示文字列】テキストボックス

チェックボックスのラベルを入力します。デフォルトでは「Checkbox」と表示されます。

次の場合はエラーになります。

- ・ 1,024 バイトを超える文字列を入力した場合（全角の場合は 340 文字以内で入力してください）
- ・ ASCII コードの 0x00～0x1F と 0x7F を含む文字列を入力した場合

(2) 【ガイドパーツ ID】テキストボックス

ガイドパーツを一意に識別するためのガイドパーツ ID を半角 20 文字以内で入力します。【ガイドパーツ ID】テキストボックスは、自動設定されたガイドパーツ ID を変更する場合に入力します。

使用できる文字は、半角英数字、半角ハイフン (-) および半角アンダースコア (_) です。空文字も設定できます。空文字以外を指定する場合は、同じガイド領域内で、それぞれ一意となる値を指定してください。

(3) 【初期値をチェック状態にする】 チェックボックス

チェックすると、チェックボックスがチェックされた状態が表示されます。デフォルトではチェックされていません。

(4) 【チェック必須にする】 チェックボックス

チェックすると、チェックボックスをチェックしないで業務フローを進めようとした場合にメッセージが表示されます。デフォルトではチェックされていません。

業務フローのすべてのノードに対して直接遷移できる設定になっている場合は、選択したノードに無条件で遷移できるため、このチェックボックスでの設定は無効です。

(5) 【ラベル情報も格納】 チェックボックス

チェックすると、表示文字列と値を改行コード (¥r¥n) で連結してキャッシュ値として格納します。デフォルトではチェックされていません。

4.9 ラジオボタンパーツ（ガイド領域）

ガイド領域のラジオボタンパーツの使い方や配置する手順について説明します。

4.9.1 ラジオボタンパーツとは（ガイド領域）

ラジオボタンパーツとは、複数の選択肢の中から 1 個の項目を選択させる、ラジオボタンを表示するためのパーツです。

4.9.2 ラジオボタンパーツの使い方（ガイド領域）

ラジオボタンパーツは、必ず 2 個以上を 1 か所にまとめて配置して使用してください。まとめて配置したラジオボタンパーツをグループ化すると、同じグループのラジオボタン（選択肢）の中から、1 個のラジオボタンを選択できるようになります。例えば、性別を選択するためのラジオボタンを作成する場合は、[男性] ラジオボタンと [女性] ラジオボタンを作成し、これら二つのラジオボタンを「select」グループとして定義します。

ラジオボタンパーツは、例えば次のような場合に使用すると効果的です。

- 選択肢が決まっている（選べる選択肢が一つだけの場合）
- 入力内容が決まっている、または利用者に入力の手間を掛けたくない
- 選択結果のデータを、ほかのガイドパーツまたは外部プログラムで利用する

選択結果データをほかのガイドパーツまたは JP1/AO などの外部プログラムで利用するためには、プラグインパーツも必要です。プラグインパーツについては、[\[5.3 プラグインパーツ\]](#)を参照してください。

4.9.3 ラジオボタンパーツを配置する（ガイド領域）

1. [Guide] パレットの （[ラジオボタン] ボタン）をクリックします。

（[ラジオボタン] ボタン）が選択されます。

2. ガイド領域の任意の場所をクリックします。

ラジオボタンパーツが配置されます。



3. ラジオボタンパーツの任意の場所をダブルクリックします。

「属性の設定」画面が表示されます。

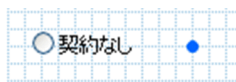
4. ラジオボタンのラベル（表示文字列）およびグループ名を入力します。

必要に応じて、ラジオボタンの値を指定します。

「属性の設定」画面の各項目の詳細は、「[4.9.5 「属性の設定」画面（ガイド領域のラジオボタンパーツ）の項目](#)」を参照してください。

5. 「更新」 ボタンをクリックします。

ラジオボタンのラベルが入力した文字列に変更されます。



4.9.4 ラジオボタンをグループ化する場合の注意事項

- ラジオボタンは、必ずグループ化してください。グループ化しない場合、プラグインで正しく値を処理できません。
- 同じグループのラジオボタンからプラグインパーツの入力側のパラメタにマッピング線を引く場合、どのラジオボタンからマッピング線を引いても動作は同じです。同じグループ内の任意のラジオボタンを一つだけ選択し、プラグインパーツの入力側のパラメタにマッピング線を引いてください。

4.9.5 「属性の設定」画面（ガイド領域のラジオボタンパーツ）の項目

図 4-10 「属性の設定」画面（ラジオボタンパーツから表示させた場合）

属性の設定

項目種別: ラジオボタン

表示文字列: Radio

値: R001

グループ名:

ガイドパーツID: R001

☐ ラベル情報も格納

更新 キャンセル

[属性の設定] 画面の各項目について説明します。

(1) 【表示文字列】 テキストボックス

ラジオボタンのラベルを入力します。デフォルトでは「Radio」と表示されます。次の場合はエラーになります。

- 1,024 バイトを超える文字列を入力した場合（全角の場合は 340 文字以内で入力してください）
- ASCII コードの 0x00~0x1F と 0x7F を含む文字列を入力した場合

(2) 【値】 テキストボックス

ラジオボタンの値を入力します。値とは、どのボタンが選択されたのかを判別するためにプラグイン内で使用される情報です。値は必ず入力してください。また、入力する値は、同じラジオボタングループ内で一意になるようにしてください。

次の場合はエラーになります。

- 128 バイトを超える文字列を入力した場合（全角の場合は 42 文字以内で入力してください）
- 空文字を入力した場合
- ASCII コードの 0x00~0x1F と 0x7F を含む文字列を入力した場合
- 同一グループで重複する値が存在する場合

(3) 【グループ名】 テキストボックス

複数のラジオボタンをグループ化するときの、ラジオボタングループ名を入力します。次の場合はエラーになります。

- 128 バイトを超える文字列を入力した場合（全角の場合は 42 文字以内で入力してください）
- ASCII コードの 0x00~0x1F と 0x7F を含む文字列を入力した場合

なお、ラジオボタングループを定義しないと、グループに属さないすべてのボタンが一つのラジオボタングループと解釈されます。そのため、グループに属さないボタンの間で重複する値が設定されていると、エラーになります。

空文字を設定した場合、空文字を設定したラジオボタン同士は、同じグループに属するものとして扱われます。

(4) 【ガイドパーツ ID】 テキストボックス

ガイドパーツを一意に識別するためのガイドパーツ ID を半角 20 文字以内で入力します。[ガイドパーツ ID] テキストボックスは、自動設定されたガイドパーツ ID を変更する場合に入力します。

使用できる文字は、半角英数字、半角ハイフン (-) および半角アンダースコア (_) です。空文字も設定できます。空文字以外を指定する場合は、同じガイド領域内で、それぞれ一意となる値を指定してください。

(5) 【ラベル情報も格納】 チェックボックス

チェックすると、表示文字列と値を改行コード (¥r¥n) で連結してキャッシュ値として格納します。グループ名が設定されていないときは、グループ名が設定されていないラジオボタンの【ラベル情報も格納】チェックボックスは、すべて同じ状態になります。グループ名が設定されているときは、同じグループ名のラジオボタンの【ラベル情報も格納】チェックボックスは、すべて同じ状態になります。

デフォルト値は、グループ名が設定されていないラジオボタンが既に存在する場合は、その【ラベル情報も格納】と同じ値になります。存在しない場合は、チェックなしになります。

4.10 ドロップダウンパーツ（ガイド領域）

ガイド領域のドロップダウンパーツの使い方や配置する手順について説明します。

4.10.1 ドロップダウンパーツとは（ガイド領域）

ドロップダウンパーツとは、複数の選択肢の中から 1 個の項目を選択させる、ドロップダウンを表示するためのパーツです。

4.10.2 ドロップダウンパーツの使い方（ガイド領域）

ドロップダウンパーツは、例えば次のような場合に使用すると効果的です。

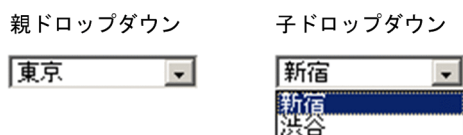
- 選択肢が決まっている（選べる選択肢が一つだけの場合）
- 入力内容が決まっている、または利用者に入力の手間を掛けたくない
- 選択結果に応じて、次の選択肢を変化させたい（親子関係のあるドロップダウン）
- 選択結果のデータを、ほかのガイドパーツまたは外部プログラムで利用する

選択結果データをほかのガイドパーツまたは外部プログラムで利用するためには、プラグインパーツも必要です。プラグインパーツについては、「[5.3 プラグインパーツ](#)」を参照してください。

4.10.3 ドロップダウンの親子関係とは

複数のドロップダウンを配置する場合、あるドロップダウンで利用者が選択した項目によって、ほかのドロップダウンの選択項目を動的に変化させることができます。このことを「ドロップダウンに親子関係を持たせる」といい、元となるドロップダウンを「親ドロップダウン」、選択項目を動的に変化させるドロップダウンを「子ドロップダウン」といいます。親子関係のあるドロップダウンの例を次に示します。

図 4-11 親子関係のあるドロップダウンの例



4.10.4 ドロップダウンパーツを配置する（ガイド領域）（ドロップダウンに親子関係がない場合、または親ドロップダウンの場合）

1. [Guide] パレットの  （[ドロップダウン] ボタン）をクリックします。



（[ドロップダウン] ボタン）が選択されます。

2. ガイド領域の任意の場所をクリックします。

ドロップダウンパーツが配置されます。



3. ドロップダウンパーツの任意の場所をダブルクリックします。

［属性の設定］画面が表示されます。

4. ドロップダウンの選択項目をコンマ区切りで入力します。

選択項目一覧の設定領域の「選択項目一覧」列の上段に表示内容（ラベル）を入力します。下段には、ラベルを一意に識別するための値を入力します。

［親のガイドパーツ ID］テキストボックス、および選択項目一覧の設定領域の「親の値」列には何も入力しないでください。

5. [更新] ボタンをクリックします。

指定した内容が反映されます。

［属性の設定］画面の各項目の詳細は、[「4.10.6 属性の設定」画面（ガイド領域のドロップダウンパーツ）の項目](#)を参照してください。

注意事項

- 親ドロップダウンのガイドパーツ ID を変更するときは、いったん親と子の参照関係を解消してから変更してください。
子ドロップダウンの［属性の設定］画面で［親のガイドパーツ ID］テキストボックスの値を空にするか、または、子ドロップダウンをパーツごと削除すると、親と子の参照関係を解消できます。
- 子ドロップダウンのパーツをコピーすると、コピーしたパーツの［属性の設定］画面の［親のガイドパーツ ID］テキストボックスは空欄になります。［親のガイドパーツ ID］テキストボックスに必要な値を入力してください。
- 親子関係があるドロップダウンパーツを削除するときは、必ず子ドロップダウンから削除してください。親ドロップダウンだけを削除したり、親ドロップダウンを先に削除したりすることはできません。

4.10.5 ドロップダウンパーツを配置する（ガイド領域）（子ドロップダウンの場合）

1. [Guide] パレットの （[ドロップダウン] ボタン）をクリックします。



（[ドロップダウン] ボタン）が選択されます。

2. ガイド領域の任意の場所をクリックします。

ドロップダウンパーツが配置されます。



3. ドロップダウンパーツの任意の場所をダブルクリックします。

［属性の設定］画面が表示されます。

4. 親ドロップダウンの情報を入力します。

［親のガイドパーツ ID］テキストボックスに、親ドロップダウンのガイドパーツ ID を入力します。

また、選択項目一覧の設定領域の「親の値」列に、親ドロップダウンの選択項目の値を入力します。[追加] ボタンをクリックすると、選択項目一覧の設定領域の行を追加できます。

5. 子ドロップダウンの選択項目をコンマ区切りで入力します。

手順 4. で入力した親ドロップダウンの選択項目に対応する、子ドロップダウンの選択項目を入力します。

選択項目一覧の設定領域の「選択項目一覧」列の上段に表示内容（ラベル）を入力します。下段には、ラベルを一意に識別するための値を入力します。

6. [更新] ボタンをクリックします。

指定した内容が反映されます。

［属性の設定］画面の各項目の詳細は、[「4.10.6 \[属性の設定\] 画面（ガイド領域のドロップダウンパーツ）の項目」](#)を参照してください。

注意事項

- 親ドロップダウンのガイドパーツ ID を変更するときは、いったん親と子の参照関係を解消してから変更してください。
子ドロップダウンの［属性の設定］画面で［親のガイドパーツ ID］テキストボックスの値を空にするか、または、子ドロップダウンをパーツごと削除すると、親と子の参照関係を解消できます。
- 子ドロップダウンのパーツをコピーすると、コピーしたパーツの［属性の設定］画面の［親のガイドパーツ ID］テキストボックスは空欄になります。［親のガイドパーツ ID］テキストボックスに必要な値を入力してください。

- 親子関係があるドロップダウンパーツを削除するときは、必ず子ドロップダウンから削除してください。親ドロップダウンだけを削除したり、親ドロップダウンを先に削除したりすることはできません。

4.10.6 【属性の設定】画面（ガイド領域のドロップダウンパーツ）の項目

図 4-12 【属性の設定】画面（ドロップダウンパーツから表示させた場合）

属性の設定

項目種別: ドロップダウン
ガイドパーツID: D001
親のガイドパーツID:

親の選択項目一覧の各値に対応付ける選択項目一覧を設定します。
親を指定しない場合は親の値を空欄にし、選択項目一覧のみを指定してください。

親の値	選択項目一覧(コンマ区切りで指定) 上段:ラベル 下段:値	
		追加
		削除

更新 キャンセル

【属性の設定】画面の各項目について説明します。

(1) 【ガイドパーツ ID】テキストボックス

ガイドパーツを一意に識別するためのガイドパーツ ID を半角 20 文字以内で入力します。【ガイドパーツ ID】テキストボックスは、自動設定されたガイドパーツ ID を変更する場合に入力します。

使用できる文字は、半角英数字、半角ハイフン (-) および半角アンダースコア (_) です。親のガイドパーツ ID が空文字のときは、空文字も設定できます。空文字以外を指定する場合は、同じガイド領域内で、それぞれ一意となる値を指定してください。

なお、ほかのドロップダウンパーツの親のガイドパーツ ID として値が設定されている場合は、値を変更できません。

(2) 【親のガイドパーツ ID】テキストボックス

親ドロップダウンのガイドパーツ ID を半角 20 文字以内で入力します。【親のガイドパーツ ID】テキストボックスは、ドロップダウンパーツに親子関係があり、かつ、この画面で設定する対象が子ドロップダウンのときに入力します。

次のことはできません。

- 半角英数字, 半角ハイフン (-), および半角アンダースコア (_) 以外の文字を使用すること
- 存在しないガイドパーツ ID を入力すること
- [ガイドパーツ ID] テキストボックスと同じ値を入力すること

(3) 選択項目一覧の設定領域

- **[親の値] テキストボックス**

[選択項目一覧] テキストボックスで指定する選択項目の, 親となる選択項目の値を 300 文字以内で入力します。値とは, どの項目が選択されたのかを判別するためにプラグイン内で使用される情報です。ドロップダウンパーツに親子関係があり, かつ, この画面で設定する対象が子ドロップダウンのときに入力します。

次のことはできません。

- 選択項目一覧の設定領域内ですでに指定されている値を入力すること
 - 制御文字 (ASCII コードの 0x00~0x1F と 0x7F) を含む文字列を入力すること
- **[選択項目一覧] テキストボックスの上段: ラベル**

選択項目のラベルをコンマ区切り※で入力します。ラベルは, 画面に表示される情報です。一つのラベルに使用できる文字数は最大 100 文字で, 100 個まで指定できます。エスケープとして使用する文字は文字数に含まれません。

空文字を入力した場合は, 業務実行画面でドロップダウンの選択項目が空欄となります。

次のことはできません。

- 制御文字 (ASCII コードの 0x00~0x1F と 0x7F) を含む文字列を入力すること
 - 20,299 文字を超える文字数を入力すること
- **[選択項目一覧] テキストボックスの下段: 値**

選択項目の値をコンマ区切り※で入力します。値とは, どの項目が選択されたのかを判別するためにプラグイン内で使用される情報です。一つの値に使用できる文字数は最大 300 文字で, 選択項目のラベルと同じ数だけ入力してください。エスケープとして使用する文字は文字数に含まれません。

次のことはできません。

- 制御文字 (ASCII コードの 0x00~0x1F と 0x7F) を含む文字列を入力すること
 - 総入力文字数が 60,299 文字を超えること
 - 選択項目一覧の設定領域内ですでに指定されている値を入力すること
- **[追加] ボタン**
クリックすると選択項目一覧の設定領域の最終行に新しい行が追加されます。最大行数は 500 行です。
 - **[削除] ボタン**
クリックすると行が削除されます。

注※

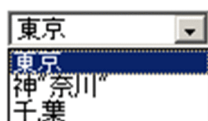
テキストボックス内に複数の要素を入力する場合、次に示す内容に従って要素を区切ってください。

- 要素と要素を半角コンマ (,) で区切って指定してください。
- 要素の値に半角コンマ (,) が含まれる場合は、要素全体を半角の引用符 (") で囲ってください。
- 要素の値に半角の引用符 (") が含まれる場合は、引用符をエスケープ (2 個連続で記述) し、かつ、要素全体を半角の引用符 (") で囲ってください。

選択項目のラベルの指定例を次に示します。

東京,"神""奈川""", "千,葉"

この場合、ドロップダウンでは次のように表示されます。



4.11 ハイパーリンクパーツ（ガイド領域）

ガイド領域のハイパーリンクパーツの使い方や配置する手順について説明します。

4.11.1 ハイパーリンクパーツとは（ガイド領域）

ハイパーリンクパーツとは、外部の Web サイトやナビゲーション プラットフォームに登録されている静的ファイルの内容を、別ウィンドウで表示するリンクを表示するためのパーツです。

4.11.2 ハイパーリンクパーツの使い方（ガイド領域）

ハイパーリンクパーツは、リンク先の URL を指定して使用します。Web サーバ（サーバマシン）に格納したファイルの内容を表示したい場合は、[ファイル管理／登録] 画面で URL を取得するか、システム管理者からファイルのパスを教えてもらう必要があります。[ファイル管理／登録] 画面の詳細については、[\[2.9.6 \[ファイル管理／登録\] 画面を使用して静的ファイルを格納する\]](#)を参照してください。

例えば次のような場合にハイパーリンクパーツを使用すると効果的です。

- 作業の途中で外部システムを参照する必要がある
リンクがあることで、必要な外部システムを探す時間を短縮できます。また、異なる外部システムを参照してしまうミスを防止します。
- 作業に必要な情報をまとめた手順書や情報リストなどを活用したい
詳細はリンク先を参照とすることで、ガイド領域を作成またはメンテナンスする時間が短縮され、ガイド領域の説明もシンプルで見やすくなります。

4.11.3 ハイパーリンクを配置する（ガイド領域）

1. [Guide] パレットの （[ハイパーリンク] ボタン）をクリックします。

（[ハイパーリンク] ボタン）が選択されます。

2. ガイド領域の任意の場所をクリックします。

ハイパーリンクパーツが配置されます。



3. ハイパーリンクパーツの任意の場所をダブルクリックします。

[属性の設定] 画面が表示されます。

4. アンカーの文字列およびリンク先の URL を入力します。

必要に応じて、リンク先の説明（ツールチップ）を入力します。

「属性の設定」画面の各項目の詳細は、「4.11.4 「属性の設定」画面（ガイド領域のハイパーリンクパーツ）の項目」を参照してください。

5. 「更新」 ボタンをクリックします。

ハイパーリンクとして、指定した文字列が表示されます。



4.11.4 「属性の設定」画面（ガイド領域のハイパーリンクパーツ）の項目

図 4-13 「属性の設定」画面（ハイパーリンクパーツから表示させた場合）

「属性の設定」画面の各項目について説明します。

(1) 「アンカーの文字列」 テキストボックス

アンカー表示させる文字列を入力します。デフォルトでは「Hyperlink」と表示されます。アンカーの文字列は必ず入力してください。次の場合はエラーになります。

- 1,024 バイトを超える文字列を入力した場合（全角の場合は 340 文字以内で入力してください）
- 空白文字列を入力した場合
- ASCII コードの 0x00～0x1F と 0x7F を含む文字列を入力した場合

(2) [URL] テキストボックス

リンク先の URL を入力します。[ファイル管理／登録] 画面に表示されている静的ファイルへのハイパーリンクを配置する場合、[ファイル管理／登録] 画面の [URL 取得] ボタンで静的ファイルへのパスが取得できます。

入力できる URL の形式を次に示します。リンク先がナビゲーション プラットフォームの Web サーバか、それ以外の Web サーバかによって、指定するパスの形式が異なります。

ナビゲーション プラットフォームの Web サーバに格納したファイルを指定する場合

Web サーバのコンテンツ格納ディレクトリ（ナビゲーション プラットフォームインストールディレクトリ¥PP¥uCPSB¥httpsd¥htdocs）からの相対パスを指定します。

Web サーバのコンテンツ格納ディレクトリ下に index.html という HTML ファイルを指定する場合の例を次に示します。

/index.html

ナビゲーション プラットフォーム以外の Web サーバに格納したファイルを指定する場合

「プロトコル://ホスト名:ポート番号/ファイルパス」の形式で指定します。

- プロトコル：http または https
- ホスト名：Web サーバのホスト名または IP アドレス
- ポート番号：Web サーバのポート番号
- ファイルパス：Web サーバに格納されたファイルのパス

プロトコルが http、ホスト名が host1、ポート番号が 55555 の Web サーバの html ディレクトリにある、index.html というファイルを指定する場合の例を次に示します。

http://host1:55555/html/index.html

テキストボックスに次に示す文字を指定した場合はエラーになります。

- 1,024 バイトを超える文字列を入力した場合
- ASCII コードの 0x00~0x1F と 0x7F を含む文字列を入力した場合

(3) [ツールチップ] テキストボックス

リンク先の説明を入力します。次の場合はエラーになります。

- 128 バイトを超える文字列を入力した場合（全角の場合は 42 文字以内で入力してください）
- ASCII コードの 0x00~0x1F と 0x7F を含む文字列を入力した場合

空文字を指定した場合はツールチップが表示されません。

(4) 【ガイドパーツ ID】 テキストボックス

ガイドパーツを一意に識別するためのガイドパーツ ID を半角 20 文字以内で入力します。【ガイドパーツ ID】 テキストボックスは、自動設定されたガイドパーツ ID を変更する場合に入力します。

使用できる文字は、半角英数字、半角ハイフン (-) および半角アンダースコア (_) です。空文字も設定できます。空文字以外を指定する場合は、同じガイド領域内で、それぞれ一意となる値を指定してください。

4.12 インラインフレームパーツ（ガイド領域）

ガイド領域のインラインフレームパーツの使い方や配置する手順について説明します。

4.12.1 インラインフレームパーツとは（ガイド領域）

インラインフレームパーツとは、外部の Web サイトやナビゲーション プラットフォームに登録されている静的ファイルの内容を、ナビゲーション プラットフォームのガイド領域内に表示するためのパーツです。

4.12.2 インラインフレームパーツの使い方（ガイド領域）

インラインフレームパーツは、リンク先の URL を指定して使用します。Web サーバ（サーバマシン）に格納したファイルの内容を表示したい場合は、[ファイル管理／登録] 画面で URL を取得するか、システム管理者からファイルのパスを教えてもらう必要があります。[ファイル管理／登録] 画面の詳細については、[「2.9.6 \[ファイル管理／登録\] 画面を使用して静的ファイルを格納する」](#)を参照してください。

例えば次のような場合にハイパーリンクパーツを使用すると効果的です。

- 作業の途中で外部システムを参照する必要がある
ガイド領域に外部システムを表示することで、必要な外部システムを探す時間を短縮できます。また、異なる外部システムを参照してしまうミスを防止します。
- 作業に必要な情報をまとめた手順書や情報リストなどを活用したい
ガイド領域に資料の内容を表示することで、ガイド領域を作成またはメンテナンスする時間が短縮されます。

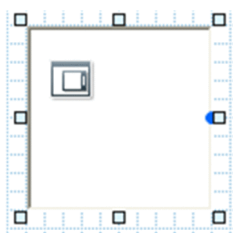
4.12.3 インラインフレームパーツを配置する（ガイド領域）

1. [Guide] パレットの （[インラインフレーム] ボタン）をクリックします。

（[インラインフレーム] ボタン）が選択されます。

2. ガイド領域の任意の場所をクリックします。

インラインフレームパーツが配置されます。



3. インラインフレームパーツの任意の場所をダブルクリックします。

「属性の設定」画面が表示されます。

4. リンク先の URL を入力します。

必要に応じて、フレーム枠を表示するかどうかを指定します。

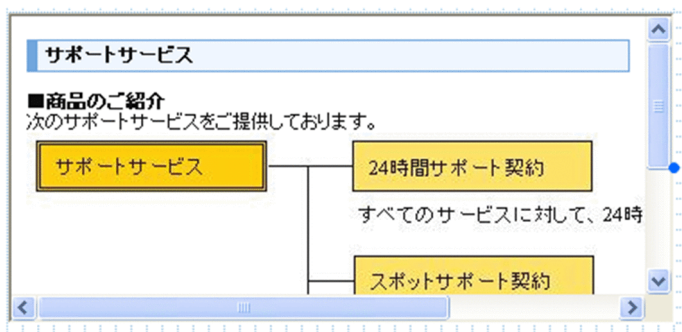
「属性の設定」画面の各項目の詳細は、「[4.12.5 「属性の設定」画面（ガイド領域のインラインフレームパーツ）の項目](#)」を参照してください。

注意事項

認証が必要なコンテンツを指定した場合、インラインフレームを表示するときに認証が必要になることがあります。

5. [更新] ボタンをクリックします。

インラインフレームとして、指定したコンテンツが表示されます。



4.12.4 インラインフレームを配置した場合の動作と表示に関する注意事項

- CSS を使用して、フォントサイズに 128 ピクセルより大きい数値が指定されている外部の Web サイトを指定した場合、Web ブラウザの動作が著しく遅くなるおそれがあります。
- インラインフレーム内の文字がインラインフレームのフレーム枠からはみ出して表示される場合があります。文字がはみ出してしまうかどうかは、インラインフレームに表示されるコンテンツによって異なります。
- ガイド領域より大きいインラインフレームパーツが配置されている場合、業務実行画面の業務フロー領域とガイド領域のサイズを変更する動作が遅くなる場合があります。
- Web ブラウザが URL と認識できない文字列（例えば「http://」 だけなど）を [URL] テキストボックスに指定すると、ナビゲーション プラットフォームの画面全体がエラー画面に切り替わる場合があります。
- 表示する Web ページの JavaScript などの動作によっては正しく表示されない場合があります。

4.12.5 [属性の設定] 画面（ガイド領域のインラインフレームパーツ）の項目

図 4-14 [属性の設定] 画面（インラインフレームパーツから表示させた場合）

[属性の設定] 画面の各項目について説明します。

(1) [URL] テキストボックス

インラインフレームに表示させるコンテンツのリンク先の URL を入力します。

入力できる URL の形式を次に示します。リンク先がナビゲーション プラットフォームの Web サーバか、それ以外の Web サーバかによって、指定するパスの形式が異なります。

ナビゲーション プラットフォームの Web サーバに格納したファイルを指定する場合

Web サーバのコンテンツ格納ディレクトリ（ナビゲーション プラットフォームインストールディレクトリ¥PP¥uCPSB¥httpsd¥htdocs）からの相対パスを指定します。

Web サーバのコンテンツ格納ディレクトリ下に index.html という HTML ファイルを指定する場合の例を次に示します。

/index.html

ナビゲーション プラットフォーム以外の Web サーバに格納したファイルを指定する場合

「プロトコル://ホスト名:ポート番号/ファイルパス」の形式で指定します。

- プロトコル：http または https
- ホスト名：Web サーバのホスト名または IP アドレス
- ポート番号：Web サーバのポート番号

- ファイルパス：Web サーバに格納されたファイルのパス

プロトコルが http、ホスト名が host1、ポート番号が 55555 の Web サーバの html ディレクトリにある、index.html というファイルを指定する場合の例を次に示します。

http://host1:55555/html/index.html

テキストボックスに次に示す文字を指定した場合はエラーになります。

- 1,024 バイトを超える文字列を入力した場合
- ASCII コードの 0x00~0x1F と 0x7F を含む文字列を入力した場合

(2) 【ガイドパーツ ID】 テキストボックス

ガイドパーツを一意に識別するためのガイドパーツ ID を半角 20 文字以内で入力します。[ガイドパーツ ID] テキストボックスは、自動設定されたガイドパーツ ID を変更する場合に入力します。

使用できる文字は、半角英数字、半角ハイフン (-) および半角アンダースコア (_) です。空文字も設定できます。空文字以外を指定する場合は、同じガイド領域内で、それぞれ一意となる値を指定してください。

(3) 【フレーム枠あり】 チェックボックス

チェックすると、インラインフレームのフレーム枠が表示されます。デフォルトではチェックされています。

4.13 HTML パーツ（ガイド領域）

ガイド領域の HTML パーツの使い方や配置する手順について説明します。

4.13.1 HTML パーツとは（ガイド領域）

HTML パーツとは、ソースコードを HTML コンテンツとしてガイド領域に表示するためのパーツです。

4.13.2 HTML パーツの使い方（ガイド領域）

HTML パーツは、ナビゲーション プラットフォームのガイドパーツだけでは表現できない見た目を、HTML の機能で実現するためのパーツです。例えば、ガイド領域に表を表示したいときなどに使用してください。

4.13.3 HTML パーツを使用するときの注意事項

- 業務コンテンツに悪意のある第三者がアクセスできる状態だと、HTML パーツを悪用してクロスサイトスクリプティングを起こすようなスクリプトが埋め込まれるおそれがあります。HTML パーツを使用する際は、業務コンテンツに適切なアクセス権を設定し、不正なアクセスを防いでください。
- HTML パーツで大きな表やコンテンツを作成すると、処理対象のデータサイズが大きくなるため、ナビゲーション プラットフォームの動作が遅くなる場合があります。
- 同じガイド領域内では、HTML タグに指定する name 属性を重複させないでください。ただし、ラジオボタンをグループ化する場合を除きます。
- ラジオボタンをグループ化する場合、必ず同じ HTML パーツ内でグループ化してください。
同じガイド領域内に配置したほかの HTML パーツのラジオボタンの name 属性、および同じガイド領域内に配置したラジオボタンパーツのグループ名と同じ値を設定しないでください。
- 利用者が入力した内容を入出力プラグインで使用する場合は、name 属性を必ず設定してください。このとき、name 属性の値に空文字を設定しないでください。
- 中断再開機能を使用している場合、HTML パーツに type 属性を指定した<INPUT>タグ、<SELECT>タグ、および<TEXTAREA>タグを含めないようにしてください。
これらの入力項目は、中断情報の保存に制限があります。

4.13.4 HTML パーツを配置する（ガイド領域）

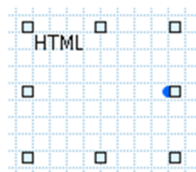
1. [Guide] パレットの （[HTML] ボタン）をクリックします。



（[HTML] ボタン）が選択されます。

2. ガイド領域の任意の場所をクリックします。

HTML パーツが配置されます。



3. HTML パーツの任意の場所をダブルクリックします。

〔属性の設定〕画面が表示されます。

4. ソースコードを入力します。

〔属性の設定〕画面の各項目の詳細は、「[4.13.12 〔属性の設定〕画面（ガイド領域の HTML パーツ）の項目](#)」を参照してください。

5. [更新] ボタンをクリックします。

入力したソースコードが HTML コンテンツとして表示されます。



4.13.5 HTML パーツで利用できるタグ一覧

利用できる HTML タグと属性を次に示します。

表 4-2 HTML パーツで利用できる HTML タグと属性

項番	HTML タグ	属性
1	A	class, style, title, href, name, target ("_blank"だけ指定可)
2	BR	class, style, title
3	CAPTION	class, style, title

項番	HTML タグ	属性
4	COL	class, style, title, span
5	COLGROUP	class, style, title, span
6	DIV	class, style, title
7	IMG	class, style, title, alt, src
8	INPUT※	class, style, title, checked, disabled, maxlength, name, readonly, size, type ("text", "checkbox", "radio", "hidden"を指定可), value
9	OPTGROUP	class, style, title, disabled, label
10	OPTION	class, style, title, disabled, label, selected, value
11	SELECT※	class, style, title, disabled, name
12	SPAN	class, style, title
13	TABLE	class, style, title
14	TBODY	class, style, title
15	TD	class, style, title, colspan, rowspan
16	TEXTAREA※	class, style, title, cols, disabled, name, readonly, rows
17	TFOOT	class, style, title
18	TH	class, style, title, colspan, rowspan
19	THEAD	class, style, title
20	TR	class, style, title

注※

これらのタグを使用して作成したパーツの入力値は、入出力プラグインに渡すことができます。<INPUT>タグでは、type 属性を付けた場合に有効です。

4.13.6 HTML パーツで CSS を使用する方法

HTML パーツで CSS を使用するには次の方法があります。

- ナビゲーション プラットフォームが提供する CSS を利用する。
- 各要素の style 属性でスタイルを定義する。
- 外部 CSS ファイルを作成する。

これらの方法を組み合わせて使用した場合の表示は、CSS の仕様に準拠します。

4.13.7 ナビゲーション プラットフォームが HTML パーツ用に提供する CSS のクラス一覧

ナビゲーション プラットフォームが提供する CSS を利用するには、各要素の class 属性で次のクラス名を指定してください。

表 4-3 ナビゲーション プラットフォームが提供する CSS のクラス名

項番	クラス名	対応するタグと属性	対応するガイドパーツ
1	ucnp_text	<INPUT type="text" />	テキストボックス
2		<TEXTAREA>	テキストエリア
3	ucnp_text_readonly	<INPUT type="text" readonly/>	テキストボックス（読み取り専用）
4		<TEXTAREA readonly>	テキストエリア（読み取り専用）
5	ucnp_checkbox_radio	<INPUT type="checkbox" />	チェックボックス
6		<INPUT type="radio" />	ラジオボタン
7	ucnp_select	<SELECT>	ドロップダウン
8	ucnp_anchor	<A>	ハイパーリンク

注 固定テキストおよび画像は、class 属性の指定は不要です。

4.13.8 HTML パーツで利用できる CSS プロパティ一覧

各要素の style 属性でスタイルを定義する場合、および外部 CSS ファイルを作成する場合に利用できる CSS プロパティを次に示します。ここに示していない CSS プロパティを使用したときの動作は保証されません。

表 4-4 利用できる CSS プロパティ

項番	分類	プロパティ	補足説明
1	色	color	—
2	背景	background	次のプロパティを設定できます。まとめて定義できます。 • background-color • background-image • background-repeat • background-attachment • background-position
3	テキスト	text-align	—
4	フォント	font	次のプロパティを設定できます。まとめて定義できます。

項番	分類	プロパティ	補足説明
4	フォント	font	• font-family • font-style • font-weight • font-size
5	視覚フォーマットモデル	width	—
6		min-width	—
7		max-width	—
8		height	—
9		min-height	—
10		max-height	—
11		line-height	—
12		vertical-align	—
13	視覚効果	overflow	—
14	ボックス・モデル	margin	次のプロパティを設定できます。まとめて定義できます。 • margin-top • margin-right • margin-bottom • margin-left
15		padding	次のプロパティを設定できます。まとめて定義できます。 • padding-top • padding-right • padding-bottom • padding-left
16		border-width	次のプロパティを設定できます。まとめて定義できます。 • border-top-width • border-right-width • border-bottom-width • border-left-width
17		border-color	次のプロパティを設定できます。まとめて定義できます。 • border-top-color • border-right-color • border-bottom-color • border-left-color

項番	分類	プロパティ	補足説明
18	ボックス・モデル	border-style	次のプロパティを設定できます。まとめて定義できます。 • border-top-style • border-right-style • border-bottom-style • border-left-style
19		border	次のプロパティを設定できます。まとめて定義できます。 • border-top • border-right • border-bottom • border-left
20	表	caption-side	—
21		table-layout	—
22		border-collapse	—
23		border-spacing	—
24		empty-cells	—

(凡例)

—：補足説明はありません。

4.13.9 HTML パーツで外部 CSS を使用する

外部 CSS ファイル（ユーザが作成した CSS ファイル）が必要な場合は、一つのシステムにつき一つの CSS ファイルを作成します。CSS ファイルのファイル名および格納ディレクトリについては、システム管理者に問い合わせてください。

(1) 外部 CSS ファイルを作成する場合の注意事項

外部 CSS ファイルを作成する場合の注意事項を次に示します。

- クラスセクタは、必ず「要素名.セクタ名」の形式で定義してください。要素名、ピリオドおよびセクタ名は省略できません。この形式以外で定義した場合の動作は保証されません。
例えば、「div.css_sample」と定義した場合、div タグの class 属性に「css_sample」と指定することで、定義した CSS を使用できます。
- クラスセクタの接頭辞に次の文字列を使用しないでください。
 - ucnp
 - hptl

- access
- HTML パーツから外部 CSS ファイルへの参照は、自動で設定されます。<LINK>タグを設定する必要はありません。

4.13.10 HTML パーツでパラメタを使用する方法

[属性の設定] 画面（ガイド領域の HTML パーツ）で [HTML ソース文字列にパラメタを埋め込む] チェックボックスをチェックした場合、[HTML ソース文字列] テキストボックスで入力する HTML ソース文字列中に [パラメタ一覧] で定義しているパラメタ名を埋め込むと、HTML コンテンツを表示するときに、HTML ソース文字列中のパラメタ名をパラメタ値に変換して表示できます。

HTML パーツにパラメタ名を埋め込んでおくと、パラメタ値を変更する形でのパーツを再利用ができます。

HTML ソース文字列中には、次の形式でパラメタ名を埋め込むことができます。

- `{{param}}` 形式（HTML 特殊文字をエスケープする場合）
パラメタ名を「`{{`」と「`}}`」で囲んで埋め込みます。パラメタ名をパラメタ値に変換するときに、HTML 特殊文字（& < > " ' / ` =）をエスケープする必要がある場合に使用します。
- `{{{param}}}` 形式（HTML 特殊文字をエスケープしない場合）
パラメタ名を「`{{{`」と「`}}}`」で囲んで埋め込みます。パラメタ名をパラメタ値に変換するときに、HTML 特殊文字（& < > " ' / ` =）をエスケープしない場合（パラメタ値が URL やファイルパスの場合など）に使用します。

各形式のパラメタ名の埋め込みと変換の詳細について、次に示します。

(1) `{{param}}` 形式でパラメタを埋め込む（HTML 特殊文字をエスケープする場合）

[HTML ソース文字列] テキストボックスで入力する HTML ソース文字列中に、[パラメタ一覧] で定義しているパラメタ名を `{{param}}` 形式で埋め込むと、「`{{`」から「`}}`」までの間が、パラメタ名に対応するパラメタ値に変換されます。また、パラメタ値に含まれる HTML 特殊記号（& < > " ' / ` =）はエスケープされて、次の表に示す HTML エスケープ文字列に変換されます。

表 4-5 HTML 特殊記号と変換後の HTML エスケープ文字列

HTML 特殊記号	変換後の HTML エスケープ文字列
&	&
<	<
>	>
"	"
'	'

HTML 特殊記号	変換後の HTML エスケープ文字列
/	/
`	`
=	=

注意事項

- *param* の前後に 1 個以上の半角スペースがある場合は無視されます。
- *param* で指定したパラメタ名が [パラメタ一覧] で定義されていない場合, 「`{{param}}`」の部分は空文字に変換されます。
- 「`}}`」より前に対になる「`{{`」が存在しない場合, 「`}}`」は通常の文字列として扱われます。
- 「`{{`」より後ろに対になる「`}}`」が存在しない場合, 対象の HTML パーツの HTML ソース文字列に埋め込んだすべてのパラメタ名に対するパラメタ値への変換が行われません。

(パラメタ名の変換例)

param で指定したパラメタ名の変換例を, 次に示します。

- [パラメタ一覧] で定義しているパラメタ名の例

パラメタ名	パラメタ値
param1	value1
param2	value2
param3	value3
param4	value4
param5	value5

- パラメタ名の入力例

```
param1: {{param1}}
param2: {{param2}}
param3: {{ param3 }}
param4: {param4}}
param5: param5}}
```

- パラメタ名の変換例

```
param1: value1
param2: &lt;span&gt;value2&lt;&#x2F;span&gt;
param3: value3
param4: {param4}}
param5: param5}}
```

(2) `{{param}}`形式でパラメタを埋め込む（HTML 特殊文字をエスケープしない場合）

[HTML ソース文字列] テキストボックスで入力する HTML ソース文字列中に、[パラメタ一覧] で定義しているパラメタ名を`{{param}}`形式で埋め込むと「`{{{`」から「`}}}`」までの間が、パラメタ名に対応するパラメタ値に変換されます。また、パラメタ値に含まれている HTML 特殊記号（`&` `<` `>` `"` `'` `/` ``` `=`）はエスケープされません。

注意事項

- `param` の前後に 1 個以上の半角スペースがある場合は無視されます。
- `param` で指定したパラメタ名が [パラメタ一覧] で定義されていない場合、「`{{{param}}}`」の部分は空文字に変換されます。
- 「`}}}`」より前に対になる「`{{{`」が存在しない場合、「`}}}`」は通常の文字列として扱われます。
- 「`{{{`」より後ろに対になる「`}}}`」が存在しない場合、対象の HTML パーツの HTML ソース文字列に埋め込んだすべてのパラメタ名に対するパラメタ値への変換が行われません。

(パラメタ名の変換例)

`param` で指定したパラメタ名の変換例を、次に示します。

- [パラメタ一覧] で定義しているパラメタ名の例

パラメタ名	パラメタ値
param1	value1
param2	value2
param3	value3
param4	value4
param5	value5
param6	value6

- パラメタ名の入力例

```
param1: {{{param1}}}
param2: {{{param2}}}
param3: {{{ param3 }}}
param4: {{param4}}
param5: {param5}}
param6: param6}}}
```

- パラメタ名の変換例

```
param1: value1
param2: <span>value2</span>
param3: value3
param4: value4}
```

```
param5: {param5}}}  
param5: {param6}}}
```

4.13.11 HTML パーツの記述例

HTML パーツの記述例を次に示します。

メモ

データストアプラグイン、または開発者が開発した入出力プラグインを使用すると、ソースコードを HTML パーツへ出力することもできます。入出力プラグインからの出力については、プラグインの開発者に問い合わせてください。

(1) HTML パーツで外部 CSS を使用する場合

[属性の設定] 画面の [HTML ソース文字列] テキストボックスへの入力例（外部 CSS ファイルを作成する場合）を、次に示します。

- HTML ソース文字列の入力例

```
<table class="sample">  
  <caption class="sample">注文管理表</caption>  
  <thead>  
    <tr>  
      <th class="sample">注文番号</th>  
      <th class="sample">注文日</th>  
    </tr>  
  </thead>  
  <tbody>  
    <tr>  
      <td class="sample">00001-20101010-00001</td>  
      <td class="sample">2010/10/10</td>  
    </tr>  
    <tr>  
      <td class="sample">00001-20101010-00002</td>  
      <td class="sample">2010/10/10</td>  
    </tr>  
  </tbody>  
  <tfoot />  
</table>
```

- 外部 CSS ファイルの作成例

```
table.sample {  
  border:1px solid #777777;  
  border-collapse:collapse;  
  border-spacing:0;  
  background-color:#ffffff;  
}  
caption.sample {  
  font-size:14px; font-weight:bold;
```

```

}
th.sample {
  border-right:1px solid #777777;
  border-bottom:1px solid #777777;
  background-color:#e3e5e7;
  padding:0.3em 1em;
  text-align:center;
}
td.sample {
  border-right:1px solid #777777;
  border-bottom:1px solid #777777;
  padding:0.3em 1em;
}

```

- HTML コンテンツの表示例

注文管理表	
注文番号	注文日
00001-20101010-00001	2010/10/10
00001-20101010-00002	2010/10/10

(2) HTML パーツでパラメタを使用する場合（パラメタを`{{param}}`形式で埋め込むとき）

〔属性の設定〕画面の〔HTML ソース文字列〕テキストボックスへの入力例および変換例（パラメタ名を`{{param}}`形式で埋め込む場合）を、次に示します。

- 〔パラメタ一覧〕で定義しているパラメタ名の例

パラメタ名	パラメタ値
caption	表の説明 1
title	タイトル 1
detail1	内容 1

- HTML ソース文字列の入力例

```

<table border="1">
  <caption>{{caption}}</caption>
  <tr>
    <td>タイトル</td>
    <td>{{title}}</td>
  </tr>
  <tr>
    <td>内容1</td>
    <td>{{ detail1 }}</td>
  </tr>
  <tr>
    <td>内容2</td>
    <td>{{ detail2 }}</td>
  </tr>
</table>

```

```
</tr>
</table>
```

- HTML ソース文字列の変換例

```
<table border="1">
  <caption>表の説明1</caption>
  <tr>
    <td>タイトル</td>
    <td>タイトル1</td>
  </tr>
  <tr>
    <td>内容1</td>
    <td>内容1</td>
  </tr>
  <tr>
    <td>内容2</td>
    <td></td>
  </tr>
</table>
```

(3) HTML パーツでパラメタを使用する場合（パラメタを`{{param}}`形式で埋め込むとき）

〔属性の設定〕画面の〔HTML ソース文字列〕テキストボックスへの入力例および変換例（パラメタ名を`{{param}}`形式で埋め込む場合）を、次に示します。

この例では、パラメタ値がファイルパスのため、パラメタ名を`{{param}}`形式で埋め込むことで、パラメタ値に含まれる HTML 特殊記号（& < > " ' / ` =）をエスケープしないようにしています。

- [パラメタ一覧] で定義しているパラメタ名の例

パラメタ名	パラメタ値
img_url	/ucnpuserstaticfiles/img1.png

- HTML ソース文字列の入力例

```

```

- HTML ソース文字列の変換例

```

```


4.13.12 [属性の設定] 画面（ガイド領域の HTML パーツ）の項目

図 4-15 [属性の設定] 画面（HTML パーツから表示させた場合）

属性の設定

項目種別: HTML パーツ

HTMLソース文字列: HTML

検索キーワード:

ガイドパーツID: H001

☒ HTMLソース文字列にパラメタを埋め込む(Mustache記法)

パラメタ一覧

パラメタ名	パラメタ値	パラメタの説明	追加
			削除

更新 キャンセル

[属性の設定] 画面の各項目について説明します。

(1) [HTML ソース文字列] テキストボックス

HTML パーツに表示させるコンテンツのソースコードを入力します。デフォルトでは「HTML」が表示されます。

次の場合はエラーになります。

- 65,535 文字を超える文字列を入力した場合
- ASCII コードの 0x00～0x08, 0x0B～0x0C, 0x0E～0x1F および 0x7F を含む文字列を入力した場合

注意事項

- HTML 4.01（厳密型）の文書型定義に従ってソースコードを入力してください。この文書型定義に基づいていない場合の動作は保証されません。
- [属性の設定] 画面ではタブを入力できません。タブを使用したい場合は、任意のテキストファイルなどに入力したソースコードをコピーして貼り付けてください。
- 入力内容はサニタイズされません。
- CSS を使用してフォントサイズを指定する場合は、128 ピクセル以下を設定してください。128 ピクセルより大きい数値を指定すると、Web ブラウザの動作が著しく遅くなるおそれがあります。

(2) [検索キーワード] テキストボックス

業務コンテンツの検索機能を使用する場合に、検索対象としたいキーワードを 65,535 文字以内で指定します。このテキストボックスは、システムの設定によって検索機能が有効になっている場合だけ表示されます。

次の場合はエラーになります。

- ASCII コードの 0x00~0x1F または 0x7F を含む文字列を入力した場合

注意事項

- 検索の対象となるのは、[検索キーワード] テキストボックスに入力された文字列だけです。[HTML ソース文字列] テキストボックスに入力された文字列は検索の対象にはなりません。

補足事項

- スペースを含むキーワードもそのまま指定できます。キーワードを引用符 (") などの記号で囲む必要はありません。
なお、キーワード自体にスペースを含む場合は、キーワード内の半角スペースと全角スペースは区別されます。
- [検索キーワード] テキストボックス入力後に検索機能を無効にした場合、[検索キーワード] テキストボックスは表示されなくなりますが、入力した値は保持されます。したがって、検索機能を再度有効にすると、[検索キーワード] テキストボックスに入力した値も再び使用できるようになります。

(3) [ガイドパーツ ID] テキストボックス

ガイドパーツを一意に識別するためのガイドパーツ ID を半角 20 文字以内で入力します。[ガイドパーツ ID] テキストボックスは、自動設定されたガイドパーツ ID を変更する場合に入力します。

使用できる文字は、半角英数字、半角ハイフン (-) および半角アンダースコア (_) です。空文字も設定できます。空文字以外を指定する場合は、同じガイド領域内で、それぞれ一意となる値を指定してください。

(4) [HTML ソース文字列にパラメタを埋め込む] チェックボックス

[HTML ソース文字列] テキストボックスで入力する HTML ソース文字列中に、パラメタを埋め込むかどうかを指定します。

このチェックボックスをチェックすると、パラメタの設定領域 ([パラメタ一覧]) が表示されます。チェックを外すと、パラメタの設定領域は非表示になります。

なお、パラメタの設定領域を表示しているかどうかにかかわらず、パラメタの設定領域で設定したパラメタ情報は、業務コンテンツに保持されます。

(5) パラメタの設定領域（[パラメタ一覧]）

[HTML ソース文字列にパラメタを埋め込む] チェックボックスがチェックされている場合だけ表示される領域です。

- [パラメタ名] テキストボックス

HTML パーツで使用するパラメタを一意に識別するためのパラメタ名を 1,024 文字以内で入力します。使用できる文字は、半角英数字および半角アンダースコア（`_`）です。

- [パラメタ値] テキストボックス

パラメタ値を 1,024 文字以内で入力します。次に示す文字は使用できません。

- 制御文字（ASCII コード上の 0x00～0x1F と 0x7F～0x9F）

- [パラメタの説明] テキストエリア

パラメタの説明を 64 文字以内で入力します。次に示す文字は使用できません。

- ASCII コード上の 0x00～0x09, 0x0B, 0x0C, 0x0E～0x1F, および 0x7F

- [追加] ボタン

クリックすると、パラメタの設定領域の最終行に新しい行が追加されます。最大行数は 50 行です。

- [削除] ボタン

クリックすると、行が削除されます。

5

ガイドパーツ間または外部プログラムとの連携

この章では、プラグインを利用して、ガイドパーツ間、またはナビゲーション プラットフォーム・外部プログラム間でデータをやり取りする方法について説明します。

5.1 ガイドパーツ間の連携とは

一方のガイドパーツの値を、もう一方のガイドパーツで利用できるようにすることを、ガイドパーツ間の連携と呼びます。プラグインを使用すると、ガイドパーツ同士を連携させて、ガイドパーツとガイドパーツの間で入力結果や選択結果などの値を受け渡すことができます。

ガイドパーツ間の連携に必要なプラグインは、ナビゲーション プラットフォームが提供しています。ただし、システム構築時の設定によっては、ナビゲーション プラットフォームが提供する API を使用して開発されたプラグイン（ユーザプラグイン）が使える場合もあります。使用できるプラグインが複数ある場合は、どのプラグインをどのように使用するのかについて、システム管理者に問い合わせてください。

5.2 外部プログラムとの連携とは

業務コンテンツに対して、次のことができるようにすることを、外部プログラムとの連携と呼びます。

- 業務コンテンツが持つ値を、ナビゲーション プラットフォーム以外のシステムで使用されている外部プログラムで利用する
- 外部プログラムが持つ値を、業務コンテンツで利用する
- ユーザが記述したサーバサイド JavaScript をサーバ側で実行、またはクライアントサイド JavaScript を Web ブラウザ（クライアント側）で実行する
- ガイドパーツとユーザが記述した JavaScript の間で値のやり取りをする

5.2.1 JP1 連携プラグイン

JP1 連携プラグインを使用すると、JP1/IM や JP1/AO などの JP1 製品とデータをやり取りして、業務コンテンツと外部プログラムの JP1 製品が相互に連携できます。

JP1 製品以外の外部プログラムとの連携に必要なプラグインは、ナビゲーション プラットフォームが提供する API を使用して開発者が開発します。なお、システムプラグインとしてデフォルトで提供されているデータストアプラグインでは、ガイドパーツ間の連携は実現できますが、外部プログラムとの連携は実現できないので、注意してください。

開発者が開発したプラグイン（ユーザプラグイン）が複数ある場合は、どのプラグインをどのように使用するのかについて、システム管理者に問い合わせてください。

注意事項

JP1 連携プラグインを使用した業務コンテンツは、中断再開プラグインで業務を中断または再開できません。

業務を中断または再開すると、JP1 連携プラグインが正常に動作しないおそれがあります。

5.2.2 JavaScript プラグイン

JavaScript プラグインを使用すると、ユーザが記述したサーバサイド JavaScript をサーバ側で実行、またはクライアントサイド JavaScript を Web ブラウザ（クライアント側）で実行することができます。ガイドパーツと JavaScript プラグインパーツの間で入力結果や出力結果などの値を受け渡すこともできます。

また、JavaScript プラグインでは、ナビゲーション プラットフォームが提供する API（JavaScript API）を使用して、指定した URL を呼び出すことができます。例えば、クラウド上や Web サーバ上で公開されている Web API（REST API など）を、JavaScript プラグインから呼び出すことができます。

5.3 プラグインパーツ

プラグインパーツを配置する手順やマッピング線を引く手順について説明します。

メモ

このマニュアルでは、システムプラグインとしてデフォルトで提供されているプラグインパーツの使い方や画面について説明しています。開発者が開発したプラグイン（ユーザプラグイン）の使い方、または JP1 製品以外の外部プログラムとの連携時のプラグインパーツの使い方の詳細は、システム管理者に問い合わせてください。

5.3.1 プラグインパーツとは

プラグインパーツとは、ガイドパーツ間の連携または外部プログラムとの連携を実現するためのプラグインを業務コンテンツに組み込むためのパーツです。プラグインパーツは、ガイド領域で使用します。

5.3.2 プラグインの設定に使用するボタン（[Plugins] パレット）

プラグインの設定は、[Plugins] パレットを利用します。[Plugins] パレットのボタンの意味について次の表に示します。

表 5-1 [Plugins] パレットのボタンの意味

項番	ボタン	このマニュアルでの表記	説明
1		[データストアプラグイン] ボタン	データストアプラグインパーツを配置します。
2	 ※	[JP1/AO プロパティ出力プラグイン] ボタン	JP1/AO プロパティ出力プラグインパーツを配置します。
3	 ※	[JP1/AO サービス実行プラグイン] ボタン	JP1/AO サービス実行プラグインパーツを配置します。
4	 ※	[JP1/AO URL 出力プラグイン] ボタン	JP1/AO URL 出力プラグインパーツを配置します。
5	 ※	[JP1 イベント対処状況変更プラグイン] ボタン	JP1 イベント対処状況変更プラグインパーツを配置します。
6	 ※	[JP1 イベント情報出力プラグイン] ボタン	JP1 イベント情報出力プラグインパーツを配置します。
7	 ※	[JP1/IM-SS URL 出力プラグイン] ボタン	JP1/IM-SS URL 出力プラグインパーツを配置します。

項番	ボタン	このマニュアルでの表記	説明
8		[JavaScript プラグイン] ボタン	JavaScript プラグインパーツを配置します。

注※

システム構築時の設定によっては JP1 連携プラグインのアイコンは表示されません。

ユーザプラグインを登録している場合は、この表にはないボタンも並んで表示されることがあります。

5.3.3 プラグインパーツを配置する（ガイド領域）

プラグインパーツをガイド領域に配置する手順を説明します。なお、業務編集画面のガイド領域に配置したプラグインパーツは、業務実行画面には表示されません。

1. 業務フロー領域で、プラグインを設定したいプロセスノードをクリックします。

ガイド領域に業務フローに対応するガイドが表示されます。

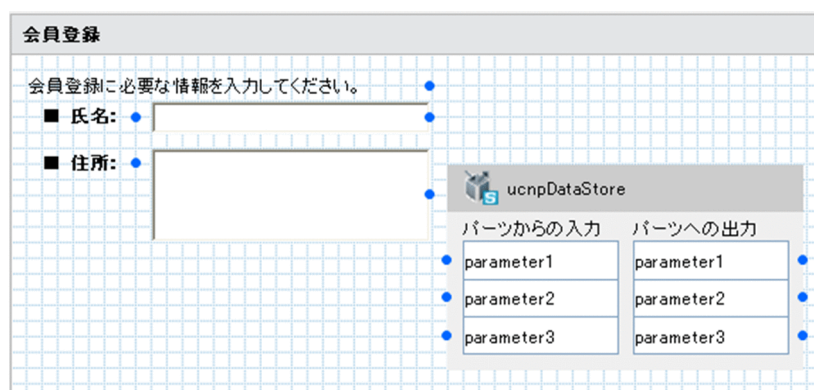
2. ツールバーの  プラグイン（[プラグイン] ボタン）をクリックします。

マッピングモードに切り替わります。

3. ガイド領域の [Plugins] パレットで配置したいプラグインのボタンをクリックします。

4. ガイド領域の任意の場所をクリックします。

[Plugins] パレットでクリックしたボタンに対応するプラグインパーツが配置されます。



5. プラグインパーツの任意の場所をダブルクリックします。

設定が必要なプラグインの場合、[属性の設定] 画面が表示されます。

ユーザプラグイン、または配置するだけで使用できるシステムプラグインの場合は、[属性の設定] 画面は表示されません。

6. プラグインパーツの種類ごとに必要な項目を設定します。

[属性の設定] 画面の各項目の詳細は、このマニュアルの次の個所を参照してください。

- 「5.4.4 [属性の設定] 画面（データストアプラグインパーツ）の項目」

- ・「5.5.3 [属性の設定] 画面 (JP1/AO プロパティ出力プラグインパーツ) の項目」
- ・「5.6.3 [属性の設定] 画面 (JP1/AO サービス実行プラグインパーツ) の項目」
- ・「5.7.3 [属性の設定] 画面 (JP1/AO URL 出力プラグインパーツ) の項目」
- ・「5.8.4 [属性の設定] 画面 (JP1 イベント対処状況変更プラグインパーツ) の項目」
- ・「5.10.3 [属性の設定] 画面 (JP1/IM-SS URL 出力プラグインパーツ) の項目」
- ・「5.11.5 [属性の設定] 画面 (JavaScript プラグインパーツ) の項目」

7. [更新] ボタンをクリックします。

[属性の設定] 画面が閉じて、設定した内容がプラグインパーツに反映されます。

5.3.4 マッピング線を引く (ガイドパーツとプラグインパーツをつなぐ)

ガイドパーツとプラグインパーツをつなぐマッピング線を引く手順を説明します。入力パラメタ、出力パラメタのどちらも持たないプラグインパーツの場合、この手順は不要です。

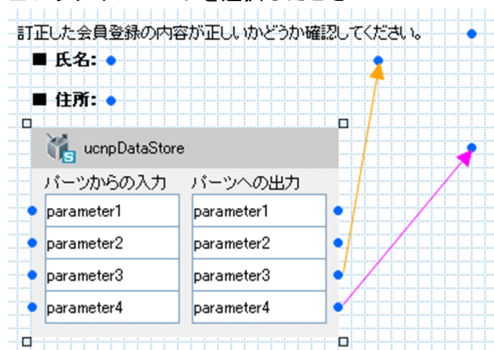
マッピング線は、業務編集画面のガイド領域がマッピングモードのときだけ、表示、操作できます。なお、業務実行画面にはマッピング線は表示されません。

1. 入力パラメタを持つプラグインパーツの場合、入力元のガイドパーツのポート (●) からプラグインパーツの入力パラメタ (プラグインパーツの左側のポート) にドラッグしてマッピング線を引きます。
ガイドパーツの値が入力パラメタとしてプラグインに渡されるようになります。
2. 出力パラメタを持つプラグインパーツの場合、プラグインパーツの出力パラメタ (プラグインパーツの右側のポート) から出力先のガイドパーツにドラッグしてマッピング線を引きます。
プラグインの保持する値が出力パラメタとしてガイドパーツに渡されるようになります。

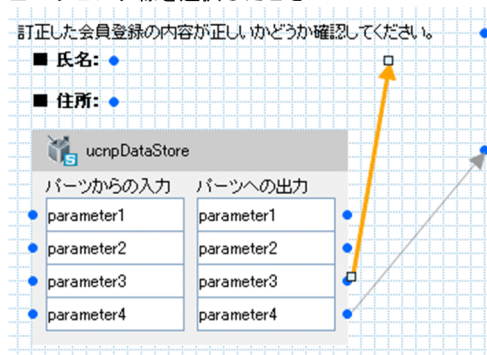
補足事項

- ・マッピング線は、次の図に示すように色付きの矢印で表示されます。それぞれのマッピング線は色が異なるため、マッピング線同士が交差していても区別しやすくなっています。

■ プラグインパーツを選択したとき



■ マッピング線を選択したとき



- ・一つのガイドパーツからは、複数の入力パラメタにマッピング線を引けます。また、一つの出力パラメタから複数のガイドパーツにマッピング線を引くこともできます。

- 複数の出力パラメタから一つのガイドパーツにマッピング線を引くことはできません。
- プラグインパーツのポートには、マッピング線を引かないこともできます。
- プラグインパーツを配置した場合は、プラグインパーツに一つもマッピング線が引かれていない状態でも、業務編集画面でプラグインを配置したノード間が遷移すると、プラグインの処理が呼び出されます。

ガイドパーツの値に関する注意事項

ガイド領域でユーザが入力した値は、ガイドパーツごとに一つの値が共有されます。このため、合流ノードを含む業務フローの場合、一度表示したプロセスノードを別のルートを通して再度表示すると、最初にそのプロセスノードを表示したとき入力した値がそのまま利用されます。

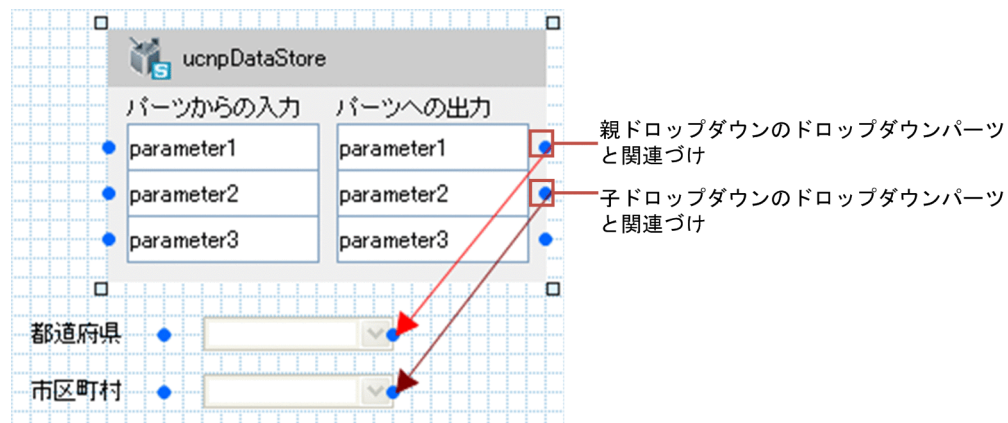
ユーザプラグインの場合は、条件に応じてキャッシュ値を変更することもできます。条件に応じてキャッシュ値を変更するプラグインの開発については、マニュアル「ナビゲーション プラットフォーム 開発ガイド」を参照してください。

親子関係があるドロップダウンパーツと関連づける場合の注意事項

親子関係があるドロップダウンパーツとプラグインパーツを関連づける場合、親ドロップダウンに関連づけるパラメタが子ドロップダウンに関連づけるパラメタよりも上になるように設定してください。親子ドロップダウンのパラメタは連続していなくてもかまいません。

出力パラメタ（プラグインパーツの右側のポート）を親子関係があるドロップダウンパーツと関連づける場合の例を次に示します。

図 5-1 親子関係があるドロップダウンパーツと関連づける場合の例



この例では、「parameter1」を親ドロップダウンに、「parameter2」を子ドロップダウンに関連づけています。親子ドロップダウンのパラメタが連続していなくてもよいので、例えば「parameter3」を子ドロップダウンに関連づけることもできます。

なお、出力パラメタだけでなく、入力パラメタを親子関係があるドロップダウンパーツと関連づける場合も、ここで説明した注意事項に従ってください。

プラグインを修正した場合の操作

関連づけが完了したあとにプラグインを修正した場合、修正後のプラグインに対応するプラグインパーツを再配置して、マッピング線を引き直す必要があります。

なお、ユーザプラグインを修正した場合は、システム管理者に問い合わせてください。システム管理者が更新処理を実施する必要があります。

5.4 データストアプラグインパーツ

データストアプラグインパーツの使い方や画面について説明します。

5.4.1 データストアプラグインパーツとは

データストアプラグインパーツとは、ガイドパーツ間でデータの受け渡しをするためのプラグインです。

5.4.2 データストアプラグインパーツの使い方

データストアプラグインパーツは、受け渡すための入力値を持つガイドパーツがあるガイド領域と、入力値を受け取るガイドパーツがあるガイド領域の両方に配置します。データストアプラグインパーツは、例えば次のような場合に使用すると効果的です。

- 入力結果や選択結果を確認しながら、利用者に作業を進めてほしい
- 利用者に何度も入力や選択の手間を掛けたくない

ヒント

固定テキストパーツは、利用者がデータを入力するパーツではありませんが、固定テキストパーツの表示文字列の値は、入力値としてデータストアプラグインパーツで受け渡しができます。

表示文字列に何も指定していない固定テキストパーツに対して、データストアプラグインパーツの出力側からマッピング線を引くと、対応する入力パラメタ側にマッピング線が引かれているガイドパーツの入力値が表示されます。例えば、プロセスノード A のテキストボックスに入力した情報（入力値）を、プロセスノード B に固定テキストとして表示（出力）できます。

データストアプラグインに入力または出力する値について、ガイドパーツごとに次に示します。

表 5-2 ガイドパーツからデータストアプラグインへの入力値とデータストアプラグインからガイドパーツへの出力結果

ガイドパーツの種類	データストアプラグインへの入力値	ガイドパーツへの出力結果
固定テキスト	固定テキストに表示した文字列が入力される。	固定テキストに文字列が出力される。
テキストボックス	テキストボックスに入力した文字列が入力される。	テキストボックスに文字列が出力される。
テキストエリア	テキストエリアに入力した文字列が入力される。	テキストエリアに文字列が出力される。
ラジオボタン	チェックされたラジオボタンの値が入力される。	対応するラジオボタンがチェック状態になる。
チェックボックス	チェックボックスのチェック状態によって次の値が入力される。	値が「true」の場合だけ、チェックボックスがチェック状態になる。

ガイドパーツの種類	データストアプラグインへの入力値	ガイドパーツへの出力結果
チェックボックス	チェック状態の場合 true 未チェック状態の場合 false	それ以外の値の場合はチェック状態にならない。
ドロップダウン	選択状態のラベルに対応する値が入力される。	選択状態にしたいラベルに対応する値が出力される。
ハイパーリンク	〔属性の設定〕画面で指定したアンカーの文字列と URL とを改行コード（ <code>¥r¥n</code> ）で連結した値が入力される。	アンカーの文字列と URL とを改行コード（ <code>¥r¥n</code> ）で連結した値 ^{*1} が出力される。
画像	〔属性の設定〕画面で指定した画像パーツの URL と画像の説明（〔ツールチップ〕テキストボックスの値）とを改行コード（ <code>¥r¥n</code> ）で連結した値 ^{*2} が入力される。	画像パーツに設定する URL と画像の説明（〔ツールチップ〕テキストボックスに入力される値）とを改行コード（ <code>¥r¥n</code> ）で連結した値 ^{*3} が出力される。
インラインフレーム	インラインフレームを表示するための URL が入力される。	インラインフレームを表示するための URL が出力される。
HTML	HTML パーツの〔HTML ソース文字列〕に設定されている内容のうち、テキストボックス、パスワードボックス、hidden、チェックボックス、ラジオボタン、セレクトボックス、テキストエリアの name 属性および value 属性を取得してエンコードした文字列が入力される。	HTML パーツの〔HTML ソース文字列〕に設定する値が出力される。

注※1

出力される値については次の注意事項があります。

- 値が null、空文字、または改行コードだけの場合は、空文字が出力されます。
- 改行コードがない場合は、すべてアンカーの文字列として処理されます（URL には空文字が出力されます）。
- 改行コードが二つ以上ある場合は、3 行目以降の値が無視されます。

注※2

ツールチップが未設定（空文字）の場合、入力値は「URL + 改行コード（`¥r¥n`）」となります。URL だけを切り出したい場合は、改行コードに注意してください。

注※3

出力される値については次の注意事項があります。

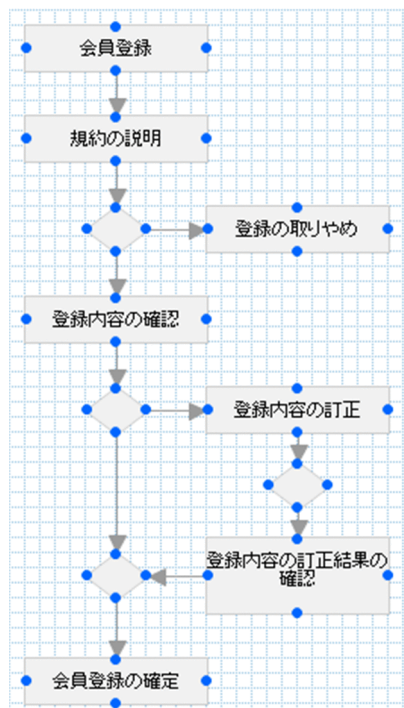
- 値が null の場合は、空文字が出力されます。
- 改行コード（`¥r¥n`）がない場合は、すべて URL として扱われます。ツールチップには空文字が出力されます。
- 改行コードが二つ以上ある場合は、3 行目以降の値が無視されます。

5.4.3 データストアプラグインの使用例

ナビゲーション プラットフォームが提供するデータストアプラグインは、一方のガイドパーツの入力値を、もう一方のガイドパーツで利用するために使います。データストアプラグインの使用例を次に示します。

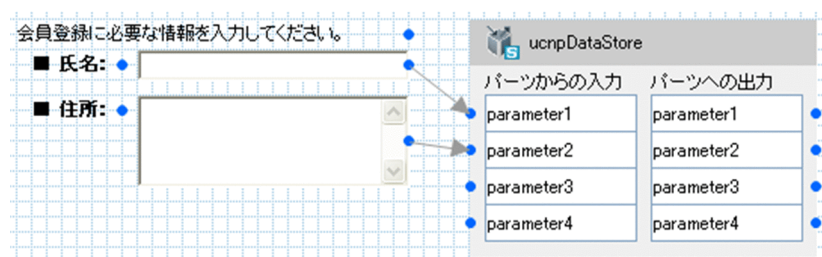
使用例の条件

使用例は、次のような業務フローを前提に説明します。



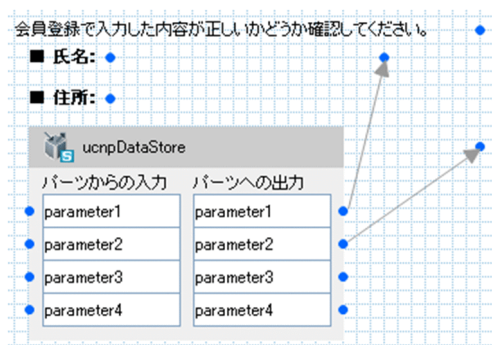
- ・「会員登録」というプロセスノードで、氏名と住所を入力する
- ・「登録内容の確認」というプロセスノードで、入力した氏名と住所の内容が正しいかどうか確認する
- ・「登録内容の確認」での確認の結果、内容が間違っていた場合は訂正入力できるようにする
- ・「登録内容の確認」での確認の結果、内容が間違っていた場合は、「登録内容の訂正」というプロセスノードで訂正入力できるようにする
- ・「登録内容の訂正」で内容を訂正した場合は、「登録内容の訂正結果の確認」というプロセスノードで、訂正後の内容を確認する

図 5-2 「会員登録」のガイド領域の例



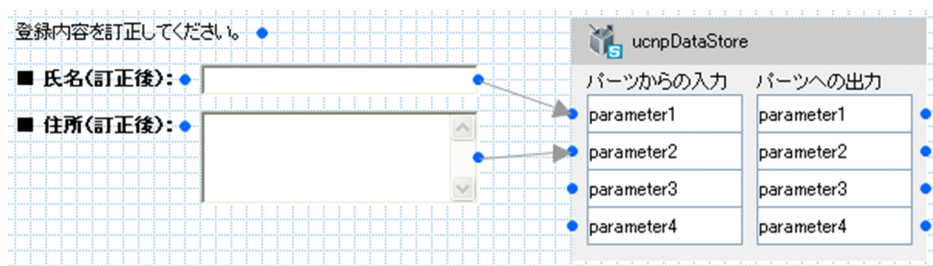
この図のとおりを設定すると、「氏名」のテキストボックスに入力された値は、データストアプラグインに渡されて、入力側の「parameter1」として保存されます。同様に、「住所」のテキストボックスに入力された値は、入力側の「parameter2」として保存されます。

図 5-3 「登録内容の確認」のガイド領域の例



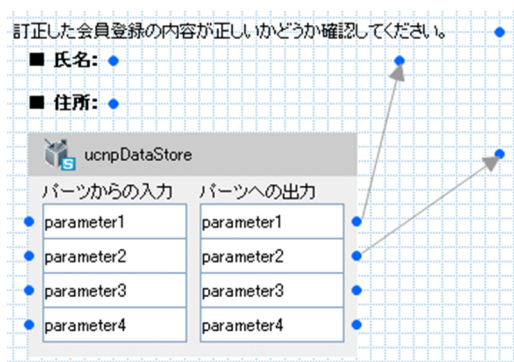
この図のとおりを設定すると、入力側の「parameter1」として保存されていた値が、「氏名」の固定テキストに表示されます。同様に、入力側の「parameter2」として保存されていた値は、「住所」の固定テキストに表示されます。

図 5-4 「登録内容の訂正」のガイド領域の例



この図のとおりを設定すると、「氏名（訂正後）」のテキストボックスに入力された値は、データストアプラグインに渡されて、入力側の「parameter1」が更新されます。同様に、「住所（訂正後）」のテキストボックスに入力された値で、入力側の「parameter2」が更新されます。

図 5-5 「登録内容の訂正結果の確認」のガイド領域の例



この図のとおりを設定すると、入力側の「parameter1」の更新された値が、「氏名」の固定テキストに表示されます。同様に、入力側の「parameter2」の更新された値は、「住所」の固定テキストに表示されます。

5.4.4 【属性の設定】画面（データストアプラグインパーツ）の項目

図 5-6 【属性の設定】画面（データストアプラグインパーツから表示させた場合）

属性の設定

項目種別: データストアプラグイン(入力データの受け渡し)

パラメタは一つの業務コンテナ内で共有しています。
パラメタを変更・削除すると、ほかのノードのプラグイン設定も更新されるため注意してください。

パラメタ名	パラメタ名のツールチップ(パラメタの説明)	
parameter1		追加
parameter2		削除
parameter3		削除

更新 キャンセル

【属性の設定】画面の各項目について説明します。

(1) 【パラメタ名】テキストボックス

パラメタ名を 64 文字以内で入力します。次の場合はエラーになります。

- 半角英数字、半角アンダースコア (_), ドット (.), スペース (), 半角ハイフン (-) 以外の文字列を入力した場合
- 指定したパラメタ名がすでに存在している場合

(2) 【パラメタ名のツールチップ (パラメタの説明)】テキストエリア

パラメタの説明を 64 文字以内で入力します。制御文字も入力できます。

次の場合はエラーになります。

- 64 文字を超える文字列を入力した場合
- ASCII コード上の 0x00~0x09, 0x0B, 0x0C, 0x0E~0x1F, および 0x7F を含む文字列を入力した場合

なお、制御文字も 1 文字として扱われるため、例えば改行コード (¥r¥n) を入力した場合は 2 文字分となります。

(3) **【追加】 ボタン**

パラメタを追加します。パラメタはいちばん下の行に追加されます。

(4) **【削除】 ボタン**

【削除】 ボタンのある行のパラメタを削除します。

5.5 JP1/AO プロパティ出力プラグインパーツ

JP1/AO プロパティ出力プラグインパーツの使い方や画面について説明します。

5.5.1 JP1/AO プロパティ出力プラグインパーツとは

JP1/AO プロパティ出力プラグインパーツとは、JP1/AO のタスクのプロパティを業務コンテンツに出力するプラグインです。

5.5.2 JP1/AO プロパティ出力プラグインパーツの使い方

1. JP1/AO のサービスを実行するノードに JP1/AO のサービス実行プラグインを配置してください。
2. JP1/AO のサービス実行プラグインを配置した次のノードに、JP1/AO URL 出力プラグインを配置し、タスクの状態を確認するようにしてください。
3. コンテンツ実行時は、タスクの状態が正常終了するまで待ち、次のノードへ進むようにしてください。
4. JP1/AO URL 出力プラグインを配置した次のノードに、JP1/AO プロパティ出力プラグインを配置し、プロパティを出力する出力パラメタと、ガイドパーツで結線を引いてください。

❗ 重要

- このプラグインが出力するプロパティは、JP1/AO のサービス実行プラグインで最後に実行したサービスが対象です。
- 同じ業務コンテンツ内で複数回 JP1/AO のサービス実行プラグインを実行する場合、戻れない業務フローにしてください。戻れるような業務フローになっていると、意図しないタスクのプロパティが出力されることがあります。
- このプラグインでは、データ型が composite 形式のプロパティを出力できません。出力した場合、ガイドパーツの表示が崩れる可能性があります。
- このプラグインでタスクに存在しないプロパティ、またはデータ型が password 形式のプロパティを出力した場合、結線したガイドパーツのキャッシュ値は更新されません。ガイドパーツのキャッシュ値については、マニュアル「ナビゲーション プラットフォーム 開発ガイド」を参照してください。
- このプラグインは JP1/AO から取得したプロパティ値に含まれる「¥r¥n」および「¥n」を改行コード（¥r¥n）として出力します。

5.5.3 【属性の設定】画面（JP1/AO プロパティ出力プラグインパーツ）の項目

図 5-7 【属性の設定】画面（JP1/AO プロパティ出力プラグインパーツから表示させた場合）

【属性の設定】画面の各項目について説明します。

(1) プロパティの設定領域

- 【プロパティキー】テキストボックス

JP1/AO のサービスから出力するプロパティキーを 1,024 文字以内で入力します。ここで指定した内容は、ガイド領域に配置した JP1/AO プロパティ出力プラグインパーツの【パーツへの出力】に表示されます。次に示す文字は使用できません。

制御文字（ASCII コード上の 0x00～0x1F と 0x7F～0x9F）

- 【プロパティのツールチップ（プロパティの説明）】テキストボックス

ガイド領域に配置した JP1/AO サービス実行プラグインパーツの【パーツへの出力】に表示されるプロパティキーに対する説明を 64 文字以内で指定します。次に示す文字は使用できません。

ASCII コード上の 0x00～0x09, 0x0B, 0x0C, 0x0E～0x1F, および 0x7F

- 【追加】ボタン

クリックするとプロパティの設定領域の最終行に新しい行が追加されます。最大行数は 100 行です。

- 【削除】ボタン

クリックすると行が削除されます。

5.6 JP1/AO サービス実行プラグインパーツ

JP1/AO サービス実行プラグインパーツの使い方や画面について説明します。

5.6.1 JP1/AO サービス実行プラグインパーツとは

JP1/AO サービス実行プラグインパーツとは、業務コンテンツから JP1/AO のサービスを実行するためのプラグインです。なお、このプラグインでは、JP1/AO のサービスを即時実行しかできません。遅延実行になるおそれがある場合は、JP1/AO URL 出力プラグインパーツを利用してください。

5.6.2 JP1/AO サービス実行プラグインパーツの使い方

JP1/AO サービス実行プラグインは、JP1/AO サービス実行プラグインパーツが配置されているガイド領域のノードから次のノードへ遷移するタイミングで実行されます。

例えば、ノード A のガイド領域に示す操作によって JP1/AO サービスを実行するとします。この場合は、ノード A に JP1/AO サービス実行プラグインパーツを配置してください。利用者がガイド領域の説明に従ってノード A から次のノード B に進むと、自動的に JP1/AO サービスが実行されます。

JP1/AO サービス実行プラグインパーツの入力パラメタにつなげられるガイドパーツを次に示します。

- 固定テキストパーツ
プラグインパーツに表示文字列を受け渡します。
- テキストボックスパーツ
プラグインパーツに初期値または入力された文字列を受け渡します。
- ラジオボタンパーツ
ラジオボタングループ内で選択状態のラジオボタンの値をプラグインパーツに受け渡します。選択状態のラジオボタンがない場合は、空文字を受け渡します。
- ドロップダウンパーツ
選択されているラベルに対応する値をプラグインパーツに受け渡します。

これらのガイドパーツから受け取った値は、JP1/AO のサービス実行の際のタスク名やプロパティ値などとして扱われます。

タスク名やプロパティ値が固定の場合は、JP1/AO サービス実行プラグインパーツの [属性の設定] 画面で設定します。タスク名やプロパティ値を動的に変える必要がある場合は、[属性の設定] 画面での設定に加えて、テキストボックスなどのガイドパーツを入力パラメタにつないでおきます。これによって、利用者が入力した値に従って JP1/AO のサービスが実行されるようになります。

なお、ナビゲーション プラットフォームのバージョン 12-00 以降では、ラジオボタンパーツ、チェックボックスパーツ、またはハイパーリンクパーツをプラグインパーツの入力パラメタにつないでいる場合、ガイドパーツから受け取った値からラベル部分を除外した値がプラグインパーツに受け渡されます。

5.6.3 【属性の設定】 画面（JP1/AO サービス実行プラグインパーツ） の項目

図 5-8 【属性の設定】 画面（JP1/AO サービス実行プラグインパーツから表示させた場合）

属性の設定

項目種別: Automatic Operation サービス実行プラグイン

サービスグループ名: DefaultServiceGroup

サービス名: Service

タスク名:

タスクの説明:

プロパティキー	プロパティ値	プロパティのツールチップ (プロパティの説明)	
			追加
			削除

更新

キャンセル

【属性の設定】 画面の各項目について説明します。

(1) 【サービスグループ名】 テキストボックス

JP1/AO のサービスのサービスグループ名を 1,024 文字以内で指定します。

JP1/AO 11-00 より前のバージョンと連携する場合は、サービスグループ名はリソースグループ名に読み替えてください。次に示す文字は使用できません。

- 制御文字（ASCII コード上の 0x00～0x1F と 0x7F～0x9F）

(2) 【サービス名】 テキストボックス

JP1/AO のサービスのサービス名を 1,024 文字以内で入力します。次に示す文字は使用できません。

- 制御文字（ASCII コード上の 0x00～0x1F と 0x7F～0x9F）

(3) 【タスク名】 テキストボックス

JP1/AO のサービスのタスク名を 128 文字以内で入力します。次に示す文字は使用できません。

- 制御文字（ASCII コード上の 0x00～0x1F と 0x7F～0x9F）

(4) 【タスクの説明】 テキストボックス

JP1/AO のサービスのタスクに対する説明を 256 文字以内で入力します。次に示す文字は使用できません。

- 制御文字 (ASCII コード上の 0x00~0x1F と 0x7F~0x9F)

(5) プロパティの設定領域

- 【プロパティキー】 テキストボックス

JP1/AO のサービスで使用するプロパティキーを 1,024 文字以内で入力します。ここで指定した内容は、ガイド領域に配置した JP1/AO サービス実行プラグインパーツの【パーツからの入力】に表示されます。次に示す文字は使用できません。

制御文字 (ASCII コード上の 0x00~0x1F と 0x7F~0x9F)

- 【プロパティ値】 テキストボックス

JP1/AO のサービスで使用するプロパティの値を 1,024 文字以内で入力します。次に示す文字は使用できません。

制御文字 (ASCII コード上の 0x00~0x08, 0x0B~0x0C, 0x0E~0x1F, および 0x7F~0x9F)

- 【プロパティのツールチップ (プロパティの説明)】 テキストボックス

ガイド領域に配置した JP1/AO サービス実行プラグインパーツの【パーツからの入力】に表示されるプロパティキーに対する説明を 64 文字以内で指定します。次に示す文字は使用できません。

ASCII コード上の 0x00~0x09, 0x0B, 0x0C, 0x0E~0x1F, および 0x7F

- 【追加】 ボタン

クリックするとプロパティの設定領域の最終行に新しい行が追加されます。最大行数は 50 行です。

- 【削除】 ボタン

クリックすると行が削除されます。

5.7 JP1/AO URL 出力プラグインパーツ

JP1/AO URL 出力プラグインパーツの使い方や画面について説明します。

5.7.1 JP1/AO URL 出力プラグインパーツとは

JP1/AO URL 出力プラグインパーツとは、JP1/AO の URL を取得して、業務コンテンツから次の画面にアクセスするためのプラグインです。

- JP1/AO の [タスク詳細] ダイアログ
- JP1/AO の [サービス実行] ダイアログ
- JP1/AO のメイン画面
- タスクの状態を確認する画面

[サービス実行] ダイアログボックスの場合は、設定によって必要なプロパティ値が入力済みの画面を表示することもできます。

タスクの状態を確認する画面では、直前に実行したタスクの状態が確認できます。

JP1/AO の画面については、マニュアル「JP1 Version 10 JP1/Automatic Operation 画面・コマンドリファレンス」、またはマニュアル「JP1 Version 11 JP1/Automatic Operation 運用ガイド」を参照してください。

5.7.2 JP1/AO URL 出力プラグインパーツの使い方

JP1/AO URL 出力プラグインパーツは次の場合に利用します。

- タスクの状態と詳細を確認する画面を表示する
- 日時を指定して JP1/AO のサービスを実行する

それぞれの場合の使い方について説明します。

(1) タスクの状態と詳細を確認する画面を表示する

1. JP1/AO のサービス実行プラグインパーツをガイド領域に配置します。
2. JP1/AO のサービス実行プラグインパーツを配置した次のノードのガイド領域に、JP1/AO URL 出力プラグインパーツを配置します。
3. タスクの状態を確認する画面の URL を出力する出力パラメタを、ガイド領域に配置しているインラインフレームパーツにつなげます。

インラインフレームパーツの大きさは、幅 400px、高さ 80px 以上を推奨します。

4. JP1/AO の [タスク詳細] ダイアログを表示する URL を出力する出力パラメタと、ガイド領域に配置しているハイパーリンクパーツにつなげます。

❗ 重要

- このプラグインが出力するタスクの状態およびタスク詳細画面の内容は、JP1/AO サービス実行プラグインで最後に実行したサービスの内容です。
- 同じ業務コンテンツ内で複数回 JP1/AO サービス実行プラグインを実行する場合、戻れない業務フローにしてください。戻れるような業務フローになっていると、意図しないタスクの情報が表示されることがあります。

(2) 日時を指定して JP1/AO のサービスを実行する

1. JP1/AO URL 出力プラグインパーツをガイド領域に配置します。

2. JP1/AO の URL を出力する出力パラメタを、ハイパーリンクパーツにつなげます。

3. 利用者が入力した値を [サービス実行] ダイアログボックスに表示する場合は、JP1/AO URL 出力プラグインパーツの入力パラメタに次に示すガイドパーツをつなぎます。

- 固定テキストパーツ
プラグインパーツに表示文字列を受け渡します。
- テキストボックスパーツ
プラグインパーツに初期値または入力された文字列を受け渡します。
- ラジオボタンパーツ
ラジオボタングループ内で選択状態のラジオボタンの値をプラグインパーツに受け渡します。選択状態のラジオボタンがない場合は、空文字を受け渡します。
- ドロップダウンパーツ
選択されているラベルに対応する値をプラグインパーツに受け渡します。

これらのガイドパーツから受け取った値は、[サービス実行] ダイアログボックスを表示する際のプロパティ値として扱われます。

利用者が入力した値を [サービス実行] ダイアログボックスに表示させないで、プロパティ値を固定にする場合は、JP1/AO URL 出力プラグインパーツの [属性の設定] 画面で設定します。

❗ 重要

このプラグインでは、データ型が composite 形式のプロパティは使用できません。

5.7.3 【属性の設定】画面（JP1/AO URL 出力プラグインパーツ）の項目

図 5-9 【属性の設定】画面（JP1/AO URL 出力プラグインパーツから表示させた場合）

属性の設定

項目種別: Automatic Operation 画面URL生成プラグイン(URLの生成)

アンカーの文字列: Hyperlink

☐ タスク詳細画面を表示する。

☒ サービスを実行するための画面を表示する。

☐ メイン画面を表示する。

サービスグループ名: DefaultServiceGroup

サービス名: Service

プロパティキー	プロパティ値	プロパティのツールチップ (プロパティの説明)	
			追加
			削除

出力パラメタ「TaskInfoUrl」が出力する値:
空白文字を出力します。本パラメタは使用しないください。

更新 キャンセル

【属性の設定】画面の各項目について説明します。

(1) 【アンカーの文字列】テキストボックス

アンカー表示させる文字列を入力します。デフォルトでは「Hyperlink」と表示されます。アンカーの文字列は必ず入力してください。次の場合はエラーになります。

- 1,024 バイトを超える文字列を入力した場合（全角の場合は 340 文字以内で入力してください）
- 空白文字列を入力した場合
- ASCII コードの 0x00～0x1F と 0x7F を含む文字列を入力した場合

(2) 【タスク詳細画面を表示する。】ラジオボタン

JP1/AO の【タスク詳細】ダイアログボックスを表示するかどうかを指定します。

このラジオボタンをチェックすると、【詳細画面用 CSS】テキストボックスが表示されます。

(3) 【サービスを実行するための画面を表示する。】ラジオボタン

JP1/AO の【サービス実行】ダイアログボックスを表示するかどうかを指定します。

このラジオボタンをチェックすると、プロパティの設定領域が表示されます。チェックを外すと、プロパティの設定領域は非表示になり、設定済みのプロパティ情報はすべて削除されます。

(4) 【メイン画面を表示する。】ラジオボタン

JP1/AO のメイン画面を表示するかどうかを指定します。

(5) 【サービスグループ名】 テキストボックス

JP1/AO のサービスのサービスグループ名を 1,024 文字以内で指定します。

JP1/AO 11-00 より前のバージョンと連携する場合は、サービスグループ名はリソースグループ名に読み替えてください。次に示す文字は使用できません。

- 制御文字（ASCII コード上の 0x00～0x1F と 0x7F～0x9F）

(6) 【サービス名】 テキストボックス

JP1/AO のサービスのサービス名を 1,024 文字以内で入力します。次に示す文字は使用できません。

- 制御文字（ASCII コード上の 0x00～0x1F と 0x7F～0x9F）

(7) プロパティの設定領域

[サービスを実行するための画面を表示する。] チェックボックスがチェックされている場合だけ表示される領域です。

- 【プロパティキー】 テキストボックス

JP1/AO のサービスで使用するプロパティキーを 1,024 文字以内で入力します。ここで指定した内容は、ガイド領域に配置した JP1/AO サービス実行プラグインパーツの [パーツからの入力] に表示されます。次に示す文字は使用できません。

制御文字（ASCII コード上の 0x00～0x1F と 0x7F～0x9F）

- 【プロパティ値】 テキストボックス

JP1/AO のサービスで使用するプロパティの値を 1,024 文字以内で入力します。次に示す文字は使用できません。

制御文字（ASCII コード上の 0x00～0x1F と 0x7F～0x9F）

- 【プロパティのツールチップ（プロパティの説明）】 テキストボックス

ガイド領域に配置した JP1/AO サービス実行プラグインパーツの [パーツからの入力] に表示されるプロパティキーに対する説明を 64 文字以内で指定します。次に示す文字は使用できません。

ASCII コード上の 0x00～0x09, 0x0B, 0x0C, 0x0E～0x1F, および 0x7F

- 【追加】 ボタン

クリックするとプロパティの設定領域の最終行に新しい行が追加されます。最大行数は 20 行です。

- 【削除】 ボタン

クリックすると行が削除されます。

(8) 【詳細画面用 CSS】 テキストボックス

タスクの状態を確認する画面に表示する次のタスク情報の CSS スタイルをカスタマイズする場合は、カスタマイズする表示項目の CSS スタイルを 1,024 文字以内で入力します。

- タスクの開始日時※
- タスクの状態
- タスク ID
- ※5 秒間隔で自動更新します。

注※ タスクの状態が「待機中」のときは表示されません。

CSS スタイルをカスタマイズできるタスク情報の表示対象と使用する CSS クラスを、次の表に示します。

タスク情報（ラベル名）	表示対象	CSS クラス
タスクの開始日時	表示枠	ucnp_jplao_task_info_start_time
	ラベル名	ucnp_jplao_task_info_start_time_label
	出力する情報	ucnp_jplao_task_info_start_time_value
タスクの状態	表示枠	ucnp_jplao_task_info_task_status
	ラベル名	ucnp_jplao_task_info_task_status_label
	出力する情報	ucnp_jplao_task_info_task_status_value
	失敗	ucnp_jplao_task_info_task_status_failed
	正常終了	ucnp_jplao_task_info_task_status_completed
	キャンセル	ucnp_jplao_task_info_task_status_canceled
	停止中	ucnp_jplao_task_info_task_status_inProgressTerminating
	異常検出	ucnp_jplao_task_info_task_status_inProgressWithError
	応答待ち中	ucnp_jplao_task_info_task_status_waitingForInput
	実行中	ucnp_jplao_task_info_task_status_inProgress
	保留中	ucnp_jplao_task_info_task_status_suspended
	待機中	ucnp_jplao_task_info_task_status_waiting
	長期実行中	ucnp_jplao_task_info_task_status_longRunning
タスク ID	表示枠	ucnp_jplao_task_info_task_task_id
	ラベル名	ucnp_jplao_task_info_task_task_id_label
	出力する情報	ucnp_jplao_task_info_task_task_id_value
※5 秒間隔で自動更新します。	表示枠	ucnp_jplao_task_info_task_refresh

タスクの状態を確認する画面には、デフォルトで次の CSS スタイルが指定されています。

```
// タスク状態の文字を18px, 太字、パディングなしに指定
div.ucnp_jplao_task_info_task_status_value * {
  font-size: 18px;
  font-weight: bold;
  padding: 0px;
}
// タスクが正常終了した場合は文字色を青に指定
div.ucnp_jplao_task_info_task_status_completed {
  color: blue;
}
// タスクが異常終了した場合は文字色を赤に指定
div.ucnp_jplao_task_info_task_status_failed {
  color: red;
}
```

CSS スタイルの記述例を次に示します。

- タスク状態が「失敗」になったときの文字を 50px にする場合

```
div.ucnp_jplao_task_info_task_status_failed{font-size: 50px;}
```

5.8 JP1 イベント対処状況変更プラグインパーツ

JP1 イベント対処状況変更プラグインパーツの使い方や画面について説明します。

5.8.1 JP1 イベント対処状況変更プラグインパーツとは

JP1 イベント対処状況変更プラグインパーツとは、JP1/IM が管理している JP1 イベントの対処状況を変更するためのプラグインです。

5.8.2 JP1 イベント対処状況変更プラグインパーツの使い方

JP1 イベント対処状況変更プラグインパーツは、JP1/IM または JP1/IM-SS から呼び出す業務コンテンツで使用してください。JP1 イベント対処状況変更プラグインは、JP1 イベント対処状況変更プラグインパーツが配置されているガイド領域のノードから次のノードへ遷移するタイミングで実行されます。

例えば、ノード A のガイド領域に示す操作によって JP1 イベントの状態を「対処済」に変更するとします。この場合は、ノード A に JP1 イベント対処状況変更プラグインパーツを配置してください。利用者がガイド領域の説明に従ってノード A から次のノード B に進むと、自動的に JP1 イベントの状態が更新されます。

なお、JP1 イベント対処状況変更プラグインには、入力パラメタも出力パラメタもないため、ガイドパーツとの関連づけは不要です。ガイド領域に配置し、変更後の JP1 イベントの状態を設定するだけで使用できます。

5.8.3 JP1 イベント対処状況変更プラグインパーツを使用するときの注意事項

JP1/IM でエージェントホスト上の JP1 イベントからナビゲーション プラットフォームを呼び出した場合、JP1 イベント対処状況変更プラグインが実行されると、エラーが発生します。

このエラーを防止するため、JP1 イベント対処状況変更プラグインパーツを使用する場合は、次の点を考慮して業務コンテンツを作成してください。

- 分岐合流ノードを利用して、JP1 イベント対処状況変更プラグインパーツを配置したノードを経由しないルートを持つ構成のフローを検討する。
- JP1 イベント対処状況変更プラグインパーツを配置したノードの直前のノードのガイド領域に、JP1 イベント情報出力プラグインパーツを配置する。

操作中の業務コンテンツが JP1/IM マネージャーと JP1/IM エージェントのどちらから呼び出されたのかを示す情報をガイド領域に表示できます。

5.8.4 「属性の設定」画面（JP1 イベント対処状況変更プラグインパーツ）の項目

図 5-10 「属性の設定」画面（JP1 イベント対処状況変更プラグインパーツから表示させた場合）

「属性の設定」画面の各項目について説明します。

(1) 対処状況種別のラジオボタン

JP1 イベントの対処状況をどのように変更するかを、次の中から選択して指定します。

- 未対処
- 保留
- 処理中
- 対処済

5.9 JP1 イベント情報出力プラグインパーツ

JP1 イベント情報出力プラグインパーツの使い方や画面について説明します。

5.9.1 JP1 イベント情報出力プラグインパーツとは

JP1 イベント情報出力プラグインパーツとは、JP1/IM または JP1/IM-SS が管理しているイベント ID やプロダクト名などの JP1 イベント情報を表示するためのプラグインです。

5.9.2 JP1 イベント情報出力プラグインパーツの使い方

JP1 イベント情報出力プラグインパーツは、JP1/IM または JP1/IM-SS から呼び出す業務コンテンツで使用してください。

JP1 イベント情報出力プラグインパーツには、出力パラメタしかありません。出力パラメタには、次に示すガイドパーツをつなぐことができます。

- 固定テキストパーツ
プラグインパーツから受け取った値を表示文字列として表示します。
- テキストボックスパーツ
プラグインパーツから受け取った値を表示文字列として表示します。
- テキストエリアパーツ
プラグインパーツから受け取った値を表示文字列として表示します。
- ラジオボタンパーツ
ラジオボタングループ内にプラグインパーツから受け取った値と同じ値のラジオボタンがある場合は、そのラジオボタンを選択状態に変更します。
- ドロップダウンパーツ
ラベルに対応する値がプラグインパーツから受け取った値と同じ選択項目がある場合は、その選択項目のラベルを表示します。
- HTML パーツ
プラグインパーツから受け取った値を HTML ソース文字列と見なして、HTML に変換して表示します。

なお、JP1 イベント情報出力プラグインパーツの出力パラメタの名称は固定値のため、変更はできません。

5.9.3 JP1 イベント情報出力プラグインパーツで出力できるイベント情報

JP1 イベント情報出力プラグインパーツの出力パラメタと対応する JP1 イベントの内容を次に示します。

表 5-3 JP1 イベント情報出力プラグインパーツの出力パラメーター一覧

出力パラメータ名	出力される値
mngHostName	JP1/IM のホスト名
eventId	イベント ID
evSeqNo	JP1/IM マネージャーの場合 イベント DB 内通し番号 JP1/IM エージェントの場合 -1
evSrcSvName*	発行元イベントサーバ名
productName	プロダクト名
message	メッセージ
svType	JP1/IM マネージャーの場合 マネージャー JP1/IM エージェントの場合 エージェント

注

JP1/IM のホスト名以外の値は、JP1 イベントです。出力される JP1 イベントの詳細については、マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager コマンド・定義ファイルリファレンス」またはマニュアル「JP1/Integrated Management 2 - Manager コマンド・定義ファイルリファレンス」を参照してください。

注※

発行元ホストを引き継ぐ場合は、JP1/IM で発行元ホストのマッピングを有効にしてください。設定する手順については、マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager 構築ガイド」またはマニュアル「JP1/Integrated Management 2 - Manager 構築ガイド」を参照してください。

5.10 JP1/IM-SS URL 出力プラグインパーツ

JP1/IM-SS URL 出力プラグインパーツの使い方や画面について説明します。

5.10.1 JP1/IM-SS URL 出力プラグインパーツとは

JP1/IM-SS URL 出力プラグインパーツとは、JP1/IM-SS の URL を取得して、業務コンテンツから JP1/IM-SS の案件をプレビューする画面または [案件編集] 画面にアクセスするためのプラグインです。

5.10.2 JP1/IM-SS URL 出力プラグインパーツの使い方

JP1/IM-SS URL 出力プラグインパーツは、JP1/IM-SS から呼び出す業務コンテンツで使用してください。JP1/IM-SS URL 出力プラグインパーツは、JP1/IM-SS の URL をリンクとして表示するためのハイパーリンクパーツがあるガイド領域に配置します。

5.10.3 [属性の設定] 画面 (JP1/IM-SS URL 出力プラグインパーツ) の項目

図 5-11 [属性の設定] 画面 (JP1/IM-SS URL 出力プラグインパーツから表示させた場合)

属性の設定

項目種別: Service Support 画面URL生成プラグイン(URLの生成)

アンカーの文字列: Hyperlink

開く画面を選択してください。

☒ 案件プレビュー画面

☐ 案件編集画面

更新 キャンセル

[属性の設定] 画面の各項目について説明します。

(1) 【アンカーの文字列】 テキストボックス

アンカー表示させる文字列を入力します。デフォルトでは「Hyperlink」と表示されます。アンカーの文字列は必ず入力してください。次の場合はエラーになります。

- 1,024 バイトを超える文字列を入力した場合（全角の場合は 340 文字以内で入力してください）
- 空白文字列を入力した場合
- ASCII コードの 0x00~0x1F と 0x7F を含む文字列を入力した場合

(2) 表示画面のラジオボタン

どちらの JP1/IM-SS の画面を表示するのかを次の中から選択して指定します。

- 案件プレビュー画面
- 案件編集画面

JP1/IM-SS の画面については、マニュアル「JP1/Integrated Management - Service Support 操作ガイド」またはマニュアル「JP1/Service Support 操作ガイド」を参照してください。

5.11 JavaScript プラグインパーツ

JavaScript プラグインパーツの使い方や画面について説明します。

5.11.1 JavaScript プラグインパーツとは

JavaScript プラグインパーツとは、サーバサイド JavaScript を記述してサーバ側で実行する、またはクライアントサイド JavaScript を記述して Web ブラウザ（クライアント側）で実行する入出力プラグインです。JavaScript プラグインパーツには、JavaScript 内の変数の値として使用できる入力パラメタと出力パラメタを定義できます。同じガイド領域に配置したガイドパーツと、JavaScript の入出力データの受け渡しをすることもできます。

JavaScript プラグインパーツを実行すると、次の処理を行います。

1. JavaScript プラグインパーツの「属性の設定」画面で設定した情報を取得
2. 入力パラメタに格納されているキャッシュ値を JavaScript 内の変数に設定
3. JavaScript を実行
4. JavaScript 内の変数に設定された値を出力パラメタにキャッシュ値として格納

5.11.2 JavaScript プラグインパーツの使い方

JavaScript を実行するノードに JavaScript プラグインパーツを配置します。

JavaScript プラグインパーツには、JavaScript 内の変数と値の受け渡しができる入力パラメタおよび出力パラメタを定義できます。JavaScript プラグインパーツとガイドパーツを関連づけると、ガイドパーツで入力した値を JavaScript プラグインパーツの入力パラメタとして使用したり、JavaScript プラグインパーツの出力パラメタに出力された値をガイドパーツに出力したりすることができます。

入力パラメタを使用する場合は、「属性の設定」画面での設定に加えて、テキストボックスなどのガイドパーツを入力パラメタにつないでおきます。これによって、利用者が入力した値に従って JavaScript が実行されるようになります。また、出力パラメタに出力された値をガイドパーツに出力する値として使用する場合は、「属性の設定」画面での設定に加えて、出力パラメタをガイドパーツにつないでおきます。

JavaScript プラグインパーツに記述した JavaScript は次のタイミングで実行されます。

- 出力パラメタから結線したガイドパーツがない場合
JavaScript プラグインパーツを配置したノードから次のノードに遷移するときに JavaScript を実行します。
- 出力パラメタから結線したガイドパーツがある場合

ガイドパーツから結線した入力パラメタがないときは、JavaScript プラグインパーツを配置したノードに遷移するときに JavaScript を実行します。

ガイドパーツから結線した入力パラメタがあるときは、JavaScript プラグインパーツを配置したノードに遷移するときに JavaScript を実行し、次のノードに遷移するときに JavaScript の出力処理を行います。

また、JavaScript プラグインパーツでは、ナビゲーション プラットフォームが提供する API (JavaScript API) を使用して、指定した URL を呼び出すことができます。詳細については、「[5.12 JavaScript プラグインパーツで利用できる API](#)」を参照してください。

5.11.3 JavaScript プラグインパーツの使用例

JavaScript プラグインを使用する場合にどのような設定を行うのかを、使用例で説明します。

(1) ガイドパーツと REST サーバとの連携

業務コンテンツでガイドパーツと REST サーバを連携する場合の、JavaScript プラグインの使用例について説明します。

■処理の概要

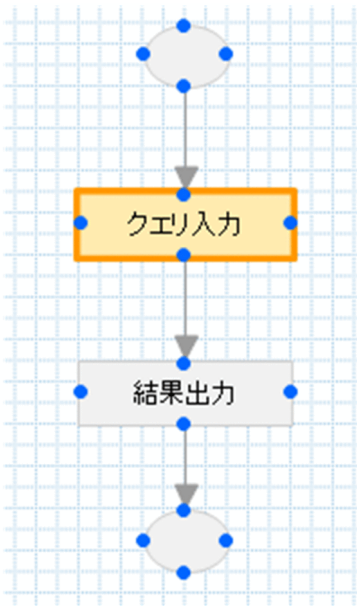
- テキストボックスパーツの入力値を基に REST サーバを呼び出す。
- REST サーバから返却された結果を、次のガイドパーツに出力する。

■REST サーバの前提

- 呼び出し先 URL : `http://testserver/status`
- 呼び出しパラメタ : `parameter1`
- 返却する結果 : `[{"status":0}, {"status":1}]` というステータスの配列

■業務フロー

図 5-12 ガイドパーツと REST サーバの連携



■設定手順

- 1. クエリ入力のプロセスノードにテキストボックスパーツを配置する。
- 2. JavaScript プラグインパーツを配置する。
- 3. JavaScript プラグインパーツに入力パラメタを追加して、次の内容を設定する。

図 5-13 JavaScript プラグインパーツの設定内容（クエリ入力）

属性の設定

項目種別:
プラグイン名:
URL:
JavaScript:

JavaScriptプラグイン
RestCheck
http://testserver/status

```
var client = ucnp.JavascriptPluginManager.getRestClient();
client.addParameter("parameter1", input0);
var serverResult = client.execute();
```

パーツからの入力

パラメタ名	デフォルト値	パラメタ名のツールチップ(パラメタの説明)	追加
input0			削除

パーツへの出力

パラメタ名	-	パラメタ名のツールチップ(パラメタの説明)	追加
-------	---	-----------------------	----

更新 キャンセル

JavaScript プラグインパーツの設定内容を次に示します。

- プラグイン名

RestCheck

- URL

http://testserver/status

- JavaScript

```
var client = ucnpJavaScriptPluginManager.getRestClient();
client.addParameter("parameter1", input0);
var serverResult = client.execute();
```

- パラメタ名（パーツからの入力）

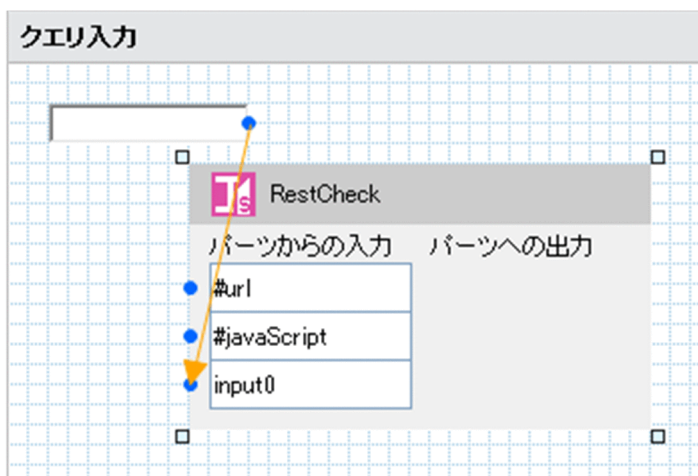
input0

JavaScript に記述した処理内容を次に示します。

- テキストボックスパーツの入力値を，変数input0（入力パラメタ）から変数parameter1（呼び出しパラメタ）に設定する。
- 返却する結果を，変数serverResult に格納する。

4. テキストボックスパーツから入力パラメタにマッピング線を引く。

図 5-14 クエリ入力のマッピング



5. 結果出力のプロセスノードにラベルパーツを配置する。

6. 手順 2 と同じ名前の JavaScript プラグインパーツを配置する。

7. JavaScript プラグインパーツに出力パラメタを追加して，次の内容を設定する。

図 5-15 JavaScript プラグインパーツの設定内容（結果出力）

属性の設定

項目種別: JavaScriptプラグイン

プラグイン名: RestCheck

URL:

JavaScript: var result = "Result:" + serverResult[0].status;

パーツからの入力

パラメタ名	デフォルト値	パラメタ名のツールチップ(パラメタの説明)	追加

パーツへの出力

パラメタ名	デフォルト値	パラメタ名のツールチップ(パラメタの説明)	追加
result	-		削除

更新 キャンセル

JavaScript プラグインパーツの設定内容を次に示します。

- プラグイン名

RestCheck

- JavaScript

```
var result = "Result:" + serverResult[0].status;
```

- パラメタ名（パーツへの出力）

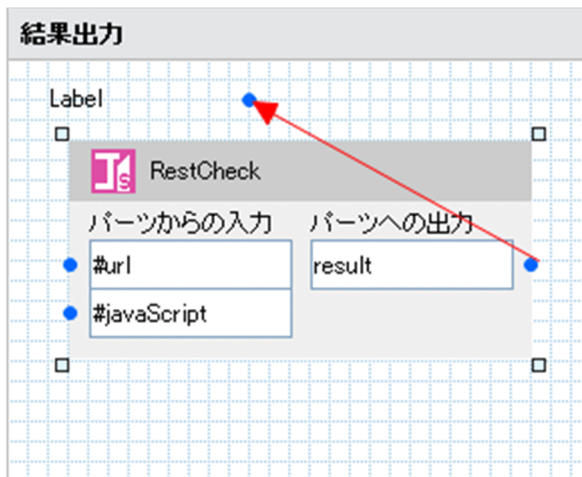
result

JavaScript に記述した処理内容を次に示します。

- クエリ入力に配置した同じ名前の JavaScript プラグインパーツが変数 `serverResult` に格納した結果のステータス配列から、先頭の `status` の値を取得し、「Result:」というリード文と連結して、変数 `result` に設定する。

8. 出力パラメタからラベルパーツにマッピング線を引く。

図 5-16 結果出力のマッピング



■実行結果

この業務コンテンツを実行すると、REST サーバから返却された結果のステータス配列[{"status":0}, {"status":1}]から先頭のstatus の値を取得し、結果出力のラベルに「Result:0」が出力される。

(2) ガイドパーツの入力値のチェック

業務コンテンツでガイドパーツの入力値をチェックする場合の、JavaScript プラグインの使用例について説明します。

■処理の概要

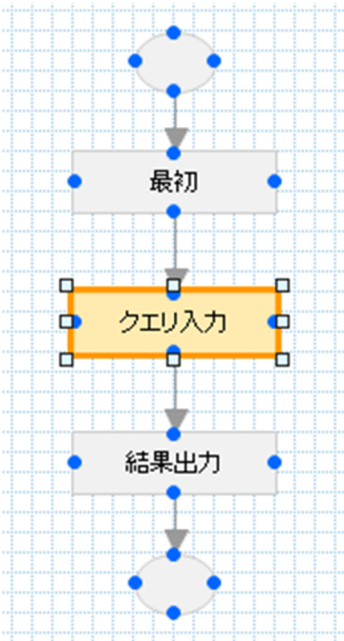
- REST サーバから初期値を取得してガイドパーツに表示する。
- 値を入力して次へボタンをクリックすると入力値をチェックし、チェック条件を満たさない場合はエラーメッセージを出力する。

■REST サーバの前提

- 呼び出し先 URL : `http://testserver:1880/restapi`
- 返却する結果 : `{"initvalues":{"text0":"50","text1":"30"}}` という初期値の配列 (JSON 形式)

■業務フロー

図 5-17 ガイドパーツの入力値のチェック



■設定手順

1. クエリ入力のプロセスノードにテキストボックスパーツを配置する。
2. JavaScript プラグインパーツを配置する。
3. JavaScript プラグインパーツに入力パラメタおよび出力パラメタを追加して、次の内容を設定する。

図 5-18 JavaScript プラグインパーツの設定内容（クエリ入力）

属性の設定

項目種別:
プラグイン名:
URL:
JavaScript:

JavaScriptプラグイン

RestCheck

http://testserver:1880/restapi

```
if (ucnp.JavaScriptPluginManager.isInput()) {  
    // 入力で次へボタンの押下によるリデーション実施  
    var param = ucnp.JavaScriptPluginManager.getParam();  
    var type = param.get("ucnp.button.type");  
    if (type == "show_next_page") {  
        var retMap = ucnp.JavaScriptPluginManager.getReturnMap();  
        if (100 < input0) {  
            var errorParts = new java.util.ArrayList();  
            errorParts.add("input0");  
            retMap.put("ucnp.error.params.list", errorParts);  
            retMap.put("ucnp.error.message", "エラー!");  
        }  
    }  
} else {  
    // 初期値取得  
    var client = ucnp.JavaScriptPluginManager.getRestClient();  
    var serverResult = client.execute();  
    var initval = serverResult.initvalues.text0;  
}
```

パーツからの入力

パラメタ名	デフォルト値	パラメタ名のツールチップ(パラメタの説明)	追加
input0			削除

パーツへの出力

パラメタ名	-	パラメタ名のツールチップ(パラメタの説明)	追加
initval			削除

JavaScript プラグインパーツの設定内容を次に示します。

- プラグイン名

RestCheck

- URL

http://testserver:1880/restapi

- JavaScript

```
if (ucnpJavaScriptPluginManager.isInput()) {
    // 入力で次へボタンの時にはバリデーション実施
    var param = ucnpJavaScriptPluginManager.getParam();
    var type = param.get("ucnp.button.type");
    if (type == "show_next_page") {
        var retMap = ucnpJavaScriptPluginManager.getReturnMap();
        if (100 < input0) {
            var errorParts = new java.util.ArrayList();
            errorParts.add("input0");
            retMap.put("ucnp.error.params.list", errorParts);
            retMap.put("ucnp.error.message", "エラー!");
        }
    }
} else {
    // 初期値取得
    var client = ucnpJavaScriptPluginManager.getRestClient();
    var serverResult = client.execute();
    var initval = serverResult.initvalues.text0;
}
```

- パラメタ名 (パーツからの入力)

input0

- パラメタ名 (パーツへの出力)

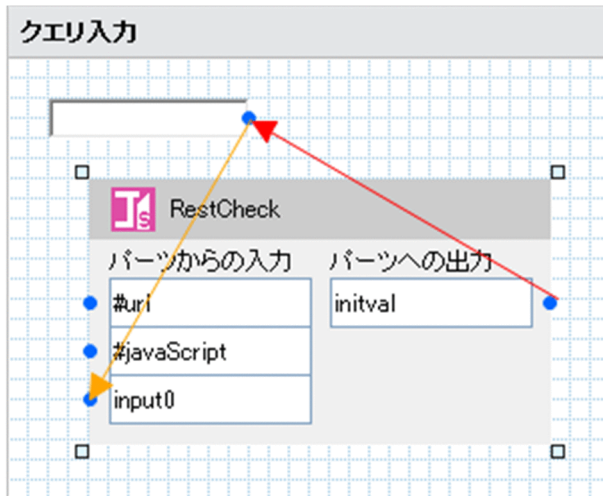
initval

JavaScript に記述した処理内容を次に示します。

- `isInput` メソッドの戻り値が `false` の場合は、テキストボックスパーツに初期値を表示するため、REST サーバから `initvalues.text0` の値 (初期値) を取得して、出力パラメタに対応する変数 `initval` に設定する。
- 戻るボタンまたは次へボタンをクリックした場合は、`isInput` メソッドの戻り値が `true` となる。`getParam` メソッドから `ucnp.button.type` の値を取得してボタンの種別を判定し、`show_next_page` (次へボタン) の場合はバリデーション (入力値のチェック) を行う。
- エラーメッセージを設定するための `Map` オブジェクトを `getReturnMap` メソッドから取得して、変数 `retMap` に設定する。
- テキストボックスパーツの入力値を変数 `input0` (入力パラメタ) から取得し、`100` より大きい場合は、強調表示するパラメタのリストを `ucnp.error.params.list` に設定し、「エラー!」という文字列を `ucnp.error.message` に設定する。

4. テキストボックスパーツから入力パラメタ、出力パラメタからテキストボックスパーツに、それぞれマッピング線を引く。

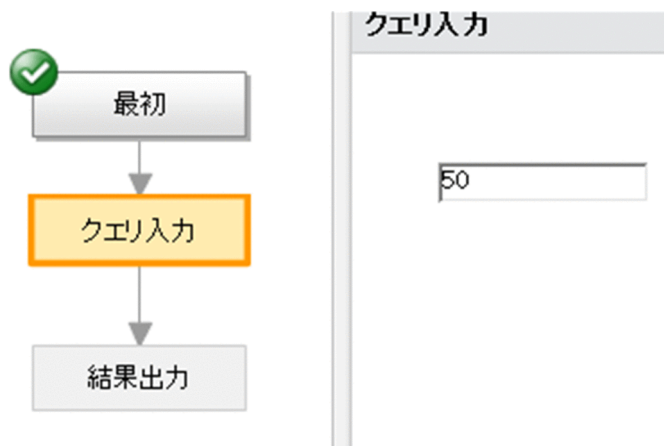
図 5-19 クエリ入力のマッピング



■実行結果

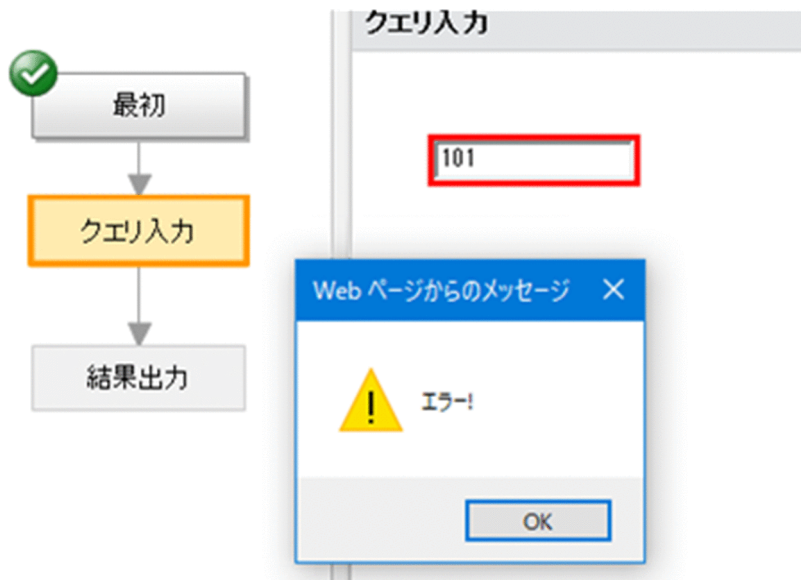
- この業務コンテンツを実行すると、REST サーバから返却された結果{"initvalues":{"text0":"50","text1":"30"}}から先頭の値（初期値）を取得し、初期値「50」が入力された状態でテキストボックスが表示される。

図 5-20 初期値の表示



- テキストボックスに「101」を入力して次へボタンをクリックすると、エラーメッセージが表示され、テキストボックスが強調表示される。また、次のノードへの遷移が抑止される。

図 5-21 エラーメッセージの表示



- 戻るボタンをクリックした場合はエラーメッセージは表示されず、テキストボックスに100以下の値を入力して次へボタンをクリックすると、エラーにならずに次のノードに遷移する。

5.11.4 JavaScript プラグインパーツを使用するときの注意事項

- JavaScript プラグインパーツの入力値のチェックでエラーが発生した場合、プラグインの処理は実行しません。また、エラーは強調表示されます。
- 1つのガイド領域に複数の JavaScript プラグインパーツを配置できます。ただし、同じプラグイン名の JavaScript プラグインパーツは1つしか配置できません。
- 同じプラグイン名の JavaScript プラグインは、変数などの実行コンテキストを共有します。そのため、異なるガイド領域に同じプラグイン名の JavaScript プラグインを配置した場合、一方のプラグインで定義した変数は、もう一方のプラグインでも参照できます。
- クライアントサイド JavaScript の場合、実行コンテキストに値を保持する変数を定義するときは、次の記述例に示すように、this のメンバーとして変数を定義する必要があります。

- JavaScript の記述例

実行コンテキストに保持する変数が「localVar0」、変数の値が文字列「val0」の場合、次のように定義します。

```
this.localVar0 = val0;
```

ただし、入力パラメタまたは出力パラメタとして設定した変数の場合は、この定義をしていなくても実行コンテキストに値が保持されます。

5.11.5 【属性の設定】画面（JavaScript プラグインパーツ）の項目

図 5-22 【属性の設定】画面（JavaScript プラグインパーツから表示させた場合）

属性の設定

項目種別: JavaScriptプラグイン

プラグイン名: JavaScriptPlugin

URL:

JavaScript:

☐ ブラウザで実行

パーツからの入力

パラメタ名	デフォルト値	パラメタ名のツールチップ(パラメタの説明)	追加
-------	--------	-----------------------	----

パーツへの出力

パラメタ名	-	パラメタ名のツールチップ(パラメタの説明)	追加
-------	---	-----------------------	----

更新 キャンセル

図 5-23 【属性の設定】画面の下部（入力パラメタと出力パラメタを追加した場合）

パーツからの入力

パラメタ名	デフォルト値	パラメタ名のツールチップ(パラメタの説明)	追加
InputParameter1			削除
InputParameter2			削除
InputParameter3 x			削除

パーツへの出力

パラメタ名	-	パラメタ名のツールチップ(パラメタの説明)	追加
OutputParameter1			削除

更新 キャンセル

【属性の設定】画面の各項目について説明します。

(1) 【プラグイン名】テキストボックス

プラグイン名を 20 文字以内で入力します。デフォルトでは「JavaScriptPlugin」と表示されます。プラグイン名は必ず入力してください。次の場合はエラーになります。

- ・ 制御文字（ASCII コード上の 0x00～0x1F と 0x7F～0x9F）を含む文字列を入力した場合
- ・ 同一ガイド領域内に重複するプラグイン名が存在する場合
- ・ 空文字を指定した場合

(2) [URL] テキストボックス

HTTP リクエストの呼び出し先 URL を 8,190 文字以内で入力します。次の場合はエラーになります。

- 制御文字（ASCII コード上の 0x00～0x1F と 0x7F～0x9F）を含む文字列を入力した場合

(3) [JavaScript] テキストエリア

サーバ側で実行する JavaScript を入力します。次の場合はエラーになります。

- 65,535 文字を超える文字列を入力した場合
- ASCII コードの 0x00～0x09, 0x0B, 0x0C, 0x0E～0x1F, および 0x7F を含む文字列を入力した場合

❗ 重要

ucnp で始まる変数は、ナビゲーション プラットフォームが使用するシステム変数です。
JavaScript で ucnp で始まる変数は使用しないでください。

(4) [ブラウザで実行] チェックボックス

JavaScript を Web ブラウザ（クライアント側）で実行するかどうかを指定します。

[JavaScript] テキストエリアにクライアントサイド JavaScript を記述する場合は、このチェックボックスをチェックすると、JavaScript を Web ブラウザ（クライアント側）で実行します。

[JavaScript] テキストエリアにサーバサイド JavaScript を記述する場合は、このチェックを外すと、JavaScript をサーバ側で実行します。

デフォルトではチェックされていません。

(5) [パーツからの入力] のパラメタの設定領域

JavaScript プラグインパーツの入力パラメタを指定できます。

• [パラメタ名] テキストボックス

パラメタ名を 1,024 文字以内で入力します。パラメタ名は必ず入力してください。次の場合はエラーになります。

- 制御文字（ASCII コード上の 0x00～0x1F と 0x7F～0x9F）が含まれる場合
- 同一ガイド領域内に重複するパラメタ名が存在する場合
- 空文字を指定した場合

• [デフォルト値] テキストボックス

パラメタのデフォルト値を 1,024 文字以内で入力します。デフォルト値は、次の場合に有効となります。

- パラメタがガイドパーツと結線されていない場合
- ガイドパーツから渡されたキャッシュ値が空文字の場合

次の場合はエラーになります。

- 制御文字（ASCII コード上の 0x00～0x1F と 0x7F～0x9F）が含まれる場合
- **【パラメタ名のツールチップ（パラメタの説明）】 テキストボックス**
パラメタの説明を 64 文字以内で入力します。制御文字も入力できます。次の場合はエラーになります。
 - 64 文字を超える文字列を入力した場合
 - ASCII コードの 0x00～0x09, 0x0B, 0x0C, 0x0E～0x1F, および 0x7F を含む文字列を入力した場合
- **【追加】 ボタン**
パラメタを追加します。パラメタは一番下の行に追加されます。最大パラメタ数は 50 個です。
- **【削除】 ボタン**
【削除】 ボタンのある行のパラメタを削除します。

(6) 【パーツへの出力】 のパラメタの設定領域

JavaScript プラグインパーツの出力パラメタを指定できます。

- **【パラメタ名】 テキストボックス**
パラメタ名を 1,024 文字以内で入力します。パラメタ名は必ず入力してください。次の場合はエラーになります。
 - 制御文字（ASCII コード上の 0x00～0x1F と 0x7F～0x9F）が含まれる場合
 - 同一ガイド領域内に重複するプラグイン名が存在する場合
 - 空文字を指定した場合
- **【パラメタ名のツールチップ（パラメタの説明）】 テキストボックス**
パラメタの説明を 64 文字以内で入力します。制御文字も入力できます。次の場合はエラーになります。
 - 64 文字を超える文字列を入力した場合
 - ASCII コードの 0x00～0x09, 0x0B, 0x0C, 0x0E～0x1F, および 0x7F を含む文字列を入力した場合
- **【追加】 ボタン**
パラメタを追加します。パラメタは一番下の行に追加されます。最大パラメタ数は 50 個です。
- **【削除】 ボタン**
【削除】 ボタンのある行のパラメタを削除します。

(7) 入力パラメタ

入力パラメタのキャッシュ値は、JavaScript 内の変数に設定され、JavaScript 内のスクリプトが呼び出すときに参照されます。また、入力パラメタのデフォルト値は、JavaScript の実行前に設定されます。

- JavaScript の記述例

入力パラメタのパラメタ名が「inputparameter1」、パラメタ値が文字列「inputvalue1」の場合、「var inputVal = inputparameter1;」というスクリプトを実行すると、変数「inputVal」に文字列「inputvalue1」が設定されます。

また、JavaScript 内のスクリプトを呼び出す前に入力パラメタのチェックが実行されます。次の場合はエラーになります。

- HTTP リクエストの呼び出し先 URL が 8,190 文字を超えている場合
- HTTP リクエストの呼び出し先 URL に制御文字（ASCII コード上の 0x00～0x1F と 0x7F～0x9F）が含まれる場合
- JavaScript が 65,535 文字を超えている場合
- JavaScript に ASCII コードの 0x00～0x08, 0x0B, 0x0C, 0x0E～0x1F, および 0x7F～0x9F が含まれる場合
- パラメタの値に ASCII コードの 0x00～0x08, 0x0B, 0x0C, 0x0E～0x1F, および 0x7F～0x9F が含まれる場合

(8) 出力パラメタ

JavaScript 内で変数に設定された値は、出力パラメタのキャッシュ値として格納されます。

- JavaScript の記述例

出力パラメタのパラメタ名が「resultparameter1」の場合、「var resultparameter1 = "resultvalue1";」というスクリプトを実行すると、出力パラメタ「resultparameter1」に文字列「resultvalue1」が設定されます。

5.12 JavaScript プラグインパーツで利用できる API

JavaScript プラグインパーツで利用できる API (JavaScript API) を次に示します。

表 5-4 JavaScript プラグインパーツで利用できる API 一覧

分類	クラス名	説明
プラグインマネージャ	JavaScriptPluginManager	JavaScript からナビゲーション プラットフォーム独自の処理を行うためのオブジェクトを提供するクラスです。
REST 呼び出し	RestClient	JavaScript から URL を呼び出すためのクラスです。

API を使用する場合は、JavaScript 内から予約変数 `ucnpJavaScriptPluginManager` で `JavaScriptPluginManager` オブジェクトを取得します。また、REST 呼び出しを行う場合は、予約変数 `ucnpJavaScriptPluginManager` の `getRestClient` メソッドで `RestClient` オブジェクトを取得します。

- 記述例

```
var client = ucnpJavaScriptPluginManager.getRestClient();
```

`RestClient` オブジェクトのメソッド (`execute` メソッドを除く) は、呼び出し元の `RestClient` オブジェクトを返すため、メソッドチェーンで呼び出すことができます。

- 記述例

```
var result = client
.addHeader("Accept-Encoding", "deflate")
.setAuthentication("user1", "pass1")
.setMethod(client.METHOD_POST)
.setPostContentType("text/json")
.setPostContent("{ ¥"operation¥": ¥"start¥" }")
.setReturnType(client.RETURN_TYPE_JSON)
.execute();
```

`RestClient` オブジェクトのメソッドの引数に指定する定数は、`RestClient` インスタンスから取得できます。

- 記述例

```
var client = ucnpJavaScriptPluginManager.getRestClient();
var result = client
.setMethod(client.METHOD_POST)
.setReturnType(client.RETURN_TYPE_STRING)
.execute();
```

注意事項

[ブラウザで実行] チェックボックスをチェックし、次の API を Web ブラウザ (クライアント側) で実行する Java で使用する場合は、各 API で取得する Map と List の格納形式が、サーバ側で実行する Java で使用する場合と変わります。

- `getCurrentParamsTypeMap`

- getReturnMap

Map は同等のキーと値を格納した連想配列、List は値を羅列した配列の形式となります。Map と List を扱う API は、次の記述例に示すように、[ブラウザで実行] チェックボックスのチェックの有無に応じて使用方法が異なる点に注意してください。

■記述例 1：入力パラメタ param0 の型を取得する場合

- [ブラウザで実行] チェックボックスがチェックなしのとき

```
var map = getCurrentParamsTypeMap();
var param0Type = map.get("param0");
```

- [ブラウザで実行] チェックボックスがチェックありのとき

```
var map = getCurrentParamsTypeMap();
var param0Type = map["param0"];
```

■記述例 2：入力パラメタ param0 が入力なしのときにエラーを表示して強調表示する場合

- [ブラウザで実行] チェックボックスがチェックなしのとき

```
var retMap = ucnJavaScriptPluginManager.getReturnMap();
if (pram0 === "") {
    var errorParts = new java.util.ArrayList();
    errorParts.add("param0");
    retMap.put("ucnp.error.params.list", errorParts);
    retMap.put("ucnp.error.message", "エラー!");
}
```

- [ブラウザで実行] チェックボックスがチェックありのとき

```
var retMap = ucnJavaScriptPluginManager.getReturnMap();
if (pram0 === "") {
    var errorParts = [];
    errorParts.push("param0");
    retMap["ucnp.error.params.list"] = errorParts;
    retMap["ucnp.error.message"] = "エラー!";
}
```

5.12.1 JavaScriptPluginManager (JavaScript プラグインマネージャクラス)

JavaScript からナビゲーション プラットフォーム独自の処理を行うためのオブジェクトを提供するクラスです。JavaScript 内からは予約変数 ucnJavaScriptPluginManager で取得できます。

JavaScriptPluginManager のメソッドを次に示します。JavaScriptPluginManager の一部のメソッドは、Web ブラウザ（クライアント側）で実行する JavaScript でも使用できます。

表 5-5 JavaScriptPluginManager のメソッド一覧

メソッド名	説明	Web ブラウザ（クライアント側）で実行する JavaScript での使用可否
<code>getCurrentParamsTypeMap</code>	入力パラメタに結線されているガイドパーツの入力パラメタ名と型名を格納した Map オブジェクトを取得します。	○
<code>getParam</code>	JavaScript プラグインの第 2 引数に渡される Map オブジェクトを取得します。	○
<code>getParamValue</code>	指定したパラメタのキャッシュ値を取得します。 結線しているガイドパーツが、ラジオボタン、チェックボックス、またはハイパーリンクの場合は、キャッシュ値を取得する際、ラベル部分を含めた値全体を取得するか、ラベル部分を除外した値を取得するかを指定できます。	○
<code>getReturnMap</code>	JavaScript プラグインの戻り値に使用する Map オブジェクトを取得します。	○
<code>getRestClient</code>	RestClient オブジェクトを取得します。	×
<code>getSession</code>	JavaScript プラグインの第 1 引数に渡される HttpSession オブジェクトを取得します。	×
<code>isInput</code>	入力パラメタの入力メソッド（inputFromNode メソッドと同様のメソッド）からの呼び出しかどうかを判定します。	○

（凡例）

- ：使用できます。
- ×

(1) `getCurrentParamsTypeMap` メソッド

入力パラメタに結線されているガイドパーツの入力パラメタ名と型名を格納した Map オブジェクトを取得します。

(a) 形式

```
public Map<String, String> getCurrentParamsTypeMap();
```

(b) 引数

なし

(c) 戻り値

入力パラメタ名がキー、型名が値に格納された Map オブジェクトが返されます。

なお、入力パラメタのうち、ガイドパーツから結線されていないパラメタのキーの情報は Map オブジェクトに格納されません。

ガイドパーツの型名を次の表に示します。

表 5-6 各ガイドパーツの型名

項番	ガイドパーツの種類	ガイドパーツの型名
1	固定テキスト	Label
2	画像	Image
3	テキストボックス	TextBox
4	テキストエリア	TextArea
5	ラジオボタン	RadioButton
6	チェックボックス	CheckBox
7	ドロップダウン	DropDown
8	ハイパーリンク	HyperLink
9	インラインフレーム	Iframe

(2) getParam メソッド

JavaScript プラグインの第 2 引数に渡される Map オブジェクトを取得します。

(a) 形式

```
public Map<String, Object> getParam();
```

(b) 引数

なし

(c) 戻り値

JavaScript プラグインの第 1 引数に渡される Map オブジェクトが返されます。

このオブジェクトには、入力パラメタに値が入力されたときは、inputFromNode メソッドの第 2 引数 (param) と同様の情報が格納されます。また、出力パラメタに値が出力されたときは、outputToNode メソッドと同様の情報が格納されます。inputFromNode メソッドおよび outputToNode メソッドの詳細については、マニュアル「ナビゲーション プラットフォーム 開発ガイド」を参照してください。

ただし、このオブジェクトから ucnp.current.params.map キーの値は取得できません。

(d) 例外

なし

(3) getParamValue メソッド

指定したパラメタのキャッシュ値を取得します。

結線しているガイドパーツが、ラジオボタン、チェックボックス、またはハイパーリンクの場合は、キャッシュ値を取得する際、ラベル部分を含めた値全体を取得するか、ラベル部分を除外した値を取得するかを指定できます。

(a) 形式

形式 1

```
public String getParamValue(String paramName);
```

形式 2

```
public String getParamValue(String paramName, boolean withLabel);
```

(b) 引数

- paramName
キャッシュ値を取得するパラメタ名を指定します。
- withLabel
パラメタのキャッシュ値を取得する際、ラベルを含めた値全体を取得するかどうかを指定します。なお、このメソッドを形式 1 で使用する場合は「false」が仮定されます。
 - true
ラベルを含めた値全体がそのまま返されます。
 - false
結線しているガイドパーツの種類に応じて、次の表に示す値が返されます。

表 5-7 ガイドパーツの種類と取得する値

項番	ガイドパーツの種類	取得する値
1	固定テキスト	キャッシュ値
2	画像	キャッシュ値
3	テキストボックス	キャッシュ値
4	テキストエリア	キャッシュ値
5	ラジオボタン	キャッシュ値のラベル部分（先頭から改行コード（ <code>¥r¥n</code> ）まで）を除外した値

項番	ガイドパーツの種類	取得する値
6	チェックボックス	キャッシュ値のラベル部分（先頭から改行コード（ <code>¥r¥n</code> ）まで）を除外した値
7	ドロップダウン	キャッシュ値
8	ハイパーリンク	キャッシュ値のラベル部分（先頭から改行コード（ <code>¥r¥n</code> ）まで）を除外した値
9	インラインフレーム	キャッシュ値

(c) 戻り値

指定したパラメタのキャッシュ値が返されます。

(d) 例外

なし

(4) getReturnMap メソッド

JavaScript プラグインの戻り値に使用する Map オブジェクトを取得します。

(a) 形式

```
Map<String, Object> getReturnMap();
```

(b) 引数

なし

(c) 戻り値

JavaScript プラグインの戻り値に使用する Map オブジェクトが返されます。

このオブジェクトには、入力パラメタに値が入力されたときは、inputFromNode メソッドの第 2 引数（param）と同様の情報が格納されます。また、出力パラメタに値が出力されたときは、outputToNode メソッドと同様の情報が格納されます。inputFromNode メソッドおよび outputToNode メソッドの詳細については、マニュアル「ナビゲーション プラットフォーム 開発ガイド」を参照してください。

(d) 例外

なし

(5) getRestClient メソッド

RestClient オブジェクトを取得します。

(a) 形式

```
public RestClient getRestClient();
```

(b) 引数

なし

(c) 戻り値

RestClient オブジェクトが返されます。

(d) 例外

なし

(6) getSession メソッド

JavaScript プラグインの第 1 引数に渡される HttpSession オブジェクトを取得します。

(a) 形式

```
public HttpSession getSession();
```

(b) 引数

なし

(c) 戻り値

JavaScript プラグインの第 1 引数に渡される HttpSession オブジェクトが返されます。

このオブジェクトには、inputFromNode メソッドおよび outputToNode メソッドの第 1 引数 (session) と同様の情報が格納されます。inputFromNode メソッドおよび outputToNode メソッドの詳細については、マニュアル「ナビゲーション プラットフォーム 開発ガイド」を参照してください。

(d) 例外

なし

(7) isInput メソッド

入力パラメタの入力メソッド (inputFromNode メソッドと同様のメソッド) からの呼び出しかどうかを判定します。

(a) 形式

```
boolean isInput();
```

(b) 引数

なし

(c) 戻り値

- true
入力パラメタからの入力メソッド（inputFromNode メソッドと同様のメソッド）での呼び出しの場合（JavaScript プラグインが，JavaScript プラグインを配置したノードから次のノードに遷移したときに実行された場合）
- false
入力パラメタからの入力メソッド（inputFromNode メソッドと同様のメソッド）での呼び出しでない場合（JavaScript プラグインが，JavaScript プラグインを配置したノードに遷移したときに実行された場合）

(d) 例外

なし

5.12.2 RestClient (REST 呼び出しクラス)

RestClient のメソッドを次に示します。なお，RestClient のメソッドは，Web ブラウザ（クライアント側）で実行する JavaScript では使用できません。

表 5-8 RestClient のメソッド一覧

メソッド名	説明
addHeader	URL 呼び出しを実行するときの HTTP ヘッダを追加します。
addParameter	URL 呼び出しを実行するときのパラメタを追加します。
execute	URL 呼び出しを実行します。
setAuthentication	Basic 認証の認証情報を設定します。
setMethod	URL 呼び出しを実行するときのメソッドを設定します。
setPostContent	POST メソッドで URL 呼び出しを実行するときに送信するコンテンツを設定します。
setPostContentType	POST メソッドで URL 呼び出しを実行するときに送信するコンテンツの型を設定します。
setProxy	URL 呼び出しを実行するときに使用するプロキシを設定します。
setReturnType	URL 呼び出しを実行したときのサーバからの戻り電文の型を設定します。

メソッド名	説明
<code>setUrl</code>	URL 呼び出しを実行するときに使用する呼び出し先 URL を設定します。

(1) addHeader メソッド

URL 呼び出しを実行するときの HTTP ヘッダを追加します。追加した HTTP ヘッダは、execute メソッドの実行の際に設定されます。同じ名前のヘッダを追加した場合は上書きされます。

(a) 形式

```
RestClient addHeader(String name, String value);
```

(b) 引数

- name
URL 呼び出しを実行するときに追加する HTTP ヘッダの名称を指定します。
- value
URL 呼び出しを実行するときに追加する HTTP ヘッダの値を指定します。

(c) 戻り値

呼び出し元の RestClient オブジェクトが返されます。

(d) 例外

なし

(2) addParameter メソッド

URL 呼び出しを実行するときのパラメタを追加します。追加したパラメタは、execute メソッドの実行の際に設定されます。同じ名前のパラメタを追加した場合は上書きされます。

(a) 形式

```
RestClient addParameter(String name, String value);
```

(b) 引数

- name
URL 呼び出しを実行するときに追加するパラメタの名称を指定します。
- value
URL 呼び出しを実行するときに追加するパラメタの値を指定します。

(c) 戻り値

呼び出し元の *RestClient* オブジェクトが返されます。

(d) 例外

なし

(3) execute メソッド

URL 呼び出しを実行します。

URL 呼び出しを実行したときの処理内容を次に示します。

- `addHeader` メソッドまたは `setAuthentication` メソッドで HTTP ヘッダが指定されている場合は、HTTP ヘッダに設定します。
- `setMethod` メソッドで指定されたメソッドが *RestClient* インスタンス `.METHOD_POST` の場合は、次の処理を行います。
 - `setPostContent` メソッドでコンテンツが指定されているとき
送信するコンテンツとして設定し、コンテンツの型には `setPostContentType` メソッドで指定されている値を設定します。
 - `setPostContent` メソッドでコンテンツが指定されていないとき
`addParameter` メソッドで指定されているパラメタをコンテンツとして設定します。
- `setMethod` メソッドで指定されたメソッドが *RestClient* インスタンス `.METHOD_GET` の場合は、`addParameter` メソッドで指定されているパラメタをコンテンツとして設定します。
- `setUrl` メソッドで指定されている呼び出し先 URL を、`setMethod` メソッドで指定されているメソッドで実行して、戻り電文を取得します。
- `setReturnType` メソッドで指定されている戻り電文の型が *RestClient* インスタンス `.RETURNTYPE_JSON` の場合は、戻り電文を JavaScript の書式としてパースし、JSON Object 型として結果を返します。
- `setReturnType` メソッドで指定されている戻り電文の型が *RestClient* インスタンス `.RETURNTYPE_XML` の場合は、戻り電文を XML の書式としてパースし、`org.w3c.dom.Document` 型として結果を返します。

(a) 形式

```
Object execute() throws UCNPUUserException;
```

(b) 引数

なし

(c) 戻り値

setReturnType メソッドで設定された戻り電文の型に応じて、次の値が返されます。

- *RestClient* インスタンス.RETURNTYPE_STRING：戻り電文そのままの文字列
- *RestClient* インスタンス.RETURNTYPE_JSON：戻り電文を格納した Object 型
- *RestClient* インスタンス.RETURNTYPE_XML：戻り電文を格納した org.w3c.dom.Document 型

(d) 例外

このメソッドでエラーが発生した場合、UCNPUserException 例外がスローされます。

javax.ws.rs.WebApplicationException 例外がスローされて入れ子になっている場合は、URL 呼び出し時のエラーの詳細を確認できます。javax.ws.rs.WebApplicationException 例外の対処については呼び出し元の API を確認してください。

例外処理の記述例を次に示します。

■REST サーバの前提

呼び出し先の REST サーバからは{"initvalues":{"text1":"30"}}という JSON 形式の文字列が返却される。

■例外処理の概要

- 呼び出しが成功した場合は、initvalues.text1 の値である「30」を変数result に格納する。
- 呼び出しで「404 Not Found」のエラーが発生した場合は、変数errmsg に「Not found」という文字列を格納する。

■記述例

```
var result;
var errmsg = "";
try {
    var client = ucnpJavaScriptPluginManager.getRestClient();
    var json = client.execute();
    result = json.initvalues.text1;
} catch (ex) {
    errmsg = ex;
    if (ex instanceof Java.type("jp.co.hitachi.soft.ucnp.base.common.UCNPUserException")) {
        var ex2 = ex.getCause();
        if (ex2 instanceof Java.type("javax.ws.rs.WebApplicationException")) {
            if (ex2.getResponse().getStatus() == 404) {
                errmsg = "Not found";
            }
        }
    }
}
```

(4) setAuthentication メソッド

Basic 認証の認証情報を設定します。

Authorization HTTP ヘッダを指定されたユーザ名とパスワードで設定します。

(a) 形式

```
RestClient setAuthentication(String user, String password);
```

(b) 引数

- user
Basic 認証に使用するユーザのユーザ名を指定します。
- password
Basic 認証に使用するユーザのパスワードを指定します。

(c) 戻り値

呼び出し元の RestClient オブジェクトが返されます。

(d) 例外

なし

(5) setMethod メソッド

URL 呼び出しを実行するときのメソッドを設定します。

このメソッドが呼び出されない場合、デフォルトで設定されるメソッドは *RestClient* インスタンス.METHOD_GET となります。

(a) 形式

```
RestClient setMethod(int method);
```

(b) 引数

- method
次のどちらかを指定します。
 - *RestClient* インスタンス.METHOD_GET : GET メソッドを指定する場合
 - *RestClient* インスタンス.METHOD_POST : POST メソッドを指定する場合

(c) 戻り値

呼び出し元の RestClient オブジェクトが返されます。

(d) 例外

なし

(6) setPostContent メソッド

POST メソッドで URL 呼び出しを実行するときに送信するコンテンツを設定します。

(a) 形式

```
RestClient setPostContent(String content);
```

(b) 引数

- content

URL 呼び出しを実行するときに送信するコンテンツを指定します。

(c) 戻り値

呼び出し元の RestClient オブジェクトが返されます。

(d) 例外

なし

(7) setPostContentType メソッド

POST メソッドで URL 呼び出しを実行するときに送信するコンテンツの型を設定します。

このメソッドが呼び出されない場合、デフォルトで設定されるコンテンツの型は text/json となります。

(a) 形式

```
RestClient setPostContentType(String type);
```

(b) 引数

- type

URL 呼び出しを実行するときに送信するコンテンツの型を指定します。

(c) 戻り値

呼び出し元の RestClient オブジェクトが返されます。

(d) 例外

なし

(8) setProxy メソッド

URL 呼び出しを実行するときに使用するプロキシを設定します。

このメソッドが呼び出されない場合、プロキシを使用せずに直接呼び出し先 URL に接続します。

(a) 形式

```
RestClient setProxy(String host, int port, String user, String password);
```

(b) 引数

- host
プロキシのホスト名を指定します。
- port
プロキシのポート番号を指定します。
- user
プロキシで認証が必要な場合に指定するユーザのユーザ名を指定します。プロキシで認証が不要のときは null を指定してください。
- password
プロキシで認証が必要な場合に指定するユーザのパスワードを指定します。プロキシで認証が不要のときは null を指定してください。

(c) 戻り値

呼び出し元の RestClient オブジェクトが返されます。

(d) 例外

なし

(9) setReturnType メソッド

URL 呼び出しを実行したときのサーバからの戻り電文の型を設定します。

このメソッドで指定した型に応じて、戻り電文の解釈方法と戻り値が変わります。

(a) 形式

```
RestClient setReturnType(int type);
```

(b) 引数

- type
戻り電文の型を指定します。指定できる型を次に示します。

- *RestClient* インスタンス.RETURNTYPE_STRING：戻り電文が文字列の場合
- *RestClient* インスタンス.RETURNTYPE_JSON：戻り電文が JSON の場合
- *RestClient* インスタンス.RETURNTYPE_XML：戻り電文が XML の場合

(c) 戻り値

呼び出し元の *RestClient* オブジェクトが返されます。

(d) 例外

なし

(10) setUrl メソッド

URL 呼び出しを実行するときに使用する呼び出し先 URL を設定します。

このメソッドが呼び出されない場合、JavaScript プラグインの#url（[属性の設定] 画面の [URL] テキストボックスで設定した値）のキャッシュ値がデフォルト値として設定されます。

(a) 形式

```
RestClient setUrl(String url);
```

(b) 引数

- url
呼び出し先 URL を指定します。

(c) 戻り値

呼び出し元の *RestClient* オブジェクトが返されます。

(d) 例外

なし

5.13 プラグインを使用している業務コンテンツの設定情報を取得する

プラグインを使用している業務コンテンツでは、プラグインパーツのマッピングに関する情報を一覧形式で確認できます。プラグインパーツのマッピングに関する情報を出力したファイルがマッピング一覧ファイルです。

マッピング一覧ファイルを取得する手順を次に説明します。

1. メニュー領域で、プラグインパーツを含む業務コンテンツを選択します。

2. ツールバーの [マッピング一覧] ボタンを選択します。

マッピング一覧ファイルが作成され、[ファイルのダウンロード] ダイアログが表示されます。

3. 任意の保存先を指定して、ファイルを保存します。

注意事項

ブラウザの [×] ボタンをクリックするなど「KDCZ00146-W」のページ遷移注意メッセージを表示させたあと、[このページに留まる] を選択します。

その後、[マッピング一覧出力] を押すと、KDCZ00146-W が出力される場合があります。その場合は、ダイアログで [このページから移動] を選択してください。

5.13.1 マッピング一覧ファイルの形式

(1) ファイル名

PluginMappings.txt

なお、ファイルの保存時に任意のファイル名に変更できます。

(2) 文字コード

UTF-8

(3) 形式

ファイルの先頭にヘッダ情報が出力され、続いて、次の形式でプラグインパーツのマッピングに関する情報が出力されます。

```
[入出力プラグイン名]<T>[パラメタ種別]<T>[パラメタ名]<T>[ノードID]<T>[ノード名]<T>[パーツID]<CR><LF>
```

(凡例)

<T>: タブ文字

<CR><LF>：終端文字（0x0D, 0x0A）

5.13.2 マッピング一覧ファイルの出力項目

マッピング一覧ファイルの出力項目の詳細を次の表に示します。

表 5-9 マッピング一覧ファイルの出力項目の詳細

項目	説明
入出力プラグイン名	入出力プラグインの名称が出力されます。 各入出力プラグインの名称を次に示します。 データストアプラグイン ucnpDataStore JP1/AO プロパティ出力プラグイン ucnpJP1AOPROPERTYOutput JP1/AO サービス実行プラグイン ucnpJP1AOSubmitTask JP1/AO URL 出力プラグイン ucnpJP1AOUrlOutput JP1 イベント対処状況変更プラグイン ucnpJP1EvChangeStat JP1 イベント情報出力プラグイン ucnpJP1EvInfoOutput JP1/IM-SS URL 出力プラグイン ucnpJP1IMSSUrlOutput JavaScript プラグイン ucnpJavaScriptTask ユーザプラグインの入出力プラグイン 指定したプラグイン名
パラメタ種別	プラグインのパラメタのうち、ガイドパーツからの入力またはプラグインからの出力のどちらのマッピング情報かを表す文字列が出力されます。 ガイドパーツからの入力パラメタの場合 input プラグインからの出力パラメタの場合 output なお、プラグインのパラメタが一つもない場合は空文字が出力されます。
パラメタ名	プラグインのパラメタ名が出力されます。 プラグインのパラメタが一つもない場合は空文字が出力されます。
ノード ID	プラグインが配置されているノードの ID が出力されます。
ノード名	プラグインが配置されているノードの名称が出力されます。

項目	説明
パーツ ID	プラグインのパラメタに値を渡す、または値を受け取るガイドパーツのパーツ ID が出力されます。 ただし、次に示すどちらかの条件に当てはまる場合は空文字が出力されます。 - プラグインのパラメタが一つもない - プラグインのパラメタに値を渡す、または値を受け取るガイドパーツが一つもない

5.13.3 マッピング一覧ファイルの出力例

マッピング一覧ファイルの出力例を次に示します。

入出力プラグイン名	パラメタ種別	パラメタ名	ノードID	ノード名	パーツID
ucnpDataStore	input	name	P001	個人情報入力	B001
ucnpDataStore	input	adress	P001	個人情報入力	B002
ucnpDataStore	input	age	P001	個人情報入力	D001
ucnpDataStore	output	name	P002	入力内容確認	L001
ucnpDataStore	output	adress	P002	入力内容確認	L002
ucnpDataStore	output	age	P002	入力内容確認	L003

6

業務コンテンツの運用

この章では、完成した業務コンテンツを利用者に公開して運用していくに当たって必要なことを説明します。いったん公開した業務コンテンツを削除したり、更新したりする方法についても説明します。

6.1 業務コンテンツを公開する方法について

業務コンテンツの公開は、コンテンツ管理者の権限を持つユーザが行います。完成した業務コンテンツを公開して、利用者が操作できるようにするには、次の作業を実施する必要があります。

- 業務コンテンツを公開する
- 想定している利用者が業務コンテンツにアクセスできるかどうか、アクセス権グループまたはJP1 資源グループを確認する

業務コンテンツを公開しても、アクセス権のない利用者は業務コンテンツを参照できません。また、アクセス権グループまたはJP1 資源グループが正しく設定されていたとしても、業務コンテンツが公開されていないと、利用者は業務コンテンツを参照できません。業務コンテンツを確実に公開するためには、業務コンテンツが公開されていることと、アクセス権グループまたはJP1 資源グループが正しく設定されていることの2点を確認してください。

業務コンテンツを公開すると、その版には  のアイコンが付きます。

公開された版のことを**公開版**と呼び、全部で5個保存できます。公開版が6個以上になった場合、いちばん古い版から削除されます。（[公開中] アイコン）が付いている版は、現在公開中の公開版であることを表します。

ヒント

- コンテンツ管理者が業務コンテンツに設定できるのは、コンテンツ管理者として定義されているアクセス権グループまたはJP1 資源グループだけです。また、アクセス権グループの定義内容そのものを変更する必要がある場合は、システム管理者に依頼してください。JP1 資源グループの定義内容の変更については、JP1/Baseのシステム管理者に依頼してください。
- 編集環境が実行環境を兼ねる環境では、コンテンツ管理者が業務コンテンツの公開を完了した時点で、利用者はその業務コンテンツを操作できるようになります。
編集環境と実行環境が分かれている場合は、コンテンツ管理者が編集環境で業務コンテンツを公開したあと、システム管理者が編集環境の業務コンテンツのデータをエクスポートして、実行環境へインポートする必要があります。実行環境へのインポートが完了した時点で、利用者は公開された業務コンテンツを操作できるようになります。

6.1.1 業務コンテンツを公開する

1. 業務編集画面のメニュー領域で、公開したい業務コンテンツのチェックボックスをチェックします。
2. [公開] メニューを選択します。
[公開する業務コンテンツの確認] 画面が表示されます。

3. [コメント] テキストボックスに、業務コンテンツに関するコメントを入力します。

コメント入力時の注意事項

入力したコメントは、業務コンテンツのコメントとして上書きされます。[コメント] テキストボックスに何も入力しない状態だと、空欄の状態の上書きされるため、業務コンテンツのコメントが空欄となります。業務コンテンツに入力されたコメントを残しておきたい場合は、入力済みのコメントをコピーし、[コメント] テキストボックスに貼り付けてください。

4. [公開] ボタンをクリックします。

業務コンテンツが公開されます。

ヒント

公開した業務コンテンツは、最大で5つの履歴を持てます。ただし、次の業務コンテンツの情報は、変更しても履歴が残りません。

- 業務コンテンツの名称
- 業務コンテンツの所属グループ名
- 業務コンテンツに設定されているアクセス権グループまたは JP1 資源グループ
- 業務コンテンツのコメント

これらの情報は変更の履歴が残らないため、情報を変更しても差分表示画面に変更点として表示されません。また、これらの情報だけを変更した場合、業務コンテンツの情報が上書きされるだけで、版の数は増えません。

6.1.2 [公開する業務コンテンツの確認] 画面の項目

[公開する業務コンテンツの確認] 画面を次に示します。

図 6-1 「公開する業務コンテンツの確認」画面

公開する業務コンテンツの確認

コメント:

公開期間: ☐ 公開期間を指定する

公開する業務コンテンツの一覧:

業務コンテンツの名称	編集者	更新日時	コメント
[sample02]停電時サージ起動	user1	2015/07/10 10:18:36	フローの構成見直し, 文字サイズの変更

※公開した業務コンテンツは、5版分まで保存できます。公開済みの版が5版を超えた場合は、最も古い版から削除されます。

公開 キャンセル

「公開する業務コンテンツの確認」画面の各項目について説明します。

(1) 「コメント」テキストボックス

業務コンテンツの公開に当たって、コメントとして残しておきたい情報を入力します。入力したコメントは業務コンテンツのコメントに上書きされます。コメントは「版の詳細」画面で確認できます。複数の業務コンテンツを選択して公開する場合は、ここで入力したコメントが、それぞれの業務コンテンツのコメントに上書きされます。

(2) 「公開期間を指定する」チェックボックス

業務コンテンツの公開を予約する場合にチェックします。業務コンテンツの公開を予約する方法については、「[6.3 業務コンテンツの公開を予約する方法について](#)」を参照してください。

(3) 「公開する業務コンテンツの一覧」

公開する業務コンテンツが一覧で表示されます。

(4) 「公開」ボタン

クリックすると、「公開する業務コンテンツの一覧」に表示されている業務コンテンツが、業務実行画面に表示されるようになります。

(5) 「キャンセル」ボタン

クリックすると、「公開する業務コンテンツの確認」画面が閉じます。業務コンテンツは公開されません。また、入力したコメントも変更されません。

6.2 業務コンテンツを非公開にする方法について

業務コンテンツを非公開にする作業は、コンテンツ管理者の権限を持つユーザが行います。いったん公開した業務コンテンツを非公開にして、利用者が操作できないようにする方法は、次の2種類です。

- 業務コンテンツを非公開に変更する
詳細な手順は、「[6.2.1 業務コンテンツを非公開にする](#)」を参照してください。
- 業務コンテンツを削除する

一時的に業務コンテンツを非公開にするだけの場合は、業務コンテンツの非公開で対応してください。ただし、業務コンテンツの内容を更新する目的で、業務コンテンツを非公開にする必要はありません。公開中の業務コンテンツに影響することなく、業務コンテンツの内容を更新できるためです。

業務の内容が変更になり、業務コンテンツが不要になったなどの理由で、再度業務コンテンツを公開する必要がある場合は、業務コンテンツを削除するのが最も簡単な方法です。ただし、削除した業務コンテンツは元に戻せないため、削除する前に「[6.2.3 公開済みの業務コンテンツを削除する前に確認すること](#)」の内容をよく確認するようにしてください。

ヒント

編集環境が実行環境を兼ねる環境では、コンテンツ管理者が非公開にする作業を完了した時点で、利用者はその業務コンテンツを操作できなくなります。

編集環境と実行環境が分かれている場合は、コンテンツ管理者が編集環境で業務コンテンツを非公開にしたあと、システム管理者が編集環境の業務コンテンツのデータをエクスポートして、実行環境へインポートする必要があります。実行環境へのインポートが完了した時点で、利用者は非公開となった業務コンテンツを操作できなくなります。

6.2.1 業務コンテンツを非公開にする

1. 業務編集画面のメニュー領域で、非公開に変更したい業務コンテンツのチェックボックスをチェックして、[非公開] メニューを選択します。

[非公開にする業務コンテンツの確認] 画面が表示されます。

2. [コメント] テキストボックスに、業務コンテンツに関するコメントを入力します。

コメント入力時の注意事項

入力したコメントは、業務コンテンツのコメントとして上書きされます。[コメント] テキストボックスに何も入力しない状態だと、空欄の状態の上書きされるため、業務コンテンツのコメントが空欄となります。業務コンテンツに入力されたコメントを残しておきたい場合は、入力済みのコメントをコピーし、[コメント] テキストボックスに貼り付けてください。

3. [非公開] ボタンをクリックします。

業務コンテンツが非公開になります。

6.2.2 [非公開にする業務コンテンツの確認] 画面の項目

[非公開にする業務コンテンツの確認] 画面を次に示します。

図 6-2 [非公開にする業務コンテンツの確認] 画面

非公開にする業務コンテンツの確認

コメント:

非公開にする業務コンテンツの一覧:

業務コンテンツの名称	編集者	公開日時	コメント
[sample02]停電時サーバ起動	user2	2014/06/23 17:40:41	

非公開 キャンセル

[非公開にする業務コンテンツの確認] 画面の各項目について説明します。

(1) [コメント] テキストボックス

業務コンテンツの非公開に当たって、コメントとして残しておきたい情報を入力します。入力したコメントは業務コンテンツのコメントに上書きされます。コメントは[版の詳細]画面で確認できます。複数の業務コンテンツを選択して非公開にする場合は、ここで入力したコメントが、それぞれの業務コンテンツのコメントに上書きされます。

(2) [非公開にする業務コンテンツの一覧]

非公開にする業務コンテンツが一覧で表示されます。

(3) [非公開] ボタン

クリックすると、[非公開にする業務コンテンツの一覧]に表示されている業務コンテンツが、業務実行画面に表示されなくなります。

(4) 【キャンセル】 ボタン

クリックすると、[非公開にする業務コンテンツの確認] 画面が閉じます。業務コンテンツは非公開になりません。また、入力したコメントも変更されません。

6.2.3 公開済みの業務コンテンツを削除する前に確認すること

業務コンテンツを削除する前に、その業務コンテンツを再度公開する可能性があるかどうかを確認してください。

業務コンテンツを削除すると、元に戻すことはできません。そのため、再度公開する可能性がある業務コンテンツは、削除するのではなく、業務コンテンツを非公開にしてください。

なお、編集環境が実行環境を兼ねる環境で業務コンテンツを削除する場合は、対象の業務コンテンツを利用しているユーザがいないことを確認してから、削除を実行するようにしてください。

6.2.4 業務コンテンツを削除する

1. ナビゲーション プラットフォームにアクセスして、業務編集画面を表示します。

アクセスする URL については、「[1.6 ナビゲーション プラットフォームの画面にアクセスするための URL](#)」を参照してください。

2. メニュー領域で削除したい業務コンテンツのチェックボックスをチェックします。

複数の業務コンテンツを一度に削除したい場合は、削除したい業務コンテンツのチェックボックスをすべてチェックしてください。

3. [削除] メニューを選択します。

業務コンテンツを削除してもよいかを確認するダイアログが表示されます。

4. ダイアログで [OK] ボタンをクリックします。

業務コンテンツが削除されます。

5. 削除した業務コンテンツで画像などを使用していた場合、必要に応じて不要になったファイルを削除します。

静的ファイルの削除手順については、「[2.9.7 【ファイル管理／登録】 画面を使用して静的ファイルを削除する](#)」を参照してください。

6.3 業務コンテンツの公開を予約する方法について

業務コンテンツの公開予約は、コンテンツ管理者の権限を持つユーザが行います。予約した日時になると、業務コンテンツが公開されます。また、公開予約した業務コンテンツが公開されたときに、利用者が業務コンテンツを参照できるようにするために、アクセス権グループまたは JP1 資源グループが正しく設定されていることを確認してください。

業務コンテンツの公開を予約すると、🕒 のアイコンが付きます。

6.3.1 業務コンテンツの公開を予約する

1. 業務編集画面のメニュー領域で、公開を予約したい業務コンテンツのチェックボックスをチェックします。

2. [公開] メニューを選択します。

[公開する業務コンテンツの確認] 画面が表示されます。

3. [コメント] テキストボックスに、業務コンテンツに関するコメントを入力します。

コメント入力時の注意事項

入力したコメントは、業務コンテンツのコメントとして上書きされます。[コメント] テキストボックスに何も入力しない状態だと、空欄の状態の上書きされるため、業務コンテンツのコメントが空欄となります。業務コンテンツに入力されたコメントを残しておきたい場合は、入力済みのコメントをコピーし、[コメント] テキストボックスに貼り付けてください。

4. [公開期間を指定する] チェックボックスをチェックします。

5. [公開開始日付] テキストボックスと [公開開始時刻] ドロップダウンに公開を開始する日時を設定します。

6. [公開終了日付] テキストボックスと [公開終了時刻] ドロップダウンに公開を終了する日時を設定します。なお、業務コンテンツを公開したまま非公開にしない場合は、この手順は不要です。

7. [予約] ボタンをクリックします。

業務コンテンツの公開が予約されます。

6.3.2 [公開する業務コンテンツの確認] 画面の項目

[公開する業務コンテンツの確認] 画面を次に示します。

図 6-3 「公開する業務コンテンツの確認」画面

公開する業務コンテンツの確認

コメント:

公開期間: ☒ 公開期間を指定する

公開開始日付: 2015/07/10 公開開始時刻: 09

公開終了日付: 2015/07/15 公開終了時刻: 17

※公開開始日付は入力必須です。

公開する業務コンテンツの一覧:

業務コンテンツの名称	編集者	更新日時	コメント
[sample02]停電時サージ起動	user1	2015/07/10 10:18:36	フローの構成見直し, 文字サイズの変更

※公開した業務コンテンツは、5版分まで保存できます。公開済みの版が5版を超えた場合は、最も古い版から削除されます。

予約 キャンセル

「公開する業務コンテンツの確認」画面の各項目について説明します。

(1) 「コメント」テキストボックス

業務コンテンツを公開予約するに当たって、コメントとして残しておきたい情報を入力します。入力したコメントは業務コンテンツのコメントに上書きされます。コメントは「版の詳細」画面で確認できます。複数の業務コンテンツを選択して公開予約する場合は、ここで入力したコメントが、それぞれの業務コンテンツのコメントに上書きされます。

(2) 「公開期間を指定する」チェックボックス

業務コンテンツの公開を予約する場合にチェックします。業務コンテンツの公開を予約する場合は必ずチェックしてください。

(3) 「公開開始日付」テキストボックス

業務コンテンツの公開を開始する日付を入力します。日付のフォーマットは初期値で入力されているフォーマットを参考にしてください。また、業務コンテンツの公開を予約する場合、このテキストボックスの入力は必須です。

(4) 「公開開始時刻」ドロップダウン

業務コンテンツの公開を開始する時刻を選択します。

(5) 「公開終了日付」テキストボックス

業務コンテンツの公開を終了する日付を入力します。このテキストボックスの入力は任意です。このテキストボックスに入力しない場合、公開開始後、業務コンテンツはそのまま公開された状態になります。

(6) 【公開終了時刻】 ドロップダウン

業務コンテンツの公開を終了する時刻を選択します。

(7) 【公開する業務コンテンツの一覧】

公開予約する業務コンテンツが一覧で表示されます。

(8) 【予約】 ボタン

クリックすると、【公開する業務コンテンツの一覧】に表示されている業務コンテンツが、予約した日時に業務実行画面に表示されるようになります。

(9) 【キャンセル】 ボタン

クリックすると、【公開する業務コンテンツの確認】画面が閉じます。業務コンテンツは公開予約されません。また、入力したコメントも変更されません。

6.4 業務コンテンツの公開予約一覧を確認する方法について

公開が予約されている業務コンテンツは、[公開予約一覧] 画面で確認できます。また、[公開予約一覧] 画面で、公開予約を削除することもできます。これらの作業は、コンテンツ管理者の権限を持つユーザーが行います。

6.4.1 業務コンテンツの公開予約一覧を確認する

[公開予約一覧] 画面は、次の方法で表示できます。

- 業務編集画面のヘッダ領域の [公開予約一覧] メニューをクリックする
- 業務編集画面のメニュー領域の [公開予約の削除] メニューをクリックする

6.4.2 業務コンテンツの公開予約を削除する

1. [公開予約一覧] 画面を表示します。

[公開予約一覧] 画面を表示する方法については、「[6.4.1 業務コンテンツの公開予約一覧を確認する](#)」を参照してください。

2. 公開予約を削除する業務コンテンツのチェックボックスをチェックします。

3. [予約削除] ボタンをクリックします。

公開予約が削除されます。

6.4.3 [公開予約一覧] 画面の項目

[公開予約一覧] 画面を次に示します。

図 6-4 「公開予約一覧」画面

☐	公開開始日時	公開終了日時	公開予約状態	業務コンテンツの名称	コメント
☐	2015/07/10 11:00:00	2015/07/17 10:00:00	公開終了待ち	[sample03]障害発生時初動対処	図の差し替え。
☐	2015/07/10 12:00:00	2015/07/10 19:00:00	公開開始待ち	[sample02]停電時サーバー起動	フローの構成見直し、文字サイズの変更。
☐	2015/07/14 08:00:00	-	公開開始待ち	[sample01]Webアプリバージョンアップ	テキストの修正。

「公開予約一覧」画面の各項目について説明します。

(1) チェックボックス

公開予約を削除する業務コンテンツを選択する際にチェックするためのチェックボックスです。

(2) 公開開始日時

公開する日時が表示されます。

(3) 公開終了日時

公開を終了する日時が表示されます。

(4) 予約状態

業務コンテンツの予約状態が表示されます。予約状態は次のとおりです。

- 公開開始待ち
- 公開終了待ち

(5) 「予約削除」ボタン

チェックボックスをチェックした業務コンテンツの公開予約を削除します。

(6) 「キャンセル」ボタン

クリックすると、「公開予約一覧」画面が閉じます。業務コンテンツの公開予約は削除されません。

6.5 業務コンテンツのグループを変更する方法について

業務コンテンツで使用するグループは、次の 2 種類があります。

- 業務コンテンツのグループ

業務コンテンツのグループを使うと、業務コンテンツに関連するキーワードで一まとめにして表示できます。例えば、業務コンテンツの数が多く、操作したい業務コンテンツが探しにくい場合に、業務に関連するキーワードでグループを作ってグルーピングすると、キーワードごとに整理されて見やすくなります。

- 業務コンテンツに設定されているアクセス権グループまたは JP1 資源グループ

アクセス権グループまたは JP1 資源グループを使うと、業務コンテンツの操作や参照をユーザごとに制限できます。例えば、利用者に特定の業務コンテンツだけを操作させる場合に、アクセス権グループまたは JP1 資源グループで、業務コンテンツごとにアクセス権を設定すると、不要な業務コンテンツの操作を防げます。

グループを変更する作業は、コンテンツ管理者の権限を持つユーザが実行します。

6.5.1 業務コンテンツのグループを変更する

(1) 業務コンテンツを 1 つ選択してグループを変更する

1. 業務編集画面のメニュー領域で、グループを変更したい 1 つの業務コンテンツのチェックボックスをチェックして、[グループ変更] メニューを選択します。

新しいグループ名を入力するためのダイアログが表示されます。

2. ダイアログに新しいグループ名を入力して、[OK] ボタンをクリックします。

チェックした業務コンテンツのグループ名が、入力した内容に変更されます。

(2) 複数の業務コンテンツのグループ名の共通部分を変更する

1. 業務編集画面のメニュー領域で、グループ名の共通部分を変更したい複数の業務コンテンツのチェックボックスをチェックして、[グループ変更] メニューを選択します。

新しいグループ名の共通部分を入力するためのダイアログが表示されます。

2. ダイアログに新しいグループ名の共通部分を入力して、[OK] ボタンをクリックします。

チェックした業務コンテンツのグループ名の共通部分が、入力した内容に変更されます。

6.5.2 業務コンテンツのグループを統合する

1. 業務編集画面のメニュー領域で、グループを統合したい複数の業務コンテンツのチェックボックスをチェックして、[グループ統合] メニューを選択します。

統合用の新しいグループ名を入力するためのダイアログが表示されます。

2. ダイアログに統合用のグループ名を入力して、[OK] ボタンをクリックします。

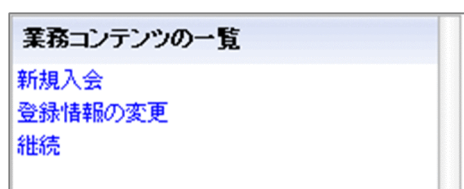
チェックした複数の業務コンテンツのグループが、入力したグループ名に一括で変更されます。

チェックした業務コンテンツが1つの場合は、その業務コンテンツのグループが、入力したグループ名に変更されます。

6.5.3 業務コンテンツのグループを変更または統合する場合のポイント

業務コンテンツのグループを変更または統合する場合のポイントを次に示します。

- 編集が完了し、利用者に公開する業務コンテンツのグループ名は、業務コンテンツの内容、または業務コンテンツを利用するタイミングなど、利用者の視点に基づいたものにします。
- グループ表示が有効な状態でグループ名を設定しなかったり、グループ名に空白を入力したりした業務コンテンツは、名称のないグループにまとめられます。名称のないグループだけ、または名称のないグループと編集中のグループだけの場合、業務編集画面ではグループ名を表示するためのエリアが空の状態が表示されますが、業務実行画面では何も表示されません。
- 業務コンテンツの数が少なく、グルーピングする必要がない場合は、すべての業務コンテンツでグループ名を空のままにしておいてください。すべての業務コンテンツでグループ名を空のままにしておくと、次の図のように、業務実行画面からグループ名の表示欄が消え、業務コンテンツ名だけが表示されるようになります。



ただし、業務コンテンツのどれか一つにでもグループ名を設定した場合、グループ名を設定していない業務コンテンツにもグループ名の表示欄が表示されます。このとき、グループ名を設定していない業務コンテンツのグループ名の表示欄は、次の図のように空白となります。



6.5.4 業務コンテンツに設定されているアクセス権グループまたは JP1 資源グループを確認する

設定されているアクセス権グループまたは JP1 資源グループを確認できる業務コンテンツは、一度に一つだけです。確認の結果、アクセス権グループまたは JP1 資源グループを変更する必要がある場合は、「[2.4.1 業務コンテンツにアクセス権グループまたは JP1 資源グループを設定する](#)」を参照してください。

(1) アクセス権グループを確認する

1. 業務編集画面のメニュー領域で、対象の業務コンテンツのチェックボックスを一つだけチェックして、**「権限の設定」** メニューを選択します。
[権限の設定] 画面が表示されます。[業務コンテンツに設定されているアクセス権グループ] 一覧のチェックボックスが選択済みのアクセス権グループが、対象の業務コンテンツに現在設定されているアクセス権グループです。
2. アクセス権グループの名称をクリックします。
[アクセス権グループの確認] 画面が表示されます。
3. [ID] 列に業務コンテンツの公開対象となる利用者またはグループの ID があるかどうかを確認します。
利用者の ID が不明な場合は、システム管理者に問い合わせてください。
4. [閉じる] ボタンをクリックして、[アクセス権グループの確認] 画面を閉じて、[権限の設定] 画面に戻ります。
5. [業務コンテンツに設定されているアクセス権グループ] 一覧に表示されているすべてのアクセス権グループに対して、手順 2.～手順 4.を繰り返します。
6. [アクセス権グループの確認] 画面の [ID] 列に、業務コンテンツの公開対象となる利用者またはグループの ID を含むアクセス権グループがあった場合は、[権限の設定] 画面の [業務コンテンツに設定されているアクセス権グループ] 一覧で、そのアクセス権グループのチェックボックスを選択します。
7. [アクセス権グループの確認] 画面の [ID] 列に、業務コンテンツの公開対象となる利用者またはグループの ID を含むアクセス権グループがなかった場合は、システム管理者にアクセス権グループの定義内容の変更を依頼します。

(2) JP1 資源グループを確認する

1. 業務編集画面のメニュー領域で、対象の業務コンテンツのチェックボックスを一つだけチェックして、**「資源の設定」** メニューを選択します。
[資源の設定] 画面が表示されます。
チェックボックスが選択済みの JP1 資源グループ（チェックボックスがない場合は JP1 資源グループの一覧に表示されている JP1 資源グループ）が、対象の業務コンテンツに現在設定されている JP1 資源グループです。

2. 表示されている JP1 資源グループに業務コンテンツの公開対象となる利用者が登録されているかどうかを、システム管理者に問い合わせます。
3. 問い合わせの結果、表示されている JP1 資源グループに業務コンテンツの公開対象となる利用者またはグループが登録されていた場合は、[資源の設定] 画面の [業務コンテンツに設定されている JP1 資源グループ] 一覧で、その JP1 資源グループのチェックボックスを選択します。
4. 問い合わせの結果、表示されている JP1 資源グループに業務コンテンツの公開対象となる利用者が登録されていなかった場合は、システム管理者に JP1 資源グループの定義内容の変更を依頼します。

6.5.5 [アクセス権グループの確認] 画面の項目

[アクセス権グループの確認] 画面を次に示します。

図 6-5 [アクセス権グループの確認] 画面

アクセス権グループの確認

アクセス権グループの名称：標準アクセス権限

ユーザ、グループの一覧

役割	割り当て範囲	ID
管理者	ユーザ	user6
管理者	ユーザ	user7
編集者	ユーザ	user2
編集者	ユーザ	user3
利用者	ユーザ	user4
利用者	ユーザ	user5
利用者	すべて	

閉じる

[アクセス権グループの確認] 画面の各項目について説明します。

(1) [役割] 列

アクセス権グループに割り当てられた役割が表示されます。「管理者」「編集者」「利用者」のどれかが表示されます。

(2) 【割り当て範囲】 列

アクセス権グループに割り当てられている対象の範囲が表示されます。[ユーザ]，または [すべて] のどれかが表示されます。

(3) 【ID】 列

アクセス権が設定された対象の ID が表示されます。

6.6 業務コンテンツの印刷

印刷できる業務コンテンツの内容や印刷する手順について説明します。

6.6.1 印刷できる業務コンテンツの内容

業務コンテンツのうち、タイトル、業務フロー領域、ガイド領域の内容を印刷できます。

なお、ガイド領域に表示されるボタンは印刷されません。分岐があるフローの場合は、フローの印刷結果とノード ID からガイド領域の印刷内容を確認してください。

印刷できる内容を説明します。

(1) タイトル

[sample02]停電時サーバ起動

所属するグループ: サンプル

更新日時: 2014年06月27日 17時31分57秒 業務コンテンツID: 2611a311-0133-1000-8002-00000ad23cbb-0

業務名

印刷する業務コンテンツの名称です。

所属するグループ

印刷する業務コンテンツが所属するグループの名称です。

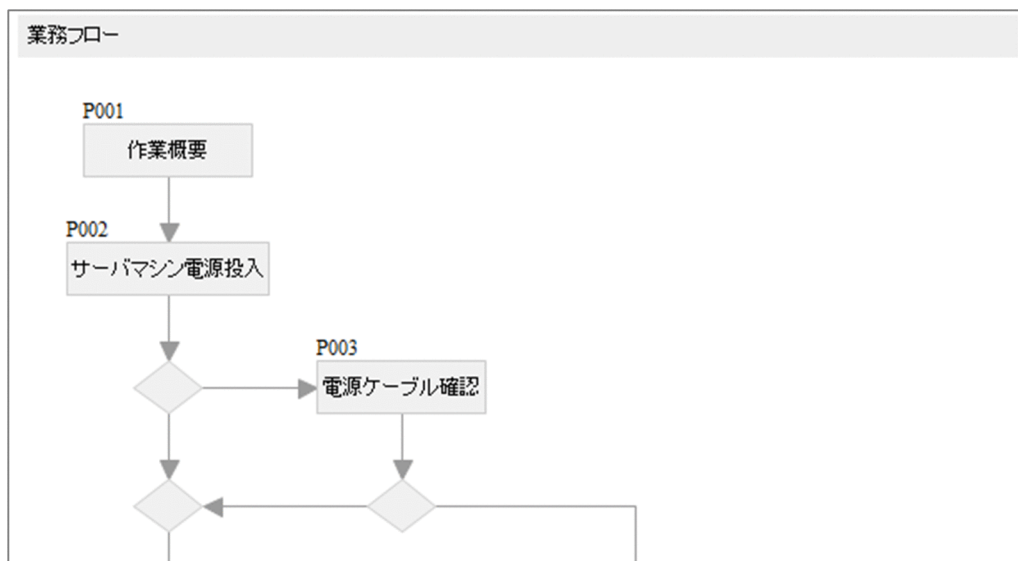
更新日時

業務コンテンツを最後に更新した日時です。「YYYY 年 MM 月 DD 日 hh 時 mm 分 ss 秒」の形式で印刷されます。

業務コンテンツ ID

印刷する業務コンテンツの業務コンテンツ ID です。業務コンテンツ ID は、業務編集画面から印刷画面が呼び出された場合にだけ印刷されます。

(2) 業務フロー領域



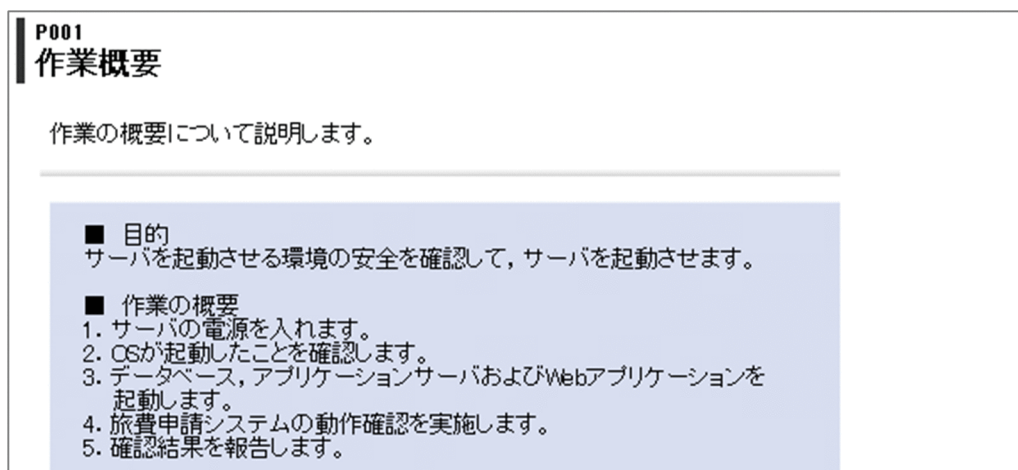
ノード ID

各ノードのノード ID です。ノード ID は、ツールバーの [ID 表示] ボタンをクリックしたかどうかにかかわらず、常に印刷されます。

ノード、関連線

業務フロー領域に配置した各ノードと関連線です。

(3) ガイド領域



ノード ID

プロセスノードのノード ID です。

ノード名称

プロセスノードのノード名称です。

ガイドパーツ

ガイド領域に配置した各ガイドパーツです。

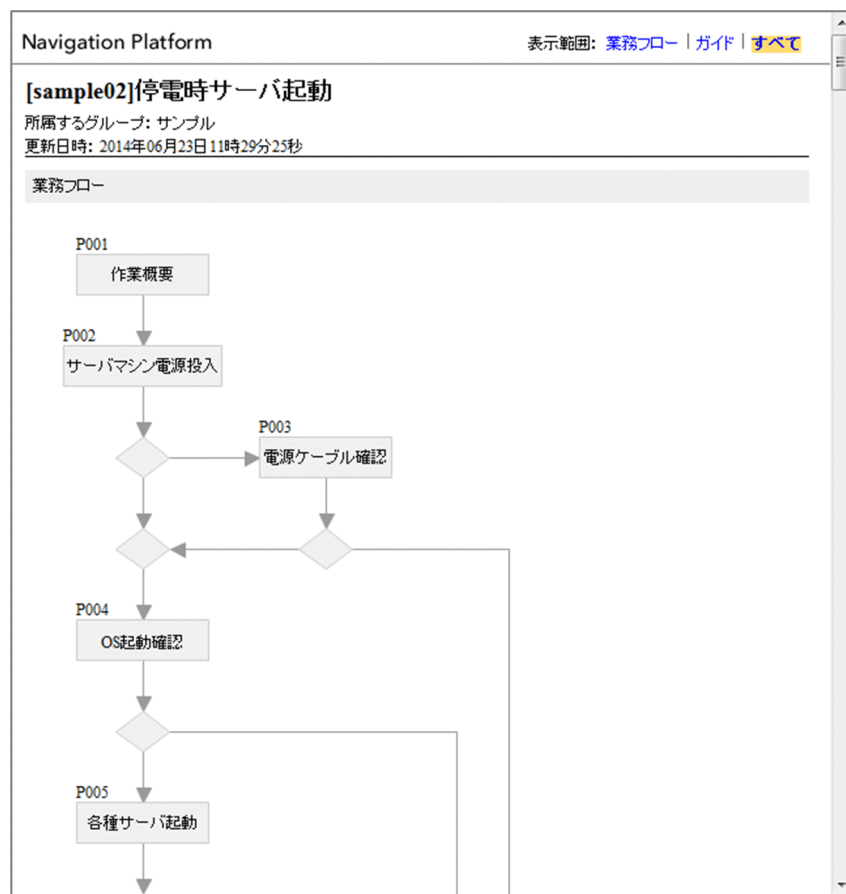
6.6.2 業務コンテンツを印刷する

1. Web ブラウザの設定で「背景の色とイメージを印刷する」が有効になっていることを確認します。
2. 業務編集画面、または業務実行画面のメニュー領域で、印刷したい業務コンテンツをクリックして表示します。
3. 業務編集画面の場合はツールバーの  印刷（[印刷] ボタン）、業務実行画面の場合はヘッダ領域で [印刷] メニューをクリックします。
印刷画面が別ウィンドウで開きます。
なお、業務実行画面から開いた場合は次の内容が表示されません。
 - 業務コンテンツ ID
 - 業務フロー（業務実行画面で業務フロー領域を表示しない設定になっているとき）
4. [表示範囲] メニューで印刷画面の表示範囲を選択します。
「業務フロー」を選択すると業務フロー領域だけを、「ガイド」を選択するとガイド領域だけを印刷できます。初期状態では「すべて」が選択されています。
5. Web ブラウザの印刷機能を使って、業務コンテンツを印刷します。

6.6.3 印刷画面の項目

印刷画面を次に示します。

図 6-6 印刷画面



印刷画面の各項目について説明します。

(1) 【表示範囲】 メニュー

印刷画面の表示範囲を選択します。

【業務フロー】

業務フロー領域だけを印刷画面に表示します。

【ガイド】

ガイド領域だけを印刷画面に表示します。

【すべて】

業務フロー領域，ガイド領域の両方を印刷画面に表示します。

6.6.4 印刷に関する注意事項

業務コンテンツの印刷画面の表示および印刷結果に関する注意事項を次に示します。

(1) 印刷画面の表示に関する注意事項

- Web ブラウザによっては表示内容の拡大率を指定できますが、印刷画面では拡大率が 100%以外の場合に正しく表示されないことがあります。
- ガイド領域のテキストボックスパーツがパスワードボックスとして使用されている場合、初期値も空文字で表示されます。
- ガイド領域にインラインフレームパーツがある場合、リンク先のファイルに記述されている処理を実行します。リンク先のファイルがフォーカスする処理を実装しているときは、印刷画面を開いたときにインラインフレームがフォーカスされた状態になります。
- ドロップダウンパーツは、設定されたすべてのラベルを親子関係に関係なく表示します。
- HTML パーツは、属性の設定にかかわらず、HTML ソース文字列にパラメタを埋め込まない状態で表示します。
- HTML パーツのソース HTML の内容に不正があった場合、動作は保証されません。
- 業務フロー領域およびガイド領域のパーツの一部が領域外にはみ出た場合、印刷画面では、はみ出した部分もすべて表示します。その結果、ヘッダ領域のロゴ画像や「表示範囲」メニューにパーツの一部が重なることがあります。

(2) 印刷結果に関する注意事項

- 業務フロー領域は 1 ページに収まるように倍率を調整してください。印刷物が複数ページにわたる場合、ページをまたぐ部分のパーツが正しく表示されないことがあります。ガイド領域が複数ページにわたる場合も同様に、ページをまたぐ部分のパーツが正しく表示されないことがあります。
- 画像パーツを除いたフローパーツの並び順では、常に関連線が最背面になります。「属性の設定」画面で、「前面／背面の並び順」を関連線より背面になるように設定した場合でも、印刷画面では常に前面に表示されます。
- 使用するプリンタおよびプリンタドライバによっては、印刷結果が画面で表示したとおりのフォントサイズにならないで、折り返し位置がずれる場合があります。

6.7 業務コンテンツに直接アクセスする URL を取得する

業務コンテンツに直接アクセスする URL を取得できます。取得した URL をブックマークすると、特定の業務コンテンツをブックマークから直接参照できるようになり便利です。

なお、システムの設定によっては、このメニューは表示されません。

1. 業務実行画面で、URL を取得したい業務フローをクリックして表示します。
2. ヘッダ領域で [URL 取得] メニューをクリックします。
メッセージが表示され、選択した業務コンテンツを表示する URL がクリップボードにコピーされます。

6.8 公開済みの業務コンテンツを更新する方法について

業務コンテンツを更新する作業は、コンテンツ管理者、コンテンツ作成者（JP1/Base によるユーザ認証を使用する場合）、またはコンテンツ編集者の権限を持つユーザが行います。業務コンテンツの更新したい項目によって、必要な権限が次のように異なります。

- 業務コンテンツの内容を更新する

業務フローやガイド領域などの更新：コンテンツ管理者、コンテンツ作成者、またはコンテンツ編集者の権限が必要です。

業務コンテンツの公開：コンテンツ管理者の権限が必要です。

- 業務コンテンツの名称を変更する

コンテンツ管理者またはコンテンツ作成者の権限が必要です。

ヒント

編集環境が実行環境を兼ねる環境では、コンテンツ管理者が業務コンテンツの公開を完了した時点で、利用者はその業務コンテンツを操作できるようになります。

編集環境と実行環境が分かれている場合は、コンテンツ管理者が編集環境で業務コンテンツを公開したあと、システム管理者が編集環境の業務コンテンツのデータをエクスポートして、実行環境へインポートする必要があります。実行環境へのインポートが完了した時点で、利用者は公開された業務コンテンツを操作できるようになります。

6.8.1 業務コンテンツの内容を更新する

業務コンテンツの内容の更新を開始すると、公開中の業務コンテンツを複製した**編集版**が作成されます。

編集版は、更新を開始したユーザだけが内容を編集できます。ほかのユーザからは編集できないようにロックされます。

業務コンテンツの内容を更新する手順を次に示します。なお、手順 9.は、コンテンツ管理者が実行してください。

1. 業務編集画面のメニュー領域で、更新したい業務コンテンツをクリックして表示します。

2. ツールバーの  **編集開始**（[編集開始] ボタン）をクリックします。

編集版が作成され、業務コンテンツを編集できるようになります。

3. 必要に応じて次の個所を参照して、業務コンテンツを編集します。

- 「3. 業務フロー領域の作成」
- 「4. ガイド領域の作成」

- ・「[6.8.3 ノード、パーツ、関連線、マッピング線を削除する](#)」

4. 編集が完了したら、ツールバーの  保存 （[保存] ボタン）をクリックします。

5. ツールバーの  編集完了 （[編集完了] ボタン）をクリックします。

[コメントの入力] 画面が表示されます。

6. [コメント] テキストボックスにコメントを入力します。

7. [コメントの入力] 画面の [編集完了] ボタンをクリックします。

編集した内容が確定され、編集版のロックが解除されます。

8. 業務コンテンツの名称を変更したい場合は「[6.8.2 業務コンテンツの名称を変更する](#)」の手順を実施します。

9. 業務コンテンツを公開します。

詳細は「[6.1.1 業務コンテンツを公開する](#)」を参照してください。

6.8.2 業務コンテンツの名称を変更する

1. 業務編集画面のメニュー領域で、名称を変更したい業務コンテンツのチェックボックスをチェックします。

2. [名称変更] メニューを選択します。

複数の業務コンテンツの名称を一度に変更することはできません。複数の業務コンテンツをチェックした場合、メニュー領域で先に表示されている業務コンテンツの名称だけが変更されます。

3. 変更後の名称を入力して、[OK] ボタンをクリックします。

6.8.3 ノード、パーツ、関連線、マッピング線を削除する

削除の操作は、領域ごとに実施します。例えば、業務フロー領域に表示されているノードやパーツと、ガイド領域に表示されているパーツをまとめて削除することはできません。削除の手順を次に示します。

1. 業務編集画面の業務フロー領域で、削除したいノード、パーツ、または関連線を選択します。

2. ツールバーの [削除] ボタンをクリックするか、キーボードで < Delete > キーを押します。

3. 業務編集画面のガイド領域で、削除したいパーツを選択します。

4. ツールバーの [削除] ボタンをクリックするか、キーボードで < Delete > キーを押します。

5. 業務編集画面のガイド領域（マッピングモード）で、削除したいプラグインパーツまたはマッピング線を選択します。

プラグインパーツを選択すると、すべてのマッピング線が削除の対象になります。

6. ツールバーの「削除」ボタンをクリックするか、キーボードで＜ Delete ＞キーを押します。

メモ

- ガイド領域（マッピングモード）には、プラグインパーツ以外のパーツも表示されています。ただし、マッピングモードを解除して通常のガイド領域に切り替えないと、プラグインパーツ以外のパーツを削除できません。
- 「元に戻す」ボタンや「やり直す」ボタンをクリックして、ノード、パーツ、または関連線を元に戻したり、削除をやり直したりした場合、パーツを配置した順序が変わることがあります。入力値エラーが発生したときのガイドパーツの強調表示やエラーメッセージの表示の順序を考慮してガイドパーツを配置している場合は、業務コンテンツの動作を確認してください。

6.9 業務コンテンツの利用状況を解析する方法について

業務コンテンツの利用状況を解析した内容は、レポート画面で確認できます。レポート画面は、コンテンツ管理者以上の権限を持つユーザが表示できます。

レポート画面では、業務コンテンツの平均操作時間やプロセスノードの実行回数などがわかるため、業務コンテンツの改善に役立ちます。

レポート画面を使用して業務コンテンツを改善する例については、「[6.9.6 業務コンテンツの利用状況を解析する例](#)」を参照してください。

ヒント

- レポート画面で利用状況の解析内容を確認したい場合、業務フローの最後には、必ず完了のターミナルノードを配置するようにしてください。
レポート画面は、業務コンテンツの開始から完了までの操作の履歴を自動で収集・解析した結果を表示しています。解析の際、完了のターミナルノードまで遷移したことを操作の完了と判定しています。よって、完了のターミナルノードがない業務コンテンツでは、操作の完了が判定されないため、業務コンテンツの利用状況が正しくレポート画面に反映されません。
- レポート画面の内容は、1日に1回自動で更新されます。そのため、レポート画面には直近の操作が反映されないことがあります。
- 業務コンテンツの操作が完了していない状態で、かつ前の操作から24時間以上経過している場合、その業務コンテンツの状態は解析の対象外となります。なお、中断再開機能を使用している場合、中断から再開までの時間は、この24時間に含まれません。

重要

- 中断再開機能を使用している場合、ユーザごとの業務の実行状況についての内容が、実際の操作とは異なる場合があります。レポート画面で表示される解析内容が、業務コンテンツの開始から完了まで同じユーザが操作することを想定しているためです。中断再開機能を使用することで、操作するユーザが途中で変わる場合でも、業務コンテンツを開始したユーザが開始から完了まで操作したと判断されます。
- レポート画面で表示される解析対象は、システム構築時の設定によって決まります。解析対象は、次のどちらかです。
 - ・業務実行画面に表示されている業務コンテンツだけを解析対象とする。
 - ・業務実行画面に表示されている業務コンテンツの過去の版を含めて解析対象とする。

6.9.1 業務コンテンツの利用状況を解析する

1. 業務実行画面のメニュー領域で、[レポート表示] メニューをクリックします。

レポート画面が別ウィンドウで開きます。

2. 解析するユーザの範囲を選択します。

次のどちらかを選択します。

- 全体の状況を解析する。
こちらを選択した場合、手順 4.に進んでください。
- 特定のユーザの状況を解析する。
こちらを選択した場合、手順 3.に進んでください。

3. ユーザ ID を入力します。

ユーザ ID はシステム管理者に確認してください。

4. ラジオボタンで、解析することを選択します。

次のどれかから選択します。

- 実行回数から解析する。
- 平均実行時間から解析する。
- エラー回数から解析する。

5. ドロップダウンで、期間を選択します。

次のどれかから選択します。

- 1 ヶ月
- 3 ヶ月
- 6 ヶ月

6. [解析] ボタンをクリックします。

レポート画面の下部に、業務コンテンツごとの解析結果が表示されます。

7. 業務コンテンツの名称をクリックします。

レポート画面が切り替わり、ノードごとの解析結果が表示されます。

6.9.2 レポート画面（解析項目の選択）の項目

レポート画面（解析項目の選択）を次に示します。

図 6-7 レポート画面（解析項目の選択）

Navigation Platform 閉じる

レポート表示

次のレポートを確認できます。

- 実行回数から解析：業務コンテンツとノードの実行回数を表示します。
利用状況から改善が必要な業務を特定し、効果的に業務を見直せます。
- 平均実行時間から解析：業務コンテンツとノードの平均実行時間を表示します。
時間がかかっている業務の内容を見直すことで、作業効率改善につながります。
- エラー回数から解析：入力チェックでエラーになった回数を表示します。
エラー回数が多い業務の内容見直しや、業務手順の改善に有効です。

Step1: 解析するユーザの範囲を選んでください。

- 全体の状況を解析する。
- 特定のユーザの状況を解析する。

※すでに解析するユーザが特定されている場合は、こちらを利用してください。

レポート画面（解析項目の選択）の各項目について説明します。

(1) 解析するユーザの範囲の選択

解析するユーザの範囲を選択します。「全体の状況を解析する。」「特定のユーザの状況を解析する。」のどちらかを選択します。

(2) [閉じる] ボタン

クリックすると、レポート画面が閉じます。

6.9.3 レポート画面（業務コンテンツごとの解析結果）の項目

レポート画面（業務コンテンツごとの解析結果）を次に示します。

図 6-8 レポート画面（業務コンテンツごとの解析結果）

Navigation Platform 戻る

レポート表示 > 全体状況

Step2: 解析することを選んでください。

- ☒ 実行回数から解析する。
- ☐ 平均実行時間から解析する。
- ☐ エラー回数から解析する。

Step3: 期間を選んでください。

1ヶ月

解析

業務コンテンツの名称	実行回数
▲ [sample02] 停電時サービス起動	4回
user1	2回
user3	2回
user2	0回
▼ [sample03] 障害発生時自動対応	2回
▼ [sample04] JPI/PM自動アクション遅延解消	1回
▼ [sample05] 手動セキュリティパッチ適用	1回

レポート画面（業務コンテンツごとの解析結果）の各項目について説明します。

(1) [ユーザ ID を入力してください。] テキストボックス

ユーザ ID を入力します。この項目は、レポート画面（解析項目の選択）で、「特定のユーザの状況を解析する。」を選択したときにだけ表示されます。

(2) [解析することを選んでください。] ラジオボタン

解析することを選択します。「実行回数から解析する。」、「平均実行時間から解析する。」、「エラー回数から解析する。」のどれかから選択します。

(3) [期間を選んでください。] ドロップダウン

解析の対象となる期間を選択します。「1 ヶ月」、「3 ヶ月」、「6 ヶ月」のどれかから選択します。

(4) [解析] ボタン

クリックすると、選択した内容で業務コンテンツの利用状況を解析した結果が表示されます。

(5) [ユーザごとの解析結果折りたたみ] アイコン

クリックすると、ユーザごとの業務コンテンツの利用状況を解析した結果が表示されます。

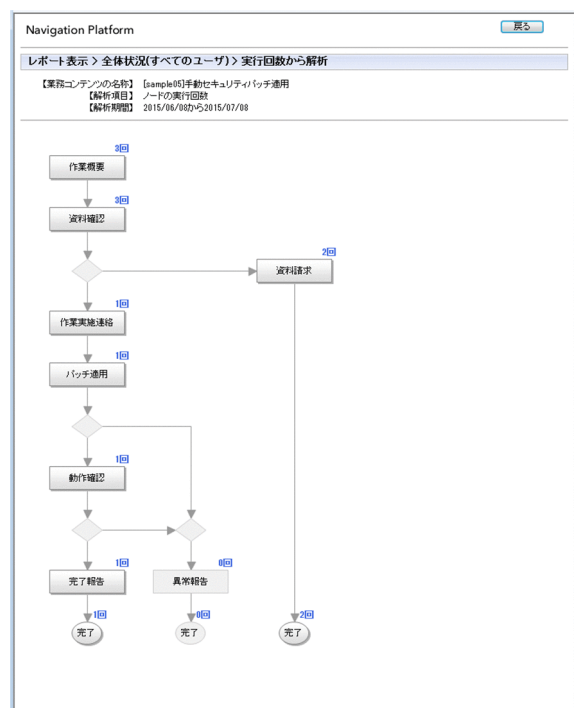
(6) [戻る] ボタン

クリックすると、レポート画面（解析項目の選択）に戻ります。

6.9.4 レポート画面（ノードごとの解析結果）の項目

レポート画面（ノードごとの解析結果）を次に示します。

図 6-9 レポート画面（ノードごとの解析結果）



ノードごとの解析結果についての注意事項

- 解析結果の文字は、プロセスノードと同じレイヤーに表示されます。プロセスノードの前面にパーツがある場合、解析結果は前面にあるパーツの後ろに表示されるため、解析結果が読みにくい場合があります。解析結果が読みにくい場合は、解析結果の前面にあるパーツの位置をずらすか、プロセスノードを最前面に配置し直してください。
- ノードの実行回数では、別のノードに遷移した回数をカウントしています。そのため、業務フローに遷移元のノードに直接戻る分岐がある場合、その遷移はノードの実行回数にカウントされません。

レポート画面（ノードごとの解析結果）の各項目について説明します。

(1) ヘッダ領域

業務コンテンツの名称、ユーザ ID、解析項目、解析期間が表示されます。なお、ユーザ ID は、レポート画面（解析項目の選択）で、「特定のユーザの状況を解析する。」を選択したときにだけ表示されます。

ノードごとの解析項目は、レポート画面（業務コンテンツごとの解析結果）の「解析することを選んでください。」で選択した項目によって、それぞれ次のように異なります。

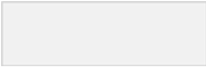
- 「実行回数から解析する。」を選択した場合：ノードの実行回数
- 「平均実行時間から解析する。」を選択した場合：ノードの平均実行時間
- 「エラー回数から解析する。」を選択した場合：ノードのエラー回数

(2) 業務フロー領域

業務フローのノードの右上に、青字で解析結果が表示されます。

クリックできるノードをクリックすると、レポート画面（ユーザごとのノードの解析結果）が表示されます。クリックできるノードとクリックできないノードのデザインを次に示します。

表 6-1 クリックできるノードとクリックできないノードのデザイン

項目	クリックできるノード	クリックできないノード
プロセスノード（画像なし）		
プロセスノード（画像あり）		
ターミナルノード		

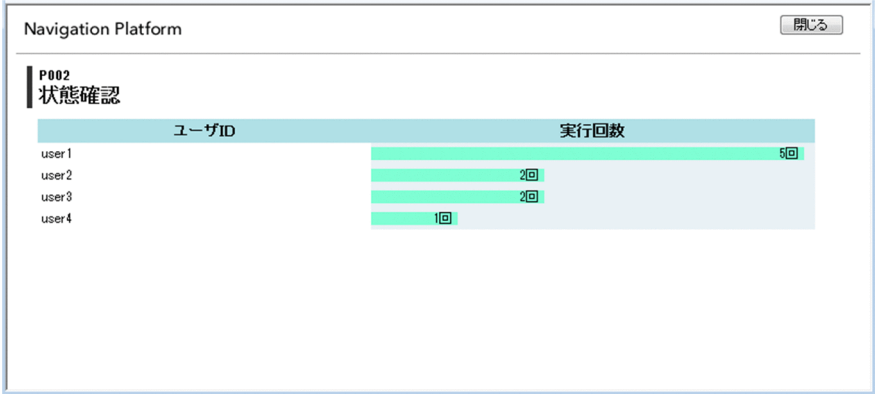
(3) [戻る] ボタン

クリックすると、レポート画面（業務コンテンツごとの解析結果）に戻ります。

6.9.5 レポート画面（ユーザごとのノードの解析結果）の項目

レポート画面（ユーザごとのノードの解析結果）を次に示します。

図 6-10 レポート画面（ユーザごとのノードの解析結果）



(1) [閉じる] ボタン

クリックすると、レポート画面（ユーザごとのノードの解析結果）を閉じます。

6.9.6 業務コンテンツの利用状況を解析する例

業務コンテンツの利用状況を解析する例を次に示します。例の説明の中にある、レポート画面を表示させる手順については、「[6.9.1 業務コンテンツの利用状況を解析する](#)」を参照してください。

(1) よく実行される業務コンテンツを知りたい

レポート画面では、業務コンテンツの実行回数がわかるため、よく実行される業務コンテンツがどれかを知ることができます。また、よく実行される業務コンテンツに対し、ノードごとの実行回数についても知っておくと、業務コンテンツが正しく実行されているかどうか（エラー回数が少ないか、フローの不要な分岐がないか、など）を判断することもできます。

レポート画面で、業務コンテンツの実行回数を表示させる手順について次に示します。

1. レポート画面（解析項目の選択）で、[全体の状況を解析する。] を選択します。
2. レポート画面（業務コンテンツごとの解析結果）で、[実行回数から解析する。] を選択します。
3. [解析] ボタンをクリックします。

(2) 実行に時間が掛かる業務コンテンツを知りたい

レポート画面では、業務コンテンツの平均実行時間がわかります。実行に時間が掛かる業務コンテンツがわかることで、内容の改善が必要な業務コンテンツがどれかを知ることができます。

レポート画面で、業務コンテンツの平均実行時間を表示させる手順について次に示します。

1. レポート画面（解析項目の選択）で、[全体の状況を解析する。] を選択します。
2. レポート画面（業務コンテンツごとの解析結果）で、[平均実行時間から解析する。] を選択します。
3. [解析] ボタンをクリックします。

(3) 不要なフローの分岐をなくして、手順を簡単にしたい

実行回数が少ないノードを知ることによって、不要な分岐がないかを調べることができます。実行回数が少ないノードへの分岐は削除して整理する方が、業務フローがわかりやすくなることがあります。

レポート画面で、実行回数が少ないノードを表示させる手順について次に示します。

1. レポート画面（解析項目の選択）で、[全体の状況を解析する。] を選択します。
2. レポート画面（業務コンテンツごとの解析結果）で、[実行回数から解析する。] を選択します。
3. [解析] ボタンをクリックします。
4. 改善したい業務コンテンツを選択します。

(4) 業務フローの流れが想定どおりか確認したい

ノードの実行回数を知ること、分岐前の説明文に不備がないかを調べることができます。分岐後のノードの実行回数が想定よりも少ない場合、分岐前のノードの説明文がわかりにくく、想定どおりに分岐後のノードへ進んでいないことが考えられます。その場合、分岐前の説明文を見直し、修正することで、業務フローが想定どおりに流れるよう改善できることがあります。

レポート画面で、ノードの実行回数を表示させる手順について次に示します。

1. レポート画面（解析項目の選択）で、[全体の状況を解析する。] を選択します。
2. レポート画面（業務コンテンツごとの解析結果）で、[実行回数から解析する。] を選択します。
3. [解析] ボタンをクリックします。
4. 改善したい業務コンテンツを選択します。

(5) 特定のユーザがつかずくポイントを知りたい

レポート画面では、業務コンテンツやノードでの操作のエラー回数を、ユーザごとに知ることができます。特定のユーザの入力ミスが多い業務コンテンツやノードを知ること、そのユーザがつかずきやすいポイントがわかります。

レポート画面で、業務コンテンツやノードでの操作のエラー回数をユーザごとに表示させる手順について、次に示します。

1. レポート画面（解析項目の選択）で、[特定のユーザの状況を解析する。] を選択します。
2. レポート画面（業務コンテンツごとの解析結果）で、ユーザIDを入力し、[エラー回数から解析する。] を選択します。
3. [解析] ボタンをクリックします。
入力ミスの多い業務コンテンツが表示されます。
4. 業務コンテンツを選択します。
入力ミスの多いノードが表示されます。

(6) すべてのユーザがつかずくポイントを知りたい

業務コンテンツやノードでの操作のエラー回数を知ること、業務フローの流れが悪い業務コンテンツや、説明文がわかりにくいノードがわかります。

1. レポート画面（解析項目の選択）で、[全体の状況を解析する。] を選択します。
2. レポート画面（業務コンテンツごとの解析結果）で、[全体の状況を解析する。] を選択します。
3. [解析] ボタンをクリックします。

入力ミスの多い業務コンテンツが表示されます。

4. 業務コンテンツを選択します。

入力ミスの多いノードが表示されます。

6.10 業務コンテンツの操作ログをダッシュボード機能で解析する方法について

業務コンテンツの操作ログの解析結果は、ダッシュボード画面で確認できます。ダッシュボード画面は、アクセス許可を与えられたユーザだけ参照できます。

ダッシュボード画面では、解析結果をグラフや表形式で表示します。表示する解析結果は、ユーザごとに色分けしたり、フィルタリングしたりできるため、目的に応じていろいろな分析ができます。

ヒント

ダッシュボード機能で解析できる操作ログは、最大で6か月分です。

6.10.1 ダッシュボード画面へアクセスする

ダッシュボード画面へアクセスする手順を次に示します。

ヒント

- ダッシュボード画面にアクセスするマシンで利用できる Web ブラウザは、Internet Explorer 11 と Google Chrome です。

注意事項

JP1/Navigation Platform 12-50 の次のバージョン以降では、Internet Explorer 11 はダッシュボード画面のサポート対象外となる予定です。あらかじめご了承ください。

- ダッシュボード画面には同時に2人までアクセスできます。
- ユーザプロパティファイル (ucnp_user.properties) の ucnp.base.server.dashboard.auth.userids プロパティにユーザ ID が設定されているユーザが、ダッシュボード画面にアクセスできます。

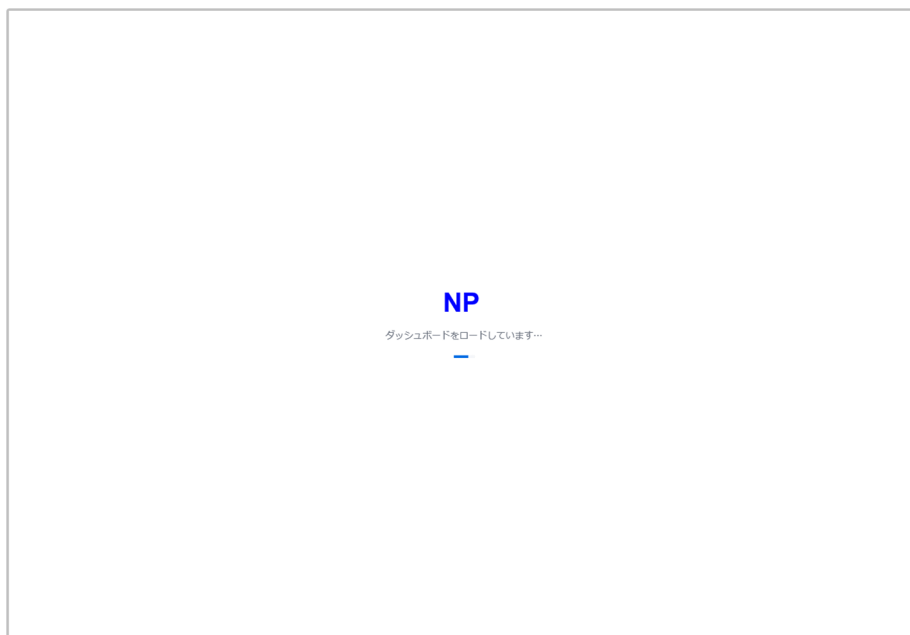
- 業務実行画面のヘッダ領域の [ツール] メニューから [操作ログのダッシュボード表示] メニューをクリックする。

認証画面が表示されます。

- ユーザ ID とパスワードを入力する。

操作ログの解析結果を読み込んでいることを示す Loading 画面が表示されます。

図 6-11 Loading 画面

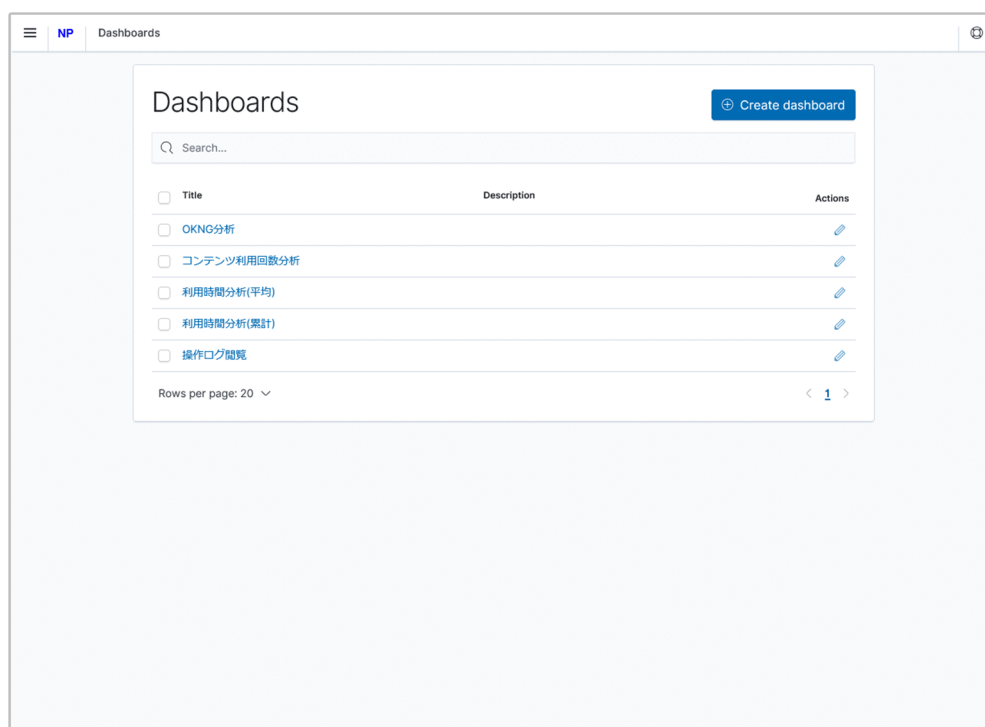


操作ログの解析結果の読み込みが完了すると、ダッシュボード選択画面が表示されます。

6.10.2 ダッシュボード選択画面の項目

ダッシュボード選択画面を次に示します。

図 6-12 ダッシュボード選択画面



ダッシュボード選択画面の各項目について説明します。

(1) OKNG 分析

プロセスノードの処理結果から OK と NG の割合を表示する場合に選択します。

表示内容については「[6.10.3 OKNG 分析画面](#)」を参照してください。

(2) コンテンツ利用回数分析

コンテンツの利用回数の分析結果を表示する場合に選択します。

表示内容については「[6.10.4 コンテンツ利用回数分析画面](#)」を参照してください。

(3) 利用時間分析（平均）

コンテンツの利用時間の分析結果を平均値として表示する場合に選択します。

表示内容については「[6.10.5 利用時間分析（平均）画面](#)」を参照してください。

(4) 利用時間分析（累計）

コンテンツの利用時間の分析結果を累計値として表示する場合に選択します。

表示内容については「[6.10.6 利用時間分析（累計）画面](#)」を参照してください。

(5) 操作ログ閲覧

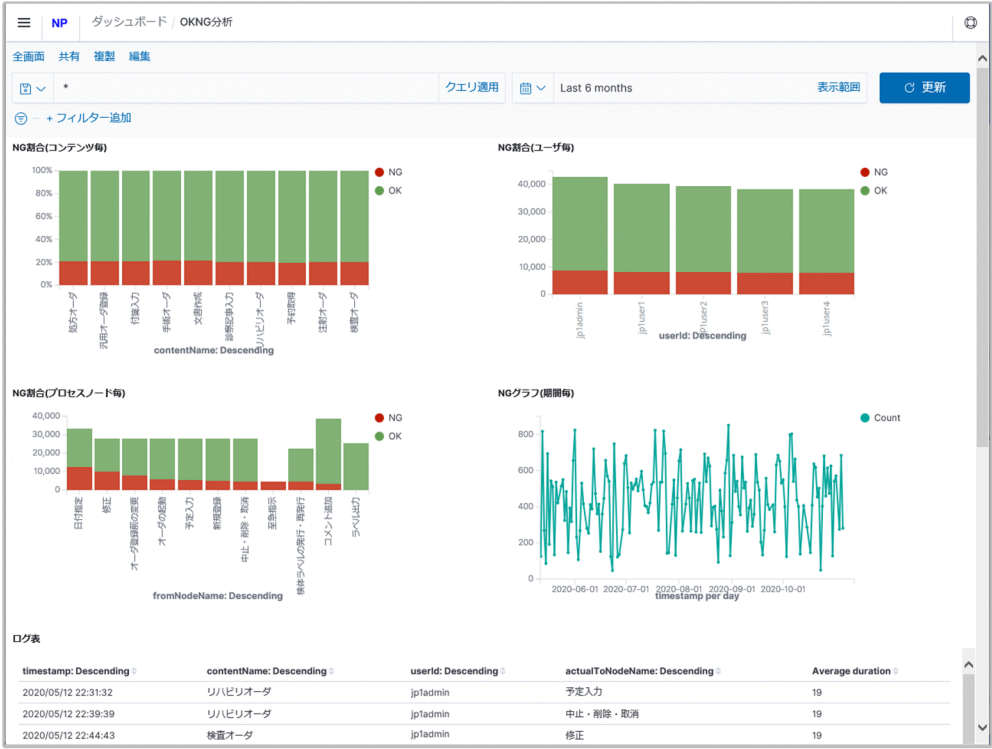
分析に利用したすべての操作ログを閲覧する場合に選択します。

表示内容については「[6.10.7 操作ログ閲覧画面](#)」を参照してください。

6.10.3 OKNG 分析画面

OKNG 分析画面を次に示します。

図 6-13 OKNG 分析画面



OKNG 分析画面の表示内容について説明します。

(1) NG 割合(コンテンツ毎)

縦軸に操作ログのエラーフラグの OK と NG の個数の割合，横軸にコンテンツ名を表しています。

!

重要

NG の個数には，OK 以外のすべてのエラーフラグの値（WARNING，CANCEL）が含まれています。

(2) NG 割合(ユーザ毎)

縦軸に操作ログのエラーフラグの OK と NG の個数の割合，横軸にユーザ ID を表しています。

!

重要

NG の個数には，OK 以外のすべてのエラーフラグの値（WARNING，CANCEL）が含まれています。

(3) NG 割合(プロセスノード毎)

縦軸に操作ログのエラーフラグの OK と NG の個数の割合，横軸にプロセスノード名を表しています。なお，プロセスノード名が同じであればプロセスノードを含むコンテンツ名が異なっても同じものとして分類し，表示します。

❗ 重要

NG の個数には，OK 以外のすべてのエラーフラグの値（WARNING，CANCEL）が含まれています。

(4) NG グラフ(期間毎)

縦軸に操作ログのエラーフラグの NG の個数，横軸に期間を表しています。

❗ 重要

NG の個数には，OK 以外のすべてのエラーフラグの値（WARNING，CANCEL）が含まれています。

6.10.4 コンテンツ利用回数分析画面

コンテンツ利用回数分析画面を次に示します。

三

NP

ダッシュボード / コンテンツ利用回数分析

全画面

共有

複製

編集

📄

▼

*

クエリ適用

📅

▼

Last 6 months

表示範囲

🔄

更新

🔍

+ フィルター追加

コンテンツ利用回数グラフ(コンテンツ毎)

1,000

800

600

400

200

0

● Count

汎用オーダ登録

処方オーダ

予約取極

付箋入力

注射オーダ

注配オーダ

リハビリオーダ

contentName: Descending

1,200

1,000

800

600

400

200

0

● 汎用オーダ登録

● 処方オーダ

● 予約取極

● 付箋入力

● 注射オーダ

● 注配オーダ

● リハビリオーダ

● 文書作成

● 診療記事入力

● 手術オーダ

● 画像生理オーダ

userid: Descending

コンテンツ利用回数グラフ(期間毎)

140

120

100

80

60

40

20

0

● Count

2020-05-01

2020-06-01

2020-07-01

2020-08-01

2020-09-01

2020-10-01

2020-11-01

timestamp per day

ログ表

timestamp: Descending

contentName: Descending

userid: Descending

actualToNodeName: Descending

Average duration

2020/05/12 22:31:32

リハビリオーダ

jp1admin

予定入力

19

2020/05/12 22:39:39

リハビリオーダ

jp1admin

中止・削除・取消

19

2020/05/12 22:44:43

検査オーダ

jp1admin

修正

19

(1) コンテンツ利用回数グラフ(コンテンツ毎)

(2) コンテンツ利用回数グラフ(ユーザ毎)

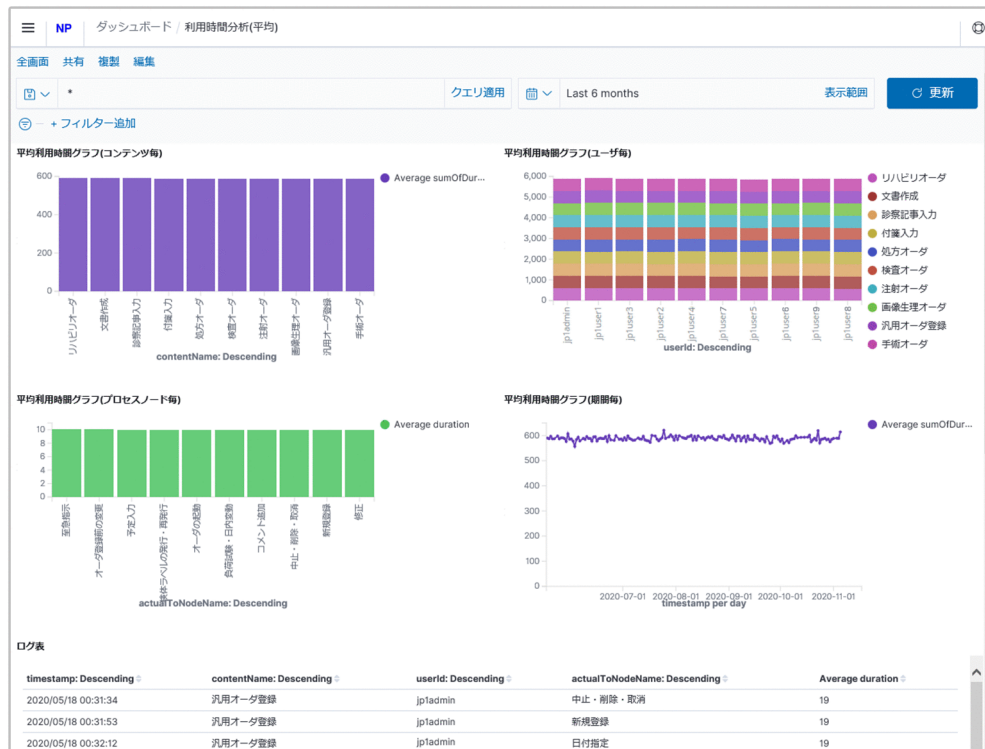
(3) コンテンツ利用回数グラフ(期間毎)

(4) ログ表

6.10.5 利用時間分析 (平均) 画面

298

図 6-15 利用時間分析 (平均) 画面



利用時間分析（平均）画面の表示内容について説明します。

(1) 平均利用時間グラフ(コンテンツ毎)

縦軸にコンテンツ利用時間の平均値、横軸にコンテンツ名を表しています。コンテンツ利用時間の平均値は、経過時間の合計値をコンテンツごとに分類し、各コンテンツ実行回数で除算した値です。

(2) 平均利用時間グラフ(ユーザ毎)

縦軸にコンテンツ利用時間の平均値、横軸にユーザ ID を表しています。

また、ユーザごとに分類したコンテンツ利用時間の平均値を、さらにコンテンツ名で分類し、色分けをして表示します。

(3) 平均利用時間グラフ(プロセスノード毎)

縦軸にコンテンツ利用時間の平均値、横軸にプロセスノード名を表しています。なお、プロセスノード名が同じであればプロセスノードを含むコンテンツ名が異なっても同じものとして分類し、表示します。

(4) 平均利用時間グラフ(期間毎)

縦軸にコンテンツ利用時間の平均値、横軸に期間を表しています。

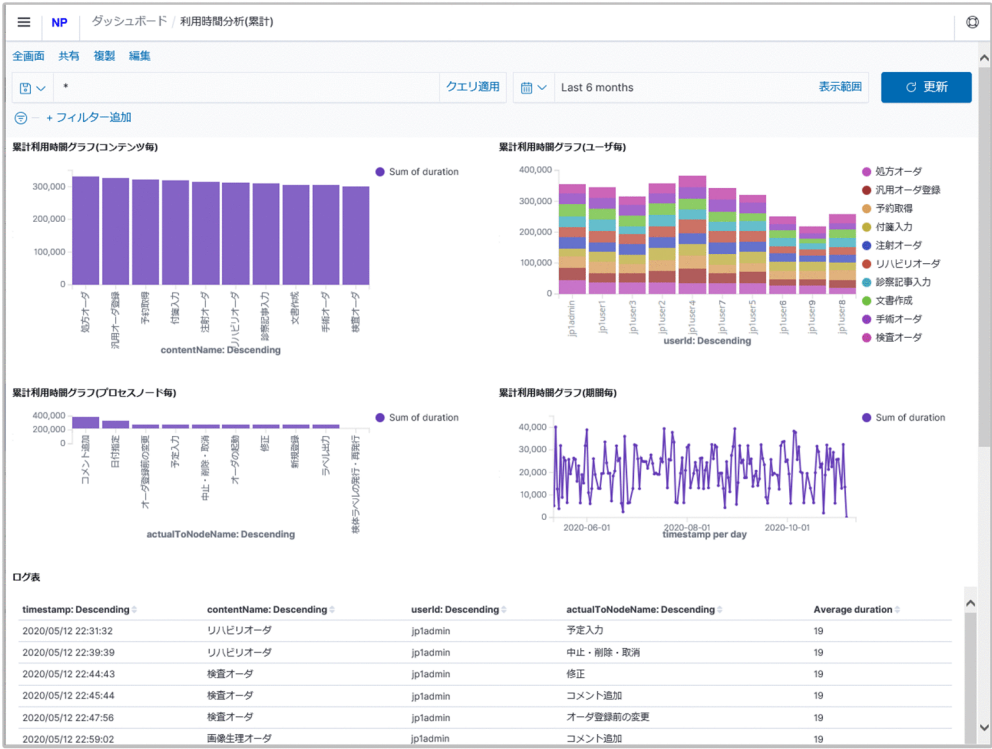
(5) ログ表

表示している操作ログの一覧を表しています。

6.10.6 利用時間分析（累計）画面

利用時間分析（累計）画面を次に示します。

図 6-16 利用時間分析（累計）画面



利用時間分析（累計）画面の表示内容について説明します。

(1) 累計利用時間グラフ(コンテンツ毎)

縦軸にコンテンツ利用時間の合計値、横軸にコンテンツ名を表しています。コンテンツ利用時間の合計値は、経過時間の合計値をコンテンツごとに分類した値です。

(2) 累計利用時間グラフ(ユーザ毎)

縦軸にコンテンツ利用時間の合計値、横軸にユーザ ID を表しています。

また、ユーザごとに分類したコンテンツ利用時間の合計値を、さらにコンテンツ名で分類し、色分けをして表示します。

(3) 累計利用時間グラフ(プロセスノード毎)

縦軸にコンテンツ利用時間の合計値、横軸にプロセスノード名を表しています。なお、プロセスノード名が同じであればプロセスノードを含むコンテンツ名が異なっても同じものとして分類し、表示します。

(4) 累計利用時間グラフ(期間毎)

縦軸にコンテンツ利用時間の合計値、横軸に期間を表しています。

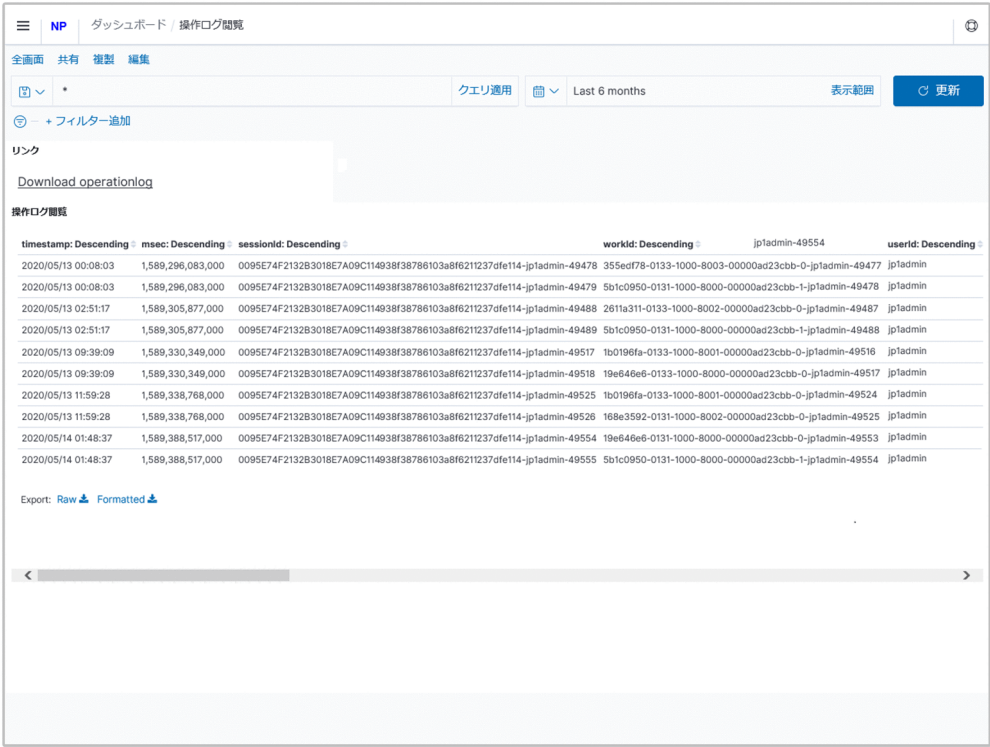
(5) ログ表

表示している操作ログの一覧を表しています。

6.10.7 操作ログ閲覧画面

操作ログ閲覧画面を次に示します。

図 6-17 操作ログ閲覧画面



操作ログ閲覧画面の表示内容について説明します。

(1) リンク

「Download operationlog」リンクをクリックすると、操作ログが zip 形式でダウンロードできます。

メモ

ダウンロードできるデータは、npuploadoplog（操作ログのアップロード）コマンドを使ってアップロードされた zip 形式のファイルです。

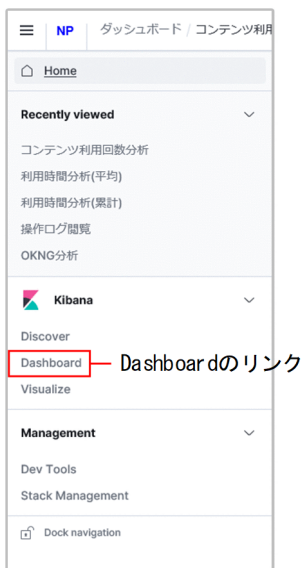
(2) 操作ログ閲覧

最新の履歴（タイムスタンプ）から 100 件分の操作ログを表示します。表示する内容は、操作ログに含まれるすべての値です。

6.10.8 ダッシュボード画面で共通する操作

(1) ダッシュボード選択画面の表示

図 6-18 「Dashboard」のリンク



画面左上に配置してあるメニューアイコンをクリック後、「Dashboard」のリンクをクリックすると、ダッシュボード選択画面に遷移します。

(2) 表示対象範囲の選択

解析結果の表示対象範囲は、画面右上に配置してある「表示範囲」のリンクをクリックして表示される画面で選択します。

図 6-19 「表示範囲」のリンク



画面右上に配置してある「表示範囲」のリンクをクリックすると、表示対象範囲選択画面を表示します。

表示対象範囲の開始と終了は、それぞれ次の3つのリンクのどれかを選択して表示される画面で指定できます。表示対象範囲の開始と終了を指定して[更新] ボタンをクリックすると、指定した表示対象範囲の解析結果を再生成して、ダッシュボード画面に表示します。

- 「Absolute」リンク
- 「Relative」リンク
- 「Now」リンク

デフォルトでは、表示対象範囲の開始は「Relative」リンクの「6 Months ago」、表示対象範囲の終了は「Now」リンクが指定された状態です。

また、表示対象範囲の終了には、現在日時以前の日時を指定できます。

(a) 「Absolute」リンクから表示対象範囲を指定する

「Absolute」リンクを選択して表示される画面で、表示対象範囲の開始または終了に、絶対的な日時を指定できます。

図 6-20 「Absolute」リンクを選択したあとに表示される画面

2020/04/01 12:00:00 → now

Absolute Relative Now

< April 2020 >

SU	MO	TU	WE	TH	FR	SA	
			1	2	3	4	03:30
							04:00
29	30	31					04:30
	5	6	7	8	9	10	05:00
	12	13	14	15	16	17	05:30
	19	20	21	22	23	24	06:00
	26	27	28	29	30	1	06:30
						2	07:00
							07:30

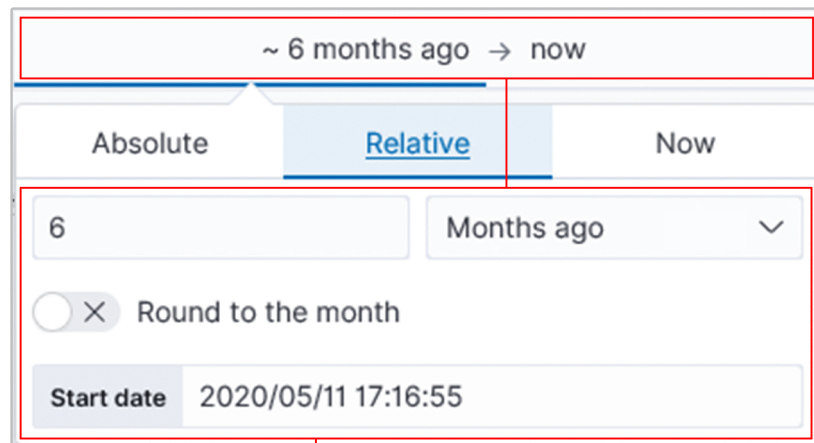
Start date 2020/04/01 12:00:00

表示開始日時および終了日時を指定するエリア

(b) 「Relative」 リンクから表示対象範囲を指定する

「Relative」リンクを選択して表示される画面で、表示対象範囲の開始または終了に、現時点からの相対指定の日時を指定できます。「Round to the month」を有効にすると、指定した月の最初の日を指定できます。

図 6-21 「Relative」リンクを選択したあとに表示される画面

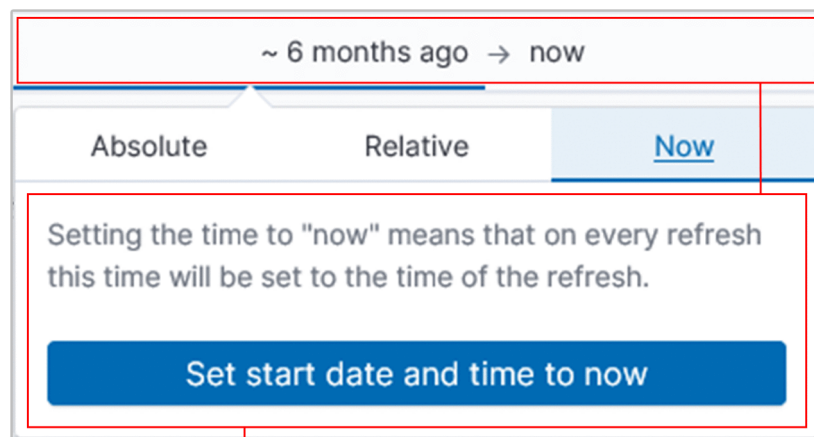


表示開始時間および終了時間を指定するエリア

(c) 「Now」リンクから表示対象範囲を指定する

「Now」リンクを選択して表示される画面で、「Set start date and time to now」または「Set end date and time to now」をクリックすると、表示対象範囲の開始または終了に、現在日時を指定できます。

図 6-22 「Now」リンクを選択したあとに表示される画面



表示開始日時および終了日時を指定するエリア

表示開始日時および終了日時を絶対時間で指定し、[Go] ボタンをクリックすると、指定した表示対象範囲の解析結果を再生成して、ダッシュボード画面に表示します。

(3) 解析データのフィルタリング

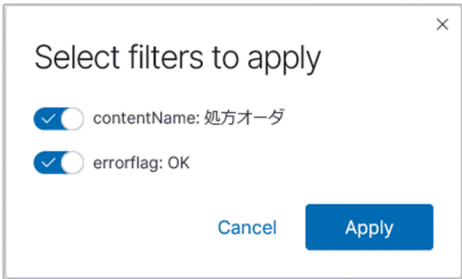
ダッシュボード画面に表示されている解析結果は、フィルタリングできます。

(a) フィルタの設定

グラフ上でマウスをクリックした場合は、横軸または縦軸（色分けされているとき）の値でフィルタを設定します。

縦軸が色分けされているときは、横軸と縦軸のどの値にフィルタを設定するかを選択する次の画面が表示されます。フィルタを設定する値をチェックし、[Apply] ボタンをクリックすると、チェックした値にフィルタが設定されます。[Cancel] リンクをクリックすると、フィルタは設定されません。

図 6-23 フィルタ選択画面の表示例



表のセルの上にマウスオーバーすると、右側にフィルタ追加アイコンが表示されます。

図 6-24 フィルタ追加アイコンの表示例



フィルタ追加アイコンをクリックすると、クリックしたセルの値でフィルタを設定します。

(b) フィルタの操作

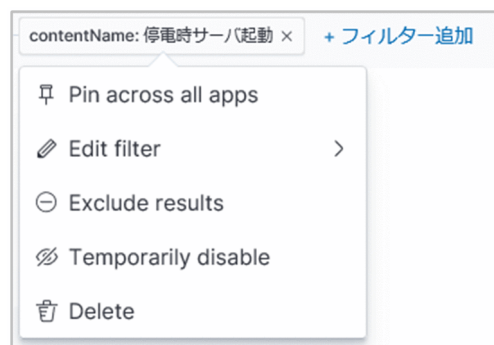
フィルタ設定時は、画面上部に設定フィルタが表示されます。

図 6-25 フィルタ設定時に表示される設定フィルタの例



フィルタ上にマウスを移動させると、フィルタの設定を変更できるアクションが表示されます。

図 6-26 マウスオーバー時に表示されるアクション



- 「Pin across all apps」

クリックすると、ダッシュボード選択画面で選択できるすべてのダッシュボード画面で有効になるフィルタの状態を有効に切り替えて、ダッシュボード画面を再表示します。有効に切り替えると、アクションのラベル表示が「Unpin」に変わります。

- 「Exclude results」

クリックすると、フィルタの条件を反転するかどうかの状態を有効に切り替えて、ダッシュボード画面を再表示します。有効に切り替えると、アクションのラベル表示が「Include results」に変わります。

- 「Temporarily disable」

クリックすると、フィルタの有効と無効を有効に切り替えて、ダッシュボード画面を再表示します。有効に切り替えると、アクションのラベル表示が「Re-enable」に変わります。

- 「Delete」

クリックすると、フィルタを削除します。

❗ 重要

- フィルタを複数設定することで、上部のフィルタ表示領域が2行になると、画面が乱れることがあります。この場合は、1行で収まるようにフィルタ数を調節してください。
- フィルタを複数設定すると、ブラウザのURLの長さ制限によってエラーになることがあります。この場合は、URLの長さ制限にかからない程度にフィルタ数を調節してください。

(4) グラフの操作

横軸が経過時間（タイムスタンプ）を表しているグラフ上でマウスをドラッグすると、ドラッグ開始から終了までの期間を表示範囲として指定した形で解析結果を再生成して、ダッシュボード画面に表示します。

(5) 表の操作

(a) ソート

表先頭行のソートアイコンをクリックすると、該当カラムで昇順にソートします。すでにソートが指定されている場合は、ソートの昇順と降順を切り替えます。

図 6-27 ソートアイコン

timestamp: Descending
2018/12/27 14:40:56
2018/12/27 14:42:48
2018/12/27 14:40:42

ソートアイコン

(b) ダウンロード

表の左下にある「Raw」または「Formatted」のリンクをクリックすると、表のデータをダウンロードできます。

図 6-28 ダウンロード用のリンク

2018/12/27 11:31:55
2018/12/27 11:32:00
Export: Raw Formatted

「Formatted」のリンク
「Raw」のリンク

- 「Raw」のリンク
リンクをクリックすると、元となった操作ログに記載されている内容が CSV 形式でダウンロードできます。
- 「Formatted」のリンク
リンクをクリックすると、timestamp 列の値を日時に変換し、msec 列の値を 3 桁ごとに区切った形に変換した内容が CSV 形式でダウンロードできます。

(例) timestamp 列の変換後の値

2019/01/12△13:47:37

(凡例) △：半角スペース

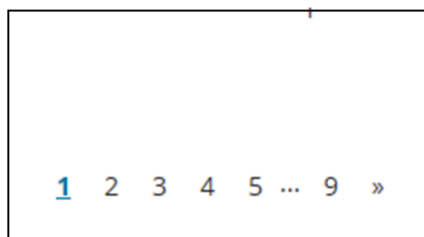
(例) msec 列の変換後の値

1.484.196.457.903

(c) ページ移動

表の行が一画面に入らない場合は、表の右下に表示されるページャーの数字をクリックすることで、ページごとに表示することができます。

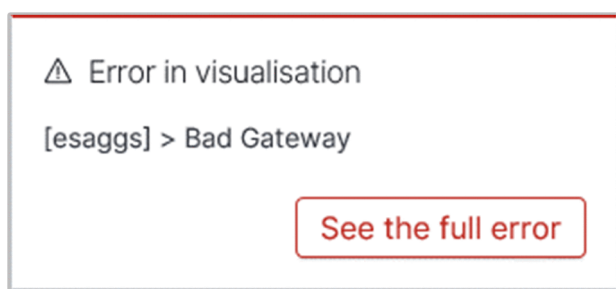
図 6-29 ページャーの表示例



6.10.9 ダッシュボード画面にエラーが表示されたときの対処

ダッシュボード画面上にエラーが表示された場合の対処方法を説明します。

図 6-30 エラーが表示された画面の例



(1) 「Bad Gateway」というメッセージが表示された場合の対処

このメッセージが表示された場合、ダッシュボードサーバとの通信に失敗、または致命的なエラーが発生しているおそれがあります。この場合、ダッシュボードサーバの再起動が必要です。ダッシュボードサーバの再起動は、システム管理者に依頼してください。

(2) 「Data too large」というメッセージが表示された場合の対処

このメッセージが表示された場合、ダッシュボード機能のストレージのメモリ容量が不足しているおそれがあります。この場合、ダッシュボード機能を利用するときのメモリ容量を見直して、ダッシュボードサーバのストレージサービスで必要なメモリ容量の設定を変更してください。

ダッシュボード機能を利用するときのメモリ容量の見積もりと、ダッシュボードサーバのストレージサービスで必要なメモリ容量の設定を変更する手順については、マニュアル「ナビゲーション プラットフォーム 導入から運用まで」を参照してください。

(3) 「Authentication Exception」というメッセージが表示された場合の対処

このメッセージが表示された場合、ダッシュボード画面を表示したあとで、セッションがタイムアウトしています。この場合、ナビゲーション プラットフォームのログイン画面にアクセスし、ログインし直してから再度ダッシュボード画面にアクセスしてください。

(4) 「Kibana did not load properly. Check the server output for more information.」 というメッセージが表示された場合の対処

このメッセージが表示された場合、ダッシュボード画面を表示する際に、ログイン中のセッションが無効になっています。この場合、ナビゲーション プラットフォームのログイン画面にアクセスし、ログインし直してから再度ダッシュボード画面にアクセスしてください。

6.10.10 ダッシュボード画面を操作してもしばらく応答がないときの対処

次に示す要因が考えられるため、それぞれの要因に合わせた対処をしてください。

要因 1

セッションがタイムアウトしているおそれがあります。

対処

ナビゲーション プラットフォームのログイン画面にアクセスし、ログインし直してください。

要因 2

ダッシュボードサーバが停止しているおそれがあります。

対処

ダッシュボードサーバを起動してください。

6.10.11 ダッシュボード画面を表示できないときの HTTP ステータスコードと対処

ダッシュボード画面を表示できない場合に返却される HTTP ステータスコードと対処方法を説明します。

(1) 「502 Bad Gateway」 というステータスコードが返却された場合の対処

このステータスコードが返却された場合、ナビゲーション プラットフォームは起動していますが、ダッシュボードサーバが起動していません。この場合、ダッシュボードサーバを起動してください。

ダッシュボードサーバのサービスを自動起動にしている場合は、しばらく待ってからアクセスしてください。

(2) 「403 Forbidden」 というステータスコードが返却された場合の対処

このステータスコードが返却された場合、ダッシュボード画面にアクセスしたユーザのユーザー ID が、ダッシュボード画面へのアクセスを許可するユーザ ID の一覧に含まれていません。この場合、ダッシュボード画面へのアクセスを許可するユーザ ID の一覧を設定するユーザプロパティファイル (ucnp_user.properties) の ucnp.base.server.dashboard.auth.userids プロパティの設定内容を見直してください。

(3) 「401 Unauthorized」 というステータスコードが返却された場合の対処

このステータスコードが返却された場合、ナビゲーション プラットフォームにログインしていない状態、またはセッションがタイムアウトした状態で、ダッシュボード画面にアクセスしています。この場合、ナビゲーション プラットフォームのログイン画面にアクセスし、ログインし直してから再度ダッシュボード画面にアクセスしてください。

6.11 過去に公開した業務コンテンツを表示する

1. 業務編集画面のメニュー領域で、過去の内容を表示したい業務コンテンツの ▼（バージョンツリー領域折りたたみボタン）をクリックします。

（[公開中] アイコン）がついている版は、現在公開中の業務コンテンツです。それより下に表示されている版が、過去に公開されていた業務コンテンツです。

2. 過去に公開されていた業務コンテンツをクリックします。

業務コンテンツの内容が表示されます。

6.12 業務コンテンツのコメントおよび公開日時を確認する

1. 業務編集画面のメニュー領域で、コメントおよび公開日時を確認したい業務コンテンツのチェックボックスをチェックします。
2. メニュー領域から、[版の詳細] メニューを選択します。
[版の詳細] 画面が表示され、業務コンテンツに設定されたコメントや版の公開日時などを確認できます。

6.12.1 [版の詳細] 画面の項目

[版の詳細] 画面を次に示します。

図 6-31 [版の詳細] 画面

版の詳細

業務コンテンツの名称: [sample05]手動セキュリティパッチ適用
公開状態: 非公開
公開予約状態: 公開開始待ち
コメント: フロー構成の見直し。

編集版:

編集者	更新日時	公開日時
user1	2015/07/08 10:53:40	-

公開済みの版:

編集者	更新日時	公開日時
user1	2015/07/08 10:52:50	2015/07/08 10:52:56
user1	2015/07/08 10:52:36	2015/07/08 10:52:41
user1	2014/06/27 17:28:09	2014/07/08 16:19:05

閉じる

[版の詳細] 画面の各項目について説明します。

(1) [コメント] テキストエリア

業務コンテンツに設定されたコメントが表示されます。

(2) 編集版の情報表示領域

編集版を編集しているユーザ名、および更新日時が表示されます。公開日時は常にハイフンで表示されます。編集版が存在しない場合は、この領域は表示されません。

(3) 公開済みの版の情報表示領域

公開済みの版を編集したユーザ名，更新日時，および公開日時が表示されます。公開済みの版が存在しない場合は，この領域は表示されません。

(4) 〔閉じる〕 ボタン

クリックすると，〔版の詳細〕 画面が閉じます。

6.13 業務コンテンツを比較して変更点を表示する方法について

業務コンテンツを比較した変更点の表示は、コンテンツ管理者、コンテンツ作成者（JP1/Base によるユーザ認証を使用する場合）、またはコンテンツ編集者の権限を持つユーザが行います。業務コンテンツの変更点は、差分表示画面で確認できます。

差分表示画面の活用例を次に示します。

業務コンテンツの変更内容が正しいか確認する

- コンテンツ作成者またはコンテンツ編集者の場合
業務コンテンツの編集を完了する前に、編集前と編集後の変更点を確認し、意図どおりに編集できているか、必要な情報を誤って削除していないかなどをチェックできます。
- コンテンツ管理者の場合
業務コンテンツを公開する前に、今回公開しようとしている版と現在公開されている版との変更点を確認し、公開する内容として問題ないかをチェックできます。

公開済みの業務コンテンツの変更履歴を確認する

差分表示画面では、現在公開されている版と、以前公開されていた版との変更点が、赤枠やテキストで表示されます。業務フローのノードの増減や、ガイド領域の説明の変更など、変更個所が具体的に確認できます。

差分表示画面では、任意の版を選択して差分を表示することはできません。差分表示画面で変更点を比較できる版の組み合わせを次に示します。

表 6-2 変更点の比較時に業務編集画面で表示している版と、その比較対象となる版

業務編集画面で表示している版	比較対象となる版
編集中のためロックされている版	編集開始時の版
編集完了によってロックが解除され、かつ公開前の版	最新の公開済みの版
公開済みの版	業務編集画面で表示している版の一つ前に公開された版

❗ 重要

- 最新の公開版しかないなど、比較対象となる版が存在しない場合、差分表示画面は表示できません。
- 差分表示画面では、パーツの正しい動作については保証されません。パーツの動作は、プレビューで確認してください。
- 業務コンテンツで固定テキストパーツや画像パーツなどを重ねて表示している場合、前面にあるパーツによって、背面のパーツの差分情報が隠れて見えなくなることがあります。

6.13.1 業務コンテンツを比較して変更点を表示する

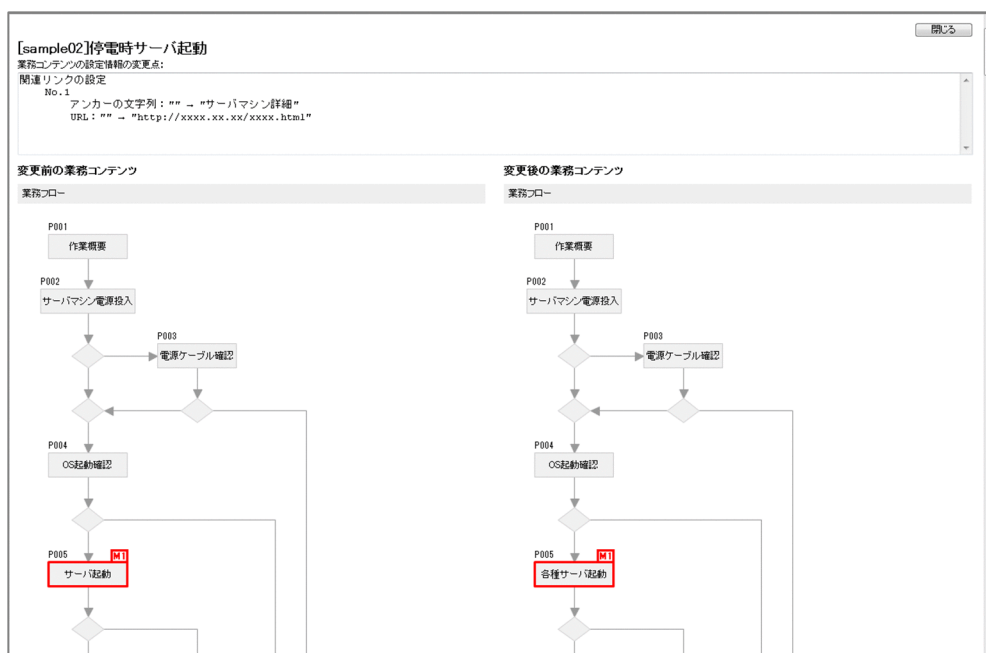
1. 業務編集画面のメニュー領域で、変更点を表示したい業務コンテンツをクリックして表示します。
2. ツールバーの  差分 （[差分] ボタン） をクリックします。

差分表示画面が別ウィンドウで開きます。

6.13.2 差分表示画面の項目

差分表示画面を次に示します。

図 6-32 差分表示画面



赤枠で囲まれた部分が、業務コンテンツの変更点です。関連リンクの設定や「次へ」ボタンの高さなど、赤枠で示せない変更点は、テキストで表示されます。赤枠のアルファベットは、パーツがどのように変更されたかを表します。

- ・ A：追加されたパーツを表します。
- ・ D：削除されたパーツを表します。
- ・ M：変更されたパーツを表します。

差分表示画面の各項目について説明します。

(1) タイトル

[sample02]停電時サーバ起動

業務コンテンツの設定情報の変更点:
関連リンクの設定
No.1
アンカーの文字列: "" → "サーバマシン詳細"
URL: "" → "http://xxxx.xx.xx/xxxx.html"

業務名

変更点を表示する業務コンテンツの名称です。

業務コンテンツの設定情報の変更点

「業務コンテンツの設定」画面での設定の変更点が表示されます。

(2) 業務フロー領域



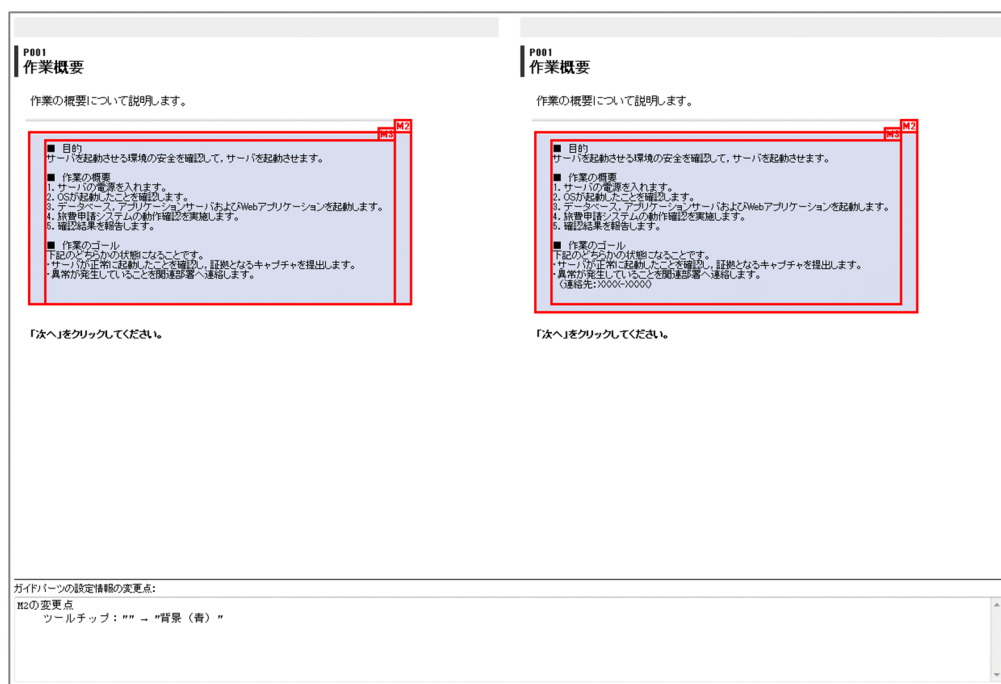
業務フロー

ノードの増減やノードの位置の移動など、業務フローの変更点が表示されます。

フローパーツの設定情報の変更点

プロセスノードの名称や、[次へ] ボタンや[戻る] ボタンの名称など、業務フローの変更点が表示できません。変更点がテキストで表示されます。

(3) ガイド領域



ガイド領域

テキストパーツのテキストの変更や、画像パーツの位置の移動など、ガイド領域の変更点が赤枠で表示されます。

ガイドパーツの設定情報の変更点

画像パーツのツールチップや、チェックボックスのチェックを必須にするかどうかの設定など、ガイド領域の赤枠で表示できない変更点がテキストで表示されます。

(4) [閉じる] ボタン

クリックすると、差分表示画面が閉じます。

7

業務コンテンツ作成時に知っておくと便利な操作や設定

この章では、一括操作や表示の切り替えなど、効率的に業務コンテンツを作成するために役立つ操作や設定について説明します。

7.1 複数選択

複数選択する手順や複数選択したあとの一括処理について説明します。

7.1.1 複数選択について

業務コンテンツ、ノード、パーツ、関連線、およびマッピング線が複数ある場合、それらを同時に選択できます。複数選択した状態でコピーや削除などの操作を実行すると、一括して処理できるため、効率的です。

7.1.2 複数の業務コンテンツを選択する

複数の業務コンテンツを選択するには、メニュー領域の業務コンテンツ名の左側にあるチェックボックスをチェックしてください。グループが表示されている場合は、グループ名の左側にあるチェックボックスをチェックすることで、そのグループに所属する業務コンテンツを一度に選択できます。

7.1.3 複数のノード、パーツ、関連線、マッピング線を選択する

ナビゲーション プラットフォームの業務コンテンツを構成している次の部品は、複数選択できます。

- 同じ領域にあるノード、パーツ、および関連線
- 同じ領域にあるパーツおよびマッピング線

複数の部品を選択するには、< Shift > キーを押しながら一つずつ選択するか、矩形選択してください。

7.1.4 一括処理ができる操作

複数選択した業務コンテンツ、ノード、パーツ、関連線、およびマッピング線に対して一括処理ができる操作を次に示します。

(1) 複数の業務コンテンツに対して実行できる操作

- コピー（複製）
- 削除
- グループ変更
- ID 取得
- 公開
- 非公開

- ロック解除

(2) 複数のノード、パーツ、関連線に対して実行できる操作

- コピー（複製）※1
- 削除
- 貼り付け※1
- サイズ変更※2

※1

関連線を複数選択してコピーまたは貼り付けできるのは、接続元・接続先のノードと同時に選択した場合だけです。削除の操作については、関連線だけを複数選択しても実行できます。

※2

サイズ変更ができるのはノードおよびパーツだけです。関連線の線の太さやポイント部分の大きさは変更できません。

(3) 複数のマッピング線に対して実行できる操作

複数選択したマッピング線に対して一括処理ができる操作は、削除だけです。

7.1.5 一括処理ができない操作

次に示す操作は、操作対象を複数選択しても一括で処理できません。

- 業務コンテンツの名称変更
- ノードまたはパーツの属性の設定
- 関連線だけのコピー、貼り付け
- アクセス権グループまたは JP1 資源グループの設定
- 業務コンテンツの設定
- 版の詳細の参照

7.2 ノード、パーツ、関連線の表示順序の変更

ノード、パーツ、関連線の表示順序を変更するには、[属性の設定] 画面の [前面／背面の並び順] テキストボックスで並び順を設定します。表示順序の変更について説明します。

7.2.1 ノード、パーツを最前面に表示する

1. 最前面に表示させたいノード、パーツをダブルクリックします。
[属性の設定] 画面が表示されます。
2. [属性の設定] 画面の [前面／背面の並び順] テキストボックスに「1」を入力して更新します。
3. ほかのノードやフローパーツをダブルクリックします。
4. [属性の設定] 画面の [前面／背面の並び順] テキストボックスに「1」よりも大きい値を入力して更新します。

7.2.2 ノード、パーツを最背面に表示する

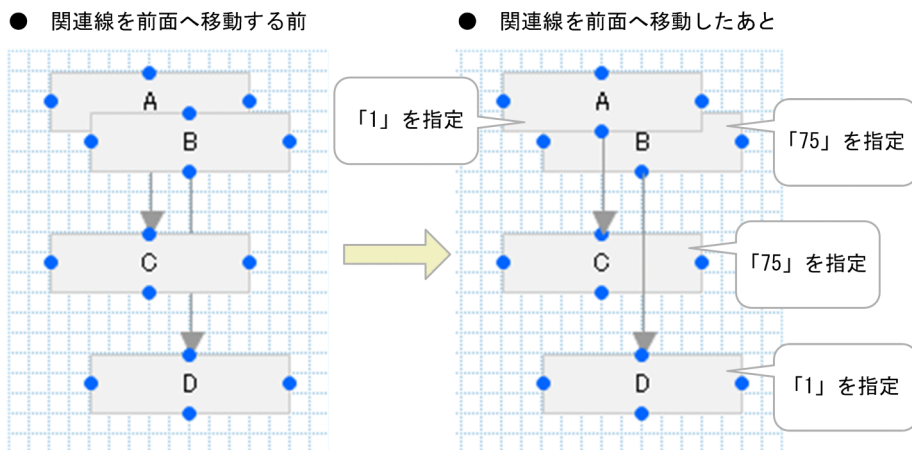
1. 最背面に表示させたいノード、パーツをダブルクリックします。
[属性の設定] 画面が表示されます。
2. [属性の設定] 画面の [前面／背面の並び順] テキストボックスに「100」を入力して更新します。
3. ほかのノードやフローパーツをダブルクリックします。
4. [属性の設定] 画面の [前面／背面の並び順] テキストボックスに「100」よりも小さい値を入力して更新します。

7.2.3 関連線を最前面に表示する

ノードを重ねて配置するなど、複雑な業務フローを作成する場合、関連線がどのノードと接続されているのかわかりにくいことがあります。このとき、関連線よりも背面へ移動したいノードやフローパーツの [属性の設定] 画面で [前面／背面の並び順] テキストボックスの指定値を 71 以上にすると、関連線が前面へ移動します。

次の図を例に取って、関連線を最前面に表示する手順を説明します。

図 7-1 関連線を最前面へ移動する例



1. ノード A・ノード C の関連線をノード B よりも前面へ移動するために、ノード B の [属性の設定] 画面で [前面／背面の並び順] テキストボックスに「75」を指定します。
2. ノード B・ノード D の関連線をノード C よりも前面へ移動するために、ノード C の [属性の設定] 画面で [前面／背面の並び順] テキストボックスに「75」を指定します。

7.2.4 最前面に表示できないパーツ

画像パーツは、画像パーツ以外のパーツやノードよりも常に背面に表示されます。画像パーツ以外のパーツやノードを、画像パーツよりも背面へ移動することはできません。

画像パーツの [属性の設定] 画面の [前面／背面の並び順] テキストボックスで指定した並び順は、画像パーツ同士の並び順となります。

7.3 業務コンテンツ ID, ノード ID, ガイドパーツ ID の確認

業務コンテンツ ID, ノード ID, およびガイドパーツ ID を確認する手順について説明します。

7.3.1 業務コンテンツ ID, ノード ID, ガイドパーツ ID とは

業務コンテンツ, ノード, およびパーツには, それぞれ作成時に固有の ID が自動で割り当てられます。ノード ID およびガイドパーツ ID は, [属性の設定] 画面で変更できますが, 業務コンテンツ ID は固定です。

業務コンテンツ ID は, 特定の業務コンテンツを直接表示したい場合などに必要になります。また, 業務コンテンツの実行履歴を分析するための操作ログでは, 業務コンテンツ ID とノード ID が利用されています。親子ドロップダウンを利用する場合, ガイドパーツ ID は必須です。

なお, 同じ領域にあるノードおよびガイドパーツの ID は必ず一意にしてください。

7.3.2 業務コンテンツ ID を確認する

1. 業務編集画面のメニュー領域で, ID を確認したい業務コンテンツのチェックボックスをチェックします。
2. [ID 取得] メニューをクリックします。
チェックボックスをチェックした業務コンテンツの業務コンテンツ ID がクリップボードにコピーされます。
3. テキストファイルなどにクリップボードの内容をペーストして, 取得した業務コンテンツ ID を確認します。

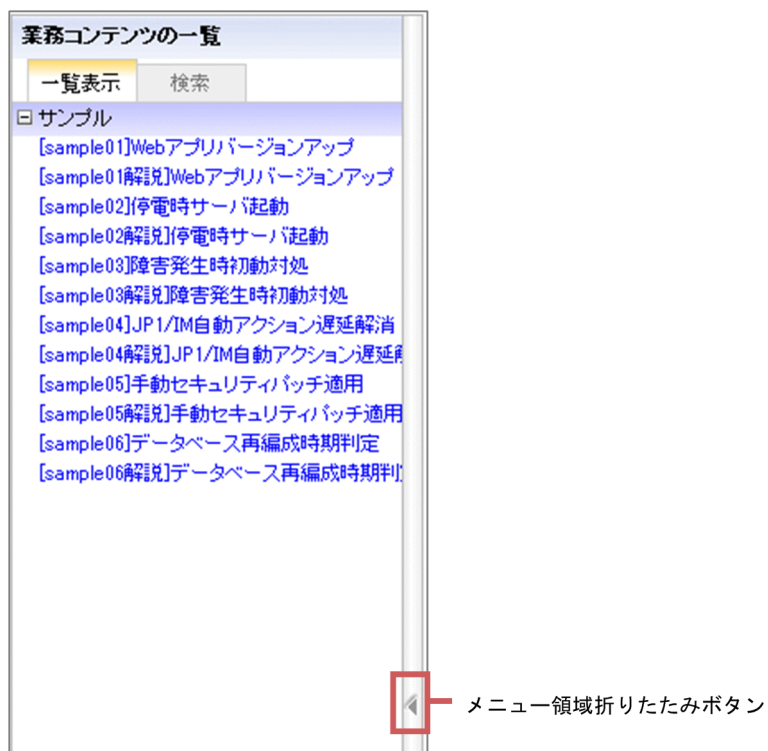
7.3.3 ノード ID, パーツ ID を確認する

1. ツールバーで  ID表示 ([ID 表示] ボタン) をクリックします。
配置したノードの左上にノード ID が表示されます。また, ID を持つガイドパーツを配置している場合は, ガイドパーツの左上にガイドパーツ ID が表示されます。
なお, ID を確認したいノードやパーツを選択する必要はありません。
2. ID を非表示の状態に戻す場合は,  ID表示 ([ID 非表示] ボタン) をクリックします。

7.4 メニュー領域の表示と非表示を切り替える

メニュー領域の右側にあるメニュー領域折りたたみボタンをクリックすると、メニュー領域の表示／非表示が切り替わります。

図 7-2 メニュー領域折りたたみボタンの表示例



7.5 業務フロー領域とガイド領域の幅を変更する

業務フロー領域とガイド領域の幅は、領域の間にあるバーをドラッグして調節できます。

7.6 マッピング線の表示と非表示を切り替える

ガイド領域をマッピングモードに切り替えた直後は、ガイドパーツから入力パラメタへのマッピング線と、出力パラメタからガイドパーツへのマッピング線の両方が表示されています。

これらのマッピング線の表示と非表示を切り替える手順を次に示します。

1. ガイド領域をマッピングモードに切り替えます。

ガイド領域にプラグインパーツが表示されます。

2. ツールバーの 入力/出力 （[入力/出力] ボタン）をクリックします。

ボタンをクリックするたびに、ボタンの表示とマッピング線の表示状態は次のとおり変わります。

- 入力/出力

ガイドパーツから入力パラメタへのマッピング線だけが表示されます。

- 入力/出力

出力パラメタからガイドパーツへのマッピング線だけが表示されます。

- 入力/出力

すべてのマッピング線が表示されます。

7.7 コピーしたノード、パーツをペーストする

業務フロー領域およびガイド領域のノードまたはパーツをコピー&ペーストできます。なお、関連線だけを選択して、コピー&ペーストする操作はできません。また、ガイド領域がマッピングモードの場合は、JavaScript プラグインパーツだけコピー&ペーストできます。

手順を次に示します。

1. 業務編集画面の業務フロー領域またはガイド領域で、目的のノードまたはパーツを選択します。
2. [コピー] ボタンをクリックします。
3. [貼り付け] ボタンをクリックします。

[コピー] ボタンでコピーしたノード、関連線、およびパーツが貼り付けられます。

次の場所に貼り付けることができます。

- コピー元と同じ業務フロー内での貼り付け
- コピー元と同じガイド内での貼り付け
- コピー元と同じ業務コンテンツのほかのガイドへの貼り付け
- コピー元と別の業務コンテンツへの貼り付け

業務フロー領域でコピーしたパーツをガイド領域へ貼り付けることはできません。

7.8 業務コンテンツ内の文字列を一括置換する

業務編集画面の〔置換〕画面で、業務コンテンツ内の置換の対象となるすべての設定項目の文字列を対象に、文字列の一括置換ができます。

〔置換〕画面を次に示します。

図 7-3 〔置換〕画面

業務編集画面の設定項目で、置換の対象となる項目については、マニュアル「ナビゲーション プラットフォーム 導入から運用まで」を参照してください。

業務コンテンツ内の文字列を対象に、文字列の一括置換を行う手順を次に示します。

1. ツールバーの〔置換〕ボタンをクリックします。
2. 〔置換〕画面で、〔置換前〕テキストボックスと〔置換後〕テキストボックスに、置換前と置換後の文字列を 256 文字以内で入力します。

次に示す文字は指定できません。

- 制御文字（ASCII コード上の 0x00～0x09, 0x0B, 0x0C, 0x0E～0x7F）

3. 〔置換〕画面の〔置換〕ボタンをクリックします。

業務コンテンツ内の置換の対象となる項目のすべての文字列を対象に、入力した内容で文字列の一括置換が行われ、置換件数と置換完了のメッセージ（KDCZ00345-I メッセージ）が表示されます。

なお、次の場合はエラーになり、文字列の一括置換は行われません。

- 置換前の文字列または置換後の文字列に、制御文字（ASCII コード上の 0x00～0x09, 0x0B, 0x0C, 0x0E～0x7F）が含まれている場合
- 置換前の文字列または置換後の文字列に、256 文字を超える文字列を指定した場合
- 置換前の文字列に、空文字を指定した場合

7.9 操作を取り消す

ツールバーで、[元に戻す] ボタンをクリックすると、直前に実行した操作が取り消されて、操作前の状態に戻ります。

7.10 取り消した操作をやり直す

ツールバーで、[やり直す] ボタンをクリックすると、[元に戻す] ボタンで取り消した操作がやり直されます。

付録

付録 A 各バージョンの変更内容

各バージョンのマニュアルの変更内容を示します。

付録 A.1 12-50 の変更内容

- 業務実行画面および業務編集画面で、業務コンテンツが所属するグループを階層化できるようにしました。また、業務編集画面で、複数の業務コンテンツのグループ名を同じグループに一括変更（グループ統合）できるようにしました。

これに伴い、次の説明を追加または変更しました。

- [業務コンテンツの追加] 画面および [業務コンテンツの複製] 画面の [所属するグループ名称] テキストボックスで指定するグループ名に「¥¥」が含まれる場合の扱い
- 業務実行画面および業務編集画面のメニュー領域の [一覧表示] タブでのグループ階層の表示方法
- 業務編集画面のメニュー領域の [グループ変更] メニューおよび [グループ統合] メニュー
- [業務コンテンツの設定] 画面の [実行方式の設定] タブ
- JP1/Base によるユーザ認証を使用する場合に、業務コンテンツに対して作成者のアクセス権を持つユーザとして、コンテンツ作成者（JP1 権限レベルが HNP_Creator のユーザ）を追加しました。
これに伴い、次の説明を追加または変更しました。
 - 業務コンテンツ作成から公開までの流れで実施するコンテンツ作成者の作業
 - コンテンツ作成者としてログインしている場合に、[業務コンテンツの追加] 画面および [業務コンテンツの複製] 画面で表示される JP1 資源グループ
 - コンテンツ作成者としてログインしている場合に、[資源の設定] 画面のチェックボックスで選択できる JP1 資源グループ
- チェックボックスパーツとラジオボタンパーツの [属性の設定] 画面に、表示文字列と値を改行コード（¥r¥n）で連結してキャッシュ値として格納するかどうかを指定するための [ラベル情報も格納] チェックボックスを追加しました。
- オフライン対応の業務コンテンツを作成し、オフライン環境で実行できるようにしました。また、JavaScript プラグインパーツにクライアントサイド JavaScript を記述できるようにしました。
これに伴い、次の説明を追加しました。
 - JavaScript プラグインパーツにクライアントサイド JavaScript を記述する場合の注意事項
 - [属性の設定] 画面（JavaScript プラグインパーツ）の [ブラウザで実行] チェックボックス
 - [属性の設定] 画面（JavaScript プラグインパーツ）の入力パラメタのデフォルト値の設定
 - JavaScript プラグインパーツでナビゲーション プラットフォームが提供する JavaScript API を使用する場合は、[属性の設定] 画面（JavaScript プラグインパーツ）の [ブラウザで実行] チェックボックスのチェックの有無に関する注意事項

- JavaScriptPluginManager (JavaScript プラグインマネージャクラス) の各メソッドに対する Web ブラウザ (クライアント側) で実行する JavaScript での使用可否
- getParam メソッドの戻り値の注意事項
- RestClient (REST 呼び出しクラス) のメソッドの注意事項
- JP1/AO サービス実行プラグインパーツで指定するプロパティ値に、改行 (¥n) とタブ (¥t) を使用できるようになりました。
これに伴い、次の説明を変更しました。
 - [属性の設定] 画面の [プロパティ値] テキストボックスで使用できない文字
 また、データ型が composite 形式のプロパティの使用不可に関する記載を削除しました。
- ダッシュボード画面にアクセスするマシンで使用できる Web ブラウザに、Google Chrome を追加しました。
また、Internet Explorer 11 のサポートに関する注意事項を追加しました。
- ダッシュボード画面のデザインやレイアウトを変更しました。また、次に示す仕様の変更を行いました。
 - ダッシュボード選択画面の左上に、ダッシュボード画面を構成する各画面に遷移するメニューを表示するメニューアイコンを追加しました。
 - グラフ上でマウスをクリックしたときに、横軸と縦軸 (色分けされているとき) の値でフィルタを設定するように変更しました。

付録 A.2 12-10 の変更内容

- 次の OS をサポートしました。
 - Microsoft(R) Windows Server(R) 2019
- 次の OS をサポートする OS から削除しました。
 - Microsoft(R) Windows Server(R) 2012
 - Microsoft(R) Windows(R) 7
- 次の Web ブラウザをサポートしました。
 - Google Chrome
- iPad 用にサポートする OS を iOS 12 から iPadOS に変更しました。
- Internet Explorer の操作に関する注意事項を追加しました。
- Mobile Safari を使用する場合の機能制限に関する説明を追加しました。
- 業務編集画面の [置換] 画面で、業務コンテンツ内の文字列の一括置換ができるようになりました。
- ダッシュボード機能を利用するユーザの管理方式を変更しました。
これに伴い、説明を変更または追加しました。

- ユーザプロパティファイル (ucnp_user.properties) に、ダッシュボード画面へのアクセスを許可するユーザ ID を設定する次のプロパティを追加しました。
 - ucnp.base.server.dashboard.auth.userids プロパティ
 - ダッシュボード画面へのアクセスが許可されているユーザの場合だけ、次のメニュー名が表示されるように仕様を変更しました
 - [操作ログのダッシュボード表示] メニュー
 - 業務編集画面のツールバーの説明に、[編集開始] ボタンをクリックしていない場合の注意事項を追加しました。
 - [属性の設定] 画面（ガイド領域の固定テキストパーツ）で指定する表示文字列の色を、カラーパレットで指定できるようになりました。
 - [属性の設定] 画面（ガイド領域の HTML パーツ）で指定する HTML ソース文字列中に、パラメタを埋め込めるようになりました。
 - JP1/AO URL 出力プラグインパーツでタスクの状態を確認する画面を表示する場合、タスク情報の表示項目の CSS スタイルをカスタマイズできるようになりました。
これに伴い、[属性の設定] 画面（JP1/AO URL 出力プラグインパーツ）に、カスタマイズする表示項目の CSS スタイルを指定するための [詳細画面用 CSS] テキストボックスを追加しました。
 - システムプラグインの入出力プラグインに関する説明を変更または追加しました。
 - 印刷画面の表示に関する注意事項を追加しました。
 - ダッシュボード画面のデザインやレイアウトを変更し、次の操作に関する仕様を変更しました。
 - 表示対象範囲の指定
 - フィルタの設定変更
- また、次の操作をサポートする操作から削除しました。
- 共有 URL の取得
- ダッシュボード画面に関する次の説明を追加しました。
 - ダッシュボード画面にエラーが表示されたときの対処
 - ダッシュボード画面を操作してもしばらく応答がないときの対処
 - ダッシュボード画面を表示できないときの HTTP ステータスコードと対処

付録 A.3 12-00 の変更内容

- JP1/Navigation Platform 12-00 から次の製品を廃止しました。
 - Hitachi Navigation Platform
 - Hitachi Navigation Platform for Developers
- 次の OS をサポートする OS から削除しました。

- Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 R2
- Windows(R) 8
- 次の Web ブラウザを、サポートする Web ブラウザから削除しました。
 - Windows(R) Internet Explorer(R) 8
 - Windows(R) Internet Explorer(R) 9
 - Windows(R) Internet Explorer(R) 10
- iOS のサポートバージョンを 10.3 から 12 に変更しました。
- 固定テキストパーツ（ガイド領域）で入力した文字列を、業務実行画面に表示するかどうかを指定できるようになりました。これに伴い、[属性の設定] 画面（ガイド領域の固定テキストパーツ）に [業務実行画面で表示] チェックボックスを追加しました。
- システムプラグインに、ユーザが記述した JavaScript をサーバ側で実行する JavaScript プラグインを追加しました。
また、JavaScript プラグインから使用できる API（JavaScript API）を追加しました。
- ラジオボタンパーツ、チェックボックスパーツ、またはハイパーリンクパーツを JP1/AO サービス実行プラグインパーツの入力パラメタにつないでいる場合に、ガイドパーツからプラグインパーツに受け渡される値の仕様を変更しました。
- ダッシュボード画面のデザインやレイアウトを変更しました。
- 次のリンクから指定する、表示開始時間と終了時間の説明を変更しました。
 - 「Relative」リンク
 - 「Absolute」リンク

付録 A.4 11-50 の変更内容

- iOS のサポートバージョンを 6.1 から 10.3 に変更しました。
- Mobile Safari の設定に関する注意事項の内容を変更しました。
- Mobile Safari の操作に関する注意事項を追加しました。
- [操作ログのダッシュボード表示] メニューを追加しました。
- [URL 設定] ボタンの説明を追加しました。これに伴い、次の項目の説明を変更しました。
 - [属性の設定] 画面（プロセスノード）の [画像 URL] テキストボックス
 - [属性の設定] 画面（業務フロー領域の画像パーツ）の [URL] テキストボックス
 - [属性の設定] 画面（ガイド領域の画像パーツ）の [URL] テキストボックス
- [ファイル管理／登録] ボタンの説明を追加しました。
- 業務コンテンツの操作ログをダッシュボード機能で解析する方法を追加しました。

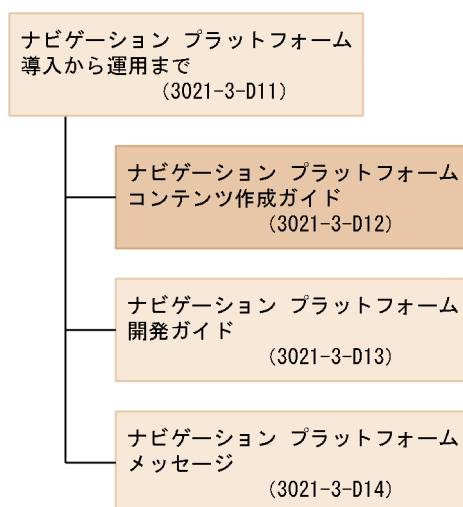
付録 B このマニュアルの参考情報

このマニュアルを読むに当たっての参考情報を示します。

付録 B.1 関連マニュアル

(1) ナビゲーション プラットフォームのマニュアル

ナビゲーション プラットフォームのマニュアルを次に示します。なお、このマニュアルの本文中では「JP1/Navigation Platform」を省略して表記しています。



- JP1/Navigation Platform ナビゲーション プラットフォーム 導入から運用まで (3021-3-D11)
ナビゲーション プラットフォームの概要、機能、構築、および運用について説明しています。
ナビゲーション プラットフォームの使用に当たっては、このマニュアルを最初にお読みください。
- JP1/Navigation Platform ナビゲーション プラットフォーム コンテンツ作成ガイド (3021-3-D12)
このマニュアルです。ナビゲーション プラットフォームを使用して業務コンテンツを作成、変更、削除したり、コンテンツのアクセス権を管理したりする方法について説明しています。
- JP1/Navigation Platform ナビゲーション プラットフォーム 開発ガイド (3021-3-D13)
ナビゲーション プラットフォームのプラグインおよびカスタム画面を開発する方法について説明しています。
- JP1/Navigation Platform ナビゲーション プラットフォーム メッセージ (3021-3-D14)
ナビゲーション プラットフォームを使用しているときに出力されるメッセージについて説明しています。

(2) 関連ソフトウェアのマニュアル

ナビゲーション プラットフォームの関連ソフトウェアのマニュアルを次に示します。なお、このマニュアルの本文中では「JP1 Version 10」, 「JP1 Version 11」, または「JP1 Version 12」を省略して表記して

います。ただし、使用する関連ソフトウェアのバージョンによって、参照先のマニュアルが異なる場合は、バージョン名も記載しています。

- JP1 Version 10 JP1/Integrated Management - Manager 構築ガイド (3021-3-008)
- JP1 Version 10 JP1/Integrated Management - Manager コマンド・定義ファイルリファレンス (3021-3-011)
- JP1 Version 10 JP1/Integrated Management - Service Support 操作ガイド (3021-3-019)
- JP1 Version 10 JP1/Automatic Operation 画面・コマンドリファレンス (3021-3-084)
- JP1 Version 11 JP1/Integrated Management - Manager 構築ガイド (3021-3-A08)
- JP1 Version 11 JP1/Integrated Management - Manager コマンド・定義ファイルリファレンス (3021-3-A11)
- JP1 Version 11 JP1/Service Support 操作ガイド (3021-3-A23)
- JP1 Version 11 JP1/Automatic Operation 運用ガイド (3021-3-A89)
- JP1 Version 12 JP1/Integrated Management 2 - Manager 構築ガイド (3021-3-D52)
- JP1 Version 12 JP1/Integrated Management 2 - Manager コマンド・定義ファイルリファレンス (3021-3-D55)
- JP1 Version 12 JP1/Service Support 操作ガイド (3021-3-D72)
- JP1 Version 12 JP1/Automatic Operation 運用ガイド (3021-3-D04)

付録 B.2 このマニュアルでの表記

このマニュアルでは、製品名を次のように表記しています。

表記		製品名
Cosminexus※		uCosminexus Primary Server Base
JP1/AO		JP1/Automatic Operation
JP1/IM	JP1/IM-M	JP1/Integrated Management - Manager
		JP1/Integrated Management 2 - Manager
	JP1/IM-V	JP1/Integrated Management - View
		JP1/Integrated Management 2 - View
JP1/IM-SS		JP1/Integrated Management - Service Support
		JP1/Service Support

注※

uCosminexus Navigation Platform について説明している場合は、「Cosminexus」は uCosminexus Application Server と uCosminexus Developer の総称です。

付録 B.3 英略語

このマニュアルで使用する英略語を次に示します。

英略語	英字での表記
J2EE	Java 2 Platform, Enterprise Edition

付録 B.4 KB（キロバイト）などの単位表記について

1KB（キロバイト）、1MB（メガバイト）、1GB（ギガバイト）、1TB（テラバイト）はそれぞれ 1,024 バイト、 $1,024^2$ バイト、 $1,024^3$ バイト、 $1,024^4$ バイトです。

(英字)

JavaScript プラグイン

業務コンテンツへのユーザからの入力値をパラメタとして、サーバサイド JavaScript をサーバ側で実行、またはクライアントサイド JavaScript を Web ブラウザ（クライアント側）で実行するために、ナビゲーション プラットフォームが提供しているプラグインです。

JP1/AO

JP1/AO とは、JP1 製品の JP1/Automatic Operation の略です。高度化・複雑化するシステム運用を自動化するための製品です。

JP1/AO URL 出力プラグイン

JP1/AO の URL を取得して、業務コンテンツから JP1/AO のメイン画面または [サービス実行] ダイアログボックスにアクセスするために、ナビゲーション プラットフォームが提供しているプラグインです。

JP1/AO サービス実行プラグイン

業務コンテンツから JP1/AO のサービスを即時実行するために、ナビゲーション プラットフォームが提供しているプラグインです。

JP1/AO プロパティ出力プラグイン

JP1/AO のタスクのプロパティを業務コンテンツに出力するために、ナビゲーション プラットフォームが提供しているプラグインです。

JP1/Base

イベントサービス機能を提供するプログラムです。ナビゲーション プラットフォームでは、ユーザ認証に JP1/Base を使用します。

JP1/IM-M

JP1/IM-M とは、JP1 製品の JP1/Integrated Management - Manager および JP1/Integrated Management 2 - Manager の略です。システム全体の一元的な監視と操作を実現し、システムを統合管理するためのプログラムです。なお、このマニュアルでは JP1/IM-M と JP1/IM-V を総称して JP1/IM と呼びます。

JP1/IM-SS

JP1/IM-SS とは、JP1 製品の JP1/Service Support および JP1/Integrated Management - Service Support の略です。ITIL（IT インフラストラクチャ・ライブラリ）の考えに基づき、

IT サービス管理でのサービスサポートに沿った運用の負荷軽減、効率向上を目的として開発された製品です。

JP1/IM-SS URL 出力プラグイン

JP1/IM-SS の URL を取得して、業務コンテンツから JP1/IM-SS の案件をプレビューする画面または [案件編集] 画面にアクセスするために、ナビゲーション プラットフォームが提供しているプラグインです。

JP1/IM-V

JP1/IM-V とは、JP1 製品の JP1/Integrated Management - View および JP1/Integrated Management 2 - View の略です。JP1/IM でのシステム統合管理を実現するためのビューアー機能を提供するプログラムです。JP1/IM-M に接続し、システムの監視や管理をします。

JP1 イベント情報出力プラグイン

JP1/IM または JP1/IM-SS が管理しているイベント ID やプロダクト名などの JP1 イベント情報を表示するために、ナビゲーション プラットフォームが提供しているプラグインです。

JP1 イベント対処状況変更プラグイン

JP1/IM が管理している JP1 イベントの対処状況を変更するために、ナビゲーション プラットフォームが提供しているプラグインです。

JP1 連携プラグイン

JP1/IM や JP1/AO などの JP1 製品とデータをやり取りして、業務コンテンツと外部プログラムである JP1 製品を相互に連携するために、ナビゲーション プラットフォームが提供しているプラグインです。

(ア行)

オフラインプラグイン

サーバとの通信を行わない次のプラグインのことです。

- データストアプラグイン
- JavaScript プラグイン※

注※

JavaScript プラグインをオフラインで使用する場合は、JavaScript プラグインパーツの [属性の設定] 画面で、[ブラウザで実行] チェックボックスをチェックしておく必要があります。

オンラインプラグイン

オフラインプラグイン以外のプラグインのことです。

ガイド

業務コンテンツのうち、業務で実施する個々の作業の説明のことです。

ガイドパーツ

ガイドを作成するための部品です。[Guide] パレットから選択して、ガイド領域に配置します。

開発環境

プラグインを開発するための環境です。JP1/Navigation Platform for Developers が必要です。

関連線

ノードからノードへの遷移を示す矢印のことです。

業務コンテンツ

業務を遂行するために必要な情報のことです。業務コンテンツは、ナビゲーション プラットフォームの画面で作成、表示できます。

業務実行画面

業務コンテンツを利用して業務を実行するための画面です。

業務フロー

業務コンテンツのうち、業務の流れをフローチャート化した図のことです。

業務編集画面

ナビゲーション プラットフォームで、次の操作を実施するための画面です。

- 業務コンテンツの作成・変更・複製・削除
- 業務コンテンツの公開・非公開
- 入出力プラグインの関連づけ
- 業務コンテンツに対するアクセス権の設定

公開版

一度でも公開されたことがある業務コンテンツのことです。

コンテンツ管理者

業務コンテンツに対して管理者のアクセス権を持つユーザのことです。

コンテンツ作成者

JP1/Base によるユーザ認証を使用している場合、業務コンテンツに対して作成者のアクセス権を持つユーザのことです。

コンテンツ編集者

業務コンテンツに対して編集者のアクセス権を持つユーザのことです。

(サ行)

システムプラグイン

外部プログラムまたはガイドパーツ間の連携に必要なプラグインのうち、ナビゲーションプラットフォームが提供しているプラグインのことです。

実行環境

業務コンテンツを利用して業務を実行する際に、利用者のアクセス先となる環境です。JP1/Navigation Platform が必要です。

(タ行)

ターミナルノード

業務の開始または終了を表すノードです。業務フローの最初と最後に配置します。ナビゲーションプラットフォームの画面では、丸で表示されます。

データストアプラグイン

ガイドパーツ間でデータをやり取りするために、ナビゲーションプラットフォームが提供しているプラグインです。

(ナ行)

ナビゲーション プラットフォーム

JP1/Navigation Platform および JP1/Navigation Platform for Developers の総称です。

入出力プラグイン

ナビゲーションプラットフォームの画面に入力された情報を処理したり、画面に出力する情報を決定したりするためのプラグインです。入出力プラグインを使用すると、ガイドに入力された値の整合性をチェックしたり、外部プログラムへ出力したり、ログとして記録したりできます。

ノード

業務の工程を表す部品であり、業務フローに表示されます。ノードには、ターミナルノード、プロセスノード、および分岐合流ノードの3種類があります。

(ハ行)

パーツ

ナビゲーション プラットフォームの画面に配置する部品です。

プラグイン

ナビゲーション プラットフォームと外部プログラムとを連携したり、ナビゲーション プラットフォームの拡張機能を使用したりするためのユーザプログラムです。ナビゲーション プラットフォームでは、プラグインを開発するために必要なインタフェースを提供しています。

プラグインパーツ

業務コンテンツにプラグインを関連づけるための部品です。[Plugins] パレットから選択して、ガイド領域に配置します。

フローパーツ

業務フローを作成するための部品です。[Flow] パレットから選択して、業務フロー領域に配置します。

プロセスノード

業務の途中の工程を表すノードです。ターミナルノードの間には1個以上のプロセスノードが必要です。画面上では長方形で表示されます。

分岐合流ノード

業務の工程が分岐する場合に必要なノードです。ナビゲーション プラットフォームの画面では、ひし形で表示されます。

編集環境

業務コンテンツを作成、編集したり、業務コンテンツに対するアクセス権を設定したりするための環境です。JP1/Navigation Platform が必要です。

編集版

コンテンツ編集者が編集中または編集が完了した業務コンテンツのことです。

(マ行)

マッピング線

ガイドパーツとプラグインパーツとの入出力の関係を表す矢印のことです。

(ヤ行)

ユーザプラグイン

ナビゲーション プラットフォームが提供する API を使用して、開発者が開発したプラグインのことです。

索引

記号

[業務コンテンツの設定] 画面 ([実行方式の設定] タブ) の項目 92

F

[Flow] パレット 106

G

[Guide] パレット 142

H

HTML タグ 182

HTML パーツ (ガイド領域) 181

HTML パーツで CSS を使用する方法 183

HTML パーツで外部 CSS を使用する 186

HTML パーツで使用できる CSS プロパティ一覧 184

HTML パーツで使用できるタグ一覧 182

HTML パーツとは (ガイド領域) 181

HTML パーツの記述例 190

HTML パーツの使い方 (ガイド領域) 181

HTML パーツを使用するときの注意事項 181

HTML パーツを配置する (ガイド領域) 181

I

[ID 取得] メニュー 78

[ID 非表示] ボタン 81

[ID 表示] ボタン 81

Internet Explorer の設定に関する注意事項 23

Internet Explorer の操作に関する注意事項 24

iPad 向け業務コンテンツを作成する場合の注意事項 55

J

JavaScript プラグインの使用例 227

JavaScript プラグインパーツとは 226

JavaScript プラグインパーツの使い方 226

JavaScript プラグイン [用語解説] 339

JP1/AO URL 出力プラグインパーツとは 214

JP1/AO URL 出力プラグインパーツの使い方 214

JP1/AO URL 出力プラグイン [用語解説] 339

JP1/AO サービス実行プラグインパーツとは 211

JP1/AO サービス実行プラグインパーツの使い方 211

JP1/AO サービス実行プラグイン [用語解説] 339

JP1/AO プロパティ出力プラグインパーツとは 209

JP1/AO プロパティ出力プラグインパーツの使い方 209

JP1/AO プロパティ出力プラグイン [用語解説] 339

JP1/AO [用語解説] 339

JP1/Base [用語解説] 339

JP1/IM-M [用語解説] 339

JP1/IM-SS URL 出力プラグインパーツとは 224

JP1/IM-SS URL 出力プラグインパーツの使い方 224

JP1/IM-SS URL 出力プラグイン [用語解説] 340

JP1/IM-SS [用語解説] 339

JP1/IM-V [用語解説] 340

JP1 イベント情報出力プラグインパーツで出力できるイベント情報 222

JP1 イベント情報出力プラグインパーツとは 222

JP1 イベント情報出力プラグインパーツの使い方 222

JP1 イベント情報出力プラグイン [用語解説] 340

JP1 イベント対処状況変更プラグインパーツとは 220

JP1 イベント対処状況変更プラグインパーツの使い方 220

JP1 イベント対処状況変更プラグインパーツを使用するときの注意事項 220

JP1 イベント対処状況変更プラグイン [用語解説] 340

JP1 連携プラグイン [用語解説] 340

M

Mobile Safari の設定に関する注意事項 27

Mobile Safari の操作に関する注意事項 27

O

OKNG 分析画面 [ダッシュボード画面] 295

OS の設定 [注意事項] 23

P

[Plugins] パレット 199

U

URL 29

URL [カスタム画面にアクセスする場合] 31

URL [業務実行画面にアクセスする場合] 29

URL [業務編集画面にアクセスする場合] 30

W

Web ブラウザ 22

あ

[アクセス権グループの確認] 画面 273

[アクセス権グループの確認] 画面の項目 273

アクセス権グループまたは JP1 資源グループの設定方法 64

アクティブスクリプト 23

い

[一時保存] ボタン 70

一括処理ができない操作 320

一括処理ができる操作 319

印刷画面の項目 277

印刷できる業務コンテンツの内容 275

印刷に関する注意事項 278

[印刷] ボタン 80

インラインフレームパーツ (ガイド領域) 177

インラインフレームパーツとは (ガイド領域) 177

インラインフレームパーツの使い方 (ガイド領域) 177

インラインフレームパーツを配置する (ガイド領域) 177

インラインフレームを配置した場合の動作と表示に関する注意事項 178

お

オフラインプラグイン [用語解説] 340

親子関係 167

親ドロップダウン 167

オンラインプラグイン [用語解説] 340

か

ガイドパーツ間の連携 197

ガイドパーツ間の連携とは 197

ガイドパーツ間または外部プログラムとの連携 196

ガイドパーツの型名 243

ガイドパーツ [用語解説] 341

ガイド編集モード 43

ガイド [用語解説] 341

ガイド領域の作成 138

ガイド領域の作成に使用するボタン ([Guide] パレット) 142

ガイド領域の作成例 140

ガイド領域の操作モードを切り替える 43

ガイド領域の表示例 (業務実行画面) 73

ガイドを作成する流れ 139

開発環境 [用語解説] 341

外部プログラムとの連携 198

外部プログラムとの連携とは 198

過去に公開した業務コンテンツを表示する 311

画像のプロセスノードを配置する 113

画像パーツ (ガイド領域) 147

画像パーツ (業務フロー領域) 133

画像パーツとは (ガイド領域) 147

画像パーツとは (業務フロー領域) 133

画像パーツの使い方 (ガイド領域) 147

画像パーツの使い方 (業務フロー領域) 133

画像パーツを配置する (業務フロー領域) 133

画像パーツを配置する (ガイド領域) 147

画像を表示したプロセスノードに文字列を表示する 114

画面に表示できる文字に関する注意事項 55

カラーコード 131, 145

カラーネーム 131, 145

関連線 125

関連線とは 125

関連線の例 127

関連線を最前面に表示する 321

関連線を引く（ノード同士をつなぐ） 125

関連線を引く場合の条件 125

関連線〔用語解説〕 341

関連リンクとは 83

関連リンクの使い方 83

関連リンクを設定する 83

関連リンクを設定する場合の注意事項 85

き

基本 URL 29

業務コンテンツ ID、ノード ID、ガイドパーツ ID とは 323

業務コンテンツ ID、ノード ID、ガイドパーツ ID の確認 323

業務コンテンツ ID を確認する 323

業務コンテンツごとにオフラインでの実行可否を設定する 91

業務コンテンツごとに文字のフォントと文字サイズとボタンサイズを設定する 87

業務コンテンツ作成から公開までの流れ 47

業務コンテンツ作成時に知っておくと便利な操作や設定 318

業務コンテンツ参照時の Web ブラウザと実行環境の設定内容 53

業務コンテンツで使用する静的ファイル 93

業務コンテンツで使用する静的ファイルとは 93

業務コンテンツで使用する文字とボタンのサイズをまとめて設定する 87

業務コンテンツ内の文字列を一括置換する 328

業務コンテンツにアクセス権グループまたは JP1 資源グループを設定する 64

業務コンテンツに外部の Web サイトへの関連リンクを設定する 83

業務コンテンツに設定されているアクセス権グループまたは JP1 資源グループを確認する 272

業務コンテンツに直接アクセスする URL を取得する 280

〔業務コンテンツの URL 取得〕メニュー 70

業務コンテンツの印刷 275

〔業務コンテンツの印刷画面を表示〕メニュー 70

業務コンテンツのオフラインでの実行可否を設定する 90

業務コンテンツのグループを統合する 271

業務コンテンツのグループを変更する 270

業務コンテンツのグループを変更する方法について 270

業務コンテンツのグループを変更または統合する場合のポイント 271

業務コンテンツの公開予約一覧を確認する 268

業務コンテンツの公開予約一覧を確認する方法について 268

業務コンテンツの公開予約を削除する 268

業務コンテンツの公開を予約する 265

業務コンテンツの公開を予約する方法について 265

業務コンテンツのコメントおよび公開日時を確認する 312

業務コンテンツの作成 46

業務コンテンツの作成に使用する画面 69

業務コンテンツの作成方法 58

〔業務コンテンツの設定〕画面（〔関連リンクの設定〕タブ）の項目 84

〔業務コンテンツの設定〕画面（〔サイズの設定〕タブ）の項目 88

〔業務コンテンツの設定〕ボタン 81

業務コンテンツの操作ログをダッシュボード機能で解析する方法について 293

〔業務コンテンツの追加〕画面の項目 60

業務コンテンツの内容を検索する 100

〔業務コンテンツの複製〕画面の項目 62

業務コンテンツの編集を開始する 40

業務コンテンツの編集を完了する 44

業務コンテンツの見た目と動作を確認する方法 98

業務コンテンツの名称を変更する 282

業務コンテンツの利用状況を解析する 285

業務コンテンツの利用状況を解析する方法について 284

業務コンテンツの利用状況を解析する例 290

業務コンテンツ〔用語解説〕 341

業務コンテンツを印刷する 277

業務コンテンツを公開する 259

業務コンテンツを公開する方法について 259
業務コンテンツを削除する 264
業務コンテンツを作成するときの基本操作 36
業務コンテンツを作成する前に確認すること 53
業務コンテンツを作成する前に必ず確認すること 53
業務コンテンツを比較して変更点を表示する 315
業務コンテンツを比較して変更点を表示する方法について 314
業務コンテンツを非公開にする 262
業務コンテンツを非公開にする方法について 262
業務コンテンツをプレビューする 98
業務実行画面 20
業務実行画面にアクセスするための基本 URL 29
業務実行画面の項目 69
業務実行画面のメニュー領域（[検索] タブ）の項目 101
業務実行画面〔用語解説〕 341
業務実行画面を表示する 99
業務フロー〔用語解説〕 341
業務フロー領域とガイド領域の幅を変更する 325
業務フロー領域の作成 103
業務フロー領域の作成に使用するボタン（[Flow] パレット） 106
業務フロー領域の作成例 105
業務フロー領域の表示例（業務実行画面） 72
業務フロー領域を作成するときの注意事項 107
業務フロー領域を作成する流れ 104
業務編集画面にアクセスするための基本 URL 30
業務編集画面の項目 74
業務編集画面〔用語解説〕 341

く

グループ化〔ラジオボタンパーツ〕 163
[グループ統合] メニュー 77
[グループ変更] メニュー 77

け

[権限の設定] 画面の項目 65
[権限の設定] メニュー 77
検索する手順 100

検索できる業務コンテンツ 100

検索できる文字列 101

こ

公開 259
公開済みの業務コンテンツを更新する方法について 281
公開済みの業務コンテンツを削除する前に確認すること 264
[公開する業務コンテンツの確認] 画面の項目 260, 265
公開版〔用語解説〕 341
[公開] メニュー 77
[公開予約一覧] 画面の項目 268
[公開予約一覧] メニュー 75
[公開予約の削除] メニュー 77
合流ノード 121
固定テキストパーツ（ガイド領域） 143
固定テキストパーツ（業務フロー領域） 129
固定テキストパーツとは（ガイド領域） 143
固定テキストパーツとは（業務フロー領域） 129
固定テキストパーツの使い方（ガイド領域） 143
固定テキストパーツの使い方（業務フロー領域） 129
固定テキストパーツを配置する（ガイド領域） 143
固定テキストパーツを配置する（業務フロー領域） 129
子ドロップダウン 167
コピーしたノード，パーツをペーストする 327
[コピー] ボタン 81
[コメントの入力] 画面の項目 82
コンテンツ管理者〔用語解説〕 341
コンテンツ作成者〔用語解説〕 342
コンテンツ編集者〔用語解説〕 342
コンテンツ利用回数分析画面〔ダッシュボード画面〕 297

さ

最前面に表示できないパーツ 322
[削除] ボタン 81
[削除] メニュー 77

作成 [新規の業務コンテンツ] 58

差分表示画面の項目 315

[差分] ボタン 80

サンプルの業務コンテンツ 48

サンプルの静的ファイル 49

し

[資源の設定] 画面の項目 66

[資源の設定] メニュー 77

システムプラグイン [用語解説] 342

[実行画面表示] メニュー 75

実行環境 [用語解説] 342

せ

静的ファイル 93

静的ファイルの格納方法 93

静的ファイルを格納するフォルダを移動する 94

静的ファイルを格納するフォルダを削除する 94

静的ファイルを格納するフォルダを作成する 93

そ

操作モード 43

操作ログ閲覧画面 [ダッシュボード画面] 301

[操作ログのダッシュボード表示] メニュー 70

[操作ログのレポート表示] メニュー 69

操作を取り消す 329

[属性の設定] 画面 (JavaScript プラグインパーツ) の項目 236

[属性の設定] 画面 (JP1/AO URL 出力プラグインパーツ) の項目 216

[属性の設定] 画面 (JP1/AO サービス実行プラグインパーツ) の項目 212

[属性の設定] 画面 (JP1/AO プロパティ出力プラグインパーツ) の項目 210

[属性の設定] 画面 (JP1/IM-SS URL 出力プラグインパーツ) の項目 224

[属性の設定] 画面 (JP1 イベント対処状況変更プラグインパーツ) の項目 221

[属性の設定] 画面 (ガイド領域の HTML パーツ) の項目 193

[属性の設定] 画面 (ガイド領域のインラインフレームパーツ) の項目 179

[属性の設定] 画面 (ガイド領域の画像パーツ) の項目 148

[属性の設定] 画面 (ガイド領域の固定テキストパーツ) の項目 144

[属性の設定] 画面 (ガイド領域のチェックボックスパーツ) の項目 161

[属性の設定] 画面 (ガイド領域のテキストエリアパーツ) の項目 158

[属性の設定] 画面 (ガイド領域のテキストボックスパーツ) の項目 153

[属性の設定] 画面 (ガイド領域のドロップダウンパーツ) の項目 170

[属性の設定] 画面 (ガイド領域のハイパーリンクパーツ) の項目 174

[属性の設定] 画面 (ガイド領域のラジオボタンパーツ) の項目 164

[属性の設定] 画面 (業務フロー領域の画像パーツ) の項目 135

[属性の設定] 画面 (業務フロー領域の固定テキストパーツ) の項目 130

[属性の設定] 画面 (ターミナルノード) の項目 110

[属性の設定] 画面 (データストアプラグインパーツ) の項目 207

[属性の設定] 画面 (プロセスノード) の項目 116

[属性の設定] 画面 (分岐合流ノード) の項目 123

[属性の設定] 画面を表示してノードまたはパーツの設定を変更する 43

た

ターミナルノード 108

ターミナルノードとは 108

ターミナルノードの使い方 108

ターミナルノード [用語解説] 342

ターミナルノードを配置する 109

タイムゾーン 74

ダッシュボード画面で共通する操作 302

ダッシュボード画面にエラーが表示されたときの対処 308

ダッシュボード画面へアクセスする 293

ダッシュボード画面を操作してもしばらく応答がない
ときの対処 [309](#)

ダッシュボード画面を表示できないときの HTTP ス
テータスコードと対処 [309](#)

ダッシュボード選択画面の項目 [294](#)

ち

チェックボックスパーツ (ガイド領域) [160](#)

チェックボックスパーツとは (ガイド領域) [160](#)

チェックボックスパーツの使い方 (ガイド領域) [160](#)

チェックボックスを配置する (ガイド領域) [160](#)

[置換] ボタン [81](#)

注意事項 [Web ブラウザ] [23](#)

つ

追加 [新規の業務コンテンツ] [58](#)

[追加] メニュー [76](#)

ツールチップ [ガイド領域の画像パーツ] [150](#)

ツールチップ [業務フロー領域の画像パーツ] [136](#)

ツールバー [80](#)

[ツール] メニュー [75](#)

て

データストアプラグインの使用例 [205](#)

データストアプラグインパーツとは [203](#)

データストアプラグインパーツの使い方 [203](#)

データストアプラグイン [用語解説] [342](#)

テキストエリアに入力規則を設定する場合の注意事項
[157](#)

テキストエリアパーツ (ガイド領域) [156](#)

テキストエリアパーツとは (ガイド領域) [156](#)

テキストエリアパーツの使い方 (ガイド領域) [156](#)

テキストエリアを配置する (ガイド領域) [156](#)

テキストの入力規則の設定可否 [54](#)

テキストボックスに入力規則を設定する場合の注意
事項 [152](#)

テキストボックスパーツ (ガイド領域) [151](#)

テキストボックスパーツとは (ガイド領域) [151](#)

テキストボックスパーツの使い方 (ガイド領域) [151](#)

テキストボックスパーツを配置する [151](#)

と

[閉じる] ボタン [75](#)

取り消した操作をやり直す [330](#)

ドロップダウンの親子関係とは [167](#)

ドロップダウンパーツ (ガイド領域) [167](#)

ドロップダウンパーツとは (ガイド領域) [167](#)

ドロップダウンパーツの使い方 (ガイド領域) [167](#)

ドロップダウンパーツを配置する (ガイド領域) (子
ドロップダウンの場合) [169](#)

ドロップダウンパーツを配置する (ガイド領域) (ド
ロップダウンに親子関係がない場合、または親ドロッ
プダウンの場合) [168](#)

な

ナビゲーション プラットフォームが HTML パーツ用
に提供する CSS のクラス一覧 [184](#)

ナビゲーション プラットフォームからログアウトする
[45](#)

ナビゲーション プラットフォームで利用できる Web
ブラウザ [22](#)

ナビゲーション プラットフォームでできること [21](#)

ナビゲーション プラットフォームとは [19](#)

ナビゲーション プラットフォームにログインする [39](#)

ナビゲーション プラットフォームの概要 [18](#)

ナビゲーション プラットフォームの画面にアクセス
するための URL [29](#)

ナビゲーション プラットフォームの使用イメージ [20](#)

ナビゲーション プラットフォーム [用語解説] [342](#)

に

入出力プラグイン [用語解説] [342](#)

[入力/出力] ボタン [82](#)

の

ノード [104](#)

ノード ID, パーツ ID を確認する [323](#)

ノード, パーツ, 関連線の表示順序の変更 [321](#)

ノード, パーツ, 関連線, マッピング線を削除する
[282](#)

ノード, パーツを最前面に表示する [321](#)

ノード、パーツを最背面に表示する 321
ノードまたはパーツの位置を変更する 42
ノードまたはパーツの大きさを変更する 42
ノードまたはパーツを配置する 41
ノード〔用語解説〕 343

は

パーツ〔用語解説〕 343
ハイパーリンクパーツ（ガイド領域） 173
ハイパーリンクパーツとは（ガイド領域） 173
ハイパーリンクパーツの使い方（ガイド領域） 173
ハイパーリンクを配置する（ガイド領域） 173
パラメタ〔基本 URL に指定する場合〕 32
パラメタを指定した URL の例 34
〔貼り付け〕 ボタン 81
版 79
〔版の詳細〕 画面の項目 312
〔版の詳細〕 メニュー 77

ひ

非公開 262
〔非公開にする業務コンテンツの確認〕 画面の項目 263
〔非公開〕 メニュー 77

ふ

〔ファイル管理／登録〕 画面の項目 95
〔ファイル管理／登録〕 画面を使用して静的ファイルを格納する 94
〔ファイル管理／登録〕 画面を使用して静的ファイルを削除する 95
〔ファイル管理／登録〕 メニュー 75
複数選択 319
複数選択について 319
複数の業務コンテンツを選択する 319
複数のノード、パーツ、関連線、マッピング線を選択する 319
複製〔業務コンテンツ〕 59
〔複製〕 メニュー 76
プラグインの設定に使用するボタン（〔Plugins〕 パレット） 199

プラグインパーツとは 199
プラグインパーツ〔用語解説〕 343
プラグインパーツを配置する（ガイド領域） 200
〔プラグイン〕 ボタン 81
プラグイン〔用語解説〕 343
プラグインを使用している業務コンテンツの設定情報を取得する 255
〔プレビュー〕 ボタン 80
フローの構成 54
フローパーツ〔用語解説〕 343
プロセスノード 112
プロセスノードとは 112
プロセスノードの使い方 112
プロセスノード〔用語解説〕 343
分岐合流ノード 121
分岐合流ノードとは 121
分岐合流ノードの使い方 121
分岐合流ノード〔用語解説〕 343
分岐合流ノードを配置する 122
分岐条件 122
分岐ノード 121

へ

ヘッダ領域〔業務実行画面〕 69
ヘッダ領域〔業務編集画面〕 74
〔ヘルプ〕 メニュー 75
〔編集開始〕 ボタン 80
〔編集画面表示〕 メニュー 70
編集環境〔用語解説〕 343
〔編集完了〕 ボタン 80
〔編集破棄〕 ボタン 80
編集版 281
編集版〔用語解説〕 343

ほ

保存〔業務コンテンツ〕 59
〔保存〕 ボタン 81

ま

- マッピング一覧ファイルの形式 255
- マッピング一覧ファイルの出力項目 256
- マッピング一覧ファイルの出力例 257
- [マッピング一覧] ボタン 81
- マッピング線の表示と非表示を切り替える 326
- マッピング線 [用語解説] 344
- マッピング線を引く (ガイドパーツとプラグインパーツをつなぐ) 201
- マッピングモード 43
- マニュアル [関連ソフトウェア] 336
- マニュアル [ナビゲーション プラットフォーム] 336

め

- [名称変更] メニュー 77
- メニュー領域 75
- メニュー領域折りたたみボタン 80
- メニュー領域の表示と非表示を切り替える 324

も

- 文字サイズ [Web ブラウザ] 23
- 文字列のプロセスノードを配置する 112
- [元に戻す] ボタン 81

や

- [やり直す] ボタン 81

ゆ

- 有効期限切れ [Web ブラウザ] 24
- ユーザプラグイン [用語解説] 344

ら

- ラジオボタンパーツ (ガイド領域) 163
- ラジオボタンパーツとは (ガイド領域) 163
- ラジオボタンパーツの使い方 (ガイド領域) 163
- ラジオボタンパーツを配置する (ガイド領域) 163
- ラジオボタンをグループ化する場合の注意事項 164

り

- 利用時間分析 (平均) 画面 [ダッシュボード画面] 298
- 利用時間分析 (累計) 画面 [ダッシュボード画面] 300

れ

- レポートिंग画面 (解析項目の選択) の項目 285
- レポートिंग画面 (業務コンテンツごとの解析結果) の項目 286
- レポートिंग画面 (ノードごとの解析結果) の項目 287
- レポートिंग画面 (ユーザごとのノードの解析結果) の項目 289

ろ

- [ログアウト] ボタン 75
- [ロック解除] メニュー 77

 株式会社 日立製作所

〒100-8280 東京都千代田区丸の内一丁目6番6号
